明治三十三年十二月廿五日
第三種郵便物認可

明治四十年二月五日發行
毎月一回五日發行



女學世界

第七卷第三號

博文館發行

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

化粧用美顔水は品質最もよろしく方今滿天下の貴婦人令孃佳人爭ふて之を用ひ賞贊の聲囂すし色を白くしきめをこまかに光艶をだしうつくしくなる殊に化粧に用ゆればおしろい意のまゝにのりむらにならず常に用ふれば「花の顔せ雪の肌となり」眞に玉を欺く美しき顔となるべし

（本品御購求の節は化粧用美顔水と御指名を乞ふ）

▲東京市名は勿論日本全國各地いたる處の有名なる小間物店にて販賣す



◉美顔水は天下唯一の美白光艶劑なり◉

最新流行

呉服、太物、洋服
小間物、雜貨類

三越呉服店

東京市日本橋區駿河町

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女學世界 第七卷第參號 目次

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

滋養新剤グリコナール錠

本剤は醫學博士北里柴三郎氏指導の下に佐伯矩氏が牡蠣の滋養成分に就き研究の結果創製せるものなり本剤は滋養剤として病者及一般衰弱者に有効なるのみならず心臓を強め盗汗を治し速かに體力を恢復し元氣を旺盛ならしむる特異の効能ある事を多數の醫學者に證明せられたり……本剤の説明書は御申越に從ひ呈送す

消化新剤タカヂアスターゼ

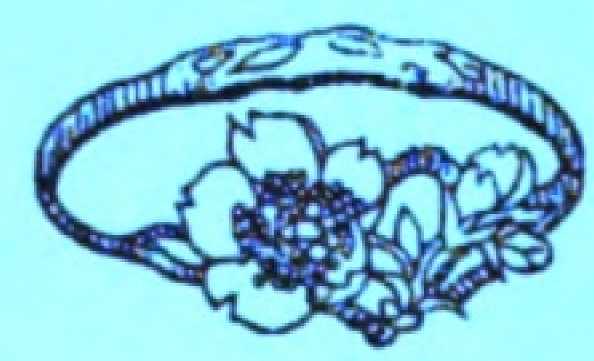
本剤は工學博士藥學博士高峰讓吉氏の發見に係る澱粉消化新藥なり
我醫學諸大家が治療上に於ける本剤の効果に就き發表せられたる實驗報告を集載せる説明書は御希望に依り無代郵送す
本剤は粉末及錠剤各大小容器入として各地藥舗に販賣す類似品あり必す高峰氏タカヂアスターゼと御指定を乞ふ

發賣元　東京市日本橋區南茅場町　三共商店藥品部

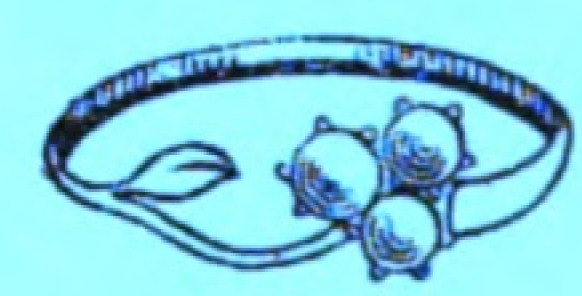
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

東京市南傳馬町 大西白牡丹 電話本局三十番

イ號
十八金眞珠三個入指輪
甲價拾五圓
乙價拾二圓

二


ト號
十八金ルビー眞珠入指輪
甲價拾六圓
乙價拾三圓

イ


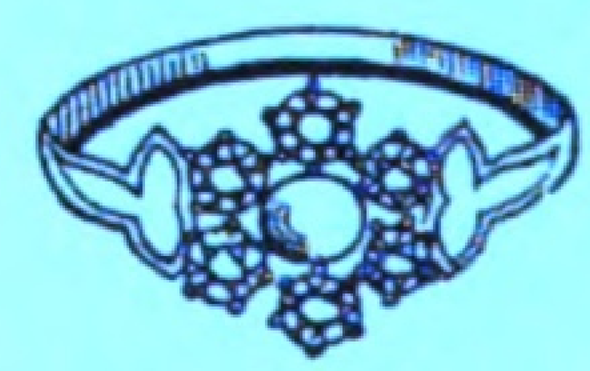
二號
廿金櫻の圖ルビー入彫刻指輪
價拾二圓

ト


ロ號
十八金眞珠ルビー六個入指輪
價貳拾五圓

ホ


チ號
十八金眞珠ルビー入
甲價貳拾圓
乙價拾五圓

ロ


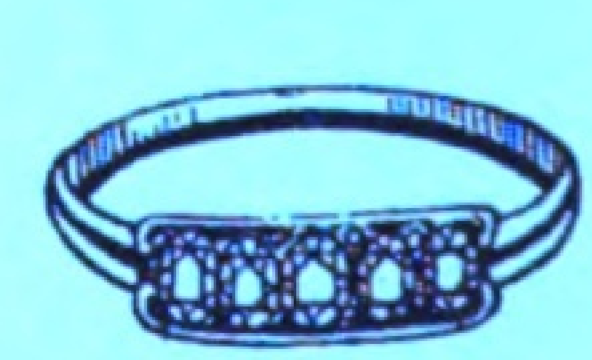
ホ號
廿金及白金百合の圖ルビー入指輪
價貳拾三圓

チ


ハ號
十八金ルビー又ハサフハヤ五個入指輪
價拾八圓

ヘ


リ號
十八金眞珠ルビー入
甲價拾五圓
乙價拾二圓

ハ


ヘ號
純金及十八金禿菊の圖眞珠入指輪
價貳拾三圓

リ


大西白牡丹營業案内

送料郵券四錢御送付次第發送す

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

儀式着用品
澤山取揃 勉强仕候

禮乃親玉



卸 (み) 部

東京日本橋長谷川町
美濃磯本店
(電話浪花二一八五九番)

本郷五丁目 美濃磯支店 (電話下谷一四一五番)
淺草區諏訪町 美濃磯支店
日本橋區佐内町 美濃磯支店
深川區高橋際 美濃磯支店
神田區小川町 美濃磯支店
芝區新櫻田町 小田商店
牛込區神樂坂 伊澤商店
四谷傳馬町一丁目 伊澤支店

最も愛すべき香料馥郁
さゞなみ石鹸
高評煉香油
カスガオイル
(水油代用品)



紳士令孃貴婦人用として最も上流社會に歡迎せらる 有名なる小間物化粧品店藥舖にて販賣す

發賣元 東京橘町 小川潮華園

女(甲の二)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

りん病消渇必治新藥

海軍藥劑大監 水野加以智先生
藥劑師 松野惠藏先生 共同發明

麻病消渇
根治保証

リントール

五日分金六十錢
十日分金一圓十錢
十五日分金一圓五十錢
郵送料各金二錢

本劑は有名なる海軍藥劑大監水野加以智藥劑師松野惠藏の兩先生が多年の間幾多研究實驗の結果發明せし前人未發の方劑にして眞に靈効神の如く**輕症**は**五日間**に於て又如何なる**慢性痼疾**と雖も**二十日**間に必ず根治して又再發の憂なきは發明者が數多の患者に試驗せし成績により**確證**する處なり論より證據少量を試み見よ二日にて其効顯るべし（本劑を服藥の外局部の洗滌を要せずして必ず全治す）

發賣本舗 回陽堂藥房
東京市日本橋區本材木町一丁目十五番地

專賣 特許

乙女くけ臺

◉各女學校裁縫教授先生方より充分なる御試驗を受け女子裁縫實用器具として何れも非常なる御賞賛を蒙むりたり

定價 特製金七拾五錢 松印金四拾五錢

◉箱入堅牢高尚優美の品なれば裁縫學校御入門又は御婚禮其他の御進物用としてことに適當の美術品にこれ有候

定價 竹印金三拾五錢 梅印未製

《小包送料は二個迄拾錢》

「此くけ臺は手數が省け切れ地がいたまず大層調法であります」



女（甲の三）

製造發賣元
堀口商店
神田榮町十一（五軒町停留場東側）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



女(甲の四)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

臥龍梅



榊原蕉園筆

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

松みどり香油



松みどり香油は原料を吟味し製法を注意いたし候者にて優雅高尚なる香氣を長く有ち頭髪の光澤を増す特効ありて世に有り觸れたる香油とは大に趣きを異にいたし居候へば貴夫人令孃方には缺くべからざる逸品に御座候御試用の上御高評願上候

定價　○大壜　四十五錢　○中壜　二十錢
○小壜　十二錢
○一合　三十五錢

東京上野廣小路

製造本舖　**山崎屋油店**

電話下谷一七三五番

㊟販賣所は各化粧品店にあり

造花用器具材料

卸　小　賣

造花及半製品

造花裝飾用達

東京市九段坂

吉住商店

（營業目錄は御申越次第御送付可申上候）

女（乙の一）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

肺病患者に告ぐ

私儀明治廿一年の十一月以來慢性肺病に罹り各地の醫藥は勿論妙藥なりと聞く每に諸種の賣藥を服し東京市內有名大家諸先生の診斷服藥し猶ほ橫東獨逸病院長(ドクトル)の藥劑も其効なし豆州熱海相州箱根上州草津溫泉何れも兩三年入浴するも異狀なく其外鍼灸限なく療養したるも効驗更になく漸々重症となり廿八年四月頃には時々喀血して皮膚青白く身體非常に衰弱し日々發熱し咳痰甚しく骸骨同樣に成最早此上は致し方無之只死を待の外なし然るに私は病中臥褥の內と雖ども常に書見するの癖あり一日家藏の古書を點見する中文政の頃大阪の名醫長崎に遊學し蘭人より授りたる肺病必治の奇法聞書と云ふを發見し試みに數包を調劑して服せしに不思議にも爽快を覺え尚續て服するに益々快方に趣き四週間餘りにて全く根治したり既に死に望みたる大患を斯くも容易く根治し實に蘇生したる思ひにて此の嬉さの餘り爾來肺病患者と聞く每に其實を告げ試藥せしもの五十四人皆共に全治せざるものなし眞に驚く可き世界唯一の肺病奇藥なるを以て寧ろ之を世に公にして數萬の肺病患者を救護せよとの勸めを受るに至り遂に肺治散と名づけ內務省の御檢查を稟り弘く世の肺患者に發賣する事となれり然る處本劑の効驗非凡なるを以て發賣以來日尙ほ淺きにも不拘內地は勿論既に**米國紐育市タイヤーガ商會**及び**印度バタビヤヒイアエーテス社**等へ續々輸出す專ら高評を博し服用諸君よりは全治の禮狀實に四千六百餘に逢せり然るに此奇藥を知らず種々に迷ひ病苦に惱める人士なきにもあらじ天壽を全ふせんと欲せば速に本劑を服して難病根治の一大幸福を得よ

藥價 七日分貳圓●十四日分四圓●廿一日分五圓●卅五日分七圓五十錢●七十日分十四圓●遞送料十錢●爲替局名は大森局宛取組の事

主治効能●肺結核●肺炎●氣管支加答兒●肋膜炎●肺尖加答兒●たん咳等肺病一切より起る諸病を根治する偉効あり
用法及び詳細は本能書にあり(但し本舖へ直接御注文の時は病狀の模樣を詳細に記入申込を乞ふ)

東京府下荏原郡入新井村字不入斗二百十四番地

調劑本舖　川名助次郎

東京神田區花房町二番地　山崎帝國堂
橫濱吉田町二丁目都橋際　永井永進堂
東京神田區橋本町二丁目　福井甚藏
大阪心齋橋筋二丁目　丹平商會
仙臺新傳馬町　櫻井伊之助
東京銀座一丁目　佐々木玄兵衛

肺治散特約店

東京銀座　岸田吟香
東京日本橋區本石町　守谷萬次郎
東京兩國米澤町　吉田安五郎
大阪西橫堀舟町橋西詰　賣藥卸賣株式會社
富山市東四十物町　中田清兵衛
東京銀座　松澤八右衛門
東京日本橋區瀬戸物町　玉置金八
東京日本橋區上槇町　安川晃榮堂
長崎市船大工町　片峰七郎
東京神田區鍛冶町　大木合名會社
東京日本橋區本石町　大橋博愛堂
東京兩國米澤町　大木口哲本店
大阪堺筋伏見町　谷回春堂
水戶市上市泉町　三加納與右衛門
東京日本橋通　中田清兵衛
東京日本橋通　大野傳兵衛支店
東京府下八王子町　岸回春堂
越後國長岡町　藤井卯吉

(全國到る所の有名なる藥舖にて販賣せり萬一無之地は本舖へ申越次第特約す)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

洋画講義録

洋畫講義錄は水彩畫を始め其他油繪 木炭畫ペン畫鉛筆畫肖像畫等すべて一切の洋畫に關する事を詳細に講述す毎號美麗なる挿畫數多あり、毎月一回發行、一年卒業、會費月卅五錢、詳細規則無料進呈

執筆畫伯
三宅克己先生
岡田三郎助先生
大下藤次郎先生
中澤弘光先生
外大家十數名

繪画講習錄

繪畫講習錄は日本畫の技術と之に關する各種の學科とを平易懇切に敎授し如何なる初學者と雖も忽ちにして上達せしむ毎號美麗なる繪畫數葉を挿入す、毎月二回發行一年卒業會費月卅五錢、詳細規則無料進呈

執筆畫伯
川端玉章先生
荒木寛畝先生
寺崎廣業先生
梶田半古先生
外大家十數名

東京市麻布飯倉四丁目（振替貯金三〇一一）
大日本繪画講習會

●小兒五かん驚風●蟲おさへ

登錄商標 (八) 本方 小兒五疳妙藥 奇應丸

定價 金五錢 金拾錢 金廿錢（料送圖進）金貳錢

發賣本舗 (八) 松澤商店
東京市京橋區銀座三丁目
賣捌は全國諸々藥舖賣藥店に特約あり（電新[illegible]）

●衛生無害 御試驗濟 東京本町三 玉屋支店
衣服洗淨 玉川 一名シャボンイラズ
手もあれず、さゝくれもできません

現代女傑の解剖

○女傑とは何人？ 解剖は局處？ 全體？

著者は文壇の名家九百里外史は匿名銳利の筆鋒七女傑を完膚なく分解し肉を抉ぐり髓を刺せり行文流暢平易讀み來つて快を呼ぶ三たびなり

下田あり鳩山あり お鯉あり貞奴あり各方面の傑物七人時代精神の代表者として論せらる

奇拔の觀察細を擧げ微を穿ち七傑の眞相躍如として紙上に現る

○女に渴したる男は讀め男を好む女も讀め!!!

定價金卅錢 郵稅金四錢

東京京橋區木挽町十丁目
發行所 萬象堂書房
電新一七四九 振替口座六一四八

賣捌元 帝國地史編纂所

女（乙の三）

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA



女(乙の四)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

青梅の村



中村不折筆

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

宮内省御買上の光榮を得



パ煉香油

東京濱町一
平尾分店

世界ニ冠タル逸品ニシテ
毛髪ノ凡テニ特効ヲ有ス

優美!!!

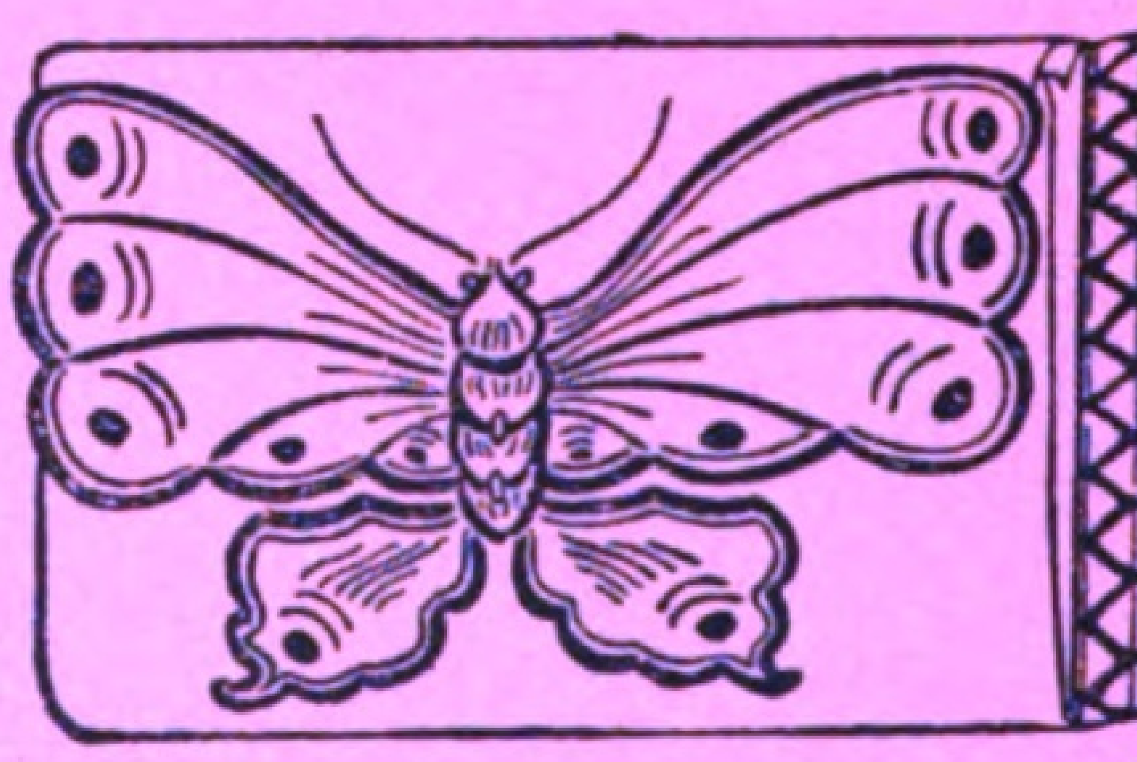
公に賣出さゞる前已にお花主貴婦人様方より大高評を博せり

別けて御令嬢様方には此廣告をお見落し給はざらんことを……

意匠登錄既願

佐竹新意匠

蝶冠せ紙挾み



◎壹圓五十錢

上等シオゼに蝶の分體を刺縫し冠せをなすことによりて蝶の全身を形造る頗る優秀美麗なる空前の紙挾にして價格以上の秀逸品なり

地色は、赤、紫紺、利久柳、勝色等なり

送料十錢臺灣淸韓卅錢
市内五錢爲替新橋局宛
郵劵代用一割增代金引換は別に十錢申受

内國博覽會各展覽會優等賞受領美術袋物煙管金銀彫刻商

東京新橋際大通
佐竹袋物店
電話新橋千卅一番

女(丙の一)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

尤も高許ある繪葉書は日本葉書會製博文館發賣品也

男ちゞれ毛 女くせ毛

は何程の難毛にても直に根本的全治するの奇術を郵券封入申込の同患者に無料敎示し誓て美髪にして差上げます

東京本郷區丸山福山町 岩阪澄子

登録 専用商標

婦人血塊 つきやく をしろ薬

他薬を用ゐても効能なくば本劑を速に御服用あれ此薬は數年の血塊も胃腸子宮等は少しも痛めずして安々おろし升からしろと方の輕症は其夜に有ること請合也

近年種々似寄の薬出來居候間能く御注意願上候

定價廿五錢五十錢一圓特製二圓切手一割增爲替銀座局

調劑元 東京麴町區有樂町二丁目二番地 江戸屋

子宮神薬 女宮丸

●ちの道●産前産後●ヒステリー●子宮痙攣●寸白●しらち●ながち●つわり●のぼせ●づゝう●めまひ●きのふさぎ●顔色あしく手足だるく食すゝまざる等に用ひて奇効あり特に身體滋健となりて子なき婦人に一日も缺くべからざる特効薬なり

薬價 七日分五十五錢●十四日分一圓●廿日分二圓●五十日分三圓●百日分五圓五十錢●小包料十錢

美容散 やせる薬

薬價(一週)七十錢(二週)一圓(五週)二圓廿錢

●血ぶとり、あぶらぶとり、酒ぶとり、顔赤く、のぼせ症等總て肥胖質の人用ひて害なく身體美容となる保證薬なり

偽物注意

皮膚病専門薬

あまづ いんきん たむし

あか鼻 ざくろ鼻 あざ

ぜにがさ ひぜん わきが

小瓶五十錢中瓶一圓大瓶一圓五十錢特製二圓送料十錢宛

専賣本舗 東京本郷區本郷三丁目 新宮薬館

女(丙の二)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

器械不要
迅速鮮明
早取寫眞

名ノ如ク器械ヲ用ズ安價ノ藥品ヲ混合シ日光ノ作用ニ依リ人物又ハ風景等其他隨意ノ者大小ノ論ナク思フ儘ニ撮影シ得ル嶄新愉快ナル大發明也寫シタル者ハ器械ニテ寫シタル者ト少モ異ラザレバ見ル人ヲシテ覺ズ快哉ヲ三呼セシム藥品ナキ地方ハ弊店ヨリ送ル書代及郵税トシテ**拾七錢**ヲ送レ敎授書ヲ送ル此書ヲ見レバ誰ニテモ直ニ速寫シ得ル也故ニ本書ヲ讀ミテ若シ器械ニテ寫セシ通リニ寫ラザレバ何時デモ**返金**ス尚本書ニハ器械不用鮮明早印刷法輕便電氣燈復寫いんき紙石盤鍍金術齒磨石鹸香水白粉鼠取藥毛生藥等の製法家庭料理法四十餘種其他奏効確實ナル諸製法百餘種記載ス◉附言 珍奇ヲ好ムハ人ノ情也依テ前記早取寫眞術ヲ以テ己ノ肖像ヲ名刺紙ニ速寫シ器械不用早印刷法ヲ以テ己レノ姓名ヲ好ム字體ニ印刷シ入リ**寫眞名刺**ヲ製セバ一層愉快多ク見ル者誰ニテモ羨ムナラン本書ノ名ヲ萬物製法秘術寶典ト云フ郵便切手ニテ代金御送附ノ方ハ三錢増(二十錢)ノ「

三重縣桑名矢田磧 弘報館

◉道具も熟練もいらず皆さんの家にある道具で直に拵へる事が出來て米より費用は少くて滋養は多く美味で柔く一度に十日分も出來る食パンや和洋菓子の製法を澤山記載せる書物は郵券拾六錢で送る 弘報館

新藥應用
肺病必治法

右書籍御望の御方は**葉書**にて申越あれ**無料進呈**

大阪今橋壹丁目天壽館

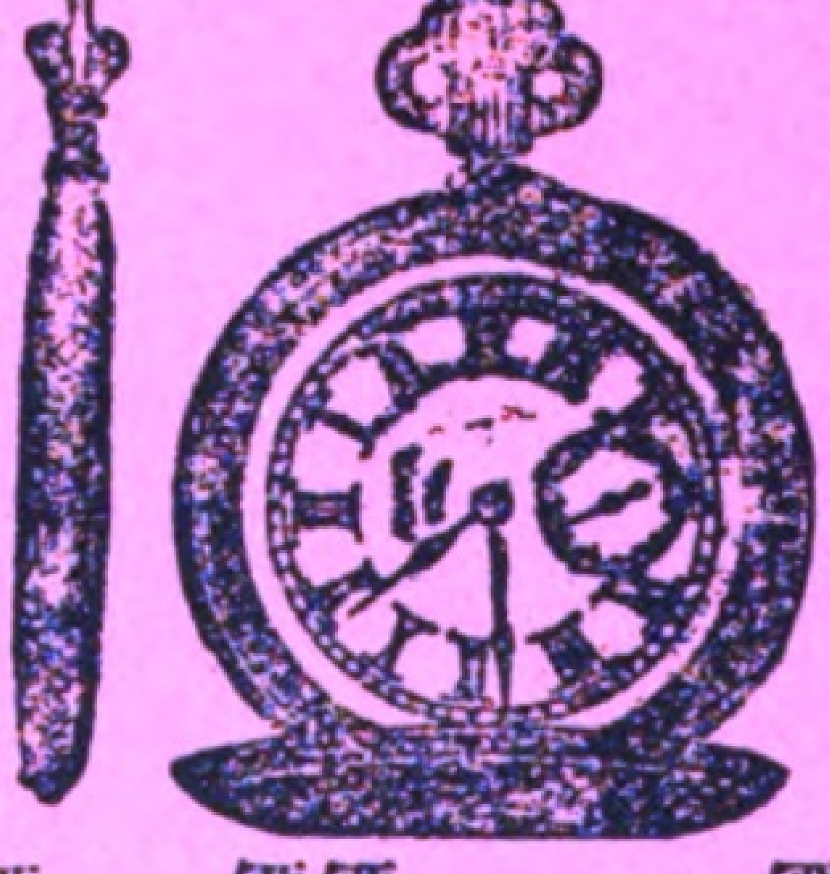
尤も**高評**ある**繪葉書**は日本葉書會製博文館發賣品**也**

▲竹柏會は佐々木信綱氏指導のもとに清新なる和歌を研究せむとする會なり▲竹柏會は師友に乏しき人の爲に和歌の添削質疑に應ず▲竹柏會は會員の機關として毎月一回文藝雜誌『心の花』を發行す▲郵券貳錢を送られなば規則書を送附すべし

東京神田小川町一
電話本局一一一四

竹柏會

優美高尚極薄手形
米國形銀時計



本品は小店特約東洋一手販賣の時計にして價は頗る廉價なるも機械の精確なると形狀の優美高尚にして而も側の銀質等總て米國ウオールサム製に遜色なき良品なり

價拾三圓半 銀側兩蓋中蓋附16 17 18形機械金梨子地寶石入二枚車別爪石卷上向アンクル龍頭引出針廻し

價拾貳圓半 右同品乙號

價拾圓半 銀側兩蓋機械ニッケル惣寶石入別爪卷上向アンクル

價九圓半 右同品乙號

極薄手形 太文字 鐵針

◉保險三十ヶ年 ◉送料内地拾錢臺、清、韓參拾錢 ◉代金引替は卅錢前金 ○振替爲替口座百七十三番

注意 大景品附此廣告を切拔き御注文書同封の御方には鐵磁石、一切の附屬を添へ景品として進呈す

注意

東京銀座壹
伊勢伊時計店

醫科大學藥學專攻 藥學得業士金澤巖著
肺病患者の福音

著者肺病全快の經驗と最近の學說に基き親切叮嚀に根治の法を詳述せし物也◉郵券二錢封入申込者に無代施本

東京市下谷區上根岸町 衞生脩院

女(丙の三)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

謹告

合資會社共益商社樂器店　一手販賣ノ山葉製風琴ハ構造堅固音律精確内國製風琴ノ巨擘タリ第五回内國勸業博覽會ヘ各製造所ヨリ出品ノ風琴中第一等賞牌ヲ得タルヲ以テモ知ルヲ得可シ

合資會社共益商社樂器店　一手販賣ノ山葉洋琴ハ從來本邦ニ於テ製造サレタル洋琴中其品質尤モ優秀ナルノミナラズ之ヲ歐米各國ヨリ輸入スルモノニ比シ些ノ遜色ナキ迄ニ其技術ノ進歩セシ點ヲ以テ我樂界ノ諸大家ハ或ハ證明書或ハ玉章ヲ寄セテ之カ成功ヲ賞讃セラレタリ

合資會社共益商社樂器店　一手販賣ノ鈴木製ヴァイオリンハ其製作上長足ノ進足ヲ遂ゲ今ヤ何レノ點ニ於テモ舶來品ニ劣ル處ナキニ至レリ而シテ其價ハ頗ル廉ナリ

合資會社共益商社樂器店ハ以上ノ外有ラユル内外ノ樂器及音樂書等ヲ販賣ス樂隊用吹奏樂器ノ如キハ何時ニテモ取揃ヒ御注文ニ應ズ

合資會社共益商社樂器店ハ「ピアノ」「オルガン」ノ調律修繕ニ最モ熟練ナル技士ヲ派シ懇切叮嚀ニ御需ニ應ズ

合資會社共益商社樂器店ハ誠實ト迅速ト廉價ト販賣品ノ豐富トヲ以テ其特色トス



西洋音樂器
和洋音樂書　大販賣所

東京市京橋區竹川町十三番地

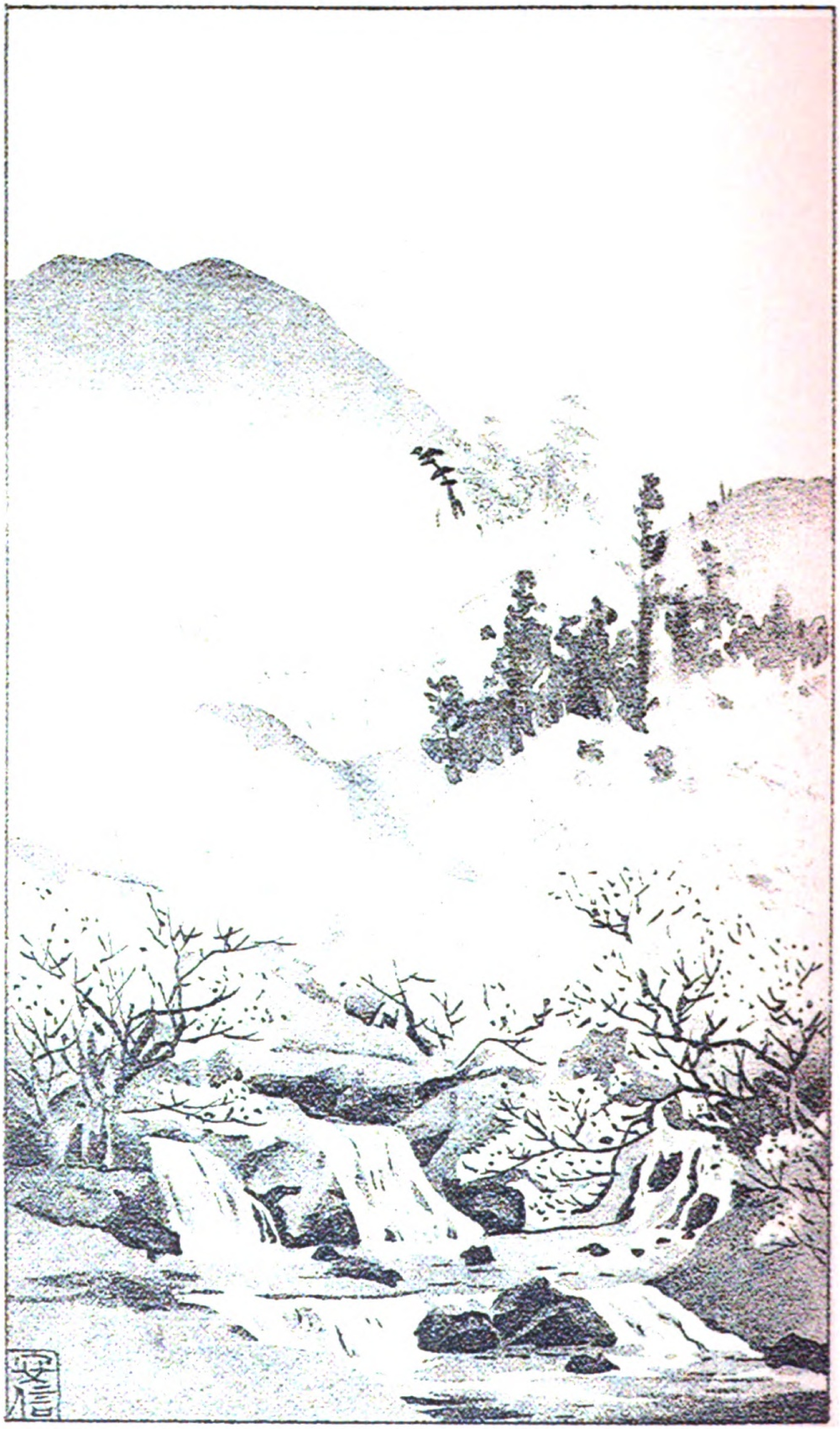
合資會社共益商社樂器店

電話新橋五二九、電信略號キヨ

（丙の四）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

月ヶ瀬の梅



宮川安信筆

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

若菜籃



跡見玉枝筆

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

美人たらんと欲せば一讀せよ

本品は 宮内省御買上の光榮を辱す

高等化粧品 日ノ出クリーム

美人トナル秘密

歐文ハウツービーフチフル參照

色の白きは七難かくすと申し御婦人は勿論男子にても皮膚の奇麗な程快きものはなし此皮膚を奇麗にすると云ふことは平素の食物と衛生に依ると云へ彼の歐米人が艶の美はしく皺の少なきは日ノ出クリームを缺くべからざる化粧品として使用しつゝある所以にして日ノ出クリームが又東洋の御方にも適當なることは衛生試驗所の證明其他各位の實驗上明かであります色を白くしキメを細かに美麗ならしむることは勿論日ノ出クリームは電氣乳劑なれば皮膚を摩擦する時は脂肪が一面に普及し柔軟ならしむる故老年に至るも皺の寄ることなく如何に其花の如き姿を永く保ち得るでしようか又皮膚のあれ性の方は必ず朝夕御使用あれひゞしもやけ等にかゝるをなく又全治する特効を有す彼の恐るべき白粉の鉛毒を防ぐには無類日本流の薄化粧白粉や白粉下を用ゆるの要なく。又つき惡き眞の無鉛毒の白粉を使用前日ノ出クリームを用ゆれば極めて美くしくつき。眞正の美人となることは獨逸國醫學博士エエボーン氏の證明する所さて如何に日ノ出クリームを使用すべきか「初め微溫湯を浸したるタオルの切れにて面部を數分間溫蒸し自然と顔の毛孔に吸取られたる塵と垢を發出さしめ其後日ノ出クリームの極少量を指先きに付け充分（マッサージ）擦り込たる後はハンカチーフ或は紙にてふき取らるべし」尙白粉を用ひらるゝ方は前記の如く拭ひ去りたる後白粉を使用さるゝ時は衛生上有効なるのみならす櫻花の滿開せし如く實に美麗を極むべし

尙毛髮用日の出クリームはコスメチックと水香油を合せし如くにて適度に亂毛を止め毛髮を保護養成する煉香油なり化粧用毛髮用共に佳香馥郁の佳品にして衛生的に完備せり

化粧用は美人劑 毛髮用は煉香油

日ノ出クリーム

定價

特製	二圓
大瓶	一圓
中瓶	五十錢
小瓶	三十錢
見本瓶	十五錢

郵税（十錢）（四錢）

高等水香油（フケトリ）

日ノ出オイル

大一圓。中五十錢。小廿五錢。

本品發賣三ヶ月有餘にして賣上數三十萬個に達したり此御愛顧に報ひん爲め壹千個中へ一個純金紀念指輪引替券を瓶のソコへ入れあれば御使用中少さき金物あれば本舖へ御持參或は御郵送相成度引合の上速時進呈すべし

東京日本橋區村松町廿二番地

日本一手販賣元 舶來化粧品商 **須原啓三郎商店**

有名信用ある和洋小間物店に販賣す

日ノ出クリーム 特約大販賣店

銀座壹	佐々木
淺草	百助
須田町	三ツ井屋
小川町	信盛堂
白牡丹	各店
本郷	兼康
牛込	山城屋
馬喰町	花王堂
横山町	脇田
同	村藤
同	近源
通鹽町	大和屋
長谷川町	廣田
牛込	酒井
吾妻橋	尾張屋
大阪	小林支店
名古屋	村瀬谷三

◎美人となる秘密は如何なる品を要するか？

●何故に美は人生の最大幸福なるか？美は愉快を感じ心を爽然とす、愉快の感覺は精神の滋養となり、精神の滋養は追次に肉體の滋養となり、血は增し、肉は肥えて、體健全となり益々色艶美はしくなる●其初めに美人となるは日ノ出クリームを朝夕使用するにあり

日の出化粧品一割引

（切取線）「女學」（第三號）

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

第二回新案大懸賞珍附録に注意せられよ

婦人世界

二月號　一日發行　毎月一回　第二卷第二號　一冊拾五錢　郵税一錢五厘　半年分郵税共九十錢　一年分一圓七十五錢

口繪　◎北白河宮姫宮兩殿下◎愛國婦人會の新年御禮會と閑院宮妃殿下◎新婚寫眞◎令孃寫眞◎男爵加藤弘之氏一族一堂に集る寫眞

空前の大文字　**娘時代の生活法**　村井弦齋

△姿は如何に美しくすべきか
△皮膚は如何に美しくすべきか
△心は如何に美しくすべきか
△心の調和とは如何なるものぞ
△身體は如何に美しくすべきか
△深呼吸は如何にすべきか
△心の釣合とは如何なるものぞ
△心は如何に修養すべきか

母も妻も娘も女學生も總ての婦人が是非一讀を要する大文字也

第二回　賞品

●**大懸賞珍附録**（賞品總計千參百十五）

△十八金指輪三△金帶止五△婦人銀側懷中時計三△置時計△筒袖しぼり束リボン△半襟△ニッケル懷中時計△鏡△タオル△新案美麗縞帖△手風琴△石鹸入△裏地△ノートブック△ゴムのスポンヂ△眼覺時計△寫眞ブック△繪葉書帖等

◎梅を詠じたる古來の名歌……渡邊
●最新の結婚式……宮本富子
◎輕いお產と重いお產……山田產婆
●わが良人の禁煙實驗……（松原房子）
◎齒磨楊枝の使ひ方……大原醫學士
●衛生上より見たる結婚法（伊庭學士）
◎余の感心せる女學生……西田敬止
●七十にて單身洋行　矢島楫子女史面影

●小兒癎癪の話（醫學博士ドクトル加藤照麿）
●鼻の形と其病氣　佐藤敏夫
●弦齋夫人の料理談　△野鳥の料理方△南京豆の煮方△雉子の料理方△ホウレン草料理△飯の出來損ひは如何に直すか
◎學校案内◎衛生問答◎家庭の重寶
少女欄　有益◎益々讀者文藝本號より大に賑はへり

東京南紺屋町　電話新橋八七四　實業之日本社　郵便振替貯金口座參貳六番　賣捌各地書店

（丁の二）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

登錄商標

佛國天然葡萄酒古「メドック」



此「古メドック」は佛國産純料の天然葡萄酒にて弊店に於て十有年來一手直輸入專賣するものに御座候此葡萄酒は藥用としても常用飲料としても能く人體に有益あるものとして諸大醫及需用者諸彦の稱讃を辱ふし古「メドック」の名稱世に知らざるものなきに至りしは誠に仕合に奉存候然るに世間往々同一の名稱の葡萄酒を賣捌くもの有之候に付弊店の「古メドック」には印の商標を印し有之候間御注意御買求被下度候●御注文之品は直ちに御屆可致候●代價表は御申越次第進呈す

海外直輸出入
洋酒食料品商
東京新橋竹川町
三組屋 大塚琢造
電話新橋七三六番

曾て高評を博したる本書増訂十五版發賣

正二位東久世伯題●依田學海先生序

學生の寶藏
井原豐作編
美文良材
袖珍美製本
近體文章之熟語字彙

美文良材は所謂文語粋金の最も完備せるものにして且之れを編するに(いろは)順を以てし各項毎に、熟字。形容詞。格言。等を以てしたればば記事にあれ論説にあれ苟くも言はむと欲する所の思想は凡て良材をこの書中に得ざるなく恰も詩學者の、詩語粋金、幼學便覧、に於けるが如く苟くも近體實用の文に入らんと欲せば本書に依らざるべからず、然して天下幾萬の學生諸君に向つて如何に新思想表白の便益を與へきやは…初刊忽ち版を重ぬる十四以來絶版…今や諸文士竝に學生諸君の渴望を慰すべく、訂正増補

第十五版なる速に之れを座右に驗せられよ。(正價一冊金貳拾五錢　郵稅不要)

新刊發賣

學生寶藏 續美文良材

井原豐作君著　洋裝袖珍美製本　正價金廿五錢　郵稅不要

發兌元 東京神田東福田町 萬書堂

東京神田 東京堂 大阪梅田 盛文館

女(丁の三)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

皇后陛下
東宮妃殿下　御料

御料
みそのおしろい
御園白粉
無鉛

長谷部仲彦發明
日本一の無鉛品

◎御園白粉は忝くも　皇室の御用命を戴いて調進する日本無比の無鉛白粉であります、衛生を重んぜらるゝ婦人達は必ず『御園白粉』を用ねばなりません。

◎煉製『御園白粉』は純白と淡紅色との二種あつて濃淡随意に用ひられます膚に乗りの好い事は勿論、幾度重ねて附けても際立つ事がありません。

◎不製と粉製　矢張白と淡紅の二種ありますが水製は薄化粧に用ひます、粉製は煉製や水製を用ひた上に附けても又洋風の濃化粧用としても随意です。

◎御園なでしこ　は懐中用打白粉として製した物で顔直しをする時に下の化粧を崩さずに用はれる軽便品です。

◎御園の蕾と『とき水』『御園のつぼみ』は洋風化粧下に用ひるクレームで『御園とき水』は煉製を薄化粧に使ふ時溶き伸る外普通の化粧水として特効があります。

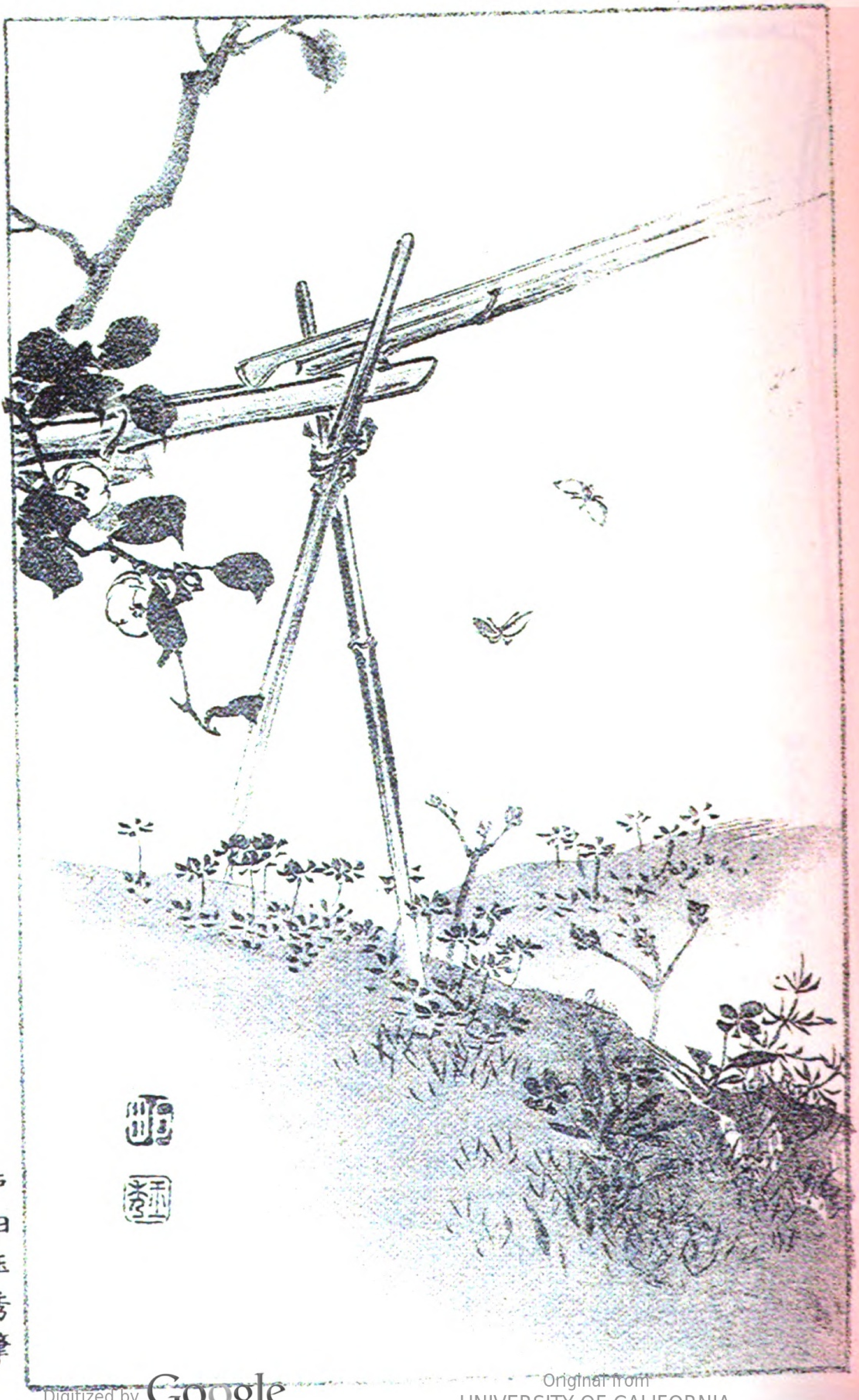
◎四季の花　は濃厚化粧水として天下一品の白粉下でありますが是に調合した薬は皮膚の荒れを直すは勿論日焼、凍傷、皸裂等も直す功能を有つて居ます。

發賣元　東京橋町　丸見屋　電話浪花四四八番

女(丁の四)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

若草



戸田玉秀筆

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

小松引



熊谷直彦筆

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



（戊の一）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

當代無類の奇文!!!毒舌文の一大機軸!!!

龍門を見ざれば天下の深きを知らず
元祿姉さんを見ざれば天下の文を知ることなし

巫山を見ずして天下の勝を說くこと勿れ
元祿姉さんを知らずして天下の文を談ずる勿れ

▲咳唾珠を成す奇才子の文!!!▼

元祿姉さん著



噫是れ現代婦人の心裡を解剖せる觀象國也、見よ現代婦人千百の疑問が奈何に靈警なる著者の眼光に映じ如何に燃犀なる著者の筆に依つて解決されつゝあるかを。

著者元より小說家にあらず、然れども實在の滄海より掬び來れる一滴の甚麼を千倍の顯微鏡に映じこれを萬人の眼前に展觀せしむるの技に至つては眞に是れ當代の傑品、一度び卷を繙かば、老婦は嫉み、壯婦は怒り、而して妙齡の才人は忽ち紅潮して以て手に汗を握らん。（近刊）

本書綱目

▲嫁の最負？姑の最負？
▲踏付られたる女
▲女性を呪へる口
▲お轉婆を作りし社會
▲囚はれたる女
▲鬮を引損ひし女

▲美人の立場と醜婦の立場
▲武器を持てる女
▲侮辱されたる女
▲手腕ある女
▲札は野心家に落ちたり
▲女は三世の祟り

▲離婚の原因
▲女學生の現在
▲都と鄙＝婦人兩面觀
▲婦人と文章
▲化粧哲學
▲情の研究

▲人を魅する妖婦の文!!!▼

東京本町 博文館

女(戊の二)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

東洋女藝學校生徒募集

（入學希望者ハ四月十日迄ニ申込アルベシ）

女子生徒募集

注意 四月十一日第一學期始業入學希望者ハ此際申込ミアルベシ

目的 本校ハ我國固有ノ婦徳ヲ涵養シ學識技藝兼備ノ女子ヲ養成ス

教科 刺繡科。造花科。裁縫科ニ分チ更ニ豫科本科高等科專修科及速成科ニ分ツ

科目 豫科本科ハ高等女學校同樣ノ學科ヲ授ケ技藝ハ補習科卒業以上ニ熟達セシム
高等科ハ中等教員受驗者及高等學術研究者ノ爲メニ之ヲ設ク
專修科及速成科ハ專ラ技藝ヲ熟達セシム

授業時間 豫科本科高等科每週學科十七時間技術十六時間專修科及速成科ハ技術三十二時間トス

入學程度 豫科ハ高等小學二年卒業本科ハ高等小學卒業高等ハ高等女學校卒業專修科及速成科ハ年齡十五歲以上ニシテ高等小學二年卒業以上ノ程度トス

卒業年限 豫科高等科及速成科各一ケ年本科及專修科各二ケ年トス

注意 四月中旬入學試驗ヲ行フ規則書入用者ハ郵券二錢送附次第直ニ之ヲ送呈ス

東京市神田區仲猿樂町十五番地
私立 東洋女藝學校

●簡易複寫インキ定價
二オンス罐入 金參拾錢 送費共郵券一割增
東京神田花房町九番地 中村屋商店

圖書目錄進呈

往復ハガキにて申込あれば送呈可仕候

博文館小賣掛

最近

子宮病

自宅療法

全一册

▲如何にせば子宮、血の道の難病を根治し
▲子寶を擧ぐべき健友性となるを得べきか

◉本書は著者が多年の實驗より得たる成効と、最近の學説を基礎とし、親切叮嚀に自宅の療法を記述せるもの
◉郵券貳錢を送れば當分の內無代進呈す

申込所 東京市築地新榮町四丁目一番地 笹岡省三



◉堅牢無比懷中

手風琴

本品は最も優美且高尚の小形なる手風琴にして音律の正確なる音聲の強大なる事普通手風琴に異なる事なし左れば旅行散歩等には至極輕便なり獨習書附屬す

正價 上製金壹圓八拾錢 並製金壹圓五拾錢

送料拾錢切手代用一割增

大阪市東區和泉町貳丁目

發賣元 覗商店

女(戊の三)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

●一圓の舶來石鹼よりもクラブ洗粉は衛生美身術に適合す

●千種以上ある洗粉の中にもクラブ洗粉のみは石鹼に優れる特點あり



總代理店

輸出入雜貨
化粧品問屋

中山太陽堂

神戸本店
大阪支店

●内外各地の信用ある小間物化粧品店及吳服店にて販賣せられつゝ有之候御便宜御用命相成度候

(戊の四)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

春の野



小林呉嶠筆

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA



歐米最新流行

ヘヤロール

束髪前髪じん

日本一手販賣元
東京京橋區舘屋町一番地
日加商店

▲高貴婦人の最も賞養の經濟品
▲輕き事「ハ子」の如く伸縮自在
▲頭部を冷して「フケ」を除去す
▲上品の容姿を裝ふヘヤロール



●ヘヤタイ

貴婦人用の束髪元結にして切り結ひの手數を省く便利德用のハイカラ品

賣捌所　各地　和洋　小間　物店

●婦人科 午前宅診
●小兒科 午後往診

專門

女醫 鷲山彌生

東京市麴町區飯田町四丁目九番地

女醫學生募集

五月一日ヨリ新學期ヲ開始シ入學ヲ許ス志望ノ姉妹ハ四月廿日迄ニ入學手續ヲ完了ス可シ規則ハ郵券三錢ヲ要ス

東京市麴町區飯田町四丁目九番地

東京女醫學校事務所

五大軍醫合議製劑

藥價 五週分壹円、三週分六十五戔、二週分四十五戔、一週分二十五戔、二日半分十戔

本舗 東京銀座壹丁目 大阪南久宝寺町堺筋東

山田安民



全國各藥店に於て取次販賣す

女(己の一)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家庭整理の指導

當代第一流の女子教育家編著



家庭百科全書

全部五拾册——毎月二回發行——第一巻二月創刊す

和装頗美本◉紙數二百五十頁◉石版彩色口繪一葉、挿畫十數個

▲定價一册金四拾錢——郵稅八錢

近時婦人敎育の普及するや、女流の才學は一般に著しく進みたりと雖も、尙ほ之を日常家庭の上に施こすに臨み、輙もすれば實際に適せざるを憾むこと多し。是れ學校に在るの日には概ね理想の學修に止まるが故に、實際の應用に臨み、或ひは學ぶ所高尙に過るか、然らざれば未だ十分ならざるの憾ある所以なり。若しも家庭に敎師ありて一々實際の問題に就て指導せんには、世の良妻賢母は言ふも更なり、未だ在學中の女流學生達の爲にも如何に裨益の多かるべきかは、敢て多言を須ゐざることながら、人ことに家庭に敎師を聘するが如きは、得て望むべからず。是に於て本書は、最良なる家庭敎師たる目的を以て編述發行し、敢て婦人敎育の缺點を補はんと欲するなり。

發兌元 東京

(己の二)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

婦女必讀の大全書發行

去れば本書は全部を五十卷と爲し、毎月二卷づゝ、左の諸大家に請ひ、編を逐ふて發刊す。著者は皆な現代婦人敎育界に第一流の諸名家にして、各家皆な多年の經驗に徵し、最も實際に適切なる事物を選み、文章は平易流暢を旨とし、之れを讀で趣味多く、記事は明細精確に之を實地に施して遺憾なきを期せらる。幸ひに世上の女流にして、各一本を家庭に備へられんには、恰も常に家庭敎師を自家に聘し、日々に起る所の事物に對して、一々指導を受くるに異ならざる裨益あるべきなり。

第一編

新家庭訓

三輪田高等女學校長　三輪田眞佐子女史著

紙數二百五十頁
石版極彩口繪挿入
挿畫十數個

●續刊

四季料理　宮中臣民兩流料理師範 大日本割烹學會々長　石井泰次郎君著

禮式と作法　女子高等師範學校敎授　佐方鎭子女史著

家政要訣　女子高等師範學校敎授　後閑菊野女史著

本町　博文館

(己の三)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



（丸嘉階上陳列室）

販賣品目錄

ダイヤモンド 其他寶石入 指環各種
時計鎖り及ひ附屬品
金銀製裝身具各種
金銀茶器、床飾品
御婦人用裝飾品
金銀盃各種
儀式用櫛笄及附屬品
美術袋物各種

貴金屬彫刻品
婦人用裝飾品商
寶石美術袋物

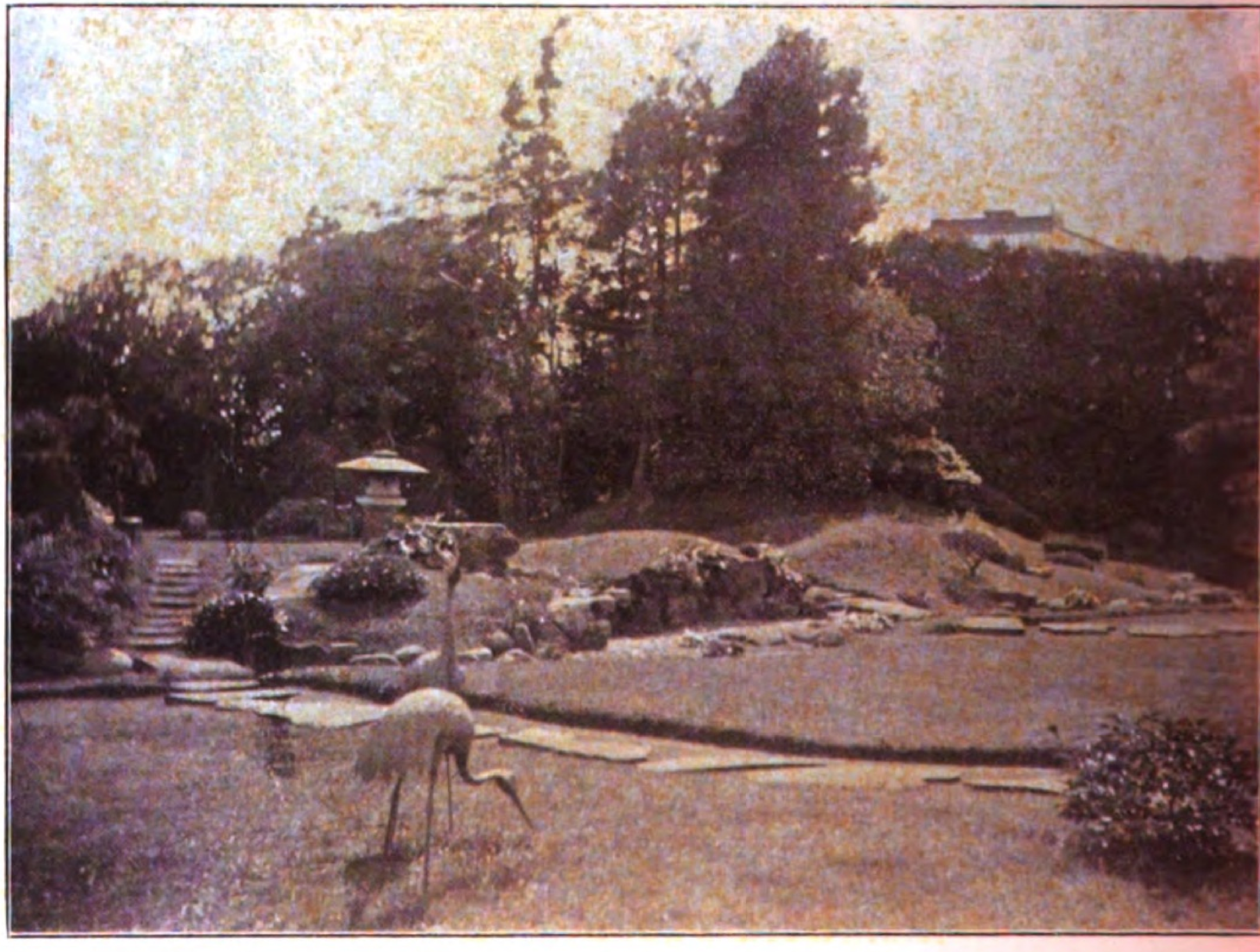
東京市日本橋區若松町
丸嘉
電話浪花七六八番

貴金屬寶石美術品袋物各種迅速と廉價とを以て確實に御用命を受け申候間多少に不拘御引立願上候

女（己の四）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

庭園



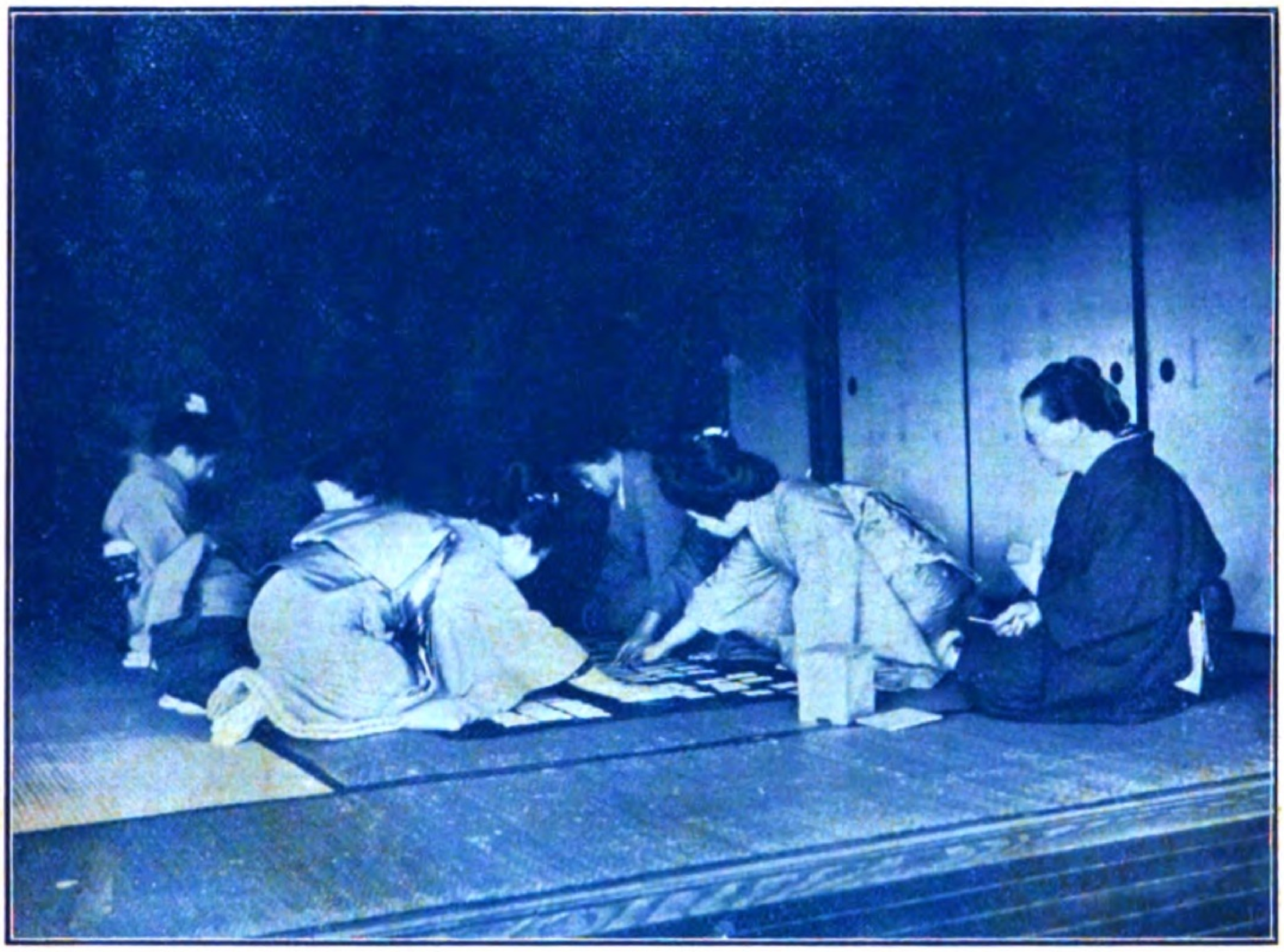


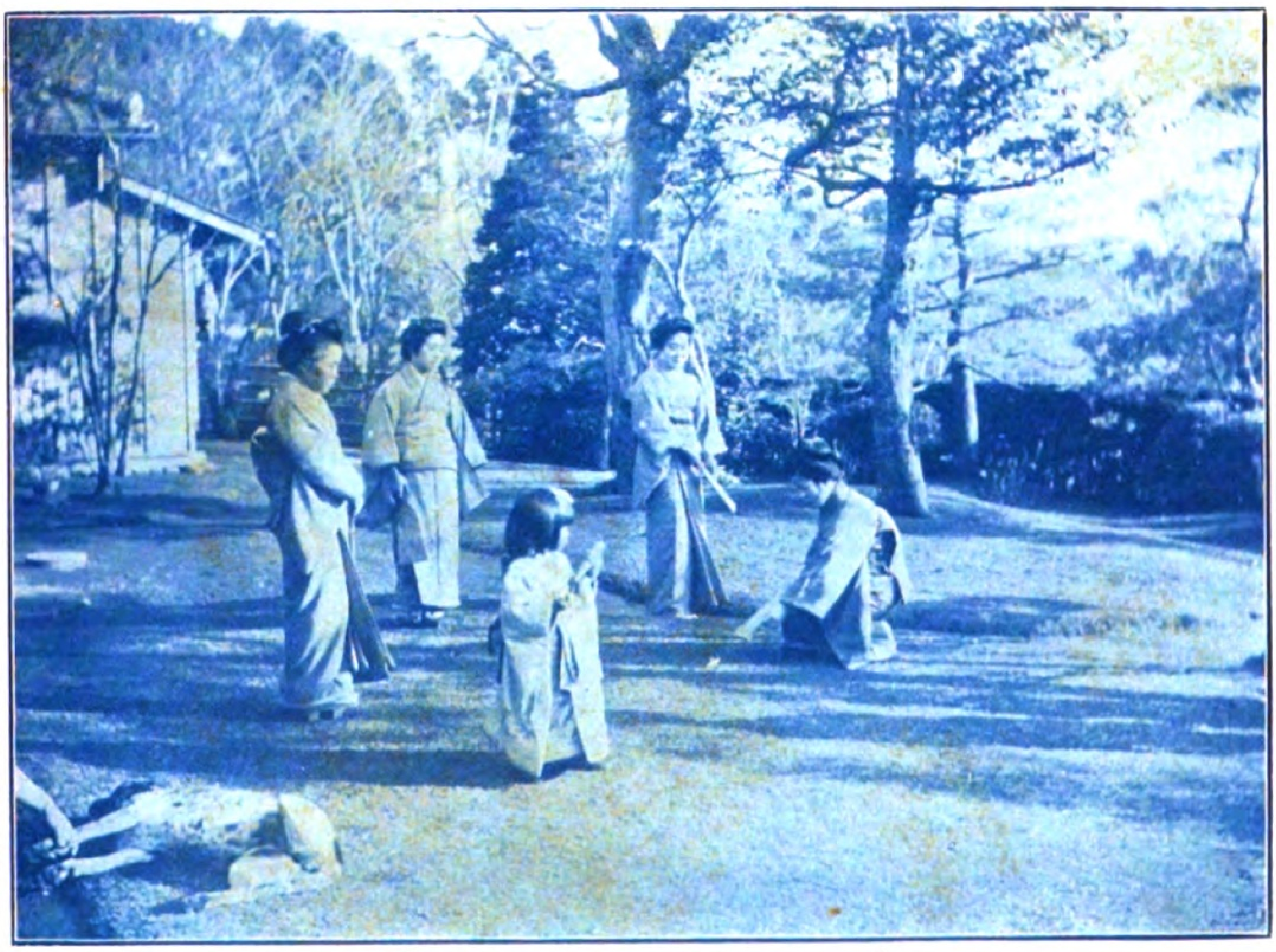
（柳澤伯爵の庭園）

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

かるた會





（徳川男爵撮影）

やり羽子

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

衛生經濟便利兼備

石油暖爐と厨爐

◉石油厨爐◉

石油厨爐　は僅卅分間に三夕の石油で一升の飯が炊け魚煮餅を燒くも臭くなし下等石油で使用するも無煙無臭保證せり

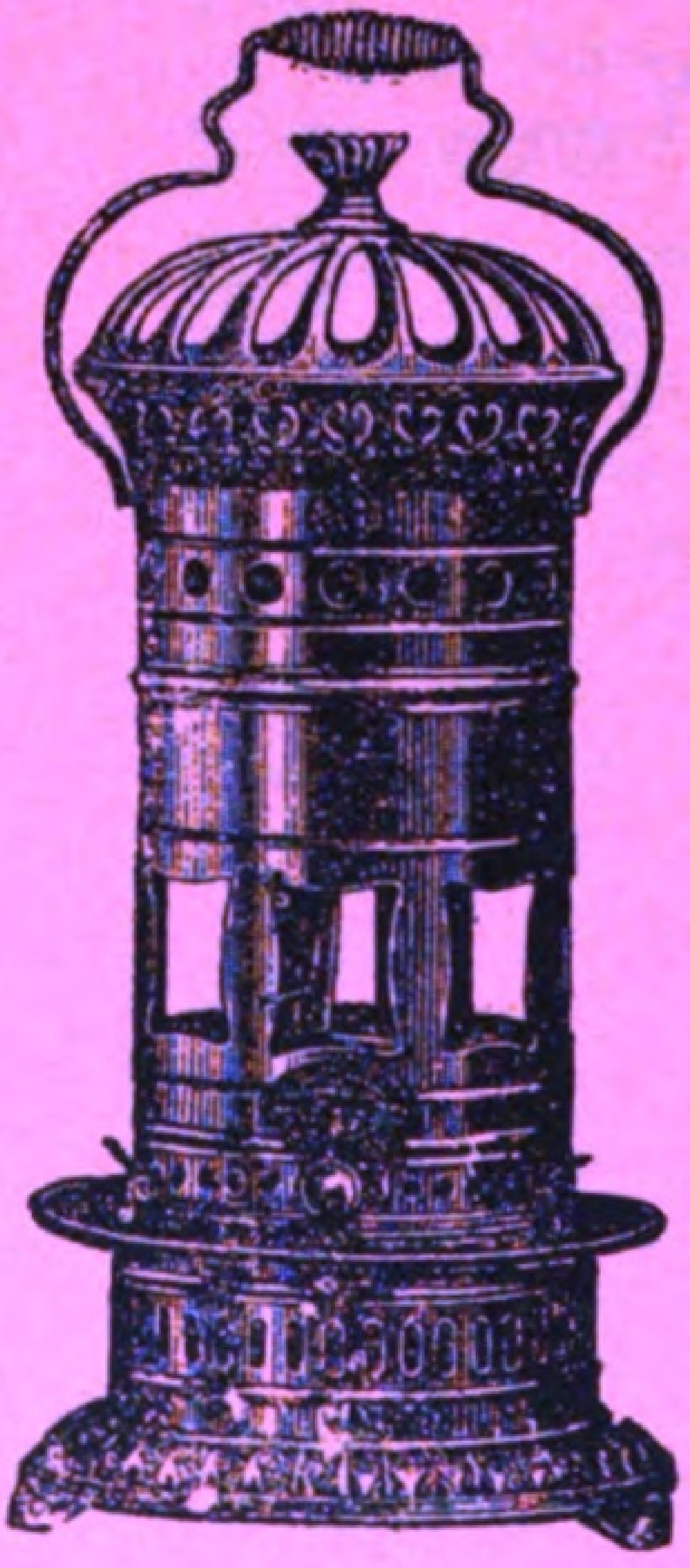
金貳圓廿錢より

金參圓廿錢より

◉石油暖爐◉

◉專賣特許一〇三三二號

石油暖爐　は最も美麗なる構造にしてマッチで點火せば直ちに強熱を發し無煙無臭一點の塵なし僅か卄分間に七八十度となり煙突を要せず衛生と經濟に最も適す





特製　金拾貳圓

上製　金八圓

並製　金五圓五拾錢

本品は女學世界讀者の外割引とす

此切取り持參の方(切取線)は定價の五分引

目錄
定價表は
御申越次第
直ちに送呈可仕候

發賣元　東京日本橋區室町（電話本局二八九）　久能木商店

代理店　京都四條通高倉角（電話一七二）　宮本商店

女(廣の一)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女（庚の二）

●男爵千家尊福君題詠

●東京商業會議所會頭中野武營君序文

●東京博覧會協贊會理事葦原清風君序文

●市長尾崎行雄君題辭

●田山花袋君編

●柴田常吉君撮影

東京寫眞帖

全一册
正價壹圓五拾錢
小包料拾錢

豫約 來る三月廿日迄前金御申込は金一圓二十錢外郵税申受候

●總クロース金文字入美裝特製縱八寸五分橫六寸三月上旬製本出來

東京寫眞帖は本年開設せる博覧會の紀念出版として發行せるもの、東京市内の名勝古蹟を始めとして、官衙學校會社の著名なるものより劇場公會場遊覧場に至るまで、最新最美の撮影を試み、これを舶載の上等紙に印刷し、更に裝釘の美を盡して、殆ど遺憾なからん事を期せり。殊に其説明は艶麗簡潔なる文章を以てこれを遣りたるを以て、この寫眞帖を繙くものは東京市の繁華を目睹するの感あると共に長く机邊、應接間を飾るの好紀念として保存する事を得べし、本書は一面好個の東京案内にして一面美を極め精を極めたる寫眞帖なり。

發賣元 東京本町 博文館

發行元 東京小石川 日本葉書會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

新案福袋

トムボラー

名も實も乙姫の玉手箱に似て開けてくやしきものは此頃世にありふれたる福袋たのしみ袋の類なるべし。玆に本會より發賣する袋入繪はがきは。かの粗鹵杜撰なるものとは趣を異にして優美高尚他に眞似し能はざる特色を備へたれば試に一袋を御購求ありて自慢に負かぬ用意の程を御高評に預り度されば名前も他とまぎれぬ樣思ひ切つてのハイカラなるがよかるべしと歐米の通り名を其まゝトムボラ！

宴席の興酒間の娯として之に過るなし殘らず拾五錢以上の價値あり加ふるに景品左の如し△三萬袋限一袋**拾錢**

一等二人拾圓三越呉服店切手
二等五人八圓玉寶堂切手
三等十人五圓丸善會社切手
四等三十人三圓博文館切手
五等四十人二圓信盛堂切手
六等五十人壹圓東京堂切手
七等六十人卆錢アルバム本會發行
八等八十人五十錢文房堂切手
九等百人三十錢日本葉書會切手
十等三百五十人廿錢日本葉書會切手

ハッピークリスマス

太田三郎君畫 價二十錢
石版刷精巧無比二枚一組
包紙リボン裝飾頗優美

新曙光

三宅克己 朝暾 石版極彩色
丸山晩霞 日の出 三枚袋入
大下藤二郎 新年の海 定價拾錢

榮光

和田三造 石版極彩色
中澤弘光 三枚袋入
橋本邦助 定價十錢

勅題新年の松

野口小蘋女史畫 コロタイプ石版刷
跡見花蹊女史畫 二枚袋入價五錢

丁未新彩

牧羊 梶田半古畫
春の小女 水野年方畫
初夢 榊原蕉園畫
三枚一組金拾錢

ひつじの春

佐藤生巣畫案 羅紗紙ヌメ浮出し
泰西名畫 羊群
二枚一組金拾錢

歌留多はがき

織田一磨畫
上下各六枚金拾五錢
上（松梅櫻牡丹藤あやめ）
下（すゝき萩菊紅葉雨桐）

カードハガキ

佐藤生巣君畫石版極彩色
六枚一組金貳拾五錢

葉書帖

新式（甲）中村不折先生案
表裝（乙）橋本邦助先生案
意匠（丙）武内桂舟先生案

優美新案意匠
各百二十枚挿
定價甲乙各卆錢 丙八十錢
郵稅拾錢

前記三氏が各獨特の想を構へて特意の圖案に意を凝すこと月餘其表裝の美なると裝釘の完きとは本會の大に誇とする所なり蓋し裝飾用として床上に置くべく紀念用として机上の珍たるべし

（其の三）

發賣元 東京本町 博文館
發行元 東京小石川 日本葉書會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

於內外博覧會名譽大賞及金銀牌受領
元和二年創業
ヒゲタ印醬油
ヒゲタ印醬油
HICETA SHOYU
THE CELEBRATED JAPANESE SAUCE
TRADE MARK
Patronised by the Imperial Household Awarded First Class and Gold Medals and Grand Prize at the various International Exhibitions held at home and abroad
The Oldest Establishment of its kind in Japan. Founded in 1616 by the ancestors of the present proprietor
G. TANAKA
Choshi, Chiba-ken, JAPAN
宮內省御用達
千葉縣 田中玄蕃釀造 銚子港

陸軍中將 大藏平三君序
笠間醉雨君編



全一冊 三六判 總クロース
正價六拾錢 郵税拾錢
發兌 東京本町 博文館

らい病
一ケ月分藥料共三圓
毛はへ
一劑分藥料共八十錢

以上二劑は拙者醫科大學奉職中歐米有名心の後發見したる最新秘藥を藥化學上より研究し多年苦心の後發見したる最新奏効確著品也醫藥學的智識なき山師輩の濫造品と同視する事なく是非本劑を試み其奇効ある眞價を知れ●二劑增●往復葉書照會詳報す●郵券代用
三河國碧海郡刈谷町
醫科大學卒業藥劑士
從七位 中島龜之丞
振替貯金口座番號貳參壹壹番

女(庚の四)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

京城の大觀



（南大門外の宏路）

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

貴婦人小集



（大日本婦人會新年小集）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

釀造元 千葉縣野田町 茂木佐平治

天下一品
最上醬油

賣捌所は各地とも有名なる酒醬油店に有之候



眞正無毒 クイーン白粉（おしろい）

皮膚艶美 クイーン水

本品は我同盟國より輸入せる最新最優の原料に貴重なる芳香を加へ精製したる他に比類なき化粧料なり

本舗 東京日本橋新和泉町 三井花陽堂

女（卒の一）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

少年世界第十三巻第三號定期増刊



全一册洋裝大判
定價金拾錢
郵税壹錢五厘
二月十五日發行

少年寶庫とは何であるか、問はでも知れたこと少年に必要なる寶の收めてある庫である之は記者が多大の苦心を重ねて、いよ〳〵今度落成したものであるが、庫の中の寶の多いこと、なか〳〵一日や二日では見つくすことが出來ぬ、諸君早く來て其扉を開け給へ智慧の鍵さへ有つて居れば、よしや扉は如何に固くとも、さ譯なく開くことが出來る、さア鍵の用意はいゝか、下に內容の概略を、一寸漏らして置くことゝする。

お伽口演　助け笛……巖谷小波

本文記事大要

●表紙＝少年寶庫を開く　杉浦朝武氏筆

●口繪＝書齋の寶　尾竹竹波氏筆

●寫眞版＝內外風景其他八頁

▲海の研究▲有用植物▲鑛物の用途▲日本の奇景▲動物の子供▲血液の作用▲八大遊星▲少年年中行事▲標本製作法▲あみいば▲動物の卵▲唐詩和讀▲樂器の構造▲人類の發生▲字嘶し▲花の構造▲朝燒と夕燒▲雪と霜▲天文名數▲石版印刷▲農業の種類▲有毒植物▲果樹栽培▲四季の花壇▲笑話二十題▲陸軍海軍▲家畜雜談▲鑛物有無探險法▲日本英雄傳外數十項

發兌元　東京日本橋區本町三丁目　博文館

女（幸の二）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治史 第六編

政黨史

全一册洋装大判
紙數二百五拾頁
寫眞版二十葉挿入
正價參拾錢
郵稅參錢

政黨革新の聲大に起るの今日に於て、太陽の臨時増刊として將に政黨史を讀書界に供給せむとす。日本の政黨は如何にして發生したるか、其の藩閥政府と對抗して苦闘したる狀態は如何なりしか、其の之れを率ゐ、之れを訓練したる領袖株は如何なる人物なるか、議會開會前と其の以後とは政黨界に如何なる變化を與へたるか、各黨各派の合縱連衡したる狀態は如何なりしか、議會開會以來政黨の運動狀態は如何なりしか、一たび本書を讀めば日本の政黨事情は瞭然として掌を指すが如く、而して如何に將來の政黨を改革すべきかの問題は先づ本書を一讀したる後に決定すべきのみ、特に本書の特色は人物を中心として事實を叙したるに在り、故に記事に精彩あり、文字に趣味あり、他の乾燥無味蠟を嚼むが如きものと同日にして語るべからず、一讀を吝むなかれ。

二月二十日發行

發兌元
東京本町
博文館

女(辛の三)

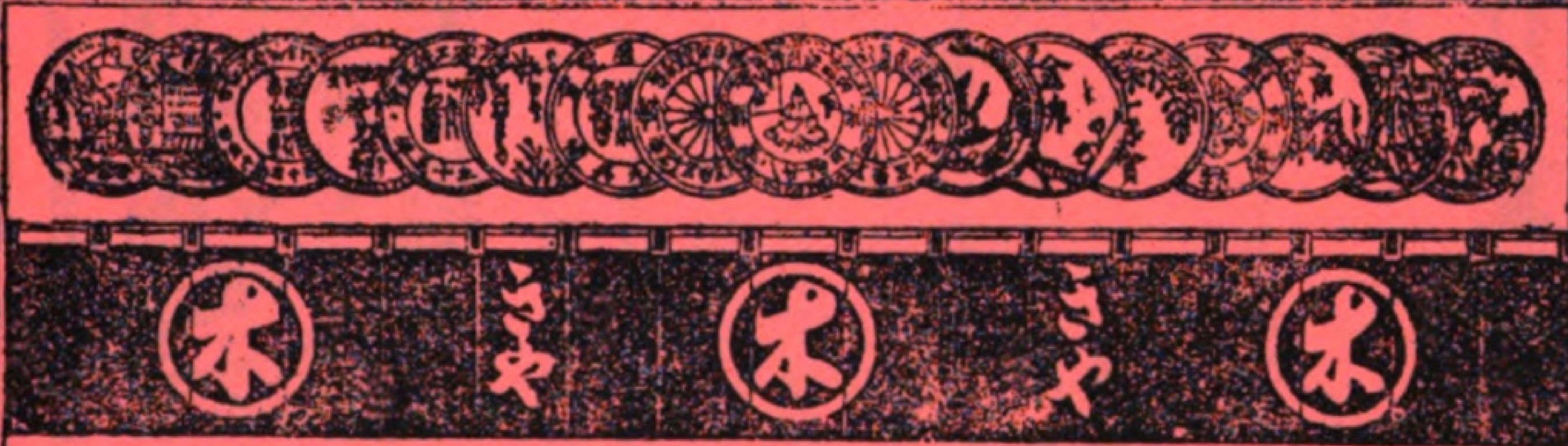
Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

近來同名類似之品數多相見へ候に付御愛求の節は人魚の商標と高木與兵衛の名義に御注意被下度候



定價

箱入 金一圓　紙包 金二十錢
同 金五十錢　同 金十錢
ニツケルカン入 同 金三十錢　同 金五錢
同 金十五錢



美術 漆器 蒔繪

御婚禮道具 ぜんわん 家具 其他 ぢうばこ 種々 製造

ぬりもの陳列場設置有之候間御隨意に御縱覽多少ニ不拘御用向被仰付度偏ニ奉希上候敬白

東京市日本橋區室町貳丁目

漆器屋本店

林九兵衛

電話本局（九百九十五番／千七百十番）
電信略名（キ九）

(女 十の四)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女學校の自修室



（女子高等實修學校寄宿舍）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

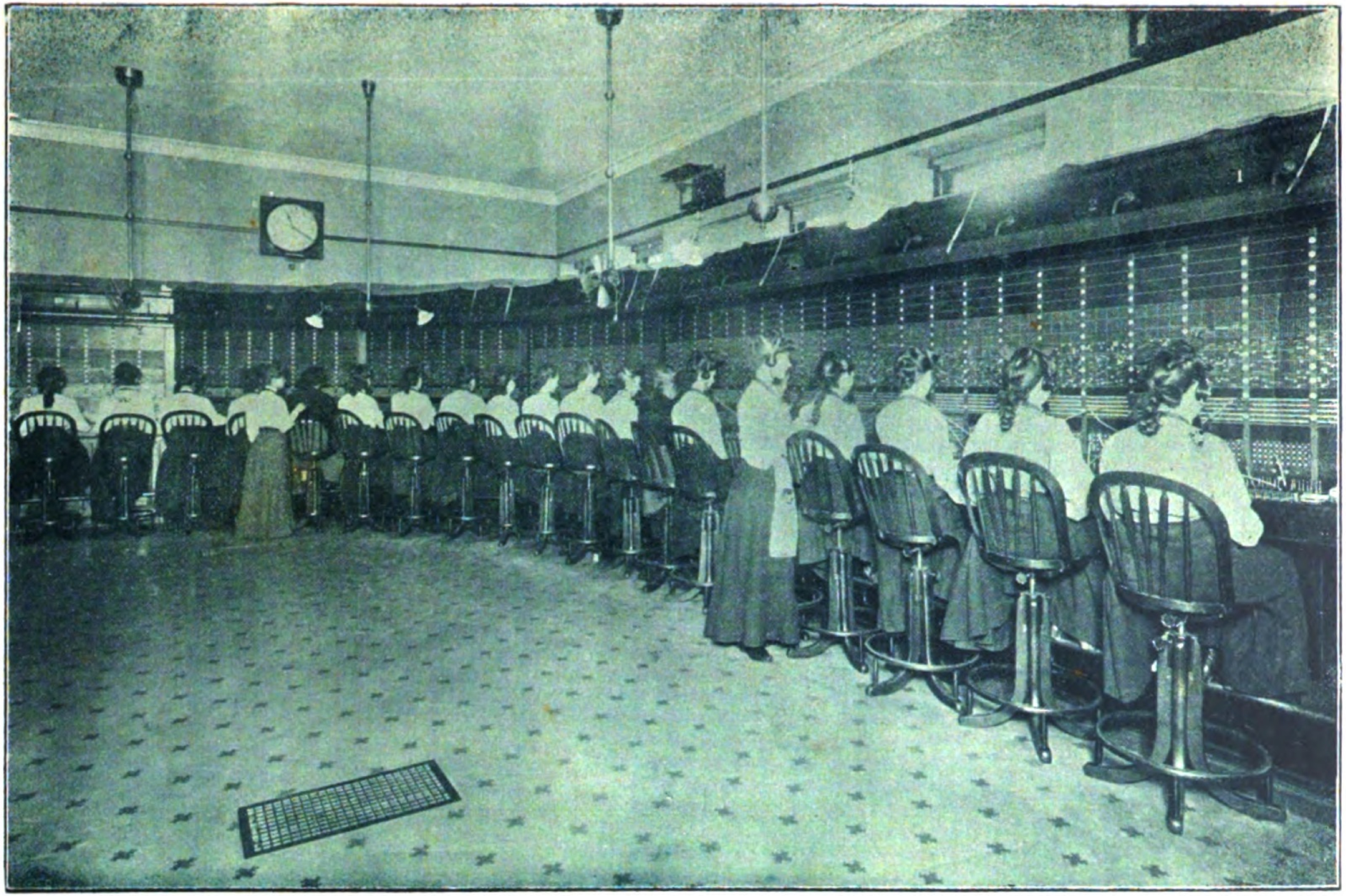
小池軍醫總監の家庭



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

多忙なる電話交換室



（米國婦人の働きぶり）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女式大神流の試合







墺國伯爵コルレードト庭園内に於て上覧に供せしものにして師範山邊什正氏と門人三橋玉子、野口吉水の両女なり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女子の爲に成る唯一の作文雜誌

沼波文學士
巖谷小波
佐々木信綱
廣津柳浪
河井醉茗
山中古洞
先生選評



三卷第壹號《新年號概目》

增刷出來

附錄 岡田三郎助筆極彩色の額繪 ◉明治文壇の出世作一覽 口繪 三宅水彩畫、繪手本、繪端書、誌友面影美 卷頭 與謝野晶子、羽仁もと子、大塚楠緒子、小山內八千代子、伊藤銓子の女流作家執筆 銀時計 絹張傘 其他重賞 當選 新作詩文 披露

每號大懸賞品

婦人持銀側時計 價格金拾圓
流行絹張洋傘 價格金五圓
新柄反物 價格金參圓
縮緬半襟 價格金壹圓
流行帶止 價格金壹圓
化粧品 價格金五拾錢
便利圖書切符 金七拾錢以內
（詳細は本誌を見よ論より證據）

每月一日發行 外に二、五、八、十一月增刊
紙數 一冊大判百三十頁 他雜誌の百六十頁に相當
口繪 三宅氏水彩畫其他 繪手本、繪はがき 誌友寫眞數葉入
廉價 壹冊金拾錢 ○八冊（半年分）前金七拾六錢 ○十六冊（壹年分）前金壹圓四拾四錢 ○外に郵稅壹冊壹錢ッ、

◉三卷二號 二月一日發行
第二回の重賞當選文滿載 豐富
口繪＝水彩畫繪手本繪端書誌友寫眞入

女子文壇春季增刊 つぼ菫 二月十五日發兌
全紙懸賞文
口繪三宅水彩畫蕉園女史繪端書誌友寫眞皆美

▲新年號增刷出來此際至急愛讀あれ取揃御求めに應ず最寄書店になくは本社へ直接振替貯金便法にて申込あれ

發兌元 東京京橋區大鋸町十一（振替口座一七二九番） 女子文壇社 賣捌 全國各地雜誌書店

女（王の一）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

矢野龍溪君 幸田露伴君序

石井研堂君著

釣遊秘術 釣師氣質



本書は著者數年の實驗上より得たる釣遊眞訣にして結構超凡文字精錬悉くこれ詩的美なり始めて竿を持つ人は以て眞指南とすべく釣癖家は拍案驚奇以て熟友とすべく特に一般讀書家は恍然として塵外の清興に醉はん蓋し空前の大著文壇の奇書として推薦するを憚らざるなり尚詳しくは下の目次について見られよ。

上卷 釣遊文章

(一月) 元日の釣上、下●釣場探險●赤目魚引懸釣

(二月) 寒鮒の大釣●たなご釣

(三月) 野釣●釣好隱居の懺悔

(四月) 池の鮒釣●ぼかん釣(鯰)●針魚繩

(五月) 五月の鯉釣上、下●鱚釣上、中、下外二項

(六月) 雨中の鱚釣●鱚船の途中

(七月) おぼこ釣●小鱸釣●鰻穴釣の名人外に二項

(八月) 中川の鱸釣●はす釣●大利根の大物釣

(九月) 赤目魚釣●秋の鯉釣●馬鹿釣(餌無釣)外に二項

(十月) 鱸釣らすの記●ひが釣(鰡)●釣歸の夜

(十一月) 沙魚乘合船上、中、下●丸太釣

(十二月) 暴風紀念日●利根川の寒釣上、下外に一項

中卷 雜著

●たなごの舞●白魚網●蟹捕と蟹商●鮒の卵數實査●汐干狩●突き船●競爭釣●品海の投網獵(上、下)●釣具類の小細工●釣の餌類●工兵の爆發藥●騷擾中の釣●職人の內証釣●某女史に代りて●異名同魚●ハイカラ釣=釣魚書解題▲釣客列傳四十餘項

下卷 釣魚術畧

第一章 釣具及び其の使用法=(釣竿外十餘項)

第二章 釣の餌及び其の使用法=(八項)

第三章 天候と潮時=(四項)

第四章 釣法の名義=(四項)

第五章 河釣類=(九項)

第六章 海釣類=(五項)

第七章 索引=(數千件)

全一册

洋裝菊判美本

紙數七百頁

正價九拾五錢

郵稅十六錢

發兌元 東京日本橋區本町三丁目 博文館

(壬の二)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

第二高等學校教授 岡澤鉦次郎先生著

新式 日本文典原理

一名論理的日本文典

全一冊洋裝菊判上製金文字入紙數約六百頁

正價金壹圓五十錢小包料十五錢

此の書は**語想相關**の原理を啓發して、言語學界**未顯の眞理**を發揚し、眞摯なる國語學研究の端を起さむとする**空前**の理論的日本文典にして、**理致周密**にして釐毫を忽にせず、**秩序整然**として小大悉く擧げ、空論に馳せずして學理の堂奥を盡す所、わが國語學界の異彩として世に許されたる著者の眞面目を覗ふべく、其の體たる、外國語を解する人にも適切に外國を解せざる人にも適切に、博通旁達の學者にも欠くべからず、晩進獨學の士にも欠くべからずして、言語の學に志す者は言ふまでもなく、苟も言語に關する所ある學科に遊ぶ者の精讀せざるべからざる斬新の智識を與ふる所、恐らくは**廿世紀の劈頭に於ける語學界の奇書**として、天下の公許を博すべきものならむ。

發兌元 東京日本橋區本町 博文館

女(壬の三)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

大日本淑女學會編

家庭要鑑

上下二册帙入紙數壹千頁

▲婦人の一生を通じて最も親切なる相談相手なり

◀要目▶

◉家政の巻　◉育兒の巻　◉裁縫の巻

◉手藝の巻　◉衞生の巻　◉禮法の巻

◉料理の巻　◉文藝の巻　◉化粧の巻

『家庭要鑑』は如何なる婦人も之を座右に備へて心の影を映すべき鏡也。母としての務と妻としての務とを説くこと實に壹千頁、詳細懇切を極めて些の漏るゝ所なし。行文は最も平易なる談話體をとり、總假名附きとせるを以て、何人も難解の憂なかる可く、裝釘頗る優麗、書架の珍たるを失はず。『家庭要鑑』は、和氣春の如き家庭の主宰者たらんとする人にとりては、奈何なる物にも代へ難き寶典たる也。

◀口繪▶

明治時代女子風俗　岡田三郎助君書

江戸時代女子風俗　一條成美君書

▲閑院宮妃殿下最近の御肖像▲愛國婦人會總會▲挿花三姿▲體育倶樂部料理大會▲同會庖丁式▲女子大學改良寢臺▲女流三大家詠歌▼

全二册　定價貳圓五拾錢

五萬部を限り

特價壹圓六拾錢

小包料━━金拾五錢

▲縮緬半襟一掛買ふ金にて此婦人の寶典を得らる可し

女(壬の四)

發行所　東京市神田南甲賀町十（電話本局三千四番）　◉東京國民書院◉

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



女學世界

第七卷第參號

一・・二月五日發行・・一

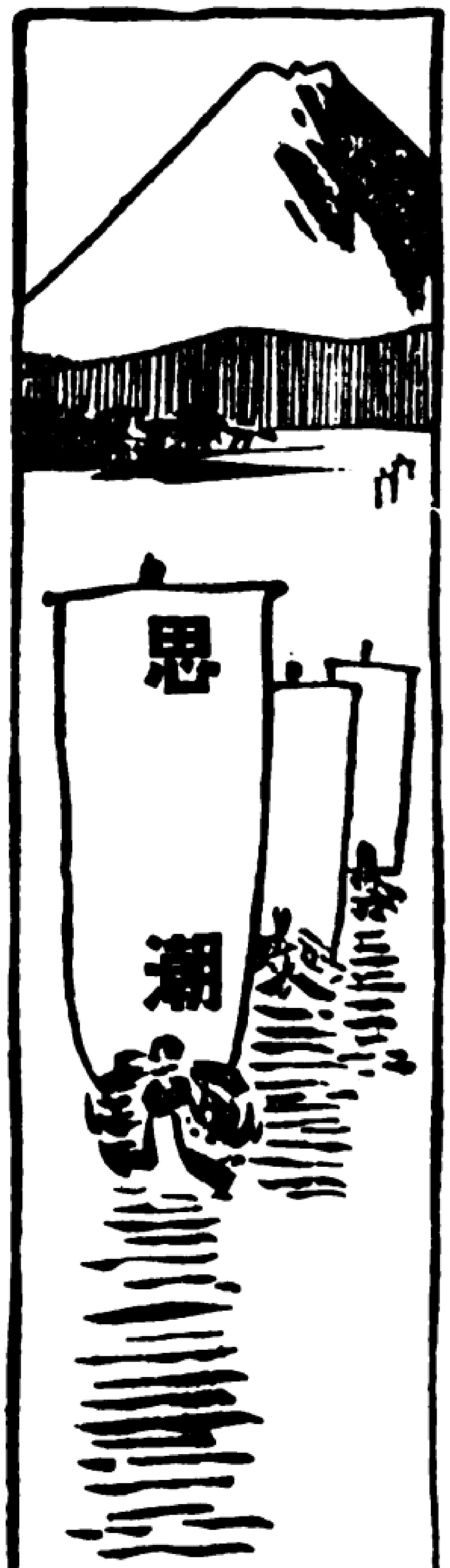
春意生動

遠山の巓には鹿の子斑らの雪あり、森には波の吼ゆるが如き音す、冬の聲なり、萬象口を噤んで殆んど生意を見る能はず、嗚呼春は尚ほ來らざるか否な、否な、籬には、椿紅に梅花は既に六七分を過ぎたり。

試みに野路を辿れば、薄霞み低く地を這ひ、麥は三四寸の碧を抽き、路の邊の枯草も綠り薄つすりと萠え出で、崖のとほり畑の畔、到る處ろ蕗の薹は枯草の中に微笑みつゝ、氷風雪雨の重圍を脱したる復活の滿足を喜ぶに似て、春は先づ此の枯草枯葉の裡に、勃然として動きつゝあり、盛んなる哉、天地生々の活力、其處に復活の曙光あり、其處に希望の光明あり、其處に天の榮光あり、其處に青春發展の氣象あり。

春めくや雨の降る度び霽るゝ度び

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



黄金力跋扈の反面

黄金以外人生の趣味を感得せよ
貧家庭を照す一道の光明

三十八回猛士

▲黄金の萬能力

支那の詩人は、『黄金多からざれば交り厚からず』とか又は『君見ずや今人交態の薄きを黄金用ゐ盡せば却つて疎索す』とか何とか云つて、二千年も昔しに、黄金の勢力が、友人間の交際までも支配することを諷したが、古來黄金の勢力の絶大なる事は何も支那の詩人の寐言を待つて知るまでもない、我國にも昔しから、黄金を謳歌した諺や格言は澤山ある、今其一例を擧げて見ると、曰く地獄の沙汰も金次第、曰く阿彌陀も金程光る、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

曰く親子でも金銭は他人、曰く何々、曰く何と一々枚擧に遑あらず、之で見ても昔しから黄金と云ふ物が如何に大なる勢力を持つて居つたかと云ふことが分る、が併し昔しは武士などゝ云ふ階級があつて、武士は食はねど高楊子と空ら嘯きながら、銭勘定を知らぬのを何よりの自慢として黄金の勢力を無視して居た連中があつたが、今は果して如何であるか、浦賀灣頭の砲聲と共に、一度び西洋の拜金主義と云ふものが這入り込んで來てから、從來の勢力で澤山であつた黄金の勢力が彌が上にも膨脹し出して、黄金の向ふ處眞に天下に敵なしとある、黄金の前では王侯も其尊嚴を失ひ、宗教も其光りを失ひ、智者は其智を失ひ、勇者は其勇を失ふと云ふ情けない有様で、美術の神聖も、文學の權威も、志士の鐵腸も、美人も英雄も、黄金の光りの前には顏色なしである、手近い一例は、明治二十年頃までは、盛んに官尊民卑と云ふ言葉が流行つて、官吏が此世で一番尊い者で、其處らの懇親會などでも、月給二十圓か三十圓かの小役人が一番上座に坐つた事もある、所が近頃は何うである、官尊民卑ではなくて、丸で金尊官卑で、堂々たる縣知事様も、地方の大地主の鼻息を窺つては仕事をするといふ有様だ、否縣知事所か、天皇輔弼の重任に膺る大藏大臣が、三井や三菱の御機嫌を窺ふと云ふではないが、實際今の世の中では黄金さへあれば、内閣の寢せ起しでも、國會議員の買收でも意の儘だ、黄金なる哉、黄金なる哉である、黄金さへあれば馬鹿も悧好になり、醜婦も美人になり、盗賊も紳士になり、高利貸も正五位になり、穢多非人も長者議員にでも何にでもなれる、見玉へ何處の馬の骨だか牛の骨だか知れぬ、成り上り富豪が、都大路に馬車を軋らせて、吾々貧乏人の頭に、砂つ埃りを浴せて意氣揚々と走るのを、随分癪に障る次第であるが、今の社會に於ける黄金力の跋扈は、先づ斯う云ふ状態であるから、上は王侯貴人より下は裏店社會に到るまで、一世を擧げて悉く黄金の奴隷である、黄金の爲めに浮き川竹に身を沈めむると云ふことは、好く下世話に聞くことだが、子爵だとか伯爵だとか、随分遣んごとなき上つ方のお姫様が、黄金の爲

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

めに、血の涙で門地卑しき穢多だか非人だか素性の知れぬ素封の家へ嫁かるゝ、明治の昭君が澤山あると云ふではないか、是れだから成績優等で大學を卒業した前途有望の天晴れ新學士が、貞操正しい許嫁を振り捨て、富家の婿に成りたがるのも、格別不思議でも何でもない、堂々たる一匹一人の有髯男子が、黄金の前には意氣地のないこと斯の通りだから、先天的に依頼心の強く出來てる女性が黄金を有難るも强ち無理とは云はれない、况んや黄金さへあれば、美衣美服は云はずもがな寶石でも金鎖でも、馬車でも別莊でも意の儘だから、虚榮心の結晶とも云ふべき婦人が黄金を戀しがるは當然で、之を不思議がる者こそ、不思議だと云ひたい位である。

△女性と黄金崇拜

今の社會に於ける黄金の勢力の跋扈は略ぼ上述の通りで、堂々たる有髯男子も黄金の前には、から意氣地のないことも右の通りだから依頼心と虚榮心の極めて強い所の、女性が黄金を崇拜するのは當り前である、されば第一等の公爵に嫁する能はずんば、第一等の富豪を婿にせんとは、唯だ華族女學校に於て才色兼備の一淑女の理想ばかりでなく、實に今日の女性の總ての理想である、况んや商店でも病院でも、乃至比較的神聖の筈の敎會でも學校でも、黄金の多少で其待遇が變ると云ふ當節柄だ、早い話しが同じ胞から出た姉妹でも里歸りの場合に貧乏人に嫁した娘よりも、富家へ嫁つた娘の方を善く取り扱ふと云ふが、今日の親心だそうである、だから今日の妙齡の女性が、良人を選定する標準は悉く黄金で、人格や、學問や、識見や、器量や、容貌は二の次ぎだ、今の女學生諸君が、同じ學校友達の中で誰れか、一人約婚の出來たのを聞くと、何より先きに聞くのは、其友人の良人たるべき人の財產の額である、「何々さんの良人は何んな人」と直ぐに聞くが、此の何んな人と云ふ言葉の中には、其良人たるべき人の性質や、學識や容貌は含まれては居ないのである、假令含まれ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て居るにしても、夫れは二の次ぎ乃至三の次ぎで、質問の的は實に其良人と財産の有無にあるのだ、で若し其良人たるべき人が財産家だと聞けば、「何々さんは幸福よ」と羨むのである、縦令其良人の人格や學識は少々怪しくても何でも、マア萬事此の調子で、人間一生の大禮である處の結婚でさへ黄金を標準にするやうになり、乃で金婚と云ふ者が盛んに行はれる、金婚とは何であるかと云ふに、婚姻の最大要件である愛情の有るや無いに頓着せず、金を目當に結婚するのだ、前に述べた新學士が許嫁の娘を袖にして、金持ちの婿になつたり、貧乏華族の御姫様が、昭君匈奴に嫁ぐの思ひで、成り上り富豪の家へ嫁入つたりするのが其の好標本である、昨年の十一月頃、某海軍士官の夫人が、良人の出征中に二人の子供を置き去りに、離婚したと云ふことが新聞に出て居たが、其原因は矢張り良人が黄金がないので、充分虚榮心を滿足させることが出來ない爲めであるとか、隨分情けない話しであるが、是れを見ても、婦人が如何に黄金を戀ふること、意中の人を戀ふるよりも甚だしいかと云ふことが分る。

以上述べ來つた所で見ると、婦人は虚榮心と依頼心との強いだけに、どうしても黄金を崇拜する度が男子よりも甚だしいのは、掩ふべからざる事實であるらしい、が思へば此の世の中で黄金程重寶で都合の宜い者はないから、婦人が否な婦人と云はず凡ての人が、黄金を崇拜するのは決して無理ではないが、併し家庭の平和まで犠牲にして、黄金を崇拜する價値が、黄金にあるか何だか、是れは是非一つ吟味して見る必要がある、考へても見玉へ、宗教の光りも、美術の神聖も、文學の權威も乃至最も神聖で且つ純潔なるべき男女間の愛情までも、黄金の爲めに蹂躙らるゝやうでは、世の中は實際闇黒ではないか。

▲黄金跋扈の半面

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

然り實際闇黒である、男女間の愛情や、家庭の平和まで黄金の爲めに蹂躙されて堪まる者ではない、一體今の世の中を見渡すと、此の世に金より尊い者はないと思つて居る者が尠くないやうである、如何にも今日の時世では、國と國との戰爭さへも黄金で勝敗が決すやうな狀態だから、夫れは金は尊いには相違ない、又た黄金さへあれば、金殿玉樓、綺羅錦繡、食膳方丈、山海の珍味、何でも彼んでも心の儘だから、黄金ほど重寶な者はないが、併し此世に黄金程尊い者はないと一同が思ふやうになつては、社會の前途は只だ墮落と亡滅があるばかりだ、能く考へても見玉へ、黄金に何處に其樣價値がある、如何に黄金を山ほど積んでも、其衣食住は只だ活きて居る丈けではないか、金殿玉樓に住つても、其居る處は膝を容れるだけだし、山海の珍味を堆く積んだ處が、飢じいのを防ぐだけである、又た桃山風が如何の元祿風が如何のと云つた所で、只だ寒さを防ぐだけではないか、要するに黄金で買ひ得る快樂は畢竟物質的で、耳目や口腹の慾を滿足させるだけではないか、虛榮や虛飾にやきもきするのは、まだ悟りが開けぬからである、悟つて仕舞へば兒戲のごときものではないか、此頃英國の一富豪は凡ての贅澤と云ふ贅澤を爲盡した揚句、黄金で買はれぬ快樂はあるまいかと溢したそうだが、富豪も茲に到れば寧ろ憐れむべしである、昔し秦の始皇帝、人間の榮耀榮華を悉く爲盡して夫れで滿足が出來ずに贅澤が身に餘りて、今度は長生不死の藥を欲しいと云ふ途方途徹もない考へを起し、其の長生不死の藥を求むる爲め、使者を海上の蓬萊島に出したが、到頭夫れが得られぬので非常に煩悶されたと云ふことだが、是れこそ『天命を知らず、人生の歸趣を知らざる迷執煩惱の奴』と云ふべき者であらう、總じて黄金以外人生の趣味を解せざる徒は、誠に憐れむべきもので、一種の亡者である、一體人生の高尙なる趣味と云ふ者は決して、黄金に依りて求め得られる者ではない、夫れを何ぞや、世の中には黄金を得る爲めに、人情を缺き義理を缺き、夜も碌々寢むらないで、只管黄金を得たい、黄金を得たいで煩悶懊惱して居る馬鹿者が澤山あ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

るが、是れこそ眞の亡者である、西洋の落し噺に、一人の慾張り爺が、人を泣かせ、世を泣かせ、殆んど巾着切りのやうな業をして、澤山不淨の財を集め、千兩箱を山の如く積んで、毎晩其千兩箱の下に番人旁た眠るのを樂しみにして居たが、ある晩、地震の爲めに其千兩箱が一遍に崩れて來て、到頭千兩箱の下で、無慘な最後を遂げたと云ふことがあるが、世間には隨分之に似た、憐れな富豪も澤山ある、一體金持ちと云ふ者は、大抵金庫の壓力で、上から壓されて、夜も碌々眠られぬ手合である、即ち今夜は盜賊は來はせぬか、火事はないか、彼の貸した金は倒されはせぬかと、苦慮煩悶で寢ても眠られぬのだ、加之に、表面に於ける、貧者の追從は、裏面では恐ろしき咒咀の聲で、其咀ひの聲は絶えず其頭上に濺がれつゝあるのだ、黄金を山程積んでも、一夕の安眠すら買ふことが出來ぬとは、如何にも氣の毒ではないか、是れでは呑氣に茅屋に住む方が、餘程幸福である、否な乞食非人でさへ夜は眠るから、乞食非人の方が幸福の譯である、是れで見ると黄金の價値も餘程怪しい者ではないか、成る程金程重寶の者はないが、其重寶の半面は乾度禍を伴ふて居る、世の中の腐敗と墮落は七八分まで、黄金から來るのである、實際富んで墮落しない者が幾人ある、例へば家庭と云ふ者から見ても、世の諺に貧は諸道の妨げで、內證揉めは大抵貧から起ると云ふが、今日好く新聞紙上に現はるゝ、家庭の紊亂——主人が妾を置き手掛けを置き、或は花柳の巷の酒に腸を腐らし、家を外なる濫行に細君を空閨に泣かしめ、家族を病ましむるの類——は悉皆金から來るではないか、此の細君から見れば、黄金白金は、惡魔の化身とも見えるであらう、又此の細君の眼には、下流社會の夫婦共稼ぎの生活は、如何ばかり羨しいことであらうか、忠臣藏の與市兵衛ではないが、黄金が敵の世の中だ、自分の親の敵ではあるまいし、何も此の黄金と云ふ敵に廻り逢ふ爲めに、夜も碌々眠り得ないで、煩悶したり懊惱するとは愚の極ではないか、殊に不義の富貴や、砂上の榮華に憧かれて、人生には黄金以上に尊ぶべき或る物のあること知らぬ手合は、濟度の出

來ぬ孑孑同樣の人間である。

要するに黃金は、決して爾う尊い者ではない、人生には黃金以上に尊い者が澤山ある、例へば名譽の如きは夫れである、東鄕大將や、乃木大將は決して金持ちではない、併し東鄕大將や乃木大將の名譽は、黃金を富士の山程積んだからとて、買ふことは出來ない、米國の大統領ルーズベルトは決して金持ちではない、併しルーズベルトの名譽は、世界一の富豪なるロックフエラーが、其財產を悉皆差し出したからと云つて、到底買ふことは出來ないのである、故樋口一葉女史は、赤貧洗ふが如しで喰ふや喰はずに死んだが、一葉女史の名は、後世まで不朽に傳はるではないか、之を何々侯爵夫人とか、何々伯爵夫人とか云つて、綺羅錦繡を紋飾りて、ゾベラ／＼儚き浮世の虛榮に憬がれて居る仲間に較ぶれば、勝ること萬々である。

△黃金以上の或物

斯く云へばとて何も黃金を塵や埃のやうに輕蔑しろと云ふ譯では決してない、黃金は重寶で又た必要の者に違いないが、今の世の人が餘り黃金を有り難がりて、結局此の世の中に金程尊い者がないやうに崇拜し、是れを得たい爲めに、煩悶したり懊惱したり、理義を缺き人情を缺いでも構わぬと云ふ風潮が起りかけて居るから、此の弊害を矯める爲めに、三十棒を喫はしたのだ、事實今の社會では、何を爲るにも金は入用だ、家庭を作るにした所が、虎伏す山の詫び住居手鍋提げてもお厭ひにならぬと云ふならば格別、黃金は入要に違いないのである、併し夫れも程度問題で、世間並みに一家の生計を維持し、幾分の貯金でも出來ると云ふならば、最う十分で、爾う何も餘計に慾張る必要はないのである、爾う金は澤山なくても主婦の心掛け如何によりて、家庭は幾何でも幸福になるものである、夫れは何う云ふ手段であるかと云ふに、家庭に趣味を生せしむることであ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る、何うして趣味を生せしむるかは第一主婦の趣味が高くなくてはならぬ、主婦たる者が、夢のやうな虚榮に浮かれ、砂上の榮華を熱望し、黄金病に罹り、羅綾熱に冒され、流行衣服の奴隷となるやうでは、一家に趣味を生せしむる事は先づ以て困難だ、若し主婦の趣味が高尚優美であつたならば、家庭に清淨なる趣味を溢らさせることは極めて容易である、庭は假令猫の額より狹くとも、一樹の梅、一株の菊はよく若干の趣を添へることが出來るのである、僅に膝を容るゝに足る掘立小屋でも、假令柱は傾き四方の壁は煤ぶつて居ても、諸道具が整然として居つて、掃除が屆いて居れば、なほ幾分かの味ひは自然と出て來るのだ、手拭で頬被りをして、鍬を肩にして居ても、乃至は襷がけに裾端折つて居ても、自然の恩賚なる淸風涼月は貴賤上下の隔てなく、音訪るであらう、で是等の趣味は、たゞ高尚なばかりでなく黄金で買へる俗惡なる快樂と違つて、何時まで經つても盡くると云ふことがない、だから女子たる者は、是非高尚なる情感、言葉を換へて言へば、趣味を養成するが何より肝腎だ、若し一家の主婦が斯樣なる趣味を持つて居たならば、家族全體が其風に感化せらるゝは必定である、爾うすれば羅綾熱や、黄金病に冒される心配もない譯で、隨つて黄金力の壓迫も免れる譯である、兎に角是れから將來は、黄金の勢力と云ふ者が日に加はり物價は年一年高くなるきりで下ると云ふことがない、夫れで收入は何うかと云へば、物價の騰貴する五分の一も增加しない斯ふ云ふ次第で、黄金は非常の壓力を、貧乏人の頭の上に加ふるのだから、是非此の壓迫に抵抗するだけの準備が必要であるが、夫れには此の趣味の養成が第一だ、取りも直さず黄金以外に趣味を持つ樣になれば、黄金の壓力も何の苦痛を感じないやうになる、斯うなれば最う占めたもので、其樂しみと幸福は、假令被物は襤褸でも二布でも、金殿玉樓に、俗惡なる浮世の快樂に耽る徒輩の想像の出來ぬ者があるに相違ない、兎に角黄金で人生の眞の味ひを得やうとは了簡違ひだ、古人謡ふて曰く。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

樂しみは夕顏棚の下涼み、男は襦袢女は二布して

眞に然り、人生の至樂は正に是れだ、斯の味ひは黄金の奴隷となりて、齷齪いて居る連中には、到底分らぬ、たとひ九尺二間の裏長屋でも、一日の勤めを終り、一家團欒食卓を圍み睦み合ひながら、慰安の神に袖を引かれて、臥戸に入る時は、其夜の夢は必ず圓である、是れが人生の至樂、極樂であるまいか。

日本婦人の地位

文學博士　澤柳政太郎氏

△外人より見たる「女子の三從」

我が日本帝國の歷史、近き四五十年來の進歩、或は今日各國の間に占むる地位などに就て大なる感興を有し且つ我國に對して非常なる同情を有する外人と雖も、たゞ我國に於ける婦人の地位に對しては尠からず不足の感を懷つてゐる。彼等は以爲らく「日本の文明は甚だ立派なれ共、たゞ其の缺點として遺憾に思ふは、婦人に對して十分高き地位を與へず、如何なる場合に於ても服從を餘儀無くすることである」と。而して其の例として常に彼の貝原益軒先生の女大學に在る女子の三從を擧げて「若し幼にしては親に從ひ、嫁しては夫に從ひ、老ひては子に從ふとすれば、日本の女子は實に憫然なもので、終生服從の地位に居なければならぬ」と言つて居る。若し果して彼等外人の考へるやうに日本の女子は實際占むべき地位を占めて居らぬものとすれば、我々は女子も男子も相協力して之を相當の地地に高めねばならぬのであるが、併し予は之に就て少しく異つた意見

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を俟つ。

△卑屈なる乎、美徳なる乎

一體道德なるものは其の大體の標準こそは古今東西に通じて變はる所も無からうが、其の細目に至つては各國各々標準を異にするは實際免れぬ現象で、之に依つて各國各々其の特色を表はすのである。例へば忠孝の一事に就て言へば、我國にては之れは道德の基礎であつて決して動かすヿは出來ぬが、英國や亞米利加などでは必ずしも然うとは言へぬ。我々は忠臣孝子の燃ゆるが如き熱誠を見ては非常に之を賞讃するが、外人は或は其樣で無いかも知れぬ。然れ共之れが爲に我が道德の基礎たる忠孝の道を非議するは蓋し大なる誤謬であらう。女子の三從と云ふヿに就て言つて見るも矢張り之れと同じヿで、我々と外人との考の異ふのは固に止むを得ない。幵は我國にては柔順は古來女德の重もなるものと爲つて居て、其れが現はれて益軒先生の三從と爲つたので、敢て女子を抑壓したる結果でも無ければ、此は實に日本婦人の美德であらうと思ふ。然るに外人の眼には此の服從と云ふヿは甚だ卑屈なやうに映ると見えて、やれ日本の女子は地位が低いの憫然だのと言ふのであるが、併し此は單だ自國を標準としての觀察に過ぎぬので、必ずしも正鵠を得たものとは言へぬ。

△女子の三從、男子の二從

尚ほ他の方面より考ふるに、女子の三從と云ふヿは外人には或は物珍らしく聞えるであらうが、日本の女子は此の三從の敎の爲に男子に較べて格別大なる服從を要求せらるゝもので無い。益軒先生は成程「女子の三從」と云ふ熟字を使はれたが、此は少しく穩當で無かつたかも知れぬので、少くも其の中の二つは男子も守らなけ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ればならぬのである。其の一は即ち幼にしては親に從ふと云ふことである。蓋し日本の道德は孝が根本であつて孝を盡すには先づ親に從はなければならぬ。然るに孝は男女共に盡すべきの道なれば、幼にしては親は從ふと云ふことは必ずしも女子に限つたことでは無い。今一つは老ひては子に從ふと云ふことである。御承知の如く我國は西洋諸國とは異りて家が社會の單位を爲して居るから、家には必ず戶主なるものが居て、以つて一家全體のことを總理て行かねばならぬ。所で戶主が老境に及んで其の子に家督を讓るとなれば、父親も母親も共に其の子に從ふべきことゝ爲るから、老ひて子に從ふと云ふことも亦女子に限つたことで無い。

△法律規定と實際勢力

又或る外人の言を聞くに、『從來日本に於ては女子の地位は甚だ低かつたが、併し近頃施行された民法を見ると、之を非常に高めて、女子に獨立の地位を認め、女子も男子と等しく戶主に爲ることも出來れば、財產の相續も出來、親族會にも列なれば、養子の遣り取りにも、干與するやうに爲つて、現今は米國などゝ殆んど同樣に爲つて來た』と言ふ。併し乍ら我國女子の地位が右の法律に依つて初めて高められたりと爲るは果して適當な評であらうか。成程以前は或は女子に右樣の權利を認め無かつたかも知れぬ、又右の法律に於て之を認めたとは事實であらう。然れ共其れは法律の上の話で、其れが爲に女子の實際に於ける地位勢力に些の影響も無い所を見ると、我國女子の地位は元來外人の思惟するやうに低くは無かつたものと見るべきであらう。失禮乍ら民法が施行せられて我々の地位が高まつたと思召す婦人は諸君の中に幾人かある、殆んど無からうと思ふ。法律に於て權利を認めたと言へば如何さま地位が高まつたやうに聞えるが、而かも實際は些も變つて居ないのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

△我が女子教育の基礎

右述べたるが如く我國に於ける女子の地位は決して低くは無かつたと思うが、若し低いやうな氣味があつたとすれば、其れは男子が女子を壓迫したる結果で無くして、男女教育程度の差が自ら去る氣色を示したものと考へるであるから、今日も尚は其の氣味があるとすれば、須らく此の女子教育に力を注いで之を一層盛にすべきであらうと思ふのであるが、併し其れを爲すには又色々我が風俗習慣等を顧みる必要があらう。蓋し西洋諸國の社會の成立は個人を基礎と爲るが故に、各個人さへ良く爲れば國家も從つて榮えるが、我國は之れと異つて家を基礎と爲てゐるから、單だ個人のみが良く爲りたればとて夫れで國家が榮えるものとは言へぬ、個人が良く爲り、家が良く爲り、而して後初めて國家が榮えるので、切言すれば家が國家の役目を盡すのである。去れば我國の成立及び其統制の便から言へば、家庭は主として之を女子の領分と定めて、之を齊ふるに適當なる材を養成するを以つて我が女子教育の本領とすべきであらうと思ふ。

△彼我教育方針の差異

乃で我國現在の女子教育の仕組は如何と見るに、敢て理屈より割り出した譯では無いが不知不識の間に自然と右の方針に適つて來てゐるので、我が國柄より考ふれば當に然るべきと〻思ふ。即ち初等教育は兎に角、中等教育に至つては男女著しく其の學科目を異にし、女子には主として齊家の道を授けて、女は那邊迄も女らしく仕立てると云ふ仕組に爲つてゐるので、方針の大體に於ては先づ誤りは無からうと思ふ。之れが西洋諸國でやつて見ると、其の授くる所の科目は男女殆んど同一にして、特に亞米利加などに至つては男女一緒になつて、全く同じ事を敎はるのであるが、其の誤れるとは近時右亞米利加或は英國などに於て追々女子に女藝の學科を加へる所を見ても知れるであらう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

英國家庭の眞相
老人別居の利害

宮川壽美子

宮川女史は女子高等師範の教授にして數年前家政學研究の爲め倫敦に留學すること四ケ年、昨年八月を以て歸朝せし人、其の英國家庭觀察并に老人別居說に就ては精細透徹情理並臻つて往々前人未發の卓見あり。

▲英國の女學校は寺子屋風

英國の學校制度は外面から見れば總體に質素と申しても宜いかと存じます。女子大學校などでも故らに學校風に新築されたもの許りでなく一個人の大きい家を學校に直したものも多ふ御坐います。英國では學校の數が澤山で各校に入學する生徒の數が少いと云ふ風ですから、自然ミッシリとして教育が出來る譯です。日本では何學校は生徒が千人もある位だから必らず宜い學校に相違ないと許するやうですが、英國では反對で生徒が少い學校程行屆いてよいと申して居ります。英國の教育制度は他の列國に比べて判然と分り兼ると云ふ次第は、畢竟私塾風で各校特殊の教育を施して居る爲めでせう。これは丁度以前日本で漢學塾や寺子屋ばかりの頃、教育制度が少しも分からなかつたと同樣で御坐います。此寺子屋風は、華美な進歩が見えぬ代りに、師弟の間柄は實に親密なもので、德育の地盤は手堅いと存じます。特に英國の女子教育は、品性の養成が行屆いて居ますから、婦人は一般に重々しい落付いた處があり、少々付きは惡いやうですが、付合て見ると情の濃い工合など、丁度日本婦人の淑德に似通つて居ると存じます。日本と英國とは、島國と云ふ地勢からも、萬世一系の至尊を戴く國體からも、教育の方針からも善く似て居りますからこそ、完全な同盟も出來た事と熟々感じました。自分が永く英國に居た故か知れませんが、如何しても他の國よりは英國の風が慕はしいので御坐います。

▲家政學の着眼

英國では是れまで男子と對等の教育を婦人に施されね

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ばならぬと云ふ方針で家政學の設備と云ふものが無つたので、上流社會はそれでも宜いが中以下の政學を巧くやる婦人が少く、遂に結婚は相應の資財ある人でなければ出來ぬと申す勢になり、未婚者の數が益々殖えたのです。この弊風を救ふには一般の婦人に家政學を修めさせ、小さな家計も巧く繰り廻はす技術を養成しなければならぬと成つて、家政學を奨勵し初めたのは、未だ近頃の事で御坐います。是れに比べますと財政の度にも依りませうが、日本の方がズツト此着手が早いと存じます、私が未だ英和女學校に居つた時分、社會の風潮は既に女子教育の方針が違つて、男子同樣な學校教育を受けさせるよりは、家で教へた方が嫁入りに都合が好いと云ふ考が盛んになり、五百人も居た女學生が七八十人に減じたのです。それから追々學校で家政を教へ、專ら家庭的婦人養成を目的と致しましたが、近來の進歩は實に著るしく、私が歸朝後外を歩きます毎に一番眼に付くのは、家政的私塾の多い事で誠に嬉しく感じ、日本人は實に敏目がない、英國あたりに比べると實に敏捷なものだと存じました。

▲未　婚　者

御承知の通り西洋では結婚すると必らず親子別居する、細君の衣服も毎年新調しなければ交際社會へ出られず、細君が良人と同じやうに出歩くから裁縫や洗濯も外へ一切出す。臺所には庖丁が要る、子供が出來れば乳母が要ると云ふ風ですから、上流の生活には差支ありませんが、中以下になると却々掛り負けが致すばかりで困難ですから、容易に結婚は出來ないのです。且つ婦人の未婚者が働くべき愉快な職業が澤山あるので、家政の遣繰に煩つて一生を終るより、男子と肩を並べて氣樂苦勞なしに勢よく暮す方が宜いと考へるは無理もないので御坐いまして、隨つて女子の專門學が盛んになる、盛んになればなる程未婚者が殖えると云ふ工合であります。扨て此未婚者の境遇は如何かと申すに、頭抜けに收入があつて世に持て囃されて居る少數の未婚婦人は格別、一般未婚婦人の内情を探りますと、氣の毒なもので御坐います。若い内こそ高嶺の花と

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

愛でられ、男子にも騒がれて、操行堅固な心の底に微笑が充ちて居るやうな樂みも在りませうが、最早四十の坂を越せば人氣も自然に落ちて凋んで了ひます。日本とは違つて獨身生活の立ち行かぬ憂ひこそありませんが、兩親は既に世を去り、兄弟姉妹は各自緣を結び、唯た一人ポッチとなつて、小さな家に棲んで居る心細さは如何ばかりでせう。多少の抱負があるにもせよ、毎日々々多くの時間心身を勞らし、業務を終つて我家に歸つたとて、慰める親同胞は居らず、相語るべき良人、慕ひ寄る子供もない淋しさは何とも彼とも言はれない苦痛でありませう。私は實際老嬢達からよく繰言を聞くことがありました。併し西洋の社會には老嬢達のために未だ〲慰藉の門戸が澤山開かれてあります即ち、會堂に入つて靈の慰も得べく、政談演説や大學の講演も自由に聽くべく、演劇、音樂を始めとして隨分鬱氣晴しが出來るのです。それでさへ煩悶は免れ難いのですから、我國では如何しても女子に家政思想を發達させ、結婚せしめることが必要であると感ずるので御坐います。

▲日本女子の長所

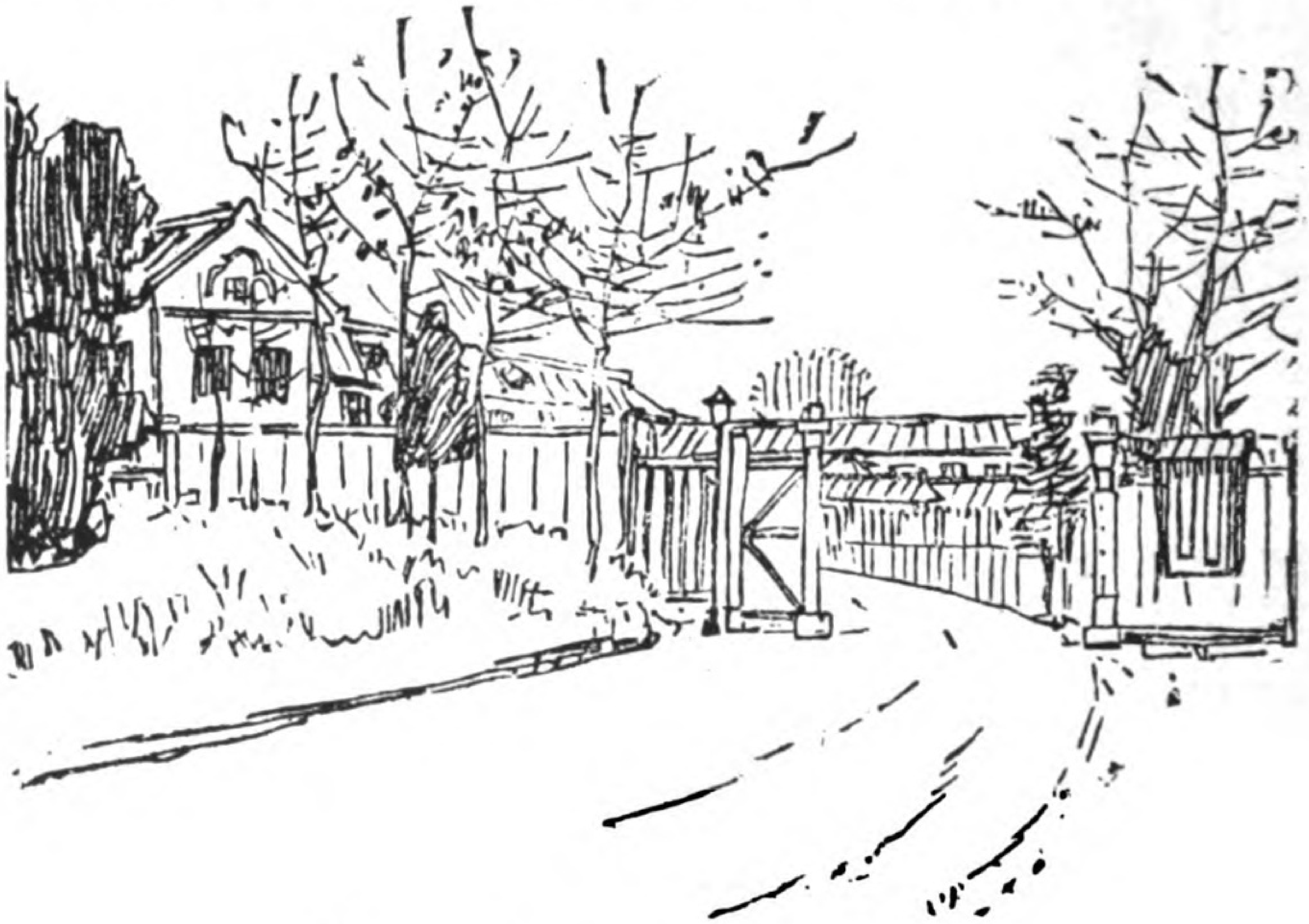
日本の女子は日本の程度に相應して都合の好いばかりでなく、西洋婦人をして大に我に取らしむべき長所があると存じます。先づ概括して申せば克己忍耐に於て實に西洋婦人の及ばぬ所があるのです。親の命に從つて嫁げる良人の爲めに一身を犧牲と致し、其我儘も默つて耐へ、無理を言ふ舅姑にも忍んで仕へ、多勢の子供に我乳房を含ませ、家族の衣服の始末から、臺所の細事まで心身を働かせ、物見遊山に出るでは無し、而して榮なき骨折を女の常道と觀念して居る其忍耐は實に尊いでは御坐いませんか。日本婦人が此克己忍耐は確かに此度露國に打勝つた重なる原因の一となつたに相違ありません、これは日本の骨髓たる武士的敎育の賜であると存じます。

▲英國の下層婦人

私は英國の下等社會へ入り込んで觀察したい爲めに衞生委員となりました。下等社會は衞生が行屆かない

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ので、傳染病が蔓延したり、子供の死亡が多いと云ふのを婦人慈善家連が大に心配致し一ヶ年間法律と衛生學を講究した婦人を委員に選定して家々を巡視させ、個人に就て勸告させる計畫になつて居ります。私は此社會の觀察には屈强の方便だと考へ、態々一箇年を費して免狀を貰ひ、委員となつて廻つたので御座いますが、家を持つだけの資格が無くて野合した夫婦が八分通りを占め、首の廻らぬ貧乏に子澤山、收入の多い日は無暗に奢り散らし、收入なき日は忽ち食物に差支へると云ふのは、何國も同じ下層社會の習



實踐女學校

ひで御座います。而して此社會の婦人は尙更家政の思想に乏しく、良人と共に外に働く者ばかりで、大抵工塲に通つて居ります。家には老人もなく子供は抛り放しに致して家を明けますから、夕刻は幼い兒が道傍に這ひずり、母親の歸りを待ち焦れて土まぶれの汚い顔に涙を流して居るなど珍らしからず、斯樣な狀況を見ますと、いぢらしくて共泣に泣きたくなる位で御座います、其都度思ひ出すのは我國の貧民でありますが、較べて見ると我國貧民の家庭の方が幸福であらうと存じます。我國の貧民の妻は、大抵家に居

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つて子供の世話や食物拵へを致す暇に、燐寸の箱でも貼つて内職を稼ぎ、良人が歸つて來れば法被を脱がせ豆腐の汁でも煖め、一日の勞を慰めると云ふ風で、貧しいながら温かい家庭を作ることが出來ますし、又た夫婦で外に働いても、老人が一緒に住つて居れば、子供の世話ぐらゐは致しますから、餘程安心で御座いませう。英國では貧民の生活程度と申しても、可なり高い方ですから、勢ひ夫婦共稼ぎに働かねば立ち行かぬのではありますが、妻の方でも夫に屈して世帶にばかり燻ぶるのを厭がる所から、工場通ひを致すので、自然給料の廉い女工の方が用ゐられ、男工の職業を失ふ者が日に月に殖えます、それで此等の連中が多勢でアンエムプロイド即ち「仕事なし」と云ふ旗を立て大道狹しと練り歩くなど、誠に凄くもあり、可愛相にもあります、私共が衞生委員となつて貧民窟へ入りますには定めた時間に參り、例へば肺病患者があれば、皿や茶碗などを消毒して熱湯で洗ひ、決して健康者と一緒にしてはならぬ事、子供に牛乳を與へる清潔法などを叮嚀に申し聽かせるので御座います。

▲小兒の收容所

斯樣な工女等の子供を保護教育する爲めに、富豪の令孃達が盡力して、貧民學校を各區に設立され、母親の不在中だけ子供を撫育されて居りますが、朝飯を食べずに參つて、空腹の餘り居眠りする子供が往々ある位で、却々教育に骨が折れる樣です。それから乳呑子を預つて遣る處も澤山御座いまして、母親の不在中、一日四錢位宛で世話を致し、牛乳まで飮ませて遣ります、此等の教師や保姆等は、何れも看護婦や可なり教育のある婦人なのです。

▲下流少女の家政學校

近頃英國の女子教育當局者は、一般の少女が何れも早くから工場稼ぎをして家事を習ふ暇もなく、其儘結婚して了ふのを歎じ、小學卒業後一年間家政學を修めさせんと、各小學校より優等卒業生を集め、官費で教育して居ります。此家政學校では女子家政師範科の卒業生に教鞭を執らせる事にして、裁縫、洗濯、料理杯の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家事をみつしりと教へ込み、一週裁縫を教へれば、翌週は毎日料理を遣らせると云ふ工合で、一科目を一時間チヨコ〳〵と習ふやうな遊戯稽古とは全然違つた教へ方ですから、随分結果が宜しう御座います。追々此計畫が發達致せば、下等社會の家庭も餘程改善致す事と存じます。私は英國で女子の職業より生ずる影響、即ち女子家政の不熟練、男子職業範圍の縮少などを見て來ました故か、我國の三越女子店員、遞信省の女子事務員、其他の職業に從事して居らるゝ婦人方に對し偏見とは存じながら、餘り贊成致さないのです。濫りに前途を祝し難いのです。

▲老人の別居に就て

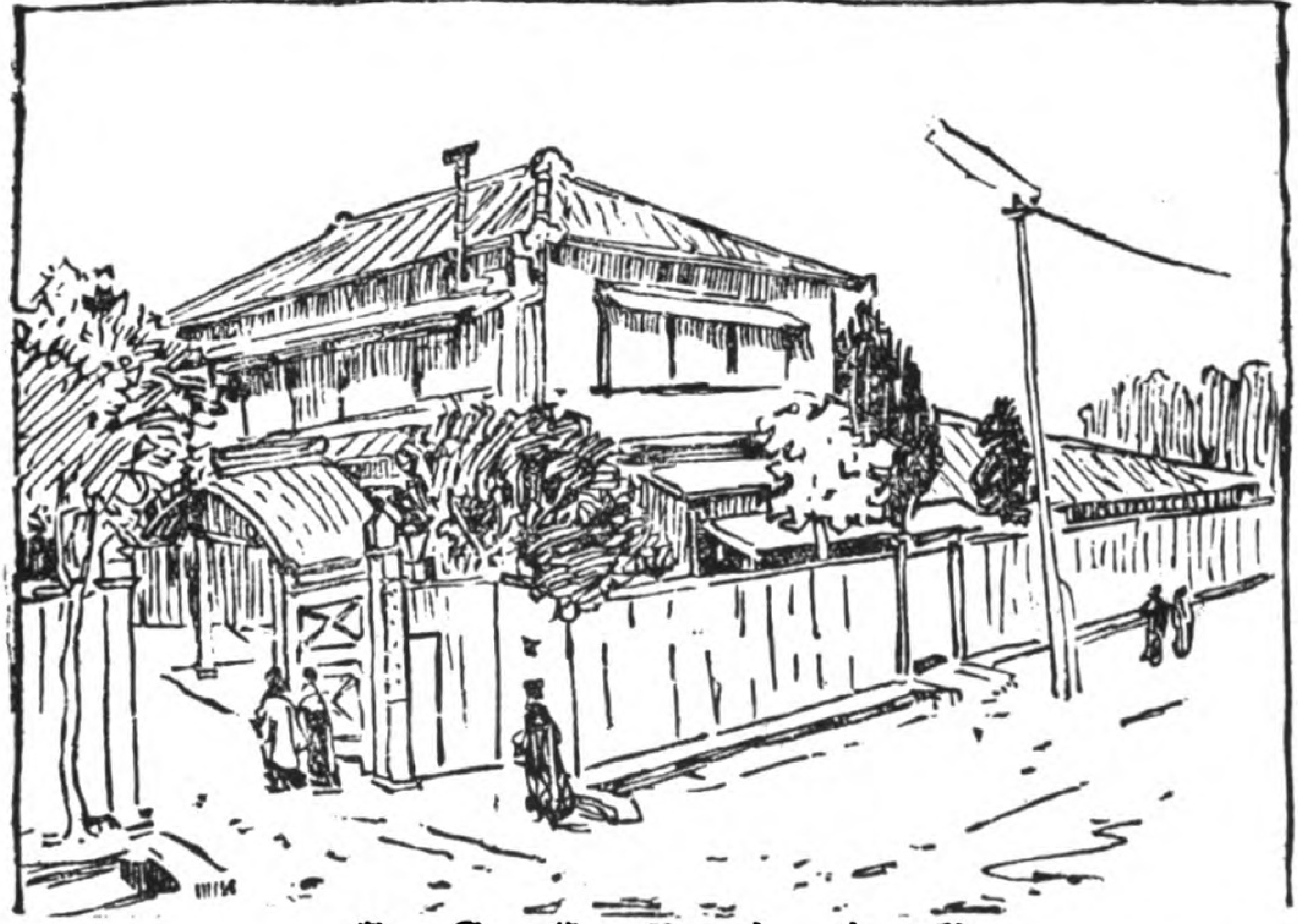
結婚致すと必ず親と別居致すと云ふ彼地の御嫁さんが、氣兼苦勞もなく、良人と共に睦じく暮す有様は實に羨しいやうに見えますけれども、此別居から生ずる弊害が又少くありません。資金ある人達は何れにしても差支ないのですが、上下一般に老人別居ですから、老人達の路頭に迷ふのが澤山あります。勿論老後の策は各自に抜目なく講じては居りますけれども、下等社會は其日に追はれて、少壯の間に老後の計畫も出來ず、體力が弱つてから別居別生活と云ふ悲境に陥るのですから、實に氣の毒千萬なものです。尤も彼地は慈善事業が行届いて居りますから、富豪の令嬢達及び政府が養老院を設立して、貧乏な老人達を收容保護して居りますが、此養老院の數の多いヿ實に驚くべく、一の養老院に六七百人乃至三四千人も養はれて居るのですから、衣食住及び禮拜堂の設備などは行き届いて居ますけれども、迚も家族的生活のやうに精神に愉快を與へるヿは出來ません、老翁老婆が各室にズラリと椅子を列べ、腕組をして默つて考へ込んで居る有様は、實に氣の毒なもので、憂鬱の空氣が各室内に充ち滿ちて居ります。彼等は到底家庭の温味に浴するヿも出來ず、寐て食つて棺桶に入るのを待つて居るばかり、失望の極、絶望の極に陥るのは、必然の勢ひで御座います。而して各養老院の費用は却々多額で、迚も個人的の慈善事業では支へ切れません。それで全國民から幾何宛

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

かの割前を取つて補助するのですから、貧困者は此出金に苦められて居るさうです。手短かに申せば、畢竟自分達夫婦が老人を邪魔物にして別居した我儘の報ひで、老人に留守番や子供の世話をして貰へないばかりか、養老院の割前といふ負擔に苦んで居るのです。舅姑と同居して孝養を盡して居る我國の若夫婦に較べると、克己心など微塵も無いものと申しても宜いのです。

▲幸なる日本の家族

老人別居に於ける彼地裏面の實情を見るに付け、我國家庭の幸福であることを感ずるのです。我國の細君方の貞淑堅



私立女子英學塾

忍である爲めに、舅姑、小舅姑と一つ家に暮し一つ竈の御飯を食べて、葛藤も起らず、子供は祖父母を敬慕し、老人は樂しげに孫を愛撫するなどの美風は、これを何れの國に求められませうぞ。道德上からも、經濟上からも、實に日本の國勢に適應して喜ばしい事と存じます、若し西洋の皮相文明を羨んで、新舊の衝突を當然と主張し、別居を理想とする婦人あらば、それこそ大きな考へ違ひと存じます。善く舅姑に仕へる我國の細君方は、一身を犧牲として總てを忍耐せらるゝから、自ら平和を保ち得られるのです。且

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つ舅姑に氣兼する細君は、非常に良人の同情を引起し又其良人の同情を深く感謝しますから、夫婦の情交が愈々益々濃厚になるのは事實であります。彼國老人の顏には不平憂鬱の色が見えますが、我國老人の皺の中には何となく喜悅の情が躍動して居ります。又貧民が夫婦共稼ぎの爲めに家を明けましても、老人か留守番して居りますれば、子供の爲にも世帶の爲めにも實に安心でありませう。經濟上から申しても、彼地の如く慈善事業が發達して居てさへ、養老費の負擔が重いのですから、慈善事業の發達して居ない我國で、無理算段な別居を一般に企てましたならば、迚も旨く參らず養老費の負擔が國防費や敎育費よりも巨額に上るかも知れません。私は何れの方面から觀察しても、老人別居論には絕對に反對で御座います。

私が老書生の分際で家庭問題を饒舌りますのは、嗚呼がましい次第なので、疊の上の空言と仰せられても一言ないので御座いますが私も聊か實驗致した事が御座います。私の嫂は私より年下で極妙齡で此家へ參り、兩親は申すに及ばず、私共へも善く盡して吳れましたので、此嫂は敬慕すべき人であると學校の卓子では考へて居りながら、家に歸ると今迄兄は私共の兄だと思つて居たのに最早これからは嫂樣の兄樣であるかと思ひました。此時世間家庭の不和の基は此處であると反省致し、同じ思ひの母親に向つて「他へ嫁入した姉や妹が每々訴へる舅姑小舅姑の六かしい苦勞を思ひ合せば、今の嫂樣の苦勞は察し遣られる、特に私といふ手強い小姑を持つた氣苦勞を思へば、却々嫂樣がいたわしい」と申して母の心を和らげ、始終此觀念で雙方の調和を熱心に計つて居りましたので、年一年と交情が親密に爲り、優しい嫂は益々美しい天性を表して、私の身の上などを案じること親同胞も及ばぬ程に爲り、三年間幾分か舵取りを勉めたとは夢の如くなつて、唯今では人樣に羨まれる家庭で御座います。嫂は先年兄の洋行致した留守中、未だ子供もありませんので、語學を勉强したいと切りに私に相談致し、何卒母樣に願つて見て吳れとの懇意でした。それで私は大に贊成致し、寧そ學校へ寄宿された方が進步が早いでせうと申し早速母に話しました處、母は嫂樣が望みなら結構な事だが、若し汝が無理に勸めて寄宿させるのでは濟みませんよ」との返辭でした。嫂は非常に喜んで早速入學致し土曜日には歸宅して家事を執り、私も學校から歸つて一週間修業の状況を互に話し合ふ樂しさは又格別で御座いました。嫁に取つては舅姑に氣兼苦勞するほど大きな苦痛は無いに相違ありませんが、大抵ならば

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

嫁さんの克己と腕前とで難關を切り抜けられませう。而して一たび難關を切り抜けて、諧和を得ましたなら、勝利は御嫁さんの手に握られ、神聖な自由の泉は流れ出るので御座いませう。德義も[illegible]も振り棄てゝ舅姑と別居した自由は、眞正の自由でなく我儘で御座います。此頃の結婚は、舅姑の有無が重なる問題として居ると聞きましたが、外國に聞えては恥かしい事と存じます

英國婦人達は私に向って「貴國の婦人のやうに忍耐強くても家庭に新舊衝突が御座いますか、恐らく御座いますまい」と讃められましたので、私は全然ないとも廣言致し兼ねて、「それア多くの中には、舅姑と嫁の衝突が無いとも限りませんが、これは世間で笑ひます、孝と貞とを兼れ勤むるのが一般婦人の常道となつて居ります」と答へました。

▲新婚旅行

英國に居つて日本の財政を考へますと、未だ中々ハイカラ的に生活すべき場合で無いと熟々感ずるので御座います。近來我國でも大分新婚旅行が流行致し、中以下では随分骨が折れやうと存じます。新婚旅行ばかり致したとて、舊婚旅行が少しも出來なくては、一時の夢に過ぎますまい。又身分や交際上の必要もない方が、矢鱈にふわ〳〵した白い鳥の羽を頸へ巻き付けるのも、考へると不安心な次第で、同じ金を費すなら縮緬の襟巻でもして、日本の内地へ金が落ちるやうに致すが宜しからうと存じます。



宮川すみ子女史

▲同胞の婦人に望む

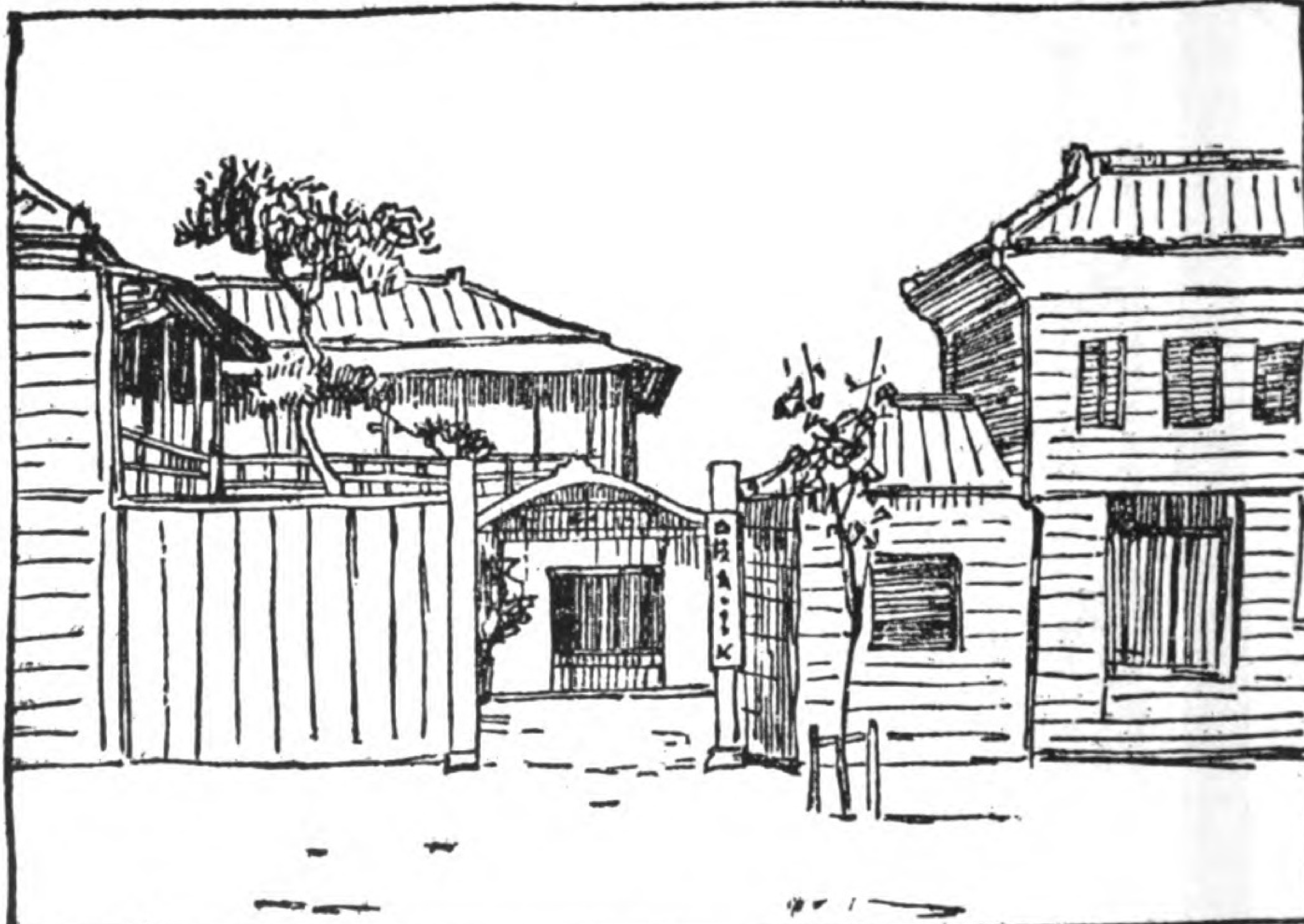
私は日本婦人の長處を申し上げる爲めに、英國婦人の短處を一寸御話し致したのですが、英國婦人の學識や趣味の廣いことは實に驚くべく、随て子供の教育の上手なことは羨しい程で特に男の子を品よく育てますのは感服に堪へません。總て強者は弱者を助けよと云ふ德育の方針に基き、男の子が姉や妹を少しでも虐げる樣子があると、母親は非常に憤り、「汝は今に紳士になるので

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

あらう、弱い女子をへこませる樣な行は紳士の耻づべき事である」と嚴かに言ひ聽かせて居ります。其樣にして育てられた男子であるから、婦人の前で煙草を喫まぬ位な克己心があるのです。我國の御婦人方も、學問や趣味や小兒教育は彼國の婦人に倣ひ、一段の進歩を計られたいと存じます。それには女子教育をウンと盛大に致したいので御座います。

▲英國人の日本魂評

假令裏面は如何であるに致せ、宗教を重んずる英國人の公德は實に善く行き届いたもので御座います。良家では毎晩家族召使一同を集めて、一日平穏に過ぎし事を神に感謝致し、併翌日も過失なく道を踏ませて下さいと、祈るので



戸板裁縫女學校

縦し形式にもせよ非常に力があるので御座います。我國でも先祖や神佛の禮拜を勤める家庭が如何に堅固であるかを見れば判りませう。而して日露戰爭以來、彼國人が我國を賞賛するとは非常なもので、會堂の説教にも善く例に引くのです。克己忍耐の如何に勢力あるかは、今回日本の勝利を得たのを見ても判りませう日本魂に鍛へられた忠勇な男子と武士的教育に固められた貞烈な婦人とが、内外相待つて働いたればこそ、善く大國に勝ち得たのであります。日本は基督教國で無くても、自ら神の旨に適ふ人道を踏み、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

露國は基督敎國でありながら、神の旨に背き、人道を踏み外した。これが勝敗の分れた點であります。皆様も善く此理を御考へ下さい」と云ふ風に說敎して居りました。

世界奇聞

▲花卉の音樂　倫敦に於て毎年賣買する花卉の價格は、無慮二千萬圓に上り、又た獨逸に於ては音樂に關係ある業務に從事する者十五萬人ありと云ふ、花や花や！と朝露淸き大路小路を露濡る花束賣り歩く童子も床しく、音樂に身を入れる少女も優し。

▲英獨の母力　英獨兩國人の母の力を比較するに、獨逸人の母は人口一千に就き一年三十六人の子を產み、英國人の母は同じく人口一千に就き二十九人の子を產むと云ふ、而して世界的競爭過程に於ける獨逸人の根氣は、英人よりも强しと云ふ。

▲類似の人種　歐洲人の内には東洋人種に類似の人種あり、ライン河を遡り、アルプス山を橫切りたる處には、殆ど日本人と同じき人種あり、即ちヴナテスマの人にして、髯は黑く、頰骨高く、何う見ても日本人其の儘なりと。

▲透明の空氣　亞弗利加スールーランドの空氣は世界中最も透明なるものにして、星光を借りてさへ、七哩を隔てたる物體を明瞭に透見し得ると云ふ、是では盜賊も逃ぐること能はじ。

▲絹の消費高　紐育市は米國唯一の絹市場なるが、上海を除きては世界の第一位の絹取引ありて、其の總量は佛國全體の消費高よりも多しと云ふ、之に見ても如何に米國が富貴なるかを知るべし。

▲薔薇と蝶　薔薇は其の枝に刺こそあれ、其の花は艷にして掬すべき價あり、さても此の美しき薔薇は其の種類頗る多く、凡そ九百九十八種ありといふに至つては驚くの外なし。又た蝶は現今世に知られたるものゝみにても其の種類二萬の餘ありと云ふ。

▲虎猿獅子　虎の力は獅子よりも强く、獅子は五人の力を以て容易に押へ付け得れど、虎に向つては九人の力を要すと云ふ、又た猿には木と土の二種ありて、土猿の中には岩猿をも含み、木猿は比較的愚にして、土猿は智慧ありと云ふ。

▲玖馬の奇習　南洋玖瑪にては蝶を幾百匹となく透明なる壜に入れて飼畜するもの多く、又た蝶の首の輪を捕め、留針を付け簪に代用する奇風ありと。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



我家の育兒法

明治母の會々宰　ボールス夫人

明治母の會で裁縫會、料理會に骨折られ、名聲嘖々たるボールス夫人は、氣品の高い英國の奥樣風で、三人の御幼兒を薫育して居られますが、御用務の多端なるに拘らず、實に周到綿密を極めて居られます。記者は頃日夫人を訪問して、其實驗談を伺ひましたが夫人は世馴れた如才ない御方で、熟識と生面との別なく、心易く愛を籠めて話されるので、記者は一方ならず感服致しました。御話の二三を紹介致しませう。

▲寢臺の便利

私が日本へ參りましたのは、今より六年前で、長男が生れてから間もなくで御座いました。四歳の女兒と三歳の男兒とは日本で生れたのです。長男は最早學校へ參る年ですが、妹が築地の幼稚園へ通ひますのに、獨りでは淋しがりますから、長男も一緒に遣つて居ります。ハイ彼處へは小さい子守が附いて參り、待つ間には韈を編んで居ります。女兒は幼稚園から歸つて二時間ばかり晝寢致しますので、毎日整然と時間を定めて休ませます。未だ幼少ですから、如何しても一刻晝寢をさせませんと疲れるからで御座います。子供は皆生れ立てから寢臺に獨り眠らせますが、これは寢臺に寢かすので、餘程都合が宜いのであると思ひます。日本の御家の寢床は、子供が自由に出られますから、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

心配で獨り寢かせませんでせう。私は最初此地で子供の寢床を求める爲に方々見て歩きましたけれども、何樣も思はしいのが見當りませんので、此敎會へ參る植木屋さんに賴んで拵へて貰ひましたが、粗末な木造で只だ手丈夫に致し、床の四方の圍ひを高くし、塀のやうに拵へましたから、小さい子供が獨りで出る事はありません。四歳の女兒は、毎朝眼が覺めますと『母樣最早起きて宜いでせうか』と尋ねます。それですから少し早い時などは『モ少し臥て居なさい』と寢床へ殘して置くのに極安心で御座います。夜は三つの寢床をズラリと一室に列べ、心配なく休ませて居るのです。此寢臺には私の拵へた藁蒲團を敷き、其上へ普通の蒲團を敷くのですが、悉皆で一臺が三圓は要りませんでした。日本の御家でも之を御用ゐになつたら、子供を獨り寢かすに大層御便利であらうと存じます。

▲御膳立の手傳

忙しい母親に取つては、却々面倒な仕事ではありますが、子供を愉快に遊ばせる事は、實に大切なのですから、熱心に注意せねばならぬと思ひます。私共の子供には、食後食卓上の器具を片付けさせますが、大層喜んで致します。食卓が高う御座いますから小さい子の丈が足らず、一寸むづかしいのですけれども、骨折つて片付けて居ります。先年磯濱へ避暑に參つた折は、日本造りの別莊を借りましたので、行李二個を離して列べ、戸板を渡して食卓に代へましたから、極低くつて三歳の子供にも御膳立が善く出來ました。日本の御膳は丁度低くて此練習には至極便利であらうと思ひます。それから追々食物の持ち運びも致させ、慣れるに隨がつて、御客の御膳立や後片付けなども致させたならば、子供には餘程樂みとなるでせう。敎へ込む間は母親に取つて隨分手數の要る事ですが、少し面倒を見たなら餘程興味ある事と存じます。

▲大工の眞似

長男は大工の眞似を致すのを非常に面白がりますので誕生日に鋸、鐵鎚、釘と長い板切れを遣りましたが、大喜びで種々な物を作り、小さな腰掛見たやうな物だ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の、妹のために人形の箱だのを拵へもした。尤もこれは危くないやうに道具の遣ひ方を敎へて遣るので、一寸面倒でありますが、男の子供には實に樂みで、而して金も掛りません。釘など一度拵へたものから拔ては又他の物を造つたり致しますから、入費も要らずに何時までも樂しめます。

▲庭掃除と賞與

日本の御庭であつたら落葉を拾はせたり、庭を掃かせるのが子供に隨分樂しみとなりませう。而して毎日怠らず掃除したなら、十日に一度位少々の褒美錢を遣つても宜からうと思ひます。且つこれは貯蓄させて入用な品を買はせるやうに仕向けますと、七八歳にもなる兒は鉛筆とか紙とか必要品を此貯金で自由に求め得られて勞働の眞價も自然解し得る樣になるでせう。



▲針仕事と洗濯の眞似

母親が忙しければ子供が小さい内から母の働らく眞似も致しますし、又幾分か母の手助けを致す心で面白いもので御座います。特に女の兒は此考が強いので、私は母の會、料理會、裁縫會などにたづさはつて此等の爲めに忙しい上に、子供の着物の裁縫が一役で忙しく仕事致して居ま

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

すと、女の兒が矢張り人形の着物を拵へたがりますから、面倒ながら小切れを裁つて當がひ又色合の取合せなども教へます。此頃は追々巧者になりまして先達も人形の袴を淺黄色の切れで拵へ、髮へも共色のリボンを着けたいと言ひました時、丁度淺黄色のリボンが見當りませんから、側に在つた赤色のリボンを遣りました所「母樣これでは袴の色と違つて可笑しいぢやア在りませんか」と申しました。又夏は洗濯が女の兒に却却の樂みで、袖を高く卷き上げて遣り涼しい木蔭に盥を置いて遊ばせますと、安心で面白い善い運動になるのであります。

▲丈夫な玩具

私共の長男は一番車が好きですから、金物で作つた極手丈夫な車を買つて與へましたが、これで土を運ぶ眞似なぞ致し、一の玩具で善く遊んで居り、大切に用ゐて居ますから、何時までも壞れずに居ります。女の兒には切れで造つた人形を買つて遣りました。其後戴いたり求めたりして持たせた土の人形や瀬戸物の人形ば既に壞れましたけれども、一番最初に與へた切れの人形は手垢で眞黑にはなつても一寸も毀れず、當人も大切に致すので御座います。總て玩具は澤山與へずとも少し念入りに出來た丈夫な物を與へた方が宜しいと存じます。一錢五厘や貳錢の玩具を度々買て與へましても、一日か二日で壞して了ひ、却つて金を捨るやうなもので、而して物を大切に致す考へを子供に與へませんから……。

▲公平の配分

玩具なぞは大抵誕生日に遣る事に定めてありますが、間に褒美の爲に與へる物は、私が用達しに出掛けた折求めて參つて見せずに藏つて置き、場合を見計つて與へます。私共では中が女兒で男兄弟とは趣味が違ひますから、與へる物も自然異ると云ふ次第ですが、餘程注意しませんと不公平と云ふ感じを子供の胸に畜かせて可けません。夫れで私は食物なぞを買つて參つて同じ樣に分けて與へる事があります。先日は終日子供が私の留守番して居ましたので、褒美のた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

めに丁度晩食の時分ですから、小さな罐入の水飴を求めて歸り、食卓に上せて茶匙一杯づゝ三兒に嘗めさせました所、誠に大喜びで御座いました。

▲椅子の汽車

西洋室には子供の遊ぶのに便利な道具が多う御座いますから毎日面白い眞似を致します。椅子を悉皆持出してズラリと列べ汽車の積りにして皆で推し廻りますが、迷惑するのは私共で、一寸椅子に掛て何か致したいと存じても一個もありません。併し唐突に一個よこせと言ひますと子供は必らず不平を申しますから「母樣が今一個入用で困りますが、先の方のを取つては氣の毒だから、後の方のを一個借して貰ひたい、如何です宜いでせう」と頼むやうに申しますと、何んぼ小さい子供でも厭とは申せなくなつて渡します。總て子供の遊びは大人の仕事と同じく熱心なもので在りますから無暗に妨げるのは宜しくありません。親は何時でも子供に同情して遣らねば子供が執拗になるので御座います。



▲象の眞似

毎日晩食後に良人も私も子供と一處に遊ぶのが何よりの楽しみで御座います。其時は丸で子供になつた氣で面白い眞似を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

致すので、動物園の遊びをする際は、一人の兒は門番となつて入場劵を截り、二人の兒が觀覽人となつて室へ入りますと、私は四つ這ひになつて、象の身振り聲音を致すのです。或は兩親が士官となり子供が兵卒となつて行軍の眞似する事もあり、私が船頭となつて舟を操る所作を致す事もあり、巡査にもなる獵人にもなる、夫れは〱種々樣々な者に扮して遊びますが、無邪氣で運動になり興味ある趣向を工夫致すのも却々樂しみで、而して少し考へると澤山な新案が出來るもので御座います。

▲雨の日

雨の日外へ出られぬ折の遊びの爲め繪具、筆、皿等を與へてありますから、手帳へ何か畫いたり、古新聞の挿畫に彩色して樂みますが、これも面倒を見て此れは此色を塗ると宜い位の事を敎へて遣りますと、子供は誠に喜んで彩色致します。併し兎角凝りますと運動を怠りますから、雨の降らぬ日には決して繪具を持たせません、繪具は整然と抽匣へ納はせ、雨天日でなければ抽匣を開けない樣に言ひ聞かせて御座います。

▲切り抜き畫

子供は繪紙を切り抜くのを喜びますが、これも切つた繪を芥同樣に捨て丶了つては何の興もありませんから、此切り拔いた繪を紙へ貼り付けさせます。すると子供の智慧相應に樣々な趣向を致し面白い綺麗なものが出來るので御座います。而して此貼付けた綺麗な紙は病院へ見舞に行く時、病人に上げて退屈を慰めるのが宜いと敎へ、豫め病人に通じて喜び受けて貰ひますと、子供も大層滿足するので御座います。或は晩食の際、父の前へ持ち出して各自、意匠を評して貰ふのも却々興味が深いと存じます。

▲旅行中の遊び

鎌倉へ參つて居つた間には、毎日拾つた貝の名を敎へましたが、喜んで勉强して能く覺えました。又輕井澤では虫や鳥の名を覺えることを樂みました。旅行は心地よい空氣を子供に吸はせると共に、趣味深き敎育を娛樂の間に與へられ、實に有益なものだと存じます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

▲御話し

御話しは本當に大切なものだと存じます。私は毎晩祈り、後に僅かの時間子供に話しを致して遣る事に定めて居りますので、大抵キリスト敎に就ての極容易話を一くぐり致し、それから御伽噺的のものを致しますが、何れも極簡易な本から取り、時としては讀み聞かせる事も御座います近頃此種の本には日本の昔噺が澤山譯載してありますので、桃太郎やかち／＼山の噺も聴せますが、子供は却々疑問を發するもので、『かち／＼山の兎は如何して口が利けます』と問ひました。私は『兎は動物で口の利けるものではないが、子供達によく分つて益になるやうな御噺に拵へたのです』と正直に答へましたが、餘り不自然な話しは如何かとも考へます。



先達も少し氣味の惡いやうな御噺を致しました所『母様最早止して下さい、恐くて今晩獨りで寢れません』と申して顔を抑へて了ひました。それから斯様な噺は惡いと存じ、成るべく自然らしく又子供が實地に出來さうな話しを新に作つて聴かせる事に致しました。併し困るのは此作り噺を二週間も一と月も經つてから又

偖子供に請求された折、私が忘れて居る事です。尤も大體の筋だけは忘れませんが、其間の細かい面白い條が前とは少し違ひますから、子供の方は記臆がよくて『其間の何々が未だ拔けて居ます』などと申して承知しません。此間も此事に就て或る奥様と御話し致したのですが、其奥様も矢張り作り噺を爲されて、御子さんに暫らく日を經てから再び請求された折は全然忘れて御困りだと伺ひましたので、誰も同じ事と可笑しう御座いました。それで私は此話を二度目には子供に致させて見やうと存じます。左樣しますと子供の記臆力も養ひ得られ、談話の練習ともなり、至極面白からうと考へますから……。

▲蛙が諷刺の種

長男が三歳位の際には、忍耐力に乏しく兎角泣いたり、食物を大口に頬張つたり致す惡い癖が御座いましたので、私は御話しで追々矯正しました。此子供は蛙が大好でありますから、話の主人公を蛙に作つたのです。其噺は或る池に一疋の利巧な蛙が居て、此蛙は朝起ると整然と水を浴びて身體を清潔に拭ひ、衣服も着更へ、行儀よく食事する事など種々善い點ばかりを並べて聞かせ、子供が感心する時汝は此蛙の通りに出來ますか、出來なければ耻しいでせうと申し聞せて置、又叱る事が出來た折は、何時も此蛙を引合に持出しては耻ぢ入るやうに賞め立てました所、何時か惡癖が直つて了ひました。如何に幼い兒でも、何々を爲ては可けぬと叱り付けるのは、効が少いもので、却つて他を讃揚して反省させた方が宜しいやうで御座います。未だ種々御話し致したいことも御座いますが、又ゆつくりと考へてから申しあげませう。

羊の雑話

▲西洋では一般に羊は穏かではにかむ動物としてあるが漢字の善の字も亦た羊から組立てられてある、佛國で羊面と云へば鈍間顔の形容で羊的といへば模擬を意味し、羊頭は馬鹿者の代名詞。

▲西洋の羊は概ね貴い意味に用ゐられぬが複數で羊と稱する場合には大牧羊者基督の保護の下に立つ神の子を指すとの事である、又小羊の如く無邪氣にして温和なり、とは救世主を讃した言葉である。

▲羊質虎皮は支那の諺にて羊皮豺狼は西洋の諺言である。又「猛虎の群羊を驅るが如し」とは戰國策の比喩。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

健康長命法

男爵　高木兼寛

精神の安靖と身體の清潔

凡そ我々がその健康を維持せんとならば常に精神の安靖なることを眼目とする若し精神が安靖でなかつたならば必ず肉體の病ひを起すことは醫學上の原則である。素より肉體を病ふが爲に延て精神の煩ひを惹起すこともあるが、之れは極めて僅少で、精神の煩ひに基く病の多い事には比較されない。されば若し健康を維持せんとならば、先づその妄想を去つて精神を清め、次に身體を清潔に保つて行くことが必要である。所で歐米諸國の有樣を見ると、何れの社會に於ても此の要求は十分滿たされてゐるので、特に多人數會同の場合に於て最も嚴重に此の趣旨が守られてゐるのは自分の羨しく思ふ所である。一體歐米諸國の公衆衛生の設備といふものは必らずしも周到で無く、何方かと言へば我國に劣つてゐるにも拘らず、其の國民の有樣を見ると我々よりも、ずつと體格がよく、健康も優れ、壽命は非常に長いのである。

朝飯、晝飯、晩飯、

右は何故であるかといふに、まづ三度の食事に就て見るに、彼國にては何れの家に於ても朝起れば先づ口を嗽ぎ、髪を洗ひ、男子は鬚を剃り、女子は化粧をする、かくして身體を十分に清潔にし、其れから家族一同折目正しき清き衣服を着、軈て朝飯の報告に依つて皆一堂に會して食卓に着く。一同食卓に着くや家長は神の恩寵に對して恭しく奉謝の祈禱をなし、五人或は十人の家族は皆之れに同じて謝恩の意を表して、後初めて食事を共に爲るのである。

午餐は日中のことであれば女は家にゐるけれど男子は多く外に出でゝ働いてゐるのであるが、而かも飯時には必ず洗面場に赴いて身體を清むるのが例である。我

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

國などでは洗面場の設備は甚だ不十分で、如何に完備した家でも面を洗ひ衣服を淸め化粧を爲し得らるゝやうな設備のあるのは甚だ稀れであるが、彼國では個人の家は素より諸種の會社工場等に至る迄も皆此の設備があるので、午餐の鐘を聞くと其處に勤むる人々は皆右の場所に行て、上衣を脫ぎ袖紐釦を外づし湯と水とを得て石鹸で身體を淸め、鏡に對ふて髮を梳り或は不潔物の有無を檢べ、又衣服にブラッシュを掛けるなど、人に對して無禮の無きやうにして初めて食卓に對ひ、そして朝の如く祈禱を以つて食事を始じめるのである。

又、夕刻になると仕事を了へて家に歸り、其の汗染んだ着物を脫ぎ棄て、湯に入つて身體を淸め或は髮を梳り、襦袢やシャツは洗ひ立ての淸潔なものと取り代へ、之れに綺麗な衣服を着けて、然して後ち食卓に對ふ。此の時は男子は燕尾服、スモーキング、トキシード等の揃ひの衣服を用ゐ、婦人も亦一定に裁縫した夕餐服を用ゐるのである。

慣習上の衛生

一體精神を淸むる方法は種々あらうけれども、要するに心を或る一點に集中して二心無からしむるのにある、此の點から言へば右の祈禱なぞは能く衛生の道に適つてゐる、又身體を淸潔にする事に就て言へば、近世の進步した科學、細菌學、衛生學等に依れば、多くの病毒は黴菌と言つて肉眼で見られぬ程の小さなもので、不潔な所には那邊にでも之れが居る、肺病の黴菌、腸窒扶斯の黴菌、熱病の黴菌、赤痢或は破傷風の黴菌等が室內の塵埃の中は言ふに及ばず、着物や身體に一ぱい附着いて居るのであるから、我々はそれを呼吸の方から體內へ吸ひ込み、食物と一緒に嚥下し、或は飲料に混じて呑み込むと云ふ危險がある、汗の穴や毛穴に附着して居るものは創傷が出來ると其の傷口からして直ちに身體を襲ふ、其の勢ひは實にすさまじいもので、若し指先に微傷を作りそれを汚れた疊で擦つて置けば二三日にして指はずんずんと腫れて來るのを見て

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

も知れる此の恐るべき黴菌は我々の眼の縁、口の周圍、或は手の先などにどつさり附着いてゐるのであるが、ちよつと金盥で洗つた位では却々之が去れるものでない、されば右黴菌の侵入を防ぐには少しく時間は掛かつても矢張り西洋人の爲るやうに三度の食事は丁寧に身體を淸めて然して後に食卓に就くと云ふ程に爲なければならぬ。

集會場の揃ひの着物

以上は三度の食事の時の仕方であるが、其他多數會同する際に揃ひの着物を用ゐる風があるが、此等も亦我々の大に注目すべき點であらうと思ふ、先づ夜會の有様を見るに此に會合する者は皆揃ひの着物を用ゐてゐる、又芝居見物に行くにも矢張り揃ひの着物で、婦人は腕を深く露はしたもの、男子は白シャツにて前を廣く開けた衣服を用ゐる。又園遊會などにも同じく一定の服裝があつて參會者は皆之を用ゐて居る。寺院の會同は如何かと云ふに、縦令一定の服裝は無い迄も此處に參詣する者は皆髪を梳り淸潔な衣服を纏ふて集つて來る。

右の如く西洋諸國では其の場所柄に應じて一々揃ひの着物を用ゐるので、我々から見ると甚だ面倒なやうな感じが起るけれど、其の實之れに慣れてしまへば左程面倒でも無く、而して之れが爲に公衆衛生事業の手數を省き、且つ互に安心することが出來るのである。で、多數會同の場合に於ては互に此の病毒を持ち合つて相互に傳染し合ふと云ふ危險があるから、此の危險を防ぐ爲には是非共右の如くに參同者互に揃ひの淸き衣服を着けて成るべく身體を淸潔に爲て來る必要がある。西洋人の揃ひの着物を用ゐるは果して斯かる衛生的の考へからか如何かは知らぬが、兎も角も彼等は現に之を行ひつゝあるので自分は大に羨ましく思ふ。

維新前の習慣

然し乍ら我國に於ても近く維新前迄は精神的に於ても物質的に於ても確かに歐米諸國のやうな習慣は在つ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

たのである、或は全國一般の習慣で無かつたかも知れぬが、自分の幼年時代の記臆を述べて見ると、朝起ると先づ面を洗ふ、次には必ず髪を梳づる、其の頃の稚兒髪は芝居の若様を見るやうな島田の大きい樣な髪であつた、で、髪を取り上げ衣服を着け之れに袴を穿つて整然と身繕の出來た所で、先づ氏神に向つて御辭儀をし、其れから祖先の位牌に禮拜して、そして初めて朝飯を喫するが例であつた。稍々成長くなつてから元服して月代を剃つたが、髪は矢張り毎朝結つたもので、而かも眼の釣り上る程に緊く上方へ締めた爲に、今でも薩摩人の老輩を見ると大抵鬢の邊が禿げてゐる。丸髷の奥様達でも髪を毎日締めて結つた爲に、頭の眞中の毛が皆脱けて段々と禿げて仕舞ふたのであるが、其の頃は箇樣に禿げる迄に髪を結ふのは婦人の名譽と爲て居た。

　加之宴會や又は節句などに會するには武士以上は皆肩衣(上下)を着けたもので、當時の我が習慣は實に揃ひの着物であつた、神社の祭禮、寺院の法會などに會する時にも不淨は神の忌む所として皆髪を取り上げ身體を十分清潔にして揃ひの着物で參拜したのであるが、參拜者自身の爲を思ふても不潔な者が同じ場所に跪いて神殿を拜すると云ふ事を非常に忌むだもので、互に病毒を傳播し合ふの恐があるから、右の如き習慣は實に保存すべき好習慣であつた。

美風は遂に廢れり

　然るに維新後に至つて此好習慣が遂に廢絶に歸したのは甚だ遺憾の次第である、何故此れが廢絶したかと言へば、一時彼の蓬髪垢面弊衣を纏ふて國政を談せざれば男子でないかのやうな時代のあつたとも其の一原因であらうが、今一つの原因は維新の革命に際し我が思想界の動亂と共に青年血氣の輩が從來の習慣を一も二も無く可笑しく感ずるに至つたとである。即ち當時の浪士輩は異常の大政治機關を動かさんとするに熱中して、身邊衣服のふし〴〵に關する從來の習慣の意味を十分に思索するの遑無く、又固より其の習慣が人類

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の幸福に大關係があるなどいふ事を覺る餘地なく一概に之を惡樣に言ひ做したが、世人も遂に之を意に介せない樣に至つたので、其の結果我が公衆衛生をして甚だしく危險な狀態に陷らしめたのである。

以上我々は如何に我々の身體を保護すべきかに就ての注意は遠く歐米人には及ばない、其の結果として、英人の如きは平均五十二歲の壽命を保つに拘らず、日本人は平均僅かに三十八歲强にして殪れる、其の間實に十四歲と云ふ驚くべき相違がある。されば希くは諸君と共に朝夕衛生に注意して我々の壽命を彼等と同一の程度に迄進めたいものであると考へる。

（編者生筆記）

小兒に與へてよき物

三歲以下の小兒には飯はまだ少く早くさりとて乳にては物足らず、勢ひ粥、たちやのごとき物を食はすが日本の風習なれども少しく工風すれば今少し滋養ある好適品を得らるべし、まづ西洋風にすれば牛乳に大麥、米粉等のごとき物を交へて料理したるものあれど、それよりは肉汁に飯を入れてよく煮たるものをよしとす、又小兒の齒を生じたる時は、穀肉類を食して差支なしといふ時節なればこれに與ふるに牛肉、魚肉を用ひ、細かく切り、よく煮て消化し易からしむ、但し脂肪の强き豚肉のごときは未だ與ふべからず。

野菜類にては芋、若菜、豌豆等の熟煮したるものを用ひ、茶碗むし、鷄卵、豆腐、西洋流のカスタード、煮たる林檎、牛乳にて製したるプッヂング等を適當とす。但し未だ漬物、西洋菓子、果物入の食品又は蒸菓子の如きはよろしからず。

小兒には輕便なる夕食を早く與へ、早く暗き室に入れて眠に就かしむべし、燈火の光に眼を馴れしむるはよろしからず、又手足等は凡て暖かに保つは勿論なれど、去りとて重き夜具を用ひ又餘りに熱からしむべからず、而して朝は小供の眼を開くと直ぐに床より出し新鮮なる空氣に觸れしむべし。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家庭科學

ランプの取扱方

夜毎の闇黒を照して、私共の夜業仕事を助けて呉れるランプが、常に鮮かな光を放つて、燻らず曇らず、いつも明るくて在るやうにと存じ其の取扱方に就いて氣付いた二三の注意を申上ませう。(青人)

(一)ランプの火室の燻つたのは如何に掃除すべき乎。

ランプの火室は油煙の爲めに燻るばかりでなく、一種赤みを帶びた漆樣の脂の爲めに、曇りの出來ることがあります。是は油の性質にもよりますけれど、多くは小さなランプを夜通し點火して置くやうな場合に往往見る處の現象であります、此曇りを掃除せずに置いて、曇の上に又曇りの上塗をする樣な事が度重りますと、終には火室に漆を塗つた樣に成つて、容易に拭き落すことが出來ません、斯う云ふ場合には灰水の強いので洗つて御覽なさい、奇妙に譯なく落ちて了ひます。

(二)火室の割れたのは如何にすべきか。

火室の割れたのは、別に繼ぎやうも御在ません、一體此の硝子出來の物は一度破損れたが最後、修復の利かぬもので、瀬戸物の破損より尚一層直し方の利かぬものです、世間には色々礬石糊とか、千歳糊とか申すものがありますけれども、何れも効目は更に御在ません、毀はれた火室の仕末は、只だ「ガラスや明壜のコヘレ……」屋に與るより外に道はありません、然し一時の間に合せに、繼いで置かうといふのでしたら、前に申した、糊をお用ひに成て見るも宜しく、或は飯糊と少量の白砂糖を練り合したもので繼ぎ合せても宜しい、私の經驗によると素人療治では此の法が一番永保がするやうです、然し是は水を付けると直ぐに離れて了ひますから、姑息な手段たることは、免れません、元より火室の毀れるには種々の原因がありますから、一概に何うしたら防げるかと云ふことは申されませんけれども、水で洗つて水氣を能く拭き取らずに點火したり、又は水で洗つて急に暖い手で力一杯に拭いたり、冷えてゐる火室を口金に縮めて急に火を大きく出したりするのは宜しくありません、こんな事が詰り破損の原因になるのですから、取扱には能く氣を附ければ不可ません。

(三)ランプの心の惡く成りたるは如何にすべき乎

ランプの心が惡く成つて、點火しても次第〳〵に火勢衰へて暗くなり幾度心を拔き立てゝも、心を切り取つても、少時にして直ぐと又た暗くなることがあります、是は心に水氣のあるものを用ひるのと、石油沈滓のあるものを用ひるのとの二つより起るのです、で之を防ぐには最初心を新規の物に取換へる時、よく其の心を火に乾かして、全く水氣を去つてから石油に浸すが可いのです、又ランプの油壺を時々掃除して、底に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

沈滓の溜らぬ様に注意すれば宜しいのです、一體油が心を傳つて昇る時其の道筋に水氣があると、石油の沈滓が其の水氣に吸ひ込まれて、次第に道筋に滓が出來、終に油の通路を塞ぐことになります、又た油の沈滓が多くなると心は水氣の有無に拘らず、次第に油の通路に滯りて其の上昇を妨げることになります、又た此の沈滓が燃えると、灰が心の頭に出來て、忽ち火力を衰へさする原因となります、若し斯様に心が衰へる様になりましたらば、心を奇麗な石油で能く洗つて、心に着いて居る塵を除き去るか、又は心の糸筋を二三本抜いて、油の通路に空隙を作るも宜し、然れども是等の法は皆な一時の間に合せですから、到底長くは効目がありません、又た一時の間に合せに新しい心に代用すべきものは、中紙又は半切を心の大きさに折合せて、之に油を含ませ心の代理を勤めさせるのであります。

(四)口金の離れたのは如何に修繕すべきか。

何うかすると、油壺と口金との繼ぎ目が離れることがあります、是は口金の螺旋を強く締めることゝ、螺旋の山を違へてねぢ込むことから起るのです、即ち螺旋の山を違へてねぢ込む時は、自然と傾いて据はりが惡るくなるから、そこで無理にねぢる、無理にねぢると強過ぎる、強過ぎるから遂に繼目が離れて了ふのです、元來此の繼目は焼石膏といふもので、繼いであるのですから、之を用ひて繼げば本當の直し方ですけれど此の焼石膏は田舎では一寸買はれません、其故明礬を用ひるのが便利であります。

併し茲には話の順序上、焼石膏で繼ぐ仕方から先に御話し申しませう。焼石膏は白墨の粉の様なもので、多分の水を吸收して固結する性質を有つて居ります、故に之に水をばドロ／＼する位に加へて攪拌すると、僅か一二分間で堅く固結つて了ひます、そこで先づランプの繼目をよく紙で拭いて、少しも石油の氣の殘らないやうに、極めて丁寧に清淨に掃除し、口金も火に焙つて油氣を全く拭き去り、かくして兩方とも清淨に掃除した後、焼石膏一匙位に水一匙位を加へ、手早く攪き交ぜて、糊の様に成つた時、口金の内側にタップリ塗り付け、ランプの口に確乎と嵌め込むのです、斯う致して數分時間放在つて置きますと、石膏は全く固つて了つて、容易に離れません、但し之に點火するには少くとも一夜位乾かして置いてからでないと不可ません、未だ水氣の乾き切らぬ内に使用しますと、兎角破れたがるものです。

又た明礬で繼ぐ法は極く簡單なもので、是も矢張前法と同じく最初よく油氣を拭いて置いて、別に茶碗の一缺か、或は乾菓罐の蓋の様な物に明礬一塊を入れ、之を火にかけて焙るのです、すると明礬は解けてブツ／＼煮沸ちます、で、明礬が殘らず熔けて了つた時、之に火鉢の中の灰を二ツ摘み程入れます、左うすると俄かに沸騰して泡が立ちますから、其を能く攪き交ぜて火より卸し口金の内の方を滴らし込み、ランプの口に確乎と嵌め込むのです、斯う致しますと明礬が冷えて固るに從つて牢乎と抱き付いて了ひます、但し此の法で繼いだものは、冷え次第直ぐに使用して差支ありません。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

泰西智識の藏

▲佛國婦人の美容法

佛國の女に美人が多いのは、全く食事と運動の結果によると云ふことだ、佛國の女は、二十歳頃までは、隨分濃山牛乳を飲用するが、其後は專ら輕い脂肪質の乏しい食物を選んで食し、例へば英米其他の國の婦人と會食するやうなことがあつて、英米の婦人等は盛んに重苦しい御馳走を食べても、佛國の婦人は唯だスープ一杯を以て足れりとし、其他の御馳走は強いて辭退する、そうして戸外の運動といへば、漸く市中に小買物に出て、市街を散歩する位であるが、經濟の上から、又脂肪過多を抑制する手段として、一生懸命に臺所仕事に勉むると云ふ話しだ。

▲九萬圓の嫁入衣裳

土耳古王の姬が、アブヌルラーマン、パシヤと結婚した時の衣服の代は九萬二千圓と云ふ大した者であつたそうだ、で其衣服には眞珠や寶石などを鏤めたりなどしてあるので、之を仕立てた時には、一人の士官と二人の兵卒が監視の爲めに立番をして居つたそうだ。

▲妙な慈善金募集方

此頃米國のアンザアーに不思議な慈善金の募集をやつたとがある、其方法は薬店と云はず、料理店と云はず、薬屋と言はず、其店頭に一人の婦人が立つて居て、ローレンス、フェリップ病院の基本金を募集したことで、一微笑が五十錢、二微笑が一圓、三微笑と握手とが一圓五十錢、接吻が二圓五十錢と云ふ相場で、御客樣から義捐金を募つたそうで、其總額が四千圓に上つたそうな。

▲獨逸皇帝と猫

獨逸皇帝は天性猫を非常に嫌はせ玉ひ、猫の話を一寸でもすると、直ぐに眉を顰めらるゝ程だが、此頃伯林の市會に勸めて、飼猫税を課することにし飼猫には必ず一定の首輪を穿たしめ、若し首輪なき猫を發見すれば、脱税者と見做し、直ちに引捕へて屠殺場に送ることに定められたそうである。

▲金の入らぬ處

大西洋のアスセンション島では、金と云ふ者全く不要であるそうだ、此島は英國海軍省の所有地で、私有財産は固より家賃や租税や利息など云ふものは根つから皆無で、牛や羊は群を爲して、彼處此處に逍遙し野菜物は迚も喰べ切れぬ程、一面に繁茂して居るそうだ。

▲英國泥棒の迷信

英國の盜賊には妙な迷信があつて、彼等は藪睨みの下女が居る家へは決して忍び入らぬそうだ、夫れから一日の中に三度馬の轉けるのを見た

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

晩は、仕事に出ず、又廿二、九十三、百十一、四百四十四と云ふ番號を以つて居る家へは、決して泥棒に這入らぬそうだ。

▲頭髪の賣買

巴里では頭髪の賣買が盛んに流行するので貧乏人の娘抔は前頭を剪つてこれを賣りハンケチを被ぶつて頭をかくして居るそうだ光澤のあるブロンドは獨逸瑞西からの仕入れが一番品がよくつて高價だそうだ。

▲米婦人の贅澤

凡そ世界中に米國の婦人程贅澤な代物はあるまい、されば紐育などで産を破る者は、良人の飲酒の結果でなくて、大抵妻の衣裳好きより起るそうで、甚だしきは一年間の妻の衣裳代が一萬弗に上るものもあるそうだ、それで婦人は其衣裳を大事にするかと云へば、決してそうでなく四百弗の上衣などは、三度腕を通すと、早速五十弗位で、賣り飛ばしてしまう、其結果は良人に秘密で手形を振り出してドシ〳〵現金を借り出し、終には首も廻らぬやうになり、それが離婚の原因となつて、覆水盆に還らざる者が甚だ多いそうだ。

▲烏の音學校

題名の如き奇妙な音樂學校が倫敦にあるが、此處に入學する烏は三つの歌を教はるのに、二志六片の報酬を拂わればならぬそうで、室が三つあつて、夫に各一個の蓄音機が備へつけられ、其室に鳥籠を掛けて置くのであるが、普通の烏ならば先づ三週間で卒業することが出來るそうだ。

▲猿語の研究

米國ピッツブルグに近頃公果園に猿の言葉を研究しに行つたシモント嬢と云ふ一人の女がある如何するのかと云ふと大きい竹籔の中の竹の中に這入て居てキャツ〳〵叫んで居る猿の言葉を研究するのだそうで嬢は昨年九月以來大に得る所があつたと云つて父樣の所へ近頃手紙を遣したそうだ。

▲露帝と寫眞

露帝は唯だ一人で寫眞を撮るとは非常に嫌はせられるが併し團體で寫すことは別段何とも思はせられぬそうだ。

▲リボンの色

日本では昔は丸髷島田銀杏返し抔で夫々婦人の、社會的位置を示して居つたものだが夫れに似て居るのは南クリーンランドの風俗である同地方では頭髪のリボンの色で處女か妻君か后家かゞ判るやうに區別さして居るそうな。

▲クルップ孃

獨逸大製鐵所の所有者クップの後繼者クルップ孃は先頃結婚した爲クルップ女王の稱號を受けたが所謂女王が收入は月に增加しエッセンに於ける收入だけにても近頃出版された報告は一年一百萬弗の純益だそうだで此地のみの職工四萬人で其家族を合せて廿萬人に達し製鐵所全體の人員は三十萬人以上だそうだ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

月の手鏡（二月）

遲塚麗水

簷は氷筋を懸けて晴れては先づ滴り、草は金鈎を屈して翠いまぞ匂しからねど、新柳の鵝黃、淺水の鴨綠、春の景色の次第に整ふは此の月なり、風もこちと名を變ふべし、蕗の薹、蕣の椀に薫り、芹、三葉の綠々一寸の碧を浮べて、鴨に香味を添へ來るも此の月なり、海苔、海雲、獨活の白き防風の紅き、とり／＼に膳を彩り、水もぬるみ行くほどに、蜊、蛤、鮒、飯蛸、是れより滋味の境に入る、獺の魚を祭るといふも此月なり、鷹の化して鳩となるといふも此の月なり、鹿の角落つといふも、亦た此の月の末より三月の彼岸の頃なるべし、野に萌ゆる草の中にて姿の優しきは早蕨、庭に咲く草花の中にて、名の愛らしきは眉作りの花、雲雀もやがては空に起つべし、燕も梁間に舊巣を尋ね來べし、松の花、啄ばむは何の禽ぞ、幾朝の仙飯に、餓えざるは雀の子あり、鶯も來啼く南枝の花の陰に、黃袍の處子といひ、金衣の公子といふも、我は唯だ此の鳥を、小さき春の歌女といはず、春の歌女、歌ふて止まず、永き日に、遲き日に、綿蠻たる一聲々、次第に春を喚び來して、花は顰を學び、花は笑を習ひ、風は母、雨は乳、何時かは彌生の月に入るなり。

一日、月に入りて第一日、上野公園なる寬永寺に天台大師の齋會あり。

二日、此の日に灼艾すれば、一年中の病魔を攘ふと言ひ傳へて、昔は爾する習慣ありしが、今は此の例に倣ふもの少なし、想ふ窓外の寒雨、濺いで琴筑の聲を作し、障子を締切りて風を避くる四疊半、炬燵蒲團は友染更紗、上に讀殘の草雙紙あり、之れに傍ふて根來塗の朱盆あり、伊吹山の名草、錯落して散點す、炬燵に依るの人、襟を祛し背を現はして齒を病むさまに眉を顰むれば、纖手一炷の線香を執つて雙行數點の火を作る、火熄んで徐かに鷄の羽をもて香灰を帚ひ、小硯細筆、黑く燒痕のところを抹す、這般の情趣は、

所謂昔の人情本作者の手に依りて屢々草雙紙中に描かれたり、此の日、宛かも初午、随處の稲荷社、鼓聲鼕々たり。

四日、今日は節分の日なり、赤鰯の頭と柊の枝とは、挿まれて守舊の人の家の門前に在り、宵に入りて主人は桝に盛りたる炒豆を取つて室毎／＼に撒き散し、大に呼んで曰ふ福は內、鬼は外と、豆の飛ぶこと急霰のごとし、撒じ終りて後、家人各々其の齢ひの數に當れる豆を拾ひて更に一粒を加へ、其の中の少許を食ふて剩れるを紙に裹みて全身



を撫摩したる後肩を越して背後に投げつけ、顧みず唯だ手をもて摸索して之を拾ひ、錢を添へて門前の厄拂男に交附するなり、是れ攘厄の禁厭なりとて、古來東京に行はる。

此日、芝高輪の萬松山泉岳寺に赤穂義士の正忌法會あり、封建時代の武士の典型たる四十七士は、實に此の日を以て時の將軍より、死を賜はりしなり、四十七の短碑、此の日全く香華の裡に埋る、本堂には室鳩巣先生作るところの義人録の口演あり、賽者群集す。

五日、いよ／＼立春なり、二十四番の春風、一番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

先づ何をか吹く、柳を吹いて嫩葉は鵝黄を綴り、漸を吹いて新水は鴨綠を湛ふ。

八日、お事納、お事汁、老人ある家に行はるゝ慣例なり、針供養なるものあり、お事汁を針箱に供ふ、銀銅金剪、環の絲綠、象牙の篦、一日安居す。

十一日、今日は紀元節なり、畏くも皇祖神武の帝、大纛を中州に進めて醜類を討夷したまひ、始めて神器を大和の橿原の宮に奠して紀元を登極に繫げたまひしの日にて、今茲明治四十年に至りて實に二千五百六十七年に當る、神州の民、誰れをか此の日を謳歌して天壤無窮の皇祖を祝ひ奉つらざるものぞ、北は樺太南は臺灣、西は韓國、關東州、熊棲む野邊も、虎吼ゆる山も、鳳梨花さく海の涯も、處として旭日章旗の飜がへざるを見ざるなし。

斯る愛たき建國の大佳節なるが上にも、更に帝國臣民の肝に銘じて忘るゝべからざる欣幸を加へたるは、明治二十二年の此の日を以て、萬世不磨の憲章煥發されたることと是れなり。

十五日、釋迦の涅槃會なり、釋迦既に明星の東天に燦やくを見て豁然として得道し、山を下りて諸國に說敎すること五十年、二月の十四日、生國閣頭園に至りし時、木匠の子周那といふもの釋迦の前に來りて頂禮して一向に其家に來り臨まんことを乞ふ、釋迦之れを諾して翌日周那の家に至る、周那歡喜すること極まりなく、美饌を具へて釋迦を供養す、中に栴檀茸の珍羞あり、釋迦も亦た其の盛饗を喜びて喫し了る、歸途拘尸城邊に至りし時、遽かの病を獲て、自から其の起たざることを覺り、紗羅樹の下に就き、法衣を脫ぎて座に敷き、鉢と錫杖とを阿難に附す、弟子問ふて曰ふ夫子何を以て我に敎ゆるぞ、釋迦曰ふ、心を修めて放逸することなかれ、我無上の正法は既に迦葉に附屬せり、汝等迦葉を視ると猶我のごとくせよと、言ひ終りて北を枕にし、右脇を下にして寂す、實に本朝懿德帝の二十五年にして今を距ると二千三百九十三年に當れり、此の日隨處の寺院、いづれも秘藏の涅槃像の畫幅を掛けて涅槃會を修す、上野寬永寺の涅槃像は狩野

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

常信の繪くところ、音羽の護國寺の涅槃像は狩野安信の筆にして墨畫なり、別に下谷坂本の養玉院に藏するところの涅槃像は、長谷川等雲の繪くところにして、慈眼大師の賛あり、希世の寶幅と稱せらる。

二十五日、天滿宮の祭日なり、府下處々の菅公廟皆な祭祀を行ひ賽詣の人多し、中にも龜戸の天神、最も盛んなり、廟畔の梅、漸く開き、太鼓橋を過れば寒香人を吹て廟に近く臥龍梅園あり、園には未だ老ひざるの梅なし、幹には白苔を着けて大龍の鱗かと訝り、枝は鐵條を抽いて老蝦の鬚のごとし、更に東して、木下川の松壽梅園あり茶畑の搖曳、酒席の參差、遊蹤の向ふところ都て梅、春寒の尙は料峭たりといふなかれ、妙見祠畔



諸處の旗亭、盡く就いて酒飯すべし、霞外の筑波、二雙峰瑠璃を磨するがごとく、凝紫甚だ鮮尖、執つて掌上の珍玩となすに足れり。

誰が言ひ初めし、二月は逃月なりと、實にや月の盡くる今茲に二十八日女兒あるの家は雛祭の用意に忙はしく、床に架けたる雛段の紅毛氈、女夫の內裏雛、官女、五人囃白酒の玻璃瓶、菱餅の高杯、榮螺、蛤、瓶に盛る幾朶の桃花、繪の島土產の貝屛風に、銀燭の影ゆらぎ初めては、稚女の纖

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

指、起きては又た伏し、撫なへて三夜の後の朝の早く來らんことを歡び嬉しむなり、內裏雛の顏色歲々に故りたるを笑ふなかれ、こは母の母の其の母が、花嫁となりて嫁ぎ來し時齎らし得たる次郎兵衛雛なり、妃の君の鼻の缺けたるは、一歲の祭の夜半、鼠いたく荒れたる時の御惱にて、宿直の女官、亦た其時に十二一重の裳を咬はれたり、神功皇后の姉の君の去年の春贈りしもの〻新入の京人形は此の正月に父上の西京より購ひ來て賜ひしなり、紅毛碧眼の人形は、昨年の天長節に淺草にて兄の空氣銃を買ひし時に、母の我れに取らせたまひしもの、一として倭しく且つ美しき由緒と來歷とあらざるなし、無心の稚女、



壇下に集り、互ひに賓主となりて步趨進退し、小家具を安排して茶飯の戯れを作す、他の看る眼も美くしく又た樂しい哉、古來「歌に俳諧に、皆な其の樂しき且つ愛でたきを言はざるはなし、獨り一句あり曰はく「石女の雛かしづくぞ哀れなる」と、吾れ此の句を思ふ毎に、雛祭りする天下幾多の兒女の中に這般悽酸の宿命ある人もあらんを泣かんとするなり。

此月の二十日を過ぎて、梅漸く開く、龜戸天神、臥龍梅、松壽園は既に言へり、向島の百花園、南郊には大森の八景園、蒲田、原村、小向井の梅園あり、皆な人の普ねく知るところ、横濱を距ること二里たる杉田

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の梅は、山を負ひ海に枕み、峨沙羅峰頭より下瞰すれば一望皆な梅、誠に一日の遊目に値ひす、更に遠くして相州小田原の小峰の梅あり、國府津停車場より電車に乘りて小田原に入り、今も尙ほ舊時の歡を更ためざる八棟作り外郎屋の邊より、折れて小田原城の殘墟に傍ひ、二宮神社を過れば則ち小峰公園、此の地高丘を繞らして地の夷らなること盤のごとし、丘に沿ふて皆な梅、大久保神社の危磴を登り石の珠垣の邊に凭つて騁望すれば、相模洋の瀾光晶々として前に在り、近く萬梅の花と相映射す、風趣また惡からず、丘背に茶亭あり、疎影横斜の間に床几を安排し、茅屋板椽、茶烟低迷す、茶を媒するに名物の漬物あり、値、酒を沽ふべし、淺酌の下物に魚醬あり、此の家、豐公の小田原征伐の配陣地圖を藏す、懸けて壁間に在り、石垣山の牙營に立つて篁竹の鞭を揚げ、遙かに包圍の軍を指點しつゝ被髮獨眼の人の膽を破りし豐公の風采を想ふて、坐ろに三百年の昔をしのぶの料となすに堪えたり

二宮神社の邊に、一株の松あり、里人稱して不淨の松といふ、承久の役、平宰相、京都より檻致されて鎌倉に移され、途此の地を過ぐ、偶ま將軍の敎書到る、終に此の松下に斬られしとぞ、碑あり、此のことを勒せり。

　小峰の梅は、地の溫暖なるが爲めに、大抵、紀元節前後に滿開す、往き觀るもの其の期を愆まるなかれ。

山家の曉雪

淋しとのみ、思ひ渡りし山里も、雪のあしたの曉こそ、いと艶なれ、一夜ふけゆくまゝに風しづまりて、さむさ唯ならず、庭の篁の、あやしう、音するに、何ならんと思ひつゝ、臥戸にいる、曉方につとめて起出で雨戸あけはなちて、外の方をみれば夜よりかけて雪やふりけん寒山枯木一夜の中に粧ひなり、目なれし景色も眺め新しく、光りきらめけるさま、畫も及ばじ、一條の青き里川、或は岸に、つゞける賤が家の、玉のうてなのやうなる。或はとりかこめる竹垣のたれたるさまなど、いとおかし、又氏神の丹塗の鳥居の雪つめる木陰より、見えたるも眺めよしや、かゝる時友人のこゝよかし。

など思ふ折しも表の方にて、のゝしらうこゑするにいでゝみれば、里の子らの雪合戦をなせるいと興あり。

（雪景畫のごとし）　山口なを子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家婢は如何に處分すべきか

寺田勇吉

△家婢の節減と其解放

我國中流以上の家庭に於ては、婢を雇ひ入れて飲食の調理、衣服の洗濯、内外の灑掃等を始め、殆と一切の家事を擧げて之に放任し、家婦は只袖手傍觀するのみにて、其の有様恰も婢は猶ほ家婦の如く、家婦は猶ほ來客の如き觀を呈するもの甚だ少しとせず、其の稍々富める者に至ては種々の名義を以て數人の婦女子と女中頭とを雇ひ入れて家事を掌理せしむること珍しからず、是れ今日我國普通の習俗として世人の毫も怪しまざる處なれども、吾輩は中流の家庭に於て婢を使役するが如きは寧ろ贅澤に屬すと信ずるものなり、然れば家事經濟上婢を雇役するの習俗は成るべく速に廢止するを以て策の得たるものと爲す是れ家婢解放節減の說ある所以なり。

△中流婦人體格の不完全

我國中流以上の社會に於ける婦人の體格を觀るに、纖手細腰にして蒲柳の質なるもの多く、其の脚力は脆弱にして馬車若くは人力車に乘るにあらざれば戸外への用を辨ずること能はず、其の手腕は纖弱にして力なく、其の眼は鈍くして光輝なく、其の顏色は常に蒼白にして殆ど病人かと疑はるゝもの少からず、從て其產兒にも不健全のもの多し此の如き病的體質の一大原因を察するに今日の所謂奧樣の尊稱を受くるものは、終日深閨に閉居して端坐するの外復た其の身體を動さず、其の手足を勞せざるに由るものなれば、之を療治するの便法は無用の家婢を解放若は節減するに在りと信ずるなり、無用の婢を解放して家婦親しく家事に當るときは、啻に家婦の健康を增進するのみならず、家事經濟上の裨益も亦實に渺少ならざるべし、今日の所謂家婢なるものは家事經濟上萬般の事項を處理するもの多く、家婦の手傳を爲すにあらずして殆ど全く家婦の職務を代理すと云ふも妨げなきに似たり、然れば今家婢を解放して家婦自ら厨に入りて飲食の調理を爲し、洗濯に立ちて衣服の洗濯を爲し、其の他衣服の裁縫、内外の灑掃、兒童の看護等に至るまでを一身に引受けん乎、家婦の一身は深室に閉居せしときの閑散に引き換へて繁忙を感じ、朝は夙に起きて炊事に從ひ、夜は深更に至るとも其日の跡始末を爲さゞるべからず、起床より就寢に至るまで種々用事相接して殆ど間斷なく、其心身を勞せざるべからず、從て識らず知らず身體を運動し手足を勞し、血液の循環を促すが故に飲食物は其の味を增し、痩せたるものは其の肉を增し、衰へたるものは其勢を復し、心氣常に快活にして憂鬱を覺えず、其の身體の健康を補ひ、羸弱を醫するの効果大なるものあらん、土耳其帝嘗て病あり、侍醫之を診察し一丸を獻して曰く、陛下毎日之を擊ちて身體に發汗を覺ゆるに至らんことを要す、若し能く之を怠らずんば陛下の病自

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ら塞へんと、蓋し其の原因運動の不足に起因することを知ればなり、我國中流の婦人の兎角虚弱にして鬱憂勝なるは皆士帝と其の病因を同ふするものなり、之を醫する對症の良藥は只無用の家婢を解放するに在るのみ。

△一ケ年百圓の經費を省けよ

工業の發達に從ひ女工の需用亦漸く其の增加を告げ、從來家婢に甘じたるものも、今や其の方向を轉じて工業に從事するもの多きに至れり、之が爲に下婢の拂底を來したると共に其の給料は益々高きを加へ少きも一ケ月二三圓を給せざるべからず、家婢一人を雇ふときは食料を通して一ケ月通例七八圓一ケ年百圓内外を要すべし斯る費用を投じて家婢を雇入れ一切の家事を之に放任するの結果は、日用飲食品の購入に貴分の高價を支拂ふの損失あり、加之飲食の調理も其の法を得ざること多く、或は空しく滋養分を喪失せしめ、或は不消化物たらしむる等の事尠からず、其他薪炭石油等の消費は不經濟にして、洗濯洒掃の不行屆等枚擧に遑あらず、是等を合せ考ふれば家事經濟上無用の家婢を雇役するの不利益にして、之を解放するの得策たるは何人も首肯する所ならん。

△下婢に萬事を任すは恥辱なり

然れども從來の慣習上家婢を雇役せざれば家庭の品位を下すが如く考へ、無用ながらも體裁上之を雇ひ置くものあり、又家婦自ら家事の處理に任ずるは家婦の面目を汚すが如く考ふるものあり、是れ亦大なる僻見なり、家事の處理を親らするは家婦たる者の天職にして、之を放任して家婢に代理せしむるこそ不名譽とも不體裁とも謂ふべけれ、何となれば家婢をして一切の家事を代理せしむるが如きは畢竟家婦が家事に通曉せざるを證明するものなればなり、然れば世の家婦たる者にして未だ家事經濟上の修練を積まざるものあらば速に其の修業に取掛るべきなり、曰く衣服の裁縫、曰く衣服の洗濯、曰く飲食の調理、曰く日用品の鑑定、曰く看病の心得、曰く育兒の方法等、一切の家事經營に關する必要の事項を練習せざるべからず、抑も女子をして獨立自活の生涯を送らしめんとするは女子の本性を沒却したる僻見にして女子の地位を高めんと欲して却て其の地位を下すの危險を包含するものと謂はざるべからず、女子の本性とは何ぞや、曰く人の妻と爲りて一家を處理し、人の母となりて子女を養育すること是なり、一家の處理子女の養育を完全に仕遂ぐるに於ては、女子たるの本分を全ふしたるものにして、男子の大功を立て、大業を成したると其の光輝を爭ふに足れり、彼の米國獨立の大業を成し、初代の大統領と仰がれたる華盛頓と、此の大勳業を立てたる偉人を養育したる母と其功績に幾何の差違ありや、吾輩は毫も之が輕重優劣あるを知らざるなり、現に家婦たる者又は將に家婦たらんとす者豈に全身全力を家事經濟に盡さゞるべけんや。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

△働らく習慣を作るべし

貴族を以て目せらるゝ上流社會、若くは之に準ずべき家庭は姑く之を論せず、中流の家庭に於て家婢を雇役するが如きは贅澤の至り不經濟の甚たるにも拘はらず、猶ほ之が解放を離するを恰も往時歐洲人が奴隷の解放に反抗したるが如きものあり、其の説に曰く夫婦兩人相對坐するのみにて其の他の係累を有せざる家庭に在りては固より家婢を雇ふを要せず、又子女の一兩名を有するも猶は家婢を雇ふには及ばざれども、既に三四名の子女を有するに至ては如何に節儉せんと欲するも家婦一人の力にては到底其の處理を全ふすること能はず、少くとも下婢の一人位は之を雇ひ入れて諸事の補助を爲さしめざるべからずと一應尤らしき説にして吾輩とても絶對的に家婢の使用を禁ぜんとするものにあらず、故に家庭の事情家屋の構造に依りては其の必要に應じ家婢を雇役して家婦の手傳を爲さしむるも固より可なりと雖も少しく工夫を費さば下婢一人位の働きは之を絞り出すこと難からざるべし、試に時間の節約に就て之を言はんに、毎朝起床時刻を少しく早むること入浴時間を少しく節減すること、理髮及び粉飾時間を少しく短縮すること、朋友相互の訪問等にも成るべく手輕に成るべく手短に切上ぐる様注意を爲し、他人の品評無用の談話等は之を避くることゝ爲さば、此等より餘し得たる時間にても家婢の半人位は之を減することを得べし、又家婢を雇ひ置けばこそ子女の爲にも種々の手數を要し、顏を洗ひ衣服を着け、學校用具の出納等より下駄の掃除、靴、紐の解き結び等に至るまで他人の手を煩はし、子女は恰も人形同樣たるに至るべし、故に此等の子女は年齢に應じ成るべく自身の始末は自身にて之を爲さしめ兄若くは姉をして幼弟若くは幼妹の世話を爲さしむるの方針を取らば、此等よりも家婢半人位の働は之を節するを得べし、故に家婦の心掛如何に依りて家婢一人位を節するは大なる難事にあらざるべし、若し夫れ用事の蝟集して手廻り兼れたる場合に於ては臨時雇人を使用するも亦一個の便法にあらずや。歐米諸國の家庭に於ては家婢を雇役するものは甚だ稀有にして、子女の四五人乃至七八人を有する者にても多くは家婦一人の手を以て之を處理して、甚だしき繁忙を感ぜざるものゝ如し其の少しく心掛のよき家婦に至りては、家計整理の餘力を以て宗教、教育、衛生、慈善等公共の事業に奔走周旋する者も尠からず、亦以て彼等の家政整理の手際よきを推知するに足るべし、而して彼等が能く此の如き餘暇を得る所以は畢竟時間を節用するの結果なり。

抑も家婢なるものは手足を勞して相當の收益を得る一種の職業たるに相違なしと雖も、國民經濟上より之を觀れば純然たる生産事業に從事するものと其の性質を異にするが故に、斯る種類の人口は寧ろ減少するを以て幸福なりとせざるべからず、歐米諸國の實例に徵するも家婦たるものは成るべく速に自身家事を整理するの勞を執らし、又婦女子をして家婢の境遇を脱して他の相當なる職業に從事するの機會を得せしめんことを要す、是れ實に國民經濟の發達に資せしが爲なり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

庖厨

季節料理　惣菜百珍

菅原倭翁

◎近來料理法の研究益々盛になつて家庭向の雜誌には専門家の話の掲げられざるはなく、本邦料理の外に西洋料理あり、支那料理あり、朝鮮料理あり、和洋折衷より、日、清、洋のチャンポン料理に至るまで愈々出でゝいよ〳〵珍を極め、未だ一箸にも及ばずして已に滿腹せんとする氣味もなきにあらず。

◎玉子の百品、豆腐の百珍、豚、牛乳の幾百通りいよいよ出でゝ、愈々珍なるのみならず味淋何勺、煮だし幾合、醤油何勺、味噌幾匁、煮沸何分時間……今日では量、衡、時計は臺所必用具として一日も缺くべからざるものとなれり。

◎随て臺所の混雜は想像の外にて、すきやき鍋はフライ鍋と鉢合せ、ナイフは出刄庖刀と衝突し、箸とホークが雜居すると云ふ始末なれば、たゞさへ狹き日本風の臺所は益々窮屈となり、其處を程能く整理するものは中々の敏腕家ならでは叶ひがたし。

◎さて臺所に和洋兩樣の設備をなし、バタや味淋を常用する庖厨は上等社會、専門のコックや料理番の一人位は常備し措ける家庭ならでは能はざることにて、到底百圓以内の月收の世帶では眞似の出來べき話にあらず。

◎されど生活の度の低きだけそれ相應に一方には天與の幸を享くべし、彼の價のみ貴くしてたゞ未熟なる季節外れの食品を貪るの愚に落ちず、その季節々々に最も圓熟したる而も最も安値なる食品を得るの仕合せあり。

◎されば鯛は麥稈鯛とて麥秋前後所謂る魚島の季節には一般食膳に上すことを得れども、平素は中々に手出し兼ぬる食品なれば、鯛の料理法研究より寧ろ日常臺所へ提供されつゝある鰯や鰊の食方を習ふが實用に適す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

べし。
◎常に八百屋の店に有り觸れたる材料を以ていろ〳〵の器物はなくとも間に合せの器物にて手加減をよくし味淋の代には砂糖にても、バターの代には胡麻の油にても、それ〳〵程能く鹽梅を加減して何時も甘く喰べさせて飽かしめざるは、厨婦の伎倆なり。
◎さて鹽梅の能き程とは一に厨婦の舌頭にて加減せらるゝとなれば、辛い甘いは人にもよれど家族の多數より水くさいと注意さるれば少し鹽からく仕立て、辛いと評さるれば鹽味を控目にする樣に心掛くれば、調和はさほど六ケ敷からず。
◎殊に女子が嫁して初めてその家庭に入りても、翌日から直ぐと臺所を受取つて厨婦の役目を自らするなどは夫婦さし向ひの世帶なり、大抵は花嫁子として十日二十日は部屋住ひが一般の習ひゆゑ、その間に供せらるゝ膳部に注意せば、一家の嗜好が自分の喰鹽梅と比較して辛酸、濃淡いづれにあるかを知り得べくして容易に新家庭と調和すべき惣菜の鹽梅を加減し得らるべし。
◎そも野菜にまれ、乾物、肉類にまれ、日常得易き季節季節の材料を採り、それ〳〵本來の味ひを達せしめばそれにて足れり、されば心掛次第にては、一と品六錢の原料を撰み二三十錢を出さずして八珍を列らべ、晩餐に主人公をして陶然たらしむることを得べし。

△京菜のはり〳〵

一月末頃から三月初旬迄がその喰頃なり、霜や雪に虐られながら肥え蔓りフサ〳〵としたる若菜の萠え出でたるさま中々に嬉し、鹽漬、ひたしもの、其他油揚などゝ共に煮て食ふなど其用法種々あれども、本來の美味を賞せんにははり〳〵に限るべし、拵方は先づ京菜の株をほごして塵や枯葉を除き能く水にてすゝぎ、約一寸位に切りて笊に上げて水氣をきり措くべし、それより鰹の煮だし汁を十分に拵へ程能く醤油と砂糖とにて味を付け、瀬戸引鍋など成るべく煮沸し易き鍋にて煮立て措き、一同食膳に向ふ頃を見計らひ、煮立つたる鍋へ先きの青菜を入れて一寸蓋をなし、その煮

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

立つを待て蓋を去り一二度グラ／＼と煮へ反へるを度として網杓子にてすくひ上げ椀に盛りて出すなり、其後は前の如くなしてお代を拵ふべし、温き内に食するをよしとす、シャキ／＼と歯切して一種の風味あり知らず／＼量を過すべし、大株三四錢のもの一株もあらば一家三人位の家内には優に晩餐のお菜には餘りあるべし。

△蒸　玉　子

玉子を旨く喰せるは蒸玉子に限るべし、玉子を破りて能黄味と白味とかきませて、繼子とならぬ樣注意し、次にそのとき玉子と同じ量位の煮だ



しを入れて再び能くかきませ、煮出しと玉子の一致するを見計らひ鉢に入れ蒸籠の中にて蒸すなり、斯くて蒸上りたるときは温き内に金杓子にてすくひ取りて椀に盛り、葱を未塵にきざみて上に振りかけて出す、如何なる玉子嫌いの人にでもお代りを處望するを請合なり。

△蘿蔔のふくら煮

大根料理中にて風味のよきはフクラ煮に限るべし、拵方は大鍋の底一面にだし昆布を敷きその上に大豆を少し加へ、煮だしには鰹節よりも煎鰯、又は鯡を良しとす、蘿蔔は薄皮を剝ぎ三四分位の厚さに輪切となし鍋一ぱいに入れて永く煮るなり、煮

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

詰れば汁をふやし三四時間も續いて煮た上にて程能く味を付けて食ふ、二三日措きて味も變らず、又每日の食膳に上せても飽かせず、喰はせる處が妙なり。

△胡蘿蔔煮〆

胡蘿蔔は一種の香氣ありて人に依りて好き嫌あれど、猪肉との取合物には此上に出づるものなし、じかも本來の美味を賞せんには煮〆に限る、先づ薄く皮をむき五分計の厚さに輪切となし、その強き香氣を去る爲に最初水煮してゆで汁をすて、次に酒しほと煮だしにて文火にかけ緩る／＼と氣永く煮るべし、急ぐ時の間に合はぬゆゑ長火鉢などの火の明きある時分に、豫め仕掛けるをよしとす。

△牛蒡の煮〆

牛蒡も亦殆んど年中食膳に上る野菜の一なれども、寒季になれば皮牛蒡とてその食用にたゆる部分は皮計りとなりて風味大に損し、又夏季には新牛蒡が出初むれども、未だ細く肉入らずしてたゞ軟きまでなり、秋の末霜下る頃に至つて本來の風味を生ずるものなれば、その候が食頃なり、その用法は笹がきとして鰌鍋に配せられ、鰻と出合ひて八幡卷の原料を供し、又鳥肉、獸肉と共に用ゐて惡しき所なし、その内にて煮〆は取分け上品にて旨し、その煮法は先づ黑き表皮を庖刀の背にてこさげて除け。五分位の厚さに輪切又は斜に矢羽形にきり、一夜泔水（米のとぎ汁）にひたし置き、最初一寸湯煮して灰をぬき、鰹節の煮出しを入れて文火にかけ緩／＼と煮るべし、此時早くやはらかくなさんとて重曹を入るゝものあれども、甚しく風味を損するが故によろしからず、その後は胡蘿蔔の煮〆と同じ樣に味付くべし、老人が齒くぎでおさへても壞るるまでに軟くなるは妙なり。

△たゝき牛蒡

又牛蒡の眞の風味を味はんとならばたゝき牛蒡に限るべし、先づ牛蒡の薄皮を去り、二寸位の長さに切り、太きものは竪に二つ割、又は四つ割となし、一夜白水に浸して晒らし、能く洗ひて水氣を去り、煮立せある鍋の内に入れ四五回ぐら／＼と煮反へるを度として取

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の中へ打ちあけ、湯を切りて胡麻醤油の中へ入れ能くしみ込むやう幾度も打返へしてあへ、暫く蓋をして置くなり、斯くせば天然の香氣を失はずはり〳〵と歯切れよく風味云はん方なし、ゆで方が過ぐれば軟かくなりて歯切れせざるものゆゑ、ゆで加減は最も大切なれば決して注意を怠るべからず、若し胡麻醤油の代に酢を用うれば酢牛蒡となるなり。

△蕪の風呂吹

蕪も亦秋末より冬にかけて最も良き野菜の一なり、その當座漬物用としては年中の重寶なり、さて風呂吹には徑四五寸許りもある眞白き鏡餅大の天王寺蕪を採り、頭と尾とを切り去り竪に四つに切り蒸籠に入れて蒸せばよし、その極軟らくなりたるを度として蒸籠より出し、胡麻味噌を付けてその温きところをフー〳〵と吹きながら賞味するものとす、大根の風呂吹も宜しけれど、其甘味強く且つねばり氣ありてモチ〳〵と味の好きは一等なるべし、胡麻味噌の拵方は、胡麻を煎りて擂鉢にて擂りつぶし其中へ味噌を入れて擂り交ぜるなり、味噌には少し白砂糖を加ふるがよろし。



△小松菜の鶯あへ

小松菜は十一月頃より出初めて三四月頃まであり、塔の出でざる内が食頃なり、その用法もいろ〳〵あれど鶯あへに及ぶものなし、先づ根を切り落として赤葉を去り、よくあらいてゆでるべし、若しゆで過ぐれば其色赤くなりて頗る風味を損ふ恐れあるゆゑ、莖柄のやわらかくなり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

たるを度として水に放なし、水を幾度もかへその冷むるを待つて絞り上げ、小口より極細かくきざみ兩掌に握りて堅く絞り摺鉢に入れて摺るなり、その時揉みやう荒らければ纖維が摺り切れずして能く味噌と混ざらざる嫌ひあるべし、菜の細かにすりつぶるゝを見計らひ、豫め作り置ける胡麻味噌にてあへるなり、廉價な惣菜とて馬鹿にはならず。

△根三葉芹のキンピラ

三葉芹は四五月頃が食頃なり、而し暖室仕立にて一月頃より八百屋の店頭に出づれども本來の風味には乏し、浸し物又は汁の浮きに用ゐる位に過ぎず、されど期せざる珍味を廢物の内より賞味せしむるは厨婦の丹誠なりとす、即ち彼の捨つべき髯の如き三葉の根を取揃へ能く洗ひて屑を去り、約一寸位に切り一寸胡麻の油にていため、鰹の煮だしにて煮、少し辛く味を付けて出す、多く食するものにあらねど香氣高く云ひ難き風味あるものなり。

△蒟蒻の田樂

蒟蒻は年中食膳に上り、子供も老人も皆好嫌なく食用する調法なる食料品なり、その料理法も種々あれども第一は田樂なるべし、その拵方は至極簡易にして、先づ能き程に切り湯煮し、充分ゆだりし頃引上げて味噌を付け、冷えぬ内に喰ふものとす、味噌は細かに摺りて白砂糖少し許り加へ一寸火を通し置けばよし。

△蒟蒻の白和

蒟蒻を一寸位に切り短册に刻み、ゆでゝ後ち味を付け、豆腐にて和へるなり、豆腐の拵方は、豆腐を布ふきんにて絞りて水氣を十分に去り、煎胡麻の粉と摺りまぜ餘り堅だければ酒を少し入れて軟らぐ、蒟蒻の外に大根、胡蘿蔔、蓮などを交せるもよし。

△鹿角菜の油揚

ひじきは海草の一種にして四時常に臺所へ提供せらるゝ食料品の一なり、一度ゆでて販き居るゆゑ、一寸ゆで直して揚豆腐を細に切りて交せ、少し甘加減に醤油と砂糖にて味を付け、晩餐の一皿を作るなり、此の植物は古來婦人の血の病に特功ありとの言つたへあり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

續けて試してごらんあるべし。

△あんかけ豆腐

豆腐は豆の精で、消化よく滋養に富める第一食品とのと知れ渡りてより追ひ〱その食法を研究するもの多く、既に百通りの豆腐料理が案出せられたり、併しながら豆腐を味ふは一に煮加減に依るをなれば、その度を誤らざるが料理の上乘なれば、玆にあんかけ豆腐を進むべし、湯豆腐なども斯道の好者には歡迎せらる丶法なれど、ドウカすると煮過ぎて堅くなる恐れあり故に採らず、さてあんかけ豆腐を味ふには先づ絹漉一丁を三個位に切りて水に放し置き、一方には鍋に湯を煮立たせて其中へ能き程づ丶、件の豆腐をすくひ入るゝなり、如何に煮沸せる湯にても豆腐は一旦は鍋底に沈むものなれば、暫くしてその上に浮み上るを度としてすくひ上げ、あんを掛けて出すなり、柚の皮をおろして添ゆべし。



若しぐつ〱して二三度もぐら〱と豆腐の煮反るまで打遣るともあらば、甚しく風味を損じて豆腐の眞味をあぢはふを能はざるゆえ夢忘るべからず、次に餡の拵方は鰹の煮出しに程能く味を付け葛粉若しくはかた栗粉を少し水にて解き加へ、一寸火に掛ければよし、餘り餡の堅きはよろしからず。

△蓮根の煮〆

蓮根も年中供せらるゝ惣菜の一にして殊に八月末より九月にかけて出初むる新蓮は軟くして風味最もよし、一寸ゆでゝ皮を剝き二三分の厚さに輪切又は矢形に切り、鰹の煮だしにてザット煮、味を付けて出す、齒切れよく淡泊にして晩菜には過ぎたる方なるべし。

△あちやら漬

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

蓮根、大根又は蕪、胡蘿蔔いづれも薄く皮をむき厚さ二分位に輪切として、湯を煮立たせある鍋に入れぐら／＼と二三度煮反るを度として笊にあげ、汁氣を去り冷えぬ間に三杯酢に漬けるなり、生の菓子昆布を長さ一寸乃至一寸五分、幅五分乃至七八分位に切りて共に漬け置かば風味を增し、又小さき梅干を加ふればなほよし。

△菠連草のひたし

菠連草は冬より春へかけて調法なる菜なり、ザットゆでゝひたし物となし、ひねり胡麻にて食す、さて少しゆで過ぐると忽ち色赤くなりて風味を損すべければゆで加減に注意を要す、又永く水に放ち置くときも色退せるゆゑ、堅く絞りて水を切り置くべし何時までも美色を存す、是れ秘訣なり、一般菠連草を使用するは葉尖一二寸位に留り他は打捨る習ひなれども、其甘味強くして旨きは葉莖にあるべければ決して捨つべからす、殊に春先き薹の出掛け頃にもならば一層風味よろしきものなり。

△里芋煮ころがし

里芋も同じく年中臺所に提供さるゝ食用品の一なれども、芋名月と稱へらるゝ如くその食頃は矢張九、十月の候なるべし、其頃ほり立ての澤々したるものを取り皮を去り、湯煮してぬる／＼を除き、鰹の煮だしにて少し鹽からく味を付け、その汁を煮詰むべし。

△蕪の味噌汁

矢張り鰹のにだしにて少し濃く味噌汁を仕立て、蕪を大きくはやして入れべし、蕪の軟く熟したるを度として、煮胡麻をふり掛けて出す、捨て難き風味あり。

△大根のおから汁

同じく鰹の煮だしにて味噌汁を仕立て、卯の花及び大根の長さ一寸許の短冊にきざみたるを入れて作る、大根と大豆は能き取合せものにて何處へ持ち行きても中々に甘し、酒の二日酔には此汁に限るとあり。

△わかめ汁

是れも亦鰹の煮だしにて濃く仕立て、わかめの水に漬けたるを程能く切りて入るべし、蕪汁、大根汁と異

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

りて一種の風味あり、殊に大根、蕪のなくなりし頃には最も珍重せらるゝの價値あり。

料理

筆記帳（一）

石井泰次郎

料理の拵方を何くれとなく記すにつけて、其拵方のいひたらぬ所を聊か補ひつゝ、先料理習ふ人々の試むる便に、すこしは成べしと思はるゝ程に（充分とはいかず）書きたるもの、即ち此筆記帳なり。



◎難波津のこしらへ方

小梅の白砂糖漬なり、まづ梅の花ざかりの後に、梅の實の豆粒位になる日に取て、一週間水に浸し置て、（水を替へ〳〵して漬置く）後に鹽づけにして三週間ほど經て、鹽汁をすてゝ、白砂糖に漬おきて使ふなり。

○なにはづに咲やこの花冬ごもり、といふ歌のこゝろによりて、壺に籠たる、雪の中の梅を出してつかふなり。

◎與福寺拵へ方

黒き衣かけたる田樂なり、田樂に豆腐を切形して、竹串の平削したるにつらぬきて、水氣を切りて、甘き味噌四十匁を擂盆ですりて、馬尾篩で裏漉にかけ、鍋に入れて、黒ごま一合を炒て、すりて加へ入れ、三

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

盆砂糖二十五匁を加へ、味淋三勺、水二勺加へて。炭火にかけ木杓子にて煉る、煉り中塲にして、胡麻の油一勺ほど加へて煉り上げ(どろりとすればよし)、是を刷毛にて、豆腐にぬりつけて、豆腐を火にかけて焙るなり。

○興福寺といふは、南都にして、田楽舞の名蹟なれば、黒き衣を寺僧として、田楽をも合せたれば名づけたるなり。

◎春の海邊　こしらへ方

蛸の肴なり、たこを能く洗ひて、細庖丁刀にて皮といぼを引とりて、三枚つなぎ位づゝに切て、鍋へ入れて(たこは初に塩をつけて能く揉洗ひたるを用ふ)から鍋の焼たるに入れ、蓋をして煑る、含みたる塩出るなり、さて蛸を取上て、あとの汁に、味を加へて、(堅魚煎汁、醤油少し、酒など)器にたこを盛て、此汁を注ぎ入れて出す。

○春の海邊といふは、潮仕立の汁に、凧の取合せあるによりて付たる名なり。

◎雙が岡　こしらへ方

これは牛蒡の味噌和なり、牛蒡の皮を洗ひて、庖丁刀の背の方にてこそげて皮を削り、あとを鉋にて細く薄く削りて水に漬てさらして、湯鍋に入れて、湯煑して、笊へ取上置、山椒の葉(木のめ)を摘て摺盆で摺たるを、煉みそに(白き煉みそなり)合せ入れ、この中に右のさゝがき牛蒡を入れて和るなり。

○雙が岡と名付しは、牛蒡を長くも短くもかき取りて、山椒の葉の味噌にて和たるを、吉田兼好が徒然草かきし、雙岡の意によせて名づけたるなり。

◎夜の梅　こしらへ方

煑染にんじんなり、胡蘿蔔の太きを二寸位づゝに切て、皮をむき湯煑して、榧の實を小口切にしたるを、其にんじんの心を錐ぎりにて、くり出したるあとへ詰めて醤油と砂糖と、塩にて味をつけて煑染て、二分位づゝに小口切にして出すなり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

おなぐさみ

私はこゝにお座興として小禽の採取法を申しませう、第一は雀でございますが、これは極めて簡易で道具も何も要りません。それは、手首を墨で真黒に塗りまして、障子から外へスッと出すのです。そしてその手掌の上へ米を散らかしておくのです。すると軒の雀どん、「よいお盆の上にお米が澤山載せてある、何よりの御馳走だ」といふ調子で、掌の上へ下りて来るのを、何の事はない、ぐつと締め殺しては手許へ取り入れ、またもとの通りまどから手を出して居るのです。此の方法でれやば十羽二十羽取るのは何の雑作もありません。それからもう一つの方法ですと大道具が要ります。まづ一つの大きな穴を掘りまして桶を埋めるのです、いや其の桶の中へ一自分が一つの銅を持つてはいつて、そして人に其の上から土をかけて埋めさすのです。無論ゴム管か何んかで、息の通ふやうにしておくのです。そして其の桶の上にあたる處へ澤山な米を撒いておく。すると例の雀が見て、これは思ひも寄らぬところに好い餌が散らばつて居る。幸ひあたりに人もなし、今の間にと、三々五々うちつれて地上へ下ります。桶の中で耳を澄して聞いて居るとポツ／＼雀の聲が聞える。もう十羽位は集つて居るだらうか、今暫く待てと思うて居る中に、段々とチユ／＼といふ聲が殖えて来る。よしもう五六十羽も集つたらうと考へるころに、だしぬけに彼の銅を鳴らすのです。雀どもは驚くの驚かないので、足元で銅が鳴るのですもの、皆々吃驚して早腰をぬかしてしまつて、飛ぶことも歩むことも出来ないのを小口から捕へるのでございます、次は鶯の捕獲法ですが、鶯といふものは、價もよく賣れるものですから、之を捕獲するには、大分資本を投じればなりません。まづ第一に必要なのは、よい梅の木です。枝振りもよし花も多いし香も高いのを一本植ゑ付ける。その樹下へセメントで小さな泉水をこしらへて、そこへ味淋酒を湛へておくのです。すると鶯は方々から友を語らうて其の梅の枝へ来て、節面白く囀ります。その中にあまり囀りくたびれて喉が渇く、どこかに、水がないか知らんと思つて、あたりを見廻すと、幸ひ其の下に泉水がある。これはあつらへむきだといふので、下りて行つて一口、否一と嘴飲んで見ると、甘露甘露、皆の衆まことに結構な水だ、まあ一服して飲んで見なさいといふので、皆々その泉水を飲みに下りる。それに元氣づいて、また枝へ上つて囀ると、また喉が渇くから、また下りて飲む。その中に鶯はすつかり味淋に酔つてしまつて、呂律も廻らなくなつて、終にはうつら／＼と眠り出して、枝から、ころり／＼と下へ落ちる。それを何の造作もなく捕獲して籠の中へ入れておくと、酔が醒める。何と妙案でありませんか。（もみぢ）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

箏曲談

東京音樂學校教授　今井慶松

慶松は、山田流箏曲の名家にして、箏曲界の泰斗山勢松韻の高弟なり、曩に山勢氏の歿を以て東京音樂學校を辭するや、慶松氏其跡を襲ぎて、教授に任ぜらる。左に記すは即ち其談話なり。（記者）

▲日本音樂の缺點▼

日本の音樂には、拍子の變化と云ふものが甚だ缺乏して居ります。喩によつては、それが殆んど無いと云つても可い位です。西洋音樂に比して劣つて居ると云はれるのは、即ち其點に在るので、箏曲にしろ、長唄にしろ、在來の曲と云ふものは、全く單調に出來て居ります。夫れと云ふも、元來歌其者が單調で、情よりも景の方を歌つたものが多くでして、現に箏歌の如きは、月の前の興とか、花の下の舞とか云ふ樣な、孰らかと云へば、景色を主とした歌が多數ですから、拍子も自然と單調に流れて、波瀾と云ふものに乏しく、變化の妙を缺いて居るのでありませう。

されば、之が、日本音樂の一大缺點でありますから、是非改良を圖られねばなりませぬ。夫れには、無論充分に研究を重ね、斯道熱心の同志を得て、共々に力を盡したいものだと思つて居ります。而して其缺點を補ひ、拍子に變化を有たせて、波瀾あるものとし、段々と改良して行きましたなら、遂には西洋音樂に劣らぬ程の、大きな音樂とすることが出來やうかと思ふのです。

▲强聲部と弱聲部▼

西洋の音樂には、强聲部と弱聲部とがあつて、即ち重音式に出來て居るから、從つて拍子に變化があつて頗る面白く、聽人に强く感動を與へるのですが、日本の音樂は、箏曲でも三絃でも、元々其組織が强聲と云ひ、弱聲と云ふことに重きを置かないであります。ですから單音式に出來て居て、西洋音樂の重音式に較べると、興味が尠ないです。

尤も、全く强聲と弱聲の區別がないではありません、箏でも三絃でも、强く彈く處もあれば、弱く彈く處もある、箏ならば、拇指で彈けば一番强く鳴るし、中指で彈けば稍弱く、食指だと一層弱く響く。三絃の方では、强く彈くことを掬ふと云つて、撥の扱方に依つて、弱聲と强聲との別はあります。だが、何れも西洋音樂の樣に、學理的に、此處は强聲部、此處は弱聲部と、實際に於て一定して居りません。ですから箏にしても、拇指で强聲も彈けば、中指でも亦强聲を彈くと云つた樣な工合で、判然とした區別が立つて居りません。

西洋の音樂と共に、今後進んで學んで行かうと云ふには、何うしても先づ强聲部と弱聲部とを作つて、それを研究し、改良に改良を加へて行かねばなりませぬ。從來の箏曲は、前にも申しました如く、拍子に變化の妙がなく、誠に單調に出來て居るから、譬へて言ふと、晴れた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

音ばかりで曇つた音がない。其處に曇つた音を入れると云ふことは、何うしても必要で、然うすれば、晴れた音は一層引立つて來る。丁度派手な扮裝をした人の中に質素な扮裝をした人が加はつた樣なもので、派手な扮裝は、それが爲めに愈よ引立つ、また質素な方で判然と目立つ。即ち此處に面白味を生じて來るのです。

斯うは申すもの丶、從來の箏曲が全然興味索然たるものと云ふではありません。西洋音樂の樣に、機械的でなく、其單調な處に自然の美を發揮して、却つて優美な一種特別の趣味を有つて居ります。けれども、一方に學理に適つた完全な西洋音樂があつて見ると、此方の箏曲の單調で、甚だ幼稚なことが能く知れて、何うしても此儘で滿足して居る譯にはまゐりません。

拍子に波瀾があつて、即ち變化の妙があると、何程聽いても飽きが來ませぬが、單調であると云ふと、忽ち飽きて來る。其點に於て日本の音樂は一體に西洋音樂に劣つて居ります。西洋の音樂には、音にも三重音の四重音のとあつて、誠に變化に富んで居るが、我箏曲の如きは、元來樂器も歌も單音式であるから、幾人寄つて演奏しても、悉く同一の音でありますから、何うも面白く行かぬ。ですから、之れを改良するには、歌ふ方にも勿論一工夫せればなりません。夫れは如何したら可いかと云ふに、男は調子を低くし、女は少し調子を高くして、同じ調子で歌はぬやうにし、三重音位にしたら能く調和して、面白く行けるであらうと考へます。

▲所謂本手と換手▼

西洋音樂は、メロデ即ち唄の手にハーモニーが副ふて、總て重音式になつて居りますから、前にも申す如く、拍子に變化があつて、頗る面白く、從つて聽人をして強く感動せしめるのですが、日本の音樂は、箏曲にしても、三絃にしても、西洋音樂の樣な組織の出來て居らぬのは、誠に遺憾です。併し箏曲にも三絃にも、換手と稱するものがあつて、本手即ち唄の手と合はせることがないではない。斯うすれば隨分面白くもあり、從つて人を感動せしめることも頗る強いが、之れは誰でも出來るものでありません。名人とか上手とか呼ばれる程の人のすることで、全く其人の藝だけの力で以て、曲の單調な處を補つて、面白く聽かせるのです。俗に此換手を彈落彈とも入手とも云ひまして、元々彈く人の手腕に在る手ですから、それを下手な者が眞似ると、却つて打毀して、曲の趣味を殺ぐやうなことになります。

▲聲と手との調和▼

乃で、私は、今申しました所の換手を學理的に研究して、西洋音樂の樣な工合にしたいと思ひます。夫れには西洋音樂の方で研究する和聲學を、箏曲にも應用して、聲と手との調和を考へると云ふことが一番であります。例へは、松竹梅の曲なら、在來の曲の儘では單調であるから、之れには何う云ふ入れ手をしたら可いか、と云ふ樣なことを研究するの

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

で、目明の人には譜を書かせ、盲人には其考へた通りを彈かせて見ることにし、斯うして研究を重ねると、入手をしてもそれが學理的になつて、自然と例の打毀しが無くなる。此研究は一般の箏曲家に望む所ですが、今後私の處の門下の人々で、本業程度に達した時には、實地之れが研究をさせるつもりで居ります。

▲今後の箏曲▼

私が兼ての希望なり意見なりは、以上申述べました如くで、箏曲は何うしても今の儘では行かぬ。何うしても改良して、西洋音樂に劣らぬものとせねばなりません。從來の箏曲とても、拍子の緩急には多少重きを置かないではありませんけれど、前にも申した如く、何分にも肝腎の強聲部と弱聲部との別が立つて居りませんものですから、之れが大なる缺點です。されば先づ此缺點を補ふの方法を研究して、箏曲特有の妙趣を破壞せぬやうに、納りそれを土臺に置き、拍子に波瀾曲折を設けて變化に富めるものとし、從來の單音式を改めて、重音式にしたいと云ふ希望であります。

▲自家の作曲▼

私の作曲したものは、今日までの處、總て十五六位です。其中にも「四季の調」と云ふ曲は、全く曲だけで四季の趣を現はしたもので、唱歌がありません。私の口から斯う申しては如何ですか、從來日本の音樂には、斯う云ふ作曲はありませんです。今後尚ほも進んで、歌がなくして景色なり人情なりを現はすべき曲を作つて見やうと思つて居ります。最近の作曲は、鍋島侯爵の作歌「大和心」と云ふので、之れも可なりの大曲であります。

▲樂器の改良▼

箏曲を改良すると共に、箏其物にも多少の改善を加へたいと云ふ考へで、昨今種々と工夫中でありますが、大體の考へを申しますと、ピアノの様な工合に、高く臺となるべきものを作つて、其臺の中には針金か板金かを張り、絃の能く響くやうにしたら可からうと思つて居るのです。處で、針金にしたら可いか、板金にしたら可いか、之れが第一の考へものでありますし、其他にも未だ少々考への附かぬ所もありますが、何れ遠からずして、一つ試驗的に製造して見やうと思つて居ります。

▲常磐會▼

私の處で、今回常磐會と云ふ會を設けました。之れは箏曲研究の目的で、毎月第三の日曜日を開會日と極めて、箏歌、彈法、體の構へ等總て斯道研究者の爲めに、講話もし、實地にも應ずることにしまして、會員は社中に限ると云ふ譯ではありません。何方でも希望の方には入會を許すことにしてあります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



眼前の戒め

元祿姉さん

◎百鬼夜行

わざと追ひ越して振り歸りながら、前から眺めて後から眺めて、はあて、まあ美しい女と、つく〴〵感に入つて、ほつと吐息すれば、稍々急ぎ足の書生二人、行き合ひがしらばつたりとすれ〴〵。

やあ素敵！

流石に小聲。

妙に氣取つて肩と肩、一人はそは〳〵と笑談らしく、ほい、ミスビウテイー。

相手はぎよつとしたらしう、止せ〳〵と手で制しながら、虎穴に入らずばだねえ君、と女の顔を覗き込むで、何が可笑しきか四邊忍ぶ樣に頸を縮めてにやりと笑ふ、行り過ごして、餘りの氣味惡さに小戻りすれば、霜夜の小路を七日ばかりの月影白う冱えて、夜嵐さつと香水の香艶に、冬の風は切れる樣に冷い。

其らね、一い二う三いと四軒目の何よ、二階建の彼れ、貴女分つて？　ほゝ今しがた這入つたでせう。

いゝえ何よ下宿屋じや無いんですわ、素人屋なんで御座いませう、だけど、彼れじやあ眞實手が着けられ無いわ、眞箇に仕樣が無いのね、慥か神田の一つ橋邊

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の女學校へ通つてる女だつて云ふんですよ、其れや毎日のこつてす彼樣にして二人や三人、ぞろり〳〵と丸でもう彼れです。

併し美い容色でせうと、友は卑しむ樣に苦笑した。

自分は其の時不圖這麽事を連想した、嘗て自分が去る私立の女學校へ通つて居つた頃、自分とは科が違ふけれど一年上級の生徒に、而も自分とは同鄕だと云ふ評判の美しい才媛があつた、學生には似げ無き縞御召の被布に何やら名も知らぬ重ね着の裾重たう、しつとり、風にも雨にも犯されでか其の頃二十の顏貌神々しき迄美しい、時には桃割れ等の可愛う、時には庇髮等の品善う、如何にも弱やかに女らしく閑雅で、誰が目に見ても夫れは惚れ〳〵する位であつた、だから自分のみならず誰れでも、屹度深窓の中に生ひ立つた由緒ある大家の令孃であらうと然う信じ切つて居つた、處が豈圖らんや、之れには甘ま甘まと一杯喰はされて居つたのである、事實の眞相が某新紙に依つて端無くも素つ破拔かれた時には、呆然として開いた口も閉がらぬ、成程人は見掛けに由らぬものだなあと、つく〴〵感心した、けれど其れでも有り難い事には學校でも氣を利かして、煙の上がる處必ずしも火ありとは斷ず可からずとの例の論法から、兎に角一時揉み消しに盡力して與れたので、お蔭で我れ〳〵千に餘る生徒の沽劵も下落させずに濟んで大きに助かつた樣だけれど、飛び火か知らず御行の松近う、見越しの松に舟板塀とは聞いた丈でも乙な家搆へ、月夜は況して深夜の暗を爪彈きの其れならでヴァイオリンの音細う、怪しや道行く人の足も空にするとや、之れ丈位のお役ならば、新橋邊りのにでも烏森邊りのにでも事足るものを、可惜一世の女學者、なんぼ何でも旦那の前では家政學のお講義も出來まじ、幾ら旦那の御所望よし在せしとしてからが、實踐倫理の受け賣りは猶の事調和が取れまじ。萠え出づるも消ゆるも同じ野邊の草、恨みは同じ嵯峨野の奥の秋風も、粋な二十世紀式此處ばかりは御無用に御座る。

ハア忘れても女の子には學問ちうものを屹度させる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

もんでがんす、聞けば娘も幸福と甚らえゝ處さ縁づいて、今では馬車にも乗りますさうなと、何事も知り玉はねえばこそ勿體無や、郷里では佛の様な母御の得意、だつて學問と云つた處で此の節お金が無くつちやあと態と揶揄へば、東京さ行けば御前様……。

ちよッ面白くも無い、善い加減になさいませだと、何と無しに自分が馬鹿にでもされた様に、いら／＼して突然に呟けば、友は何の事とも氣附かでか、眞個にさと無意識の様にから／＼と笑ふ。

見歸れば二階家の四枚障子、影法師三つららりと淡う。

◎新婚消息

南天の實名殘無く散りて、冬は小椽の端居寂寥しう、物思ふ身には之れも仲々捨てがたき風情におわし候、斯かる時斯かる折一入昔懷かしうのみ流石に覺え參らせ候。

近頃とんと御無沙汰致し候等と書き起しながら、何の事だかつまら無い、物思ふ身には昔懷かしいも無いものだ。

阿方様の思召し給はん程もお恥かしう候へ共、妾も不圖した事より飛んだ結婚を致し候。

だから困る、今のお若い方は之れだから大に困る、結



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

婚を何と心得てるのであらう、飛ぶの飛ばぬのと結婚に然う無暗矢鱈と羽を生やしたら其れこそ大變、何の事は無い羽の生えた結婚の鉢合せ、世の中は闇黒にならう、ほいと來たさの北山時雨、濡れぬ先こそ露をや厭ふ時雨をや嫌はん、雨も降れなら正直風も吹いて頂戴な、這麼程なら走れば小犬も棒には當り鉢の、眞つ平御免候へで大道濶歩、眞中通れば如才も糸瓜も無き筈を、公德の何のと不快い顔して査公左側の勵行はし給はじ。

良人は例の氣象、ねつから私を搆ひ附けては呉ず、思ふ樣に自分の仕事の出來ぬとては、ぷり〳〵と私に八つ當りに當り散らして、常住唯恐い目付きして小言ばかり申し居り候、餘りの口惜しさに泣いて拗ねればぷいと立つて其の儘の他出、時には夜深う酒臭くなつて歸宅する事も之れあり候。

之れだ、這麼事を眞面目になつて仰しやつて居らつしやる丈が、敎育のお有り遊ばすと云ふ學校出身の夫人方は、未だ割合に罪が無くてお可愛らしくつて居らせられると申し上げるのだ。

御承知の通り、良人とても多少は斯界に名を成し居り候ほどなれば、満更の鈍物でも之れあるまじきかと存せられ候故、元よりの氣むづかしい彌喧しや位は何もかも覺悟の上にて、兩親にさへ反對致し候て、我れと自ら進んで此方へ嫁入り候ものゝ、扨て、夫婦になつて見れば實に意外の事ばかりに御座候。

此處に到ると、差し出がましいが、ラブはラブとして永久に其の儘あらしめよと、誰れにでも自分は忠告し度くなる、大概の人は之れで手を燒く、否少なくも一生を誤るのである、女子でも男子でも戀人を我が妻にしやうの、我が良人にしやうの等と云ふのは、抑も馬鹿氣切つてる事だと自分は思ふ、況して近頃男女の青年の中には、戀愛と云ふ事に就いて餘程煩悶もし懊惱もして隨分研究の詰んである向きもあると聞くが、其の實其の戀愛なるものが頗る怪しい、甚だ以て不得要領のものではあるまいか、よし一歩を讓つた處で自分

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は敢て斯う云ふ。

往昔、生公と云ふ高德の法師が虎丘寺に經を說た時、石を集めては聽衆に擬へたと云ふ、處が適ま其の非情の石が妙理眞に迫る每に點頭いて與れたと云ふから善い樣なものゝ、之れがなまじひ圓々しい橫着な我々人間であつたら三文の價値もあるまいと思ふ、云ふ迄も無く結婚は平凡なものである、夫婦は猶一層平凡なものである、自分の彫刻した美人の像にすら戀すれば戀する事の出來ると云ふ、頗る不可思議な、神秘的な、詩的な、美的な、理想的な戀愛と云ふものを、結婚と云ひ夫婦と云ひ家庭と云ふ平凡な形式を以て、勿體無くも實現させ樣とするのであるから頗る以て堪らないの親玉だ。

昨夜も何を感じ候てか、火燵の中へぐつすりと潛り込んで寢轉びながら、側に何やら綴ぎ物致し居り候私の顏を、つく〴〵と穴のあく程凝視め候て、怎も結婚してからと云ふものは丸ですつかり御前の氣象が變つた樣だと、しみ〴〵悄れて溢し候故、阿方樣こそ眞にお人がらりとお違ひなされしと私の笑ひ候を、なに〳〵と急に伸び上がつて近頃に無き大眞面目、然うか知らんと悲し狀にぐたりと横を向いて、稍々暫時ありてから、僕は大に間違つて居つたと氣の毒な程常にも似ずふさぎ候、何をと勉めて平氣に問ひ返せば、僕等の結



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

婚をさと口悔しき迄眞つ正面から怒鳴り立てゝ、甚うてれ出し申し候、果ては一つ云ひ二つ云ひ次第に聲大きうして罵り騒ぎ候始末、誠に裏長屋にも無い圖な體裁、私も能く／＼不運の生れと、眞から涙が溢れ候。

御道理にこそ、御心中御推量致しまする、理想と現實とは脊中合はせのものだと伺つて居りますから。

再び大膽に自白するが、我れ／＼の戀愛は多く虛僞である。

斯うなると男は存外思ひ切りの善き者に候へ共、女は誠に諦め惡く我れながら愛想の盡きるほど、一層小膽な者に御座候、今となりては彼樣人に徹塵未練等の殘り候はねど、去りとて腐れ合つた惡因緣怎うして見やうも無かる可く、況して結婚當時の意氣込みが意當込みなりし丈に去りましたの去られましたのと例へば兩親の前なればとて、今更其麼間の拔けた事云はれる義理ではなく、況して／＼世間の人の思惑云ふばかり無く辛う／＼候。

誰やらが然う申しましたとさ、忘られねばこそ思ひも出し參らせず候へど、

唯此の上は何事も之れ迄の拙き運命と斷念致し候て潔く色も香も無き殘餘の半生に復活を試むるより外御座なくと存じ參らせ候。

其處です、能う仰つしやられました、斯うなければならぬ筈、更めて自分から謹んで御禮申し上げる、申す迄も無いが、其の昔抱いて入らした樣な夢の樣な空想はさらりと捨てゝ仕舞つて、之れからは眞の眞面目な新生涯に這入つて戴き申し度い、併し未だ／＼怎うして怎うして、三藏が經を天竺の雷音寺に得る迄には、永い年月渡天の苦行、絕えずもつと恐ろしい異形の變化が現はれて爭鬪を挑みます、だから折角の御用心肝要と他ながら申し上げて置く。

雨に明けて風に暮れて此處に新婚一年と漸う三月には候へ共、私には此の間に五年も十年も經過せし樣な心地せられ候、今は何事も運と諦め候我れの希望とても無き身ながら、いつぞやは是非御目賜はりて、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

いとせめて以前鄙を偲び参らせ度くと存じ居り候、かしこ。

雪の日の徒然、昨日受け取りし友の消息を再び其儘に巻き納めて、胸の中、返事は巻紙にするりと唯何事も、御役大儀に存じ上げ参らせ候、目出度くかしく」とばかり。

◎銅臭學士

可愛いお口元遊ばしておかちんなら漸う二切れ、夫れじやあ餘りでは御座いませんか、奥様近頃怎うか遊ばしましてと伺へば、美しい眉根を心ばかり寄せて、いゝえと仰つしやる限り、唯笑つてばかり入らつしやる、其の上とも意地



悪う旦那様はと執念く問へば、はあ今日もよと莞爾遊ばして、事務がね、何なの、大層立て込んで來た狀で御座いますから、其れで此の一週間ばかしと云ふものは通し留守に致して居りますと、横を向いて目立たぬ程な俯き加減、では、彼のお淋しくつて居らつしやいませうと重ねて云へば、困つた樣な御顔遊ばして、又参堂りますよと急に身仕度しながら、さつさと歸つてお仕舞ひなさる。

後ろ姿つく〴〵と見送つて、彼のまあ罪の無き狀な

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

お可愛らしさ、お美しさ。
彼の方のお頭に挿して居らつしやる櫛一枚でもちらと拜見した人は、乾度誰れでも直ぐにお幸福のお方と眞から羨ましがるで御座いませう。

けれど、此の間も春子さんが御見えになつて、眞箇に彼の方はお氣の毒の方ですよとしみ〴〵涙を溜して同情して入らした、其れから麻布の叔母さまも、彼歴事がありますからね、お前たちだつて之れからもあるこつたが、随分嫁く前には氣をお注けでないとね、と仰つしやつて下すつた、で無くとも、私は彼の方を決してお幸福で入らつしやるとは思つて居りません、人間には誰れにも直覺と申すものが御座います、私が始めて彼の方に御目にかゝつた其の時から、普通の女の能く犯される一種の時代病とでも申しませうか——何しろお氣の毒の方だなと直ぐに然う感じました、其れは私のお氣の毒だと申す意味は、春子さんや叔母さん方の仰つしやるのとは、或は多少違つても居りませうか知りませぬけれど、矢つ張り私にも御氣の毒の方とより外申し上げる事が出來ないので御座います。

一つは彼の女の美しいお顏ならお姿ならが所謂虛榮心とやら云ふ淡き女子の誇りを煽動して、彼樣におさせ申したのでも御座いませうが、一體彼の方は黃金と云ふ物より外に、何にも此の世の中には尊い有り難い物は無いと信じて居らつしやるらしい。

だから御嫁きになる當時にだつて、御兩親の御勸告がよしあつたにしてからが、御自分でも其れは〳〵大滿足して進んで今の處へお嫁きになつたのではありませぬか、降て湧く程の數ある緣談の中には、随分之れはと思召す程なのが外にも澤山おありなすつたと云ふけれど、やれ彼處では思ふ樣に贅澤もなるまい、やれ此處では樂に暮して行く事も出來まいと、夫れは眞箇とは思はれぬ程、彼のお可愛らしいお口でもつて、精精熱を吹いて氣焔を吐いて、扨て今更に云はれぬお苦しさ、私は能う存じて居ります、私は始めから能う存じて居りました、彼の女のお氣象として、迚も苦悶なしに平和の生涯をお送りになる事は出來ませんと。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

申さば御笑ひも遊ばしませうけれど、其れは私共だつて女で御座いますもの、彼の方々の樣に白木三越は更にも云はず、天賞堂に白牡丹に欲しいと一つ思召しの出れば、此の世をば我が世とぞ思ふ望の夜の、月雪花の花好み色好み、況して其の折々の流行好み、之れがまあ、正直何でお羨ましく無い事がありませう、天井裏の煤けた臺處の隅に小さくなつて畏まつて居る時こそ、負け惜しみにも富何だ黄金何だ、三井何だ岩崎何だのと口はゞつたい大きな事を申しては居りますけれど、彼の方々のお美しいお立派なお姿を一目外ながらにも拜んだら最後、私はお金等は些つとも欲しくはありませんと澄まして居る事が出來ません、あゝ矢つ張り人間は人間で御座います。お恥しいが女は何處迄も女で御座います。

だから此の點から申したなら慥かに彼の方はお幸福で居らつしやいませう、其れはもう〳〵誰れが何と申しても御幸福に違ひありません、けれど私は怎うしてもお氣の毒の女だと申します。



何も私は斯う申し上げたからとて、彼の女の旦那樣が柳橋とかのを二千圓で受け出して、今では下谷邊の潜り戸格子、一週の中に一二度三度は愚か、歳末歳首の

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

新聞紙に近藤旅行と麗々しく披露して、一富士二鷹三茄子の初夢は美しいのゝ膝の上、酔うたら御座れ枕屏風の内と外、鬼も來福も來やと口三味線の調子可笑しう、幾夜空閨の妻が憂き涙を外にして浮かれ廻つて居らつしやる旦那樣の放蕩放埒を申すのではありません、元より這麼事は金には附屬物、今樣の紳士には附屬物の、假にも彼麼處へお嫁きになる程の御運を持つて入らつしやる彼の方に、之れ位のお覺悟、今更にあつたの無かつたのとは、決してお云はせ申しませぬ。

今でこそ私共に、眞箇で御座いますよ連れ添ふ人の氣心さへ何ならお金なんか些つとも等と、仰つしやる事もありますけれど、彼の女程の人が、若しもお金の無い處へお嫁きになつたら怎うで御座いませうか、夫れこそもつと〳〵悲慘なものであらうと存じます、考へても御覧遊ばせ、金が仇敵とやら云ふ世の中に、金より大切の忠兵衛さん等と、今頃其麼實貞な事を云うて珠にも窮める貧乏な男に優しう事へてる妻が幾人ありませうか、親子の間さへ金は他人と聞くものを夫婦の仲とて水を注さう、有れば有るで無ければ無いで、之れ位罪の深い馬鹿らしい物は御座いますまいけれど、李公は飲まずして酒に醉ふと云ふ、お金と見たら誰れでも有頂天になる。

光風霽月天地宏濶、人間には人間の威力が無ければなりませぬ、お金を人間以上に有難がつて居る人間が、怎うして人間らしい平和な生涯が送られませう、あゝ矢張り彼の方は御氣の毒の方で御座います、不幸の方で入らつしやいます、何を匿さう更めて云ふ迄も無く我れ〳〵は不幸な人間で御座います。

けれど春雨にしつぽり濡れても鶯宿梅の、百年の苦樂は一に他人に寄ると云ふ、女は誠にはかない弱いものであります、旦那樣な法學士、今は去る會社の重役、時には銅臭とやら女の耳には些と聞き馴れぬ世の風聞に、君其麼に金を拵へて怎うする氣かと聞く人のあれば、存外澄ました者で、なあに、酒と女とね其れからハツハ……君然うじや無いかと。

は又此處な銅臭學士奴が。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

立志の泉

聾盲處女ヘレン、ケラーの大學生活

文學士　森　馬　奇

ヘレン、ケラー嬢の名は我國に於てこそ廣く知られぬが歐米の社會では、古來比類なき成功者として兒童走卒も其名を知つて居る、かの歐米文壇の重鎭で盛名の高いマーク、トエーンなども「十九世紀に於ける二個の最も興味ある人物はナポレオンとヘレン、ケラーなり」とまで賞めそやし、又大詩人ホヰツチアーは欣慕の餘り其額に熱き接吻をしたといふ事である。此の盛名ある婦人が二十歳の少女で而も聾盲であると聞くに到りては何人も其餘りに意外なるに一驚を喫するだらう。

ヘレンは生れて十九ヶ月で疾ひのために目と耳とを喪なつたのである、纔か目が霞み耳が鈍くなつても不自由で搭擬かしいもの、まして人の聲自然の音、何一つ聞えも得せぬ闇の世界に投げ出された身は、どれほど悲慘な苦しみを嘗めることであらう、ヘレンの生涯は即ちそれである。予は久しき以前より盲人教育に特種の關係を有するもの。生れて天日を拜せず、五彩の色遠近の別を解せざる彼等盲聾に接する毎に、いひ知らぬ深き哀れを感ずると共に、彼等を教育することの斗り難き事害の程を察せずには置けないのである。然るにヘレンはかく視官を失へるが上に聽官をも奪はれしに關はらず、現今米國ハーヴアト大學と併び稱せらるゝラドクリツフ大學卒業の榮譽を負ひ、語は廣く獨、佛、羅、に通じ、今や熱心社會教育の事業に盡瘁しつゝありといふに至つては、まことに驚かずには居られない。外ならぬヘレン嬢が過去半生の實際は、教育の力が能く那邊にまで及ぶか、人間の努力はいかばかり肉體官能の不足をさへ補ふかを示すのである。五官に不足なき讀者諸嬢のつら〳〵反省奮勵の便りとなる好模範ではあるまいか。

二十餘年の日月短かしといへば短かきも、苦艱の二十年は短かくはない。嬢の過去半生を述ぶるは到底斷簡零墨の能くする所でないから、此には只嬢が自傳より、先づ其就學の始めである文字の習ひ初めと、其終りとも謂ふべき大學生活の條のみを簡單に紹介し、異日時を得て詳傳を公やけにしやうと欲ふ。

△文字の習ひ初め

妾が七歳になる三ヶ月前の事、教師サリバン女史が初めて宅へ御來でになりました日程、身にとつて是程貴とい日は一生に復とありませぬ。此日が繋ぐ前後の生涯は天地黑白の相違でありまして、その對照の甚だ深いのに今さら不思議なくらひ。沖遠く船路遙かに、行方は白い濃霧に包まれ、危うげに測鉛もて船は岸邊に模索り行く、おそろしやその船の上で若しも事しや起らんと心も心ならず思ひなされた御經驗は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

讀者諸嬢にはありませぬか。教育を受けぬ以前の妾の身は宛然此船同然、まして羅針盤、測鉛一つ持たず、港何處と的もなく、「光り光り」と語に出して言ひ得ぬ淋しさ、只胸にばかり「光もがな」と叫んで居ました。かく光に憧がるゝ中、目には見えねど愛の光が身を照らしたのは正しくも此十九年前三月三日といふ日。

例ならず家人の往返も慌はしく、母君の擧動からも何か慶事が起るらしく考へられ、其日の午後物待つ思ひに默念と門口に立てば、日の光りは戸柱に纒繞る忍冬の葉越しに自分の顔に落ち、指は無心にその花に觸れ、身に振り起る後の不思議には露思ひ至らなかつたのです、やがて、人の近寄る氣はひに、母君の來ませしものと手を延ばせば、知らぬ御方の手に捉れ緊迫とばかりに抱きしめられました。その抱きしめた手は我身にとりては智慧の泉愛の源であつたのです。

新來の教師サリバン女史は、翌朝その室に妾を呼び一個の人形を與れましたので、暫し手弄ると、女史は靜かに此手に「にーんーげーふ」と綴り書きをせられた、その指の動き安排が理由もなく面白く、其儘模寫をして見ると、どうやら誤りなく書けてくる。小供心の嬉しいやら誇りたいやらで、急ぎ母君の元に奔つて手を翳し「にんげふ」と書て見せました、實の處それは語といふものか何か分らず、單だ猿をそのまゝ指を動かし眞似たといふまでのこと。こんな猿を握むやうな風で多くの文字を綴ることだけは知りましたが、何物にも名があると知る迄にはまだ數週間も要りましたらう。

或日妾は此新らしい人形を弄んで居ると、女史はまた布帛造りの古い人形を妾の膝に載せ復た「にーんーげーふ」と綴つたのです、いづれ此語は何れにも用ゐらるゝとを敎へる積であつたらしい。これは當日「さーかーつーき」は杯「みーず」は水であると幾度敎へられても二つを混同して、如何しても合點が行かなかつた直ぐ後のとであつたものですから、また此「にーんーげーふ」に責めらるゝ妾は、もう辛抱の緒が切れて、人形を床に投げつけ、その五體は斷れ〴〵に足下に散り亂れました。散り亂れた其片屑に觸れた時は、「惡かつた」「悲しい」などの感じは微塵もなく、却て心氣よく感つたのです。住み暮らした淋しい闇の世界には、深い情けや物の哀れなぞは露更ありませんでした、やがて女史は人形の片屑を爐側に掃きよせなどする中、妾の心も安らかになつたので女史は妾を戸外に連れ出されました。家を出て噴水井の方へと參りますと、井を庇ふ小屋根にかゝる忍冬の香り強く、誰やらん水を汲む者がありまして、女史は妾の手を握り筧の下に引伸ばすと、それから溢るゝ冷水の滴りに妾の手が濡れる、そこで他の手をとりて最初は靜かに次は迅く「みーず」と綴り書きをされましたが。始め兀然女史が指先の運動に心を注ぐと、突然何物かを忘れて居たと感ずると共に、いはゞ言語の機密とでも申しませうか、其時初めて「みーず」とは我が手に流れた冷たいものゝ名といふとを知りました。斯くて遽かに心狀一轉、光明と希望の世界に乘り出したやうに、身も心も輕くなつたと思ひました。茲と何物にも名があると知つたのは全く此時からの事。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

さて何事も知りたやと思ふ熱心に燃えて家庭に歸ると、觸るゝものごとに生けるが如くで。部屋の戸口に入ると直ぐ、破はした人形を想ひ起し、爐側をさぐり歩いて其片屑を拾ひ集め、元の形に戻さうと努めて見る。やがて見へぬ眼は涙に沾れて、我と我がなせし暴狀を思ひ浮べ、始めて悔み嘆きといふことを覺えました。

此日は夥多の新らしい語を學びましたが、中にも母、父、姉妹、先生、などの語は、いはゞ「花咲くアヽロンの杖」のこと、枯れはびし世を花としたとでも申ませうか。甘かりし此日の樂しさを回想し、夕靜かに小さき寐臺に横はりし我身程、幸深き人の子はゆめ外にはなからうかと思ひます。一時も早く明日の日來れと待ちあぐんだのは生れて此夜が始めてなので。

こんな風で、ともかくも文字を學ぶ術を知りましたものですから、それからはもう唯一心に語學の勉強に骨を折りました。不足ない耳を持たるゝ兒童には語を覺るは何の造作もないこと、いはゞ空行く風に羽をのして飛ぶやうに自由自在に出來ますが、妾のやうなものにとりましては、なか／＼普通一遍の事ではありませんでした。殊に手に觸れられぬ抽象名詞を學ぶには一入の困難を致しました。

今も記憶へて居ますが、まだ多くの語の意味を知りません時分、庭先に匂ふ香りを手寄りに二三本の菫花を採りまして、これをサリバン女史に渡すと、女史は抱きよせて妾の手掌に「儂はヘレンを愛す」と綴りを書きなされ、「愛とは何です」と妾は尋れ返すと、女史は尚緊迫と抱きしめて「それは此所に」と妾の胸を指されたのです。胸の鼓動を知つたのは此時が始めてでしたが、胸に觸つたゞけではどうも其意味が判明りませんので、女史の手にある菫花を嗅ぎ「花の匂ひが愛ですか」と訊き、「否」といはれて。いろ／＼と試みても遂に不成功に終り、はては教へ得られぬ女史をさへ恨めしくも思ひました。

其一兩日後の事。日は終日雲に隱れて颯然と折々時雨が降りました夕暮の空に、突然夕陽の光り雲から裂けて麗かに照り出したやうに感じました時、「これが愛ではありませぬか」と尋れますと。その當時でも了解るやうに至極簡單な語で、次の樣な意味の話しを説かれたのです。

愛は光出ぬ闇の空に懸れる雲の樣なもので、觸らうとても觸られぬ。只それより注ぐ雨ばかりは確かにそれと觸られもし、又旱の後の一と雨は、園の花々、渴いた土をも蘇ちすが、愛も同じく觸られぬもの、しかしその愛より出づる嬉しみばかりは誰も感じ得らるゝもの、愛なくては樂しみもなく遊戯も面白からぬもの。かくと知つた妾の胸には、美くしい眞理が急に開けて、妾の心と人の心の間には、目に見えず觸りも得せぬ繋ぎの糸があるといふとが判りました。

△大學生活

大學入學に就て種々の困難がありましたのが、皆滑りなく解けて、もう隨時にラドクリッフへ入校し得ることゝなりましたが、尚一年間か

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ース氏の下に勉學する方がよからうと思ひましたゝめ、久しい大學入學の夢がいよ／＼眞となりましたのは一千九百年（明治三十三年）の末でした。想ひ起せばラドクリツフに於ける第一日は妾が最も興味深き日で、數年の久しき友の忠告己が心の辨解を排し、只燃ゆる渇望に推され／＼て、遂に耳目完備の學生諸子と肩を比べて己が力を試めすことゝなつたのです。行方には美はしき光の世界啓けて、今よりは天地の萬象は自らの能力にても識り盡さる可く、奇しき智識の鄉土（大學）には人に劣らず我身も自由に、又此鄉土にある人も髮色も風俗も、さては又遊び戯れも悲劇もみな、外の實世界の反映なれば、此身にとりては實世界の生ける通譯者のやうに感ぜられ、其講堂は聖賢偉大の精神に滿たされ、其教授は智識の權化であると惟はれたのです。

かく惟つたのは唯一時の間で、自らまた不足も出で來て、大學は始め夢想した古代希臘のアリストートルの學舍のやうなものではないと解り、無經驗なりし折の過ぎし者の夢も、次第に日常の光に醒め去りて、やがて大學にあるは不利益であると考ふるに至りました。昨今でもですが、殊に當時に於て最も深く感じたのは、時間の不足といふことで。自らの心を傾けて專念沈思するために多くの時間を用ゐたのは妾の遠か以前からの癖でして。或は詩人の詞句の胸深き心の絃琴に觸るゝ時は、その鳴絃の餘韻遠く消え逝くまで、夕べ靜かに心の耳を澄ますを常として居ましたが、大學にありては、とても自ら冥想に耽る暇もなく、考ふるためならで聞て覺ゆるだけに通ふので、一度此門に入りては、孤獨り書に對し瞑目沈思するといふ快樂は、全く校外の松風に讓し去り、單だ、今は未來の樂しみのため寶を積むといふだけに心を慰むるの外はないのですが、實を申せば妾は生來未來のために計るといふ種類心ではなく、寧ろ現在の樂しみを搾るものであるらしいのです。

初年級では佛獨語、歷史、英作文、英文學を學び。佛語にてはロルチーユ、モリエル、等を讀み。獨語にてはゲーテ、シラーに渉り。又歷史にありては羅馬帝國滅亡より十八世紀迄を一瞥したのです。英文學ではミルトンの詩を批評的に研究しました。

妾が屢々問はれますのは、大學にありては如何にして不具の身の特更出逢ふ困難に打勝つたかといふことです。教室に於ては無論妾は他の學生より離れ、教授の音聲は電話にて聞かるゝ程の遠さとでも申ませう。講義は最も敏活に妾が手に綴り示され、從て精神は全く此機械的聽取と無二無三な筆記に注がれまして、とても其講題の實質如何と其講義ぶりなぞには、寸刻の意を用ふることも出來ませず、講師特有の個性は全然感得し得なかつたのです。併しこんな間接的な不完全な方法によりましてゞも、猶ほ筆記帖に寫しとる諸學生に比して、其結果、餘り大した劣り方ではありませんでした。尤も講義中は手が聽取の方に忙がしいので書取の方は容易に出來ず、漸やく歸宅の後何時に便なるやう其要點や略筋だけを記るしました。又演習問題、課題、論文、半期全期の試驗は皆タイプライターで答案を書き、羅甸希臘の研究が始まりし時は、妾が案出の記號により、種々なる音符、音韻をさへ探出しまし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た。大學教科用の點字書籍（盲人専用の文字にて記せるもの）は殆んど皆無といふ有様なのですから、一々妻の手に綴り書きを要するといふ譯で、學課準備には他の學生にまして多くの時間を要し、人知れぬ注意力を微細な點に注ぎ、いやが上に精神は興奮し、また此から數時間の讀書をせねば明日の間に合はぬと思ひ惱むる時、戸外には學生が或は笑ひ或は歌ひ興じて居るのであると思ふと、何だか急に哀れつぽくなつて堪らなくなる日もおり／＼ありましたが、嶮崖を攀ぢざれば眺望を得ずと勇往して、いつも困難に打勝ち、打勝つ毎に青空近く舞ひ登り、登れば望みもいや増すといふ有様で進みました。ペンシルバニヤの聾盲院長方は屢々必要の書册を點字に改寫して送られましたが、其奨勵となり補益となりましたことは、とても右院長方御自身でさへ想像にも及ばん程であつたのです。

第二年には英作文、英文章學としての聖書、歐米政體ホレースの短詩及羅甸喜劇を學びましたが、中にも此文章學は最も愉快に感じましたので、其講義は快活に興深く、講師は、能く原作の精神を生けるが如くに呼び起し、宛然ら其の源泉に付て古人が無限の美を摘むの思ひを與へたのです。此年度が妾にとりて最も樂しかりしといふは、殊に教授キツトレッヂ氏に就きシエクスピヤ其他エリサベス朝文學等を學び、教授ロイス氏により哲學史を授けられたゝめです。人は哲學的思索をなした上で、始めて古代の傳説や習慣以外の思想に對し眞の同情ある想像力が起るのです。どうも一般に大學の學生は習慣以外に同情がなければ文學の眞意が解らぬものであると考へて居るものは少ないやうです。嗟しう幾百千の註釋は批評に纏綿けて、議論を知つて人間を忘れてしまふ傾向があります。手當り次第の亂讀と折重なる試驗のために眩暈して自己といふ者は何處へやら、全で幽靈が何かに追回はされてゞも居るやう。

次に試驗の事ですが、試驗は大學生活に於ける一種の妖魔です。妾は幾度か是に抵抗し投倒し打伏せましたが、復た此妖魔は起き直りて、それは凄い顔をして妾を脅嚇かし、あらゆる身内の勇氣が指頭から滲出るやうに思ふたこともあります。誰にしても此難關の日が來る前には、嚴時な定則や不消化の年號月日のやうな、何れも此上なしの無味い食物を飽食するため大忙がしで、いつそ本も自身も此儘で海底深く沈めかしと思ふ時もあつたのです。いよ／＼其恐ろしい日が到着すると、幸ひ準備十分といふ自覺があれば、いざといふ時には旗鼓堂々歩調を整へてズン／＼と頭から答へが編出されますが。さて何程喇叭を吹奏しても記憶や辨別力が馳せ参ぜず、卻て羽打のばして飛び去る時の腹立たしさ。一心不亂の長時の苦勞が此時といふ急場に全然無効なのですかられ。

「フスと其作品に付て略叙せよ」といふ問題で出る。フス、一體誰で何をしたものか、何だか妙に知り慣れた名のやうでもある、丁度雜嚢の中から絹布片を捜し出すやうに、歴史の腦袋の大詮索を始める　何處か袋の上の方にあるやうにも思ふ（實際數日前に英國革命の所で見たに相違

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ないのである)、在りと有ゆる袋の隅々――革命、分裂、殺戮、政體、と順々に驗べる。邪魔で面倒な種問題以外の事は能く憶へて居る、しかしフスは誰だらう。實は追窮されて居る人物は、一向主人公がそんな災難に罹つて居るとを御存じなく、ちやんと其腦袋の一角に蹲踞つて居られるのに、はては絶望して蒼醒して仕舞ふ。やがて監督が時間の切迫を告ぐると。こんな思ひもよらぬ問題を出した教授を恨み怨んで家に歸るといふ始末。どうも魔に魅かれ居ると外思はれません。益ない妄語を幷べて耻曝らしをしましたが、實際ですから致方がありません。

ラドクリツフへ入らぬ前は、此大學生活は小說的の後光でもさして居る様に思はれましたが、事實はさうではありませんでした、併し此に於て妾は到底經驗に據らざれば知ることの出來ない多くの事件を學んだのです。その一つを申せば忍客といふ貴とき學問で、凡て教育を受くるに際しては、恰度郊外を散歩する時のやうに、常に心を多方面に公開して、一切の印象を歡受すべきとを敎へられたのは、全く此學問の賜物です。かくして得たる草々の智識は他日の深奥なる思想を喚起します。世に「智識は權勢」であるとか申しますが、妾は智識其物は幸福であると思ひます。僞を去り卑しきを離るゝとも智識の示す事で、眞の平和と幸福は是によつて得らるゝのです。凡そ社會進步を促がした思想や事業を識らば、數十百年に亘る人道の大なる響きを胸に感ずるのです。若し單だ識るといふのみで胸に向上の勇猛心起らずば。まこと人生調和の妙音に聾ひたるものと言はればなりませぬけれど。(完)





當世誰が身の上

伊勢の一女

△おいたち

かくいはゞ、はしたなき女よと、世の人の輕蔑もしたまはむ、笑ひもしたまはむなれども、妾はまこと四五歳の頃より、愛らしき子よと人に譽めそやされ、娘盛りにはみめ美はしとて人の口の端にも上り朋輩の嫉みをも受けたる身に侍りき、我ながら鏡に向ひて、さばかり人に劣らぬ器量ぞと自惚しこともありき。笑ひたまふな、こは包みかくさぬ妾の眞情になむ。父上といふは舊藩の頃には食祿五百石を賜はり馬廻はりとかいふ役つとめたまひ、いと全盛に日を送りたまひけるが、維新後、家祿を奉還して、慣れぬ商法に手を出したまひ、瞬間に資本を無くして、これより後は、はたと零落れ、火の消えたらんやうに寂しくなりぬとか。母上といふは、三人の繼子あるところへ伊賀の國のさる士族より後妻に來たまひて、妾が實姉と妾とを生ませたまひけるなり。

妾十二三歳のころには、一の姉、二の姉は既に他家へかしづき、兄上戸主となりて家政を掌りたまひ、父上は隱居の身とて家事にはたづさはりたまはず、好きの道なる鳥撃ち魚釣りなどして、晩餐の膳を賑はしたまふのみ。兄上はその頃小學校の敎員してをはしける

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

が、兩手の指にも足らぬ給料なれば、一家を經營し玉はん苦心はさこそと今更に推しはからる。かゝる家庭の中に妾はおひたちぬれど、末の子なればにや、父上母上、はた兄上が妾を重愛したまふこと特に深く、妾のみには世帶の苦しみは聞かせたまはで、衣裝髮飾など、貧しき中にも人恥しからぬまでにしたまひ、女に缺くまじき一と通りの敎育さへ受けさせたまひぬるこそ、いと有難けれ。されば妾は、世の何不自由なく暮したまふ娘方のやうにこそなけれ、世路の艱難などいふことは少しも知らで生ひ立ちにけり

△郡長の嫁

十四五歳となりては、緣談をうるさきまでに申し込まれたれど、母上は大事を取りたまひて、とみには定めたまはず先方の家あまりに富めるは、之にふさはしき嫁入ごしらへすることの及びなければとて小首を傾げたまひ。さりとてまたあまりに貧しきも好ましからずと思案したまふ。婿の心ばえ、舅姑の氣質、小姑の有無、さては相性とやらんまでも、落なく詮議して、深夜ひそかに、邸の隅なる稻荷神の御鬮さへ探りたまへりしは、皆妾の緣を良かれかしと祈りたまへばこそなさぬ中の子、三人まである中に、妾の身の定めをかくまでに思ひ煩ひたまへる母上の御心の中、察しまゐらすも涙なりけり。かくて妾の緣は十七歳の秋に至りて定りぬ。伊賀の國なる母方の伯父の緣に繋れる、郡長つとめたまへる人の長男の許へと。

此の御方は、その時二十歳にておはしけるが、徴兵の關係とかにて、妾が家に程近き師範學校に在學したまひけり。入學試驗の時に、百七十名餘りの競走試驗に第一位を占めたまへりとて、才名全校に隱れなしとかや。妾も一目見まゐらせしに、男子として恥かしからぬ體格、これならばと、妾も母の勸めに從ひぬ。今の海老茶袴つけたまふ令孃方は、學士、政治家、さては外交官を、理想の夫としたまふが多しと聞けど、妾が娘のころには、郡長の長男として行末敎育家となりたまはん人としいへば、妾に取りては、此上もなき良緣にて侍りしなり。父上母上は勿論朋輩よりもひた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

すら羨まれ侍りにき。かくて月下氷人の周旋萬端滯りなく運びて、妾は五荷六荷などの拵こそなけれ、夏冬一通りの衣裝、人並に劣らぬだけの拵らへして其の方さまへ嫁入して、芽出度祝言の盃をとりかはしぬ此の間の母上の御心づかひこそ一しほなりしか。

△羞かしかりし一時

されど夫の君が學校卒業し玉はんには、まだ一年餘りの月日あれば、われは教育家の妻として恥かしからぬだけの學業を修めたしと、夫の君に頼みまゐらせ、そが學資の中より幾分を請ひ受けて高等女學校へ入學しぬ。その往復に、夫の君の居りたまふ學校の門前過ぐるに、夫の君の學友の人々が、窓に顔さし出し手うち拍きて囃したまへるには、妾も顔赤らめしこともありき。學校にて父兄談話會催さんとて、生徒がさまざまの役を引き受けけるに、夫ある身は接待役よと、校長の君が戯れ半分に、妾と照子さまといへる方との二人に、御馳走方を命ぜられし時には、消えも入りたきまでに思ひぬ。夫の君は寄宿舎に居たまふものから、休日には妾が家に音信れたまふを、妾は教科書の不審を聞き糺しもしき、展覽會に出さんとしつる筆跡の手本を頼みまゐらせしこともありき、幾枚となく書き損じて漸々これならばと出來上りしを展覽會に出品して優等の賞を得しものから、其の筆勢さながら男のやうなりといはれて、思はず顔赧らめしこともありき。嗚呼妾が今日までの經歴に、若し樂しき時は何時なりしかといはば、この一年有餘の間にて侍りき。かくて夫の君は二十一年の三月にめでたく學校を卒業したまひて、某郡の高等小學校へ赴任したまひければ、妾も從ひ往きてこゝに始めて新世帶を持ちはべりき。

△おもはぬ成行

夫の君はその時十五圓の俸給にておはしき、十五圓といへば、今より見ば、いと少きやうなれど、其の頃は米の價一升六錢を超えず、下宿料は二圓を出でざる頃にて、小學教員といへば七八圓の給料なるが多かりしことなれば、十五圓といへば比類なき高給にて、今の五十圓にも増したる價なりけり。夫の君に妾、二人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の生活に何とて不足のあるべき。されど夫の君は固より郡長の家に育ちたまへる事とて、金錢の事には頓着したまはず、妾と て家に居りける時は、煮炊き洗濯のわざは、母上を助けて習ひ覺えたれど、さて一家の妻となりて見れば、わからぬ事のみにて、或る時は煮豆を焦げつかせる事もありき。或る時は蒟蒻煮んとて水をしたゝかに入れたる上に醬油を何程さしても味のつかで困じはてたることもありき。廿二歲の夫に十八歲の妻、不經濟の事のみ多ければ、收支は



常に償はず。嗚呼當時若し今日の心だにあらばと今更に幾たび悔むも詮なき事にぞある。その上、夫の君學校の事業は着々成功したまひ、名聲もいと高かりし、一方には郡長にも裁判官にも縣會議員にも土地の有力者にも廣く交際したまふにつけては茶屋の酒も味ひたまふこと繁くなりゆきて、藝妓の情婦さへも出來たりとか、いまはしき噂さへ、妾が耳に薄々入るものから、さりとて妾をつい疎んじたまふにもあらねば、妾は眞心を盡して之に仕へけるが、一

年あまり經ては、負債はいつの間にか驚くばかりの多額に上りぬ。されば夫の君の苦心一方ならず、國元なる父君に賴みまゐらせて黄金調へられしこともありき しかるに二月の何日なりしか、確かに憲法發布の祝日なりしと覺ゆ、夫の君、祝宴の席上にて郡長某といさかひしたまへりとかにて、顏色變へて歸らせたまふ。これが動機となりて、遂に此處の學校を辭して、隣郡なる某地へ轉任したまひぬ。妾も隨ひ行きぬ。此時に妾ははや五月の岩田帶しむる身にてありき。

△初産のなげき

今思へば物の數ならねど、當時の妾の胸にとりては此の轉任の前後の心づかひは、身も瘦せんばかりなりき。かくて臨月にも近づきければ、初産は實家にてすなる我が地方の慣例なるにも拘はらず、妾の母上を呼び迎へまゐらせて、何かと手傳を賴み奉る。夫の君は前任地にてのやうに意見の行はれぬ不平の御餘にや、はた苦しき世帶の憂さを晴したまはんとてにや、酒の量もいたく增して、時には青樓にも足踏み入れて家を明けたまふこともあり。彼是の入費多くて、外にせんすべなければ、かの母上が御心こめたまへる妾の晴着も、典じて黄金に代へたれば、簞笥は藻抜の殼なりけるを、母上之を開かんとしたまふ。さはさせじと、之を推しとゞむる妾の胸の切なさ、譬へんかたなく、妾が此の時の樂とては唯胎内の一塊肉のみなりしぞ、哀れなる、母上は始めて初孫を見給ふことゝて、何くれ妾が身の上の事いたはりたまひ、神かけて安産を祈りたまひけるが、出産の二三日前に、妾はいかなる機なりしか、下駄の鼻緒の切れて、はたと倒れて、したゝかに尻うちけるが、胎兒に障りやしけん。其の翌日の午後産の氣つく。母上すはこそと、人して産婆を呼び迎へさせたまひ、何くれと用意したまふ。妾はやがて産蓐に上りけるが、痛みは刻々に增せども、子産れず。夫の君、家に居ましてはなどいふ俗説あればとて、夫の君は裏傳ひに隣家の離座敷へゆきたまふ、産婆もいろいろと手を盡せどかひなし。妾はこゝぞ女のたしなみよと、あらん限りの辛抱して苦しとは一聲だにいは

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



ざりしかど、母上の心づかひはいひ盡すべうもあらず、かくて其の夜は終に寢れざりけり。今にて思へば、餘りに早まりて產蓐に上りしにこそ、さてあくる朝、醫師を迎へて診察を請ひしに、胎兒の位置惡しかりといふ。さてはいよ／＼難產にこそと、妾は思ひ詰めたれど、妾が青ざめたる顏色してもだえ苦しむには傍の見る目の堪へられず、母上は唯氣分たしかに／＼と妾を勵ましたまふのみにて、手の着けやうもなし。夫の君もことの外案じられてうろ／＼と起ちつ座りつしまふのみ、今は手術をもとまでになりたれど、今暫しと產婆のひたすら手を盡したるかひありて、其夜の東雲頃に男の子こそ生れけれ、母上の御喜びいふばかりなく、夫の君も產ぶ聲聞つけて、そこへ出で來たまふ。

△歎きの中の歎き

さて湯あみさせて產衣を着せつるを一目見れば、誠に愛らしき面ざしにて、體格もいと大なる子なれど、顏色餘りに白くて赤兒には似ず、醫師產婆が次の室にて夫の君とひそ／＼語るを漏れ聞くに、三十分とか一時間とかいふ聲聞ゆ、妾は何事ぞと其の意味を測りかねつゝも、一昨日よりの苦痛と疲勞とにうと／＼と睡りけるが、けたゝましき母上の泣き聲に驚かされて、眼を覺ませば、嗚呼休みなん休みなん。珠

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

兒ははや此の世のものならで靜に眠りけるよ。妾は唯蒲團かみしめて忍び音に泣くのみ。夫の君は流石に、雄々しく、いかに哀くも詮なしと、母上を勵ましたまひて、葬式の用意にかゝらせ給ひ、國元へも其の由、手紙もていひ送らせたまふ。やがて心易き人々數多弔ひ來ませるにぞ、母上は子の亡骸懐きて涙ながらに人人に示したまふを、夫の君、さなしたまひぞと止めたまふなど斷腸のきはみなり。妾も母上にその亡骸こゝへと頼みて、わがかたへにひき寄せ、仰むきに寢ながら、そと手の指を數へ見るに、可愛らしくも五本そろへり。生きてあらましかばと思へど、呼び活けんすべもなし。かくて小さき棺、小さき笠、杖など、土地の習俗によりて出來上げたれば、今はとて、其の罪なき顔して靜に眠りつる亡骸を夫の君とりあげて、棺に納めたまふを、母上涙ながらに稱名したまふ。妾も頭を擡げて遑を告げんとすれば、はふり落つる涙は枕に濺る。やがて納棺の事終りて次の間に据え、白布蔽ひたる上に、産衣にとて國元なる父上が贈らせたまへりしよき衣蔽ひ、前には香花を供へなどす。なにがしの寺僧來りて讀經する聲の、ひし〳〵と我が胸にこたへて、絶え入らんばかりなり。母上は唯呆然として何事も手に着かぬさまなり。やがて時刻ともなりければ、さかさまながら、夫の君、喪主となりたまひて、棺を出し墓地まで見送りたまふ。外面に聞ゆる人のけはひに、送葬の人々の多きことも推し測られたり。棺出でし後は、母上と妾と雇ひ婆とのみになりければ、俄に物寂しく、相見て暫しは言葉なし。程經て夫の君、歸らせたまふ。母上はつめよりて、墓地のさまなど問ひたまふ、妾はまた何日を經なば、死骸は腐敗しぬらんなどいふにぞ、夫の君もほと〳〵持てあましたまひ、母上さのみ惜しみたまひそ、すぐにまた上等なのをこしらへてお目にかけますなど、強て笑ひたまふにぞ、母上はさなり〳〵とうなづかせたまふ。妾も思はずほゝえみにき。嗚呼これも早や十八年前の夢となりけるよ。彼若し生きてあらんには、今は早や一かどの若者となり居らむを、今宵は妾が夢に入る姿は、生れしまゝの

俤なるよ。

△流蝶

夫の君は現在の境遇に氣を腐らし居たまひし上に、子さへ死にたれば、一しほ自暴自棄の氣味にて、身を持ちくづしたまふにぞ、信用ます〳〵地に落ちて、家計はます〳〵苦しく、終にそこにも居堪らで、また故郷の小學校へと轉任したまひき。こは夫の君の本意にはあらで、御兩親の意に强て從ひたまへるなれば、面白からぬ月日を送りたまふこと半歳の後に、斷然方向を變へて身を立てたまはんと、御兩親親戚の人々が切に留むるをも聞かで、教員の職を辭し、大阪へ出でたゝせ給ひ、妾は一と先づ實家へ預けらるゝことゝなりぬ。此の時妾は共に大阪へと賴み參らすことを、氣付ざりしにはあらねど、こたびは夫の君が、大に驥足を伸べんとての鹿島立なれば、なまなか妾といふ足手まどひありては、却て御出世の妨にもなりやせんと思ひ定めければ、我と我が心を勵まして、夫の君と暫しの別を惜しみけるが、これこそ此の君との緣の切るゝ甚となりしこそ是非なけれ。實家へ歸りて見れば、母上をはじめ一の姉、二の姉、口を揃へて、思ひ切りて緣を切れと勸めたまふ。されど夫の君とて死地に飛びこみて立身せんものと旅立ちしたまへるに、その落ち目につけこみて、妾の口より暇たまはれといふべき義理にはあらず。またたとひ死にたればとて子までなしたる中を、今緣を切るなどゝ妾はさまでに薄情に候はずとて、母上姉上の言に從はぬものから、この頃既に兄上も嫁御、迎へさせたまひて家族の增したる處へ、妾が歸り來て此の上の厄介かけまゐらせんは、心苦しさ限りなければ、妾はある小學校の助手に傭はれて、いさゝかの給料得て、わが食費だけは辨じつゝも、大阪なる夫の君の好き消息を待ちけるに、夫の君、大阪に出でまして、間もなく旅館にて盜難にかゝりたまひ、次で脚氣とやらんに罹りて、非常に零落し居たまふと、聞くだに淚の種なるに、離緣の說はます〳〵勢力を得て、妾も今は否む言葉だになきやうになりぬ。終に媒人して離緣の事をそが親御に申込まれけるが、よしや

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

親御は義理に逼りて承諾したまふとも、夫の君はよもや離緣狀を書きたまはじと、心密に頼みけるを、十日餘りして承諾の趣をいひ越されぬ。夫の君もいたく、其の薄情に激したまひけむ、二言といはで綺麗に離緣狀を書きたまひしとか。嗚呼子は夫婦の鎹とやら彼の子だに生きてあらんには、母上も姉上も、よもや緣切れとは勸めたまはじ、夫の君も、かくすげなく離緣狀を書きたまはじと思へど詮なきことなり。されど此のまゝにお別れ申さば、夫の君には妾の心の通せで、さぞ妾の無情を恨みたまはんと思へば、今は寸時も安座すべき時にあらずと思ひ定め、そと實家を拔け出で、大阪へと志して、夫の君を尋ねまゐらせしに、居處さだかならず、辛うじて探し當て、逢ひまゐらせしにさても淺猿しき御姿、秋風身に染むころなるに、單衣の襲ね着したまひ、御顏色も暫しの間に、見かはすまでに窶れさせたまへり。さて妾に向ひてのたまふやう、御身がはる〳〵尋ねくれし親切は身に染みて嬉しけれど、わが思ふ事未だ緒に就かぬに重ね〳〵の災厄に逢ひて、御身の見らるゝ如き此のありさま、御身の父上母上さては姉兄上が、われを甲斐なき者よ行く先きの見込なき者よと思ひて離緣を勸めたまひしも理りなりわれは更に恨む所なし。そはともかくも、一旦わが手に離緣狀を認めし身の、今更御身の情にほだされて、此のまゝに御身をかくまはんことは、思ひも寄らず、緣あらばまた。

△破鏡

再び舊に復し、覆水盆に返ることもあらん。早く實家へ歸りて父母の命に從ふこそ孝道ならめと、凛として言ひ放ちたまふにぞ、妾はよにも悲しき思ひして、何もさま〳〵に諍ひまつりしかど、頑として應じたまはぬ御心の中には、一點悲憤の念の潜むならんと思へど、今は詮方なくて、さらば隨分御身御大切に、そなたもまめにて、涙ながらに御別れ申して、故鄕さして悄然と歸り來ぬ。

その後おほよそ二たとせの間は、ひたすら其の御成功を祈りて月日を送りけるが、絕えてそよとの音信だ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

にしたまはず。男子の身として、女の方より離縁を望まれながら、またゝめゝしくも再縁を申し込まるゝはづなしとは思ひながらも、成功だにしたまはゞ、また縁の繋がることもやと、たのみならぬ事を空頼せし甲斐もなく。夫の君は京都とやらんにて後妻娶らせたまひて男の兒まで設けたまひしと風の便りに聞きて、今ははや我が望は絶えぬ。いでこれまでの縁と諦らめて、われは教員にまれ看護婦にまれ、自活の道を講せんものと覺悟して、學校の務の暇にはひたすら學業を勵みけるが、噫これもあだなりき。母上は前の夫にもまして良き夫の許に妾を再嫁させんとて、御心を砕きたまふこと一方ならず、姉上兄上また言葉を盡して再縁を勸めらるゝにぞ、意思の弱き妾は、つい動かされて其の氣になり。その頃師範學校の教員務めらるゝ御方の許へ。

△再縁

しぬ。母上の御心にては、前の夫は、小學校の教員なりしに、これは師範學校の教員なれば世間へ對しても恥かしからずと思召されけんも、妾が身に取りて何の名譽なるべき。またの夫君は、前の夫君にも增してやさしきお方にて、月々の給料も前のよりは多く、再縁としては誠に此上もなき良縁なりき。されど冷を去りて熱に就きしと、世の人の非難しなば、何といひ說くべきぞと、心の切なさいはん方なかりき、されど、一旦夫とかしづき奉れる上は、二心あるべきにあらねば、眞心を捧げて仕へ侍りけるが、いづこも同じ秋の暮、この夫君は、酒もさまでに嗜みたまはず、浮きたる遊もしたまはねど、世帶の苦しさは此處も同じき上に、三度の食事よりも、

△相場

を好きたまひて、人知れず手を出したまふにぞ、妾も初の中こそ差扣へたれ、後には諫めまゐらせしこともありしかど、容易に聽き入れたまはず、これがために負債山積して首もまわらぬ窮境に陷りければ、止むを得ず兵庫縣姫路のとある學校へ轉任したまひ、妾はまた再び父母の在す土地を後に見て、他鄉の空にさま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

よひぬ。されども姫路もまた永住の地にはあらざりき、夫の君の持病こゝにても再發して、例の相場に手を出したまひけるに、思ひの外の利益ありけるが、そも〳〵の大失敗のもとにて、一年餘りの後にて衣類諸道具皆賣り盡して、家に殘れるは唯二三枚の夜具と日用の食器、らんぷ火鉢の類のみ。衣類とては夫の君の洋服一具と和服一枚、妾は常の帶だになく、垢づきたる着物の上に細帶締むるあはれさ。外出もなり難ければ、家に閉ぢこもりて小遣ひの足しにと賃仕事に出精し、いかにもして此の窮境をもちこたへんと忍び居けるが、或る日突然執達吏の入來



りて、妾が手に取りて纏ひつゝありし他人の衣服までも差押へければ、今はそこにも居溜らず、夫の君と諮らひて、わづかばかりの旅用をとゝのへ、其の夜深けて後ち竊にその家を……噫いかに懺悔話しとはいへ、妾は今こゝまで述べ來れるに、筆持つ手も顫きて多く其の他を語るに忍びず。後にてさぞ人々の怒りやしぬらむ。罵りやしぬらん。何れの日にか其の罪を謝し得べき。いかに窮したればとてかくも墮落せしこそいとあさましけれ。

着のみ着のまゝなる夫妻は、そよ吹く風にも魂を消しながら、伊賀の國まで落ち延び、妾は其の

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

あさましき身なりと恥を忍びて伯父上の許を訪ひ、伊勢までの路用貸してたべと、涙ながらに頼みまゐらせしも、元來妾が再縁につきては、伯父上には相談せでむねと母上姉上の御はからひにて定められし事なる上に前の夫君の弟御は、伯父上の家へ養子に來給へる間柄なれば、其の義理合よりしても、妾を助けがたしとすげなく拒絶したまふにぞ、今は詮方なくてひそかに伯母上に泣きつき、辛うじて若干の路用を借り受け、兩人ともに伊勢なる實家にたどりつきて、その淺ましき姿を、父上母上にも兄上姉上にも見せまゐらせぬ。義理ある兄上に對して母上の御心、いかにつらかりしならむか、其の夜は涙に一夜を明しぬ。

それも事の成り行きなれば、今更咎むるもせんなき事よと、兄上まづ捌けたまひて、父上も之に同じたまひ、こゝに夫妻兩人は暫く實家に厄介の身の上となりぬ。かくて二月ばかりして、夫の君はいろ／＼苦心の結果、仙臺の師範校に奉職の口を得たまひ、旅費などさま／＼の魂膽して、遂に彼の地へ出立したまひぬ。

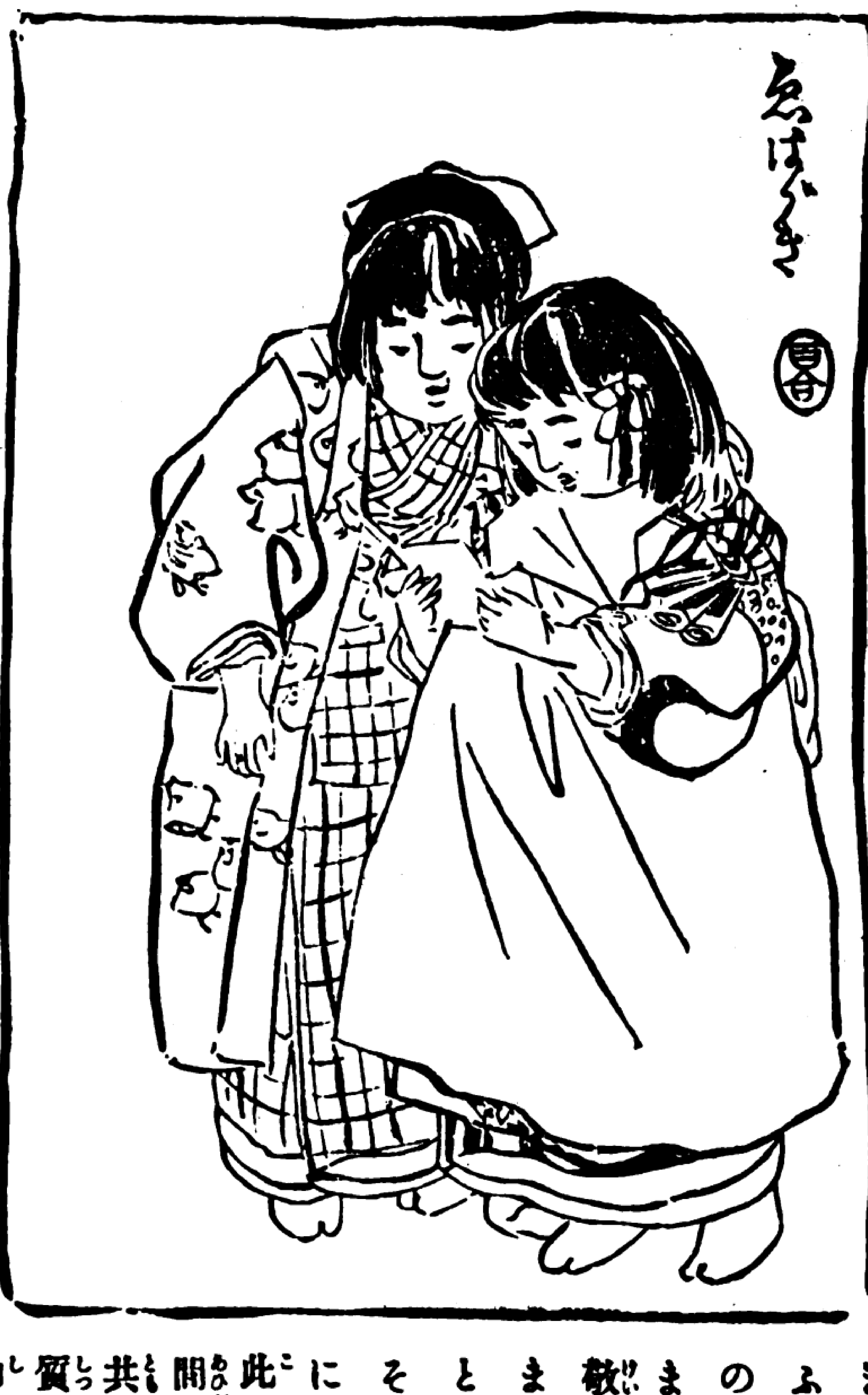
妾は幸か不幸か、其の時みごもりて早や臨月に間もなければ、東の空にさすらはんも、身に障りやせんと、母上の慈愛によりて、猶も實家にぞ居殘りける。やがて

△産の紐

を解きけるが、こたびは前のやうに難産にはあらざりしかど、數々の苦勞の結果にや、生れし子また强健ならずして、敢なく死に失せにき。悲しからぬにあらざりしかど、前のほどには惜しからざりき。されど之が爲にまたもや離縁の話は湧き出でぬ。薄命の第二幕は將に開かれんとしぬ。母上とても姉上とても、あながちに離縁を好みたまふにはあらず、唯妾が現在の苦勞を見るに見かね、また行末の事を案じられて、かくはのたまはせ給ふものゝ、嚮に初めての夫と、强ひて縁切らせたまひ、此度こそは苦勞もあるまじと推し測りて今の夫に嫁がさせたまひけるに、わづか二年ならぬに前にも増したる此の零落、どうせ浮世は苦の世界妾の如き薄運の者は、幾たび夫を代へたりとて、後の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

者必ずしも前にまさるとは限り侍らず、苦勞の淵に溺れたる身は、焦躁ればあせるだけますく＼深みへ陷りやしぬらん。離縁といふこと、一たびだに女の恥辱なるを、二たびせよとは餘りに御情の候はず、それも夫に嫌はれて暇出さるゝならば、まだしも、われより進みて離縁を求むることは、死ぬにも增して心苦しく候、飽くまでも今の夫にかしづきて、靜に運命の循環を待つより外は候はずと、弱き心を勵まして、母上姉上の



御言葉に反對しつれど、兄もさまぐ＼利害を述べて、今思ひ切れ、子の死にたるを好きしほになど、情けなきことのたまふ。妾とても今の夫の御身持にまことは十分の敬意を拂ひかねまた行末の見込とて、たしかにそれと定まれるにはあらねど、此の二とせの間、艱難辛苦を共にして、御氣質のほどもよく知りぬ。共に侮辱を受けて無念の涙を絞りしこともさはなり。されば、これ見よがしに立身して、身に受けたる恥辱を雪ぎ、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

昔しの苦勞を寢物語にせんものとて、夫の君ははるばると奥羽の空に赴きて、獨りさびしく暮したまはんを、妾は之に同情せであるべき。今はかうよと心に問ひ心に答へて、遂に父母上の御歎きを顧みる暇もなく、そと家を拔け出でゝ、

△産　後

の日數たゝぬ身を、はるばると仙臺に運びて、夫の君と同棲しぬ。夫の君も度々の失敗に懲りて。こたびはいと眞面目に務めたまひ、例の病は忘れたらんやうに手を出したまはねば、妾も嬉しさに堪へず、父上母上さては兄姉上の御心を安めまゐらすることも遠きにあらじと喜びしは束の間にて、悲しや夫の君は、また妾には知らさで、密に手を出したまふやうなり。夫の君とて妾惡しかれとてかゝる事したまふにあらで、一擧に千金を得て、妾にもよき衣着せたし樂しき目見せたしとの御心より、かくはしたまふなるべけれど、資本尠き身のいかで最後の勝利を得らるべき、まだ御心の迷の覺めたまはぬにやと、あさましく思ひけるものから、前に姬路にての覆轍もあれば、まさかの時の用意にと、例の賃仕事して得たる金を、夫の君には見せまゐらさで貯へおきけり。

△帯の間へ縫ひ込めて

貯へおきけるが、不幸にもまた此の用意の金の間に合ふこととなりて、仙臺を後に見て、東京へと舞ひ戻りぬ。父上母上へは久しく消息だにせねば、さぞや朝暮御心を傷めたまはんに、今また此の事を聞かせたまはゞ、いかに思召すらむ、それ見よ親の言を用ゐぬ天罰ぞといひたまはんか。否々叱ることはさておき、泣きに泣きたまはんなど、思ひて夜の目も寢覺めがちなり。仙臺より東京へ來つる折は、さきの姬路の時とは少しまさりて、聊か貯へもありつれば、とある家の座敷一室借りて身を落ちつけ。さて夫の君は私立の學校になりと務めたまはんと奔走したまへど、疾によき口もなし。妾も不束ながら幼稚園へなりともと思へど、生憎この時また妾は妊娠の身なりければ、思ふにまかせず。夫婦座食の有樣なれば、またゝくひまに貯へも

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

盡き果てたり。今はせんなしとて、彼の帯解きて縫目を探れば、積り〳〵て八圓あまりとなり居けり。これはた一時の急を凌ぐのみにて、忽ちに消え失せたり。とかくする中に夫の君は、はたと病の枕に着きたまひ妾は臨月に間近くなりぬ。すでに心易き人々に不義理の借財も嵩みてあれば、今は進退維れ谷まりて、死ぬより外にはとまで思ひつめし事もありたれど、みどもれる身は、かゝる無謀の事もならず、今はいよ〳〵身のつまりとなりければ、其の時妾の衣服の少しばかり殘れると髪飾りなど殘らず賣り拂ひて、そを夫の君の藥餌の料に捧げまゐらせおき、妾はさる人に泣き附きて路用だけを工面して、またもや、故郷の實家へ歸りぬ。

此度こそは錦を着ではと、心に決して仙臺へ出奔せし身の、今更おめ〳〵と我が家へ歸らるべきにあらねど、今は早や父上母上姉上兄上の御袖に縋らんよりは、外に道なければ、あつかましくも歸りけるものから、さて夕暮近きころ我家の門前へ來つれども、足俄に立ちすくみて進まず。幾たびか心を勵ましぬれど、遂に思ひ切つてえ入らず。家の内には父上母上の御聲も、きれ〳〵に聞ゆめり。妾があさましき姿して門邊に彷徨ふとはつゆ思ひ設けたまふまじ。行きつ戻りつする中に、もしや近隣の人に見附けられては、恥の上の恥なりと思ひければ、遂に程近き處に住める、妾が幼少の時より心易きある老婆の家を訪ひて、そと母上を此處まで呼びてたまはれと頼みけるに、老婆は、直に諾ひて母上を呼びにとゆく、待つ間ほどなく母上いそいそと來給ふ。妾が姿を一目見給ひて

△また、そんな風姿して來たのか」と、あとは涙なり。妾も涙ながらに不孝の罪を謝し、其の後の成りゆきを話しまゐらすに、母上は、そは誠にあはれといふも愚なり、されど度々の事とて、此上、母より義理ある兄に御身の事を頼む言葉はなしと、打ち萎れたまふ。仰せらるゝ事、一々御尤もに候へども、今一度兄上に詫びしてたまはれと、切に願ひまゐらするにぞ、母上もさらば先づ試みにと立

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ち上りたまふ。妾は其の後に跟きて高き我家の閾を跨ぎぬ。

こたびは兄上も、よき顏したまはねど、腹に子のあるものを逐ひ出しもならずとて、家に入ることを許したまふ。嫂の手前、消えも入りたき心地しぬ。とりあへず、此事を東京なる夫の君へ消息しまゐらせしに、程經て病は少しく瘥りぬ、安心せよとの御返事ありしのみ、其の他の事は詳しく告げ越したまはず。やがて妾は月滿ちて、またも男の兒を產み落しけるが、噫これもまた肥立あしくて遂に身まかりぬ。其の上こたびは妾の產後の肥立さへ惡しくて、四五十日が間は病の床につらき日を送りぬ。それも本復して瘦せばひながらも、家事の手傳ひするまでになりけるが、こゝにまた三たび離緣の話は持ち上りぬ。今は妾も之を拒まん勇氣なくて、泣く〳〵も其の言葉に從ひしに、夫の君も道理とや思ひたまひけん、直に承諾したまひて、こゝに二度目の夫との緣は切れ終りぬ。

△さすらひ

其の後妾は故鄕の人に顏見らるゝも恥かしければ、暫し伊賀の國なる、かの伯父上の家に厄介の身となり居けるが、不幸は妾の身の上のみかは、こゝにまた一の姉、少しの病ひにて失せたまひ、二の姉は、また三人の幼兒を殘して身まかられぬ。妾は既に二人の夫を代へしも運拙くて、親同胞に浮き目のみ見せまゐらせ世路の辛酸、人情の冷熱も略ぼ味ひ盡したれば、いで此上は操を守りて、兎にも角にも此の世を過さんと堅く心に誓ひけるが、さてこれも亦あだとはなりぬ。かくいはゞ世の人は、いかにも意志の弱き者よと爪彈きしたまはんも、そこには忍びがたき情實のありて、またもや妾は三たび目の夫に見ゆることゝなりぬ。そをいかにといふに、二の姉、三人の兒を殘して身まかられければ、そが後妻にと人々の强て勸めらるゝにぞありける。三人の孫を他のまゝしき後妻の手にかけんはあはれなり。彼等の伯母に當れる御身ならば、合ふたり協ふたり、御身もわが子の三人まで喪ひたることなれば、亡き姉の遺兒を養ひ育てゝ、死に水取らせんも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

善からずや、その上、彼の家ならば身代もいと富裕なれば、借金の斷りいふ苦勞はあるまじと母上は頼むが如くに妾に勸めたまふ。姉が婿なりし人、即ち妾が今緣附かんとする夫は、妾はよく知れり。其の氣質は誠にやさしくおはせど、其の容貌はいかにも醜くければ妾がうらわかき時に姉上を嘲弄し事もありきさるを今妾が其の人の妻とならんとす。人の運命は、げに奇しきものにぞある。そはとまれ妾は最早、夫の容貌の醜美などに心を惱ますべき年ごろにも身の上にもあらねど、既に二度の經驗によりて世帶持つことの何となう恐ろしくて、此の儘安樂に獨身生活をなさんものと、一旦は其の緣



談を辭みしが、此の時、伯父上の家庭のありさまに就きて、ふと感じたる事ありて、心機も爲めに一轉し、遂に自ら進みて、緣付きしは即ち今の夫にぞありける。

△安樂郷にあらず

されど此處もまた妾が安樂郷にあらず、生活上の苦勞こそなけれ、三人の子の母として責任の重きが上に、舅姑の健在したまひて、豊かなる身代造り上げたまへるほどの御方なれば、萬事につゝまやかにして、少しの事も、わが夫の自由にはならず、見るもいたはしきまでなり。されど妾の身はとにもかくにも、これにて定まり、其の後波瀾もなく日を送るものから、實家には不幸の事こそ續

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

きけれ、杖とも柱とも頼みまゐらす兄上は、わづかばかりの惱みにて世を早くしたまひければ、一家さながら暗夜に燈を失ひしが如く、嫂は遂に一人の男兒を殘して離別せらるゝ不幸に遇ひぬ。續て母上もまた病の床に就かれ、さまぐ〳〵介抱しまゐらせしかひもなく、悲しや六十歳を定命としてかくれさせたまひぬ。今はの際に妾が身の定まれるを喜びて瞑したまひぬ。迹に殘るは七十路の阪を越えたまへる父上と兄上の遺兒とのみ。妾はとにもかくにもして、此の遺兒を育て上げて實家の家名を揚げさせ、亡き母上、亡き兄上の御靈を慰めまつらんと、千々に心を碎けども、女の身のいかにともせんすべなく。夫の君に頼みまゐらせて、少しの補助をと思ひにたれど、前に述べしごとく、何事も夫の君の心に任せねば、妾は今現に片手わざに、

△鷄を飼ひ

て、そが生める卵の代と、夜間は五六人の娘子に讀書を敎て、受くる報酬とを毎月實家の父君に貢ぎまゐらせつゝ侍り。娘子敎ゆるにつけて思ひ出さるゝは

妾が幼き時の事よ、母上はもと御殿に勤め居られし御身とて、髪結ひたまふこと化粧したまふことは特に堪能におはして、近隣の娘子の、おつくりは母上皆頼まれて、したまふが常なりき。されば妾の髪飾りには、ことさら御心を注ぎたまひけるが、行末かゝる薄命の身になれかしとて、わが黒髪は撫でたまはざりけん。また今、人の子におほけなくも文字敎ゆることを得るも、皆父上母上兄上が妾を敎育したまへる御恩にこそ、さては初めての夫君が學資を削きて此身を女學校に通はせたまへる御蔭にこそ。その初めての夫君は、今いかにおはすらんなど、思ふにつけて、現在、夫ある我が身の、夢に折々は彼の方樣の姿をぞ見る。妾は永の年月の苦勞に色も香も褪せて、昔しの面影はさらになし。さきに伯父上の家に在りつる時、ゆくりなくも初の夫の母君に逢ひ奉りければ、妾は挨拶して安否を伺ひまゐらせしに、母君いと慇懃に、どなた樣ぞと問ひたまふ。お○にて侍り候ふといふに、母君さてはとばかりに驚かれき。母上とかしづき奉り、嫁よと呼ばれ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

し間柄をかくも、忘れたまひぬるは、妾が顔色の餘りに衰へたればなるべし。彼の方さまも今は早や四十路にもなりたまひて、二人の子持たると聞けば、さぞ老けたまひて、昔しの御さまにてはあるまじ。されど妾が夢に見えたまふは、洋服着たまへるいと若々しき御姿にぞある。次ぎの夫、はた如何にしたまひしか、其の消息聞かん由だになし。

嗚呼三たび夫を代へ、一人の母、一人の兄、三人の姉に別れ三人のわが子を喪ひ而してわれは尚ほ死することもえせず浮世の中に漂ひ、未來に一點の微光だも認むること能はずいかなる前世の惡業にや。これをしも薄命といはずば何をか薄命といふべき。かくても人は尚ほ、其は汝の我儘ぞと、無情にも斥けたまはんか。若し世に妾と同じき運命の人あらば、手を把りて共に泣きに泣かん。若し妾にも増したる薄命の人おはさば、本誌を借りて身の上話を聞かせ給へ。妾はいかに多大の慰籍を得侍らんか。



◎都にある妹に　　神戸　船戸りき

都は成功の地たると共にまた墮落の境土にて候、繁華の蠢して來る惡魔におそはれ給ひそ、惡魔は最もよくおん身の弱點と乗ずべき機會とを知れるものなれど、神の信仰だに確くば斥くるにも易きものにて候、心したまへや花の都の、花ちり易く盛榮は身を亡ぼす基なるべきを。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

實社會の觀察

伊藤銀月

其一

實社會の内容は複雜である、多面多角である、さうして、各角面の關係は連鎖のやうになッて居る、特に其一角面を離して取ることが出來ないのである、だから、其一角面を觀察しやうとするには、他の各角面をも識別するに足るの素養が無ければならぬ、あれは專門の事だから、それは特殊の事だからと云ッて、逃れることが出來ない、一通り各角面の何たるやを知ッた上でなければ、決して一角面を充分に觀察することが出來ないのである。

其二

たとへば、或一日歌舞伎座へ行ッて見て、其後の或一日は市村座へ行ッて見たとする、市村座の客種を歌舞伎座のそれに比べると、スタイルが餘程ちがッて居る、第一、女の風に著しく違ッた特徴が見える、容貌までもさうである、無論、すべてが悉くちがッて居ると云ふ譯ではないが、雙方の或一端を對照して見ると、隨分差違がある、そこで、其所以を研究しやうと思ふ、けれども、雙方の芝居を一度づゝ見て、直ぐに通がッたことを云ふは輕卒たるを免れぬ、當世には、新聞記者になッて始めて芝居を見て、直ぐ劇評をやる先生が多いが、それとこれとは事がちがふ、數度雙方を見較べて、俳優と狂言とに依るものゝ外、土地に就いてちがふ客種の特徴を確かに見定めた上でなければ、滅多な事は云はれない、扨て市村座の土間或は棧敷に見出ださるゝ女の特徴は何であるかとなれば、藝妓のやうでもあり、藝人のやうでもあッて、藝妓でもなく、藝人でもなく、ヒヨロ長いのを更に一際ヒヨロ長く見せやうと樣子を作るのが、今の若い女の、左無きだにヅンヅラ短かいのを、更に念入れてヅンヅラ短く見せやうと、頭の毛を平ッたく左右前後へ出ッ張らせ、頸へ一モク／＼した物を捲附け、腰は行燈袴で太くし、肩を張り、胸を出すと、全然反對である、色は黑い方、青

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

い方でそれも、尋常の黒味青味ではない、或は尋常の黒味青味でないやうに見せかける傾きもあるやうである、其物ごし格好から、樣子の賣りやうから、着物のガラと色合ひとの好みから、恐ろしく舊式で、さうして、所謂イキの方でもなく、澁い方でもなく、いやに新らしがッた所もあり、何となく、場末の古道具屋で、五十三次道中や、昔の俳優の似顔の錦繪と共に、安ッぽい着色石版畫の美人、同じ日露海戰の圖などを、滅茶苦茶に貼り交ぜてある枕屏風を見出した時のやうな感じがする。



此種類の女を觀察するには、市村座附近即ち二長町界隈が、德川時代の或期に、どんな場所であッたか、二長町藝妓と云ふはどんなスタイルの者であッたかの概念を、頭の中に置いてかゝらなければならぬ、其時代の餘風が、歷史の隙間をどう曲りくねッて潜ッて來たか、歷史の爲めにどんな變化を與へられたか、二長町其ものゝ變遷はどうであるか、其土地の地理的方面はどうであるか、人氣はどうであるか、土

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

地一般の人の生活は何を趣味とするか、彼等の思想に如何なる一致あるか、彼等は何を理想とするか、其土地で賣る餅菓子にも、鮨にも、蕎麥にも、彼等の趣味を探り、市村座の前と横とに在る大溷と、其邊一體清くない濕氣の籠ッて居るとを見ても、それが、彼等の容貌風采、趣味嗜好と何等かの關係あるのではあるまいかを問はなければならぬ、又、彼等の生活と、長唄、端唄清元、常盤津、義太夫などの聲曲、三味線、太鼓、笛、鼓などの音樂、及び踊り、所作事等との關係を窺ふことも亦必要である、して見ると、こんな小さな事でもへ、滿足な觀察眼を備へた上に、一通り、歴史、地理社會、人類、心理、生理、物理、化學等の諸學科の智識を兼ね、其外、世態人情に通じ、聲曲、音樂、踊り所作事等の趣味を解しなければ、充分なる觀察の結果を得られぬので、實社會を觀察するの困難は思ひの外である。

其　三

今一つ例を擧げやう、こゝに鳶八と云ふ着物がある諸君御承知の通り、光澤のない手障りのあらい、鳶色の地に黒の縞のある八丈絹である、これは、江戸時代の町家の娘が好んで着たものださうで、今でも、代々東京に住む舊式の家に、鳶八々々と云ッて賞美して居るものが少なくはない、これは、如何にも、東京の風多く塵多く、黯澹老蒼として灰色に蔽はれた風物に調和した色合である、若し、京都のやうに明麗な天地に於て、こんな着物を着たなら、若い娘が婆さんのやうになッて見えるであらう、けれども、東京で之を着ると、娘は如何にも娘らしく、派手な模樣や色合の着物を着たよりも、却ッて若くあどけなく見えるが妙である、然るに、それがどうして今は流行らなくなッたかとあれば、晝はペンキの色、夜は電氣瓦斯の光、其他種々なる西洋的色澤の爲めに黯澹老蒼たる東京の市街の風物が、だん／＼其特色を減じて、鳶八が之と調和しなくなッて來たからである、現に、日本橋石町、油町あたりの古風な家の中で着てゐては似合ッても、往來へ出るとまるで別になッて見えるが、新川新堀のや

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

うな、大問屋が軒を並べて、比較的舊式を多く存する所では、往來で鳶八の娘を見ても、それが少しも四圍の風物との調和を缺くを覺えぬのである、之と同時に一面に於ては、東京が如何に西洋的色澤に包まれるやうになッても、全然舊式を脱するはまだ〳〵いつの事か分らぬ、老蒼黯澹たる風物は、だん〳〵減じながらも、今後長く保たれるであらう、だから、無暗にハイカッて、馬鹿ッ派手な衣類を好むのは間違ッて居る、好んで自分の姿を醜く〳〵見せるものである、赤だの、青だの、黄だのと云



ふ單純で鮮かな色は、山水明媚な田舍の風物とは配合が好からうが、東京では甚だ映りがわるい、こんな色合の着物を着てゐるものを見ると東京人は、直ぐそれを指して田舍臭いと云ふ、これは、東京人が、天下國家の大事に就いては一つとして碌な事の出來ない癖に漫りに江戸ッ子を振り廻はしたがる淺薄な病ひのしわざでもあるが、一面から見ると、田舍の風物と調和して、東京の風物と調和しない色の物を着て居るから、これを見て田舍臭いと云ふのが至當である、どうしても、老蒼黯澹たる東京の風物を成すの本源たる淡黒色

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

即ち鼠色を取ッて、如何なる色にでもすべて、此色を混和したものを選ばなければならぬのである、オリーブも今は流行が過ぎたが、あれも、要するに綠に鼠を加味した部類に屬するから、東京の風物と配合がわるくないのである、自分は、先頃或る山水明媚の田舍へ旅行して、オリーブ色を身に着けた女を見た、當人は餘程得意の樣子であッたが、四圍の風物との不調和さ加減、實に見られたざまではなかッた、これらもまことに小さな例に相違ないが、こんな小さな事でも、觀察眼の外に相應の素養が無ければ、充分其目的にかなふ結果を得られないのである。

其四

觀察眼の外、斯く色々の素養がなければならぬとすれば、實社會を觀察するに適當な資格を作ることが、抑も容易でないやうである、けれども、退いて考へると、是等の素養は、社會の一員として立つ人に、必ずなければならぬもので、これなき者は不具同然であるから、必ずしも、特に實社會觀察者としての素養と云ふを要せぬ、たゞ、今の世の中には不具者が多いから、實際に於ては、こんな尋常人たる資格を作ることさへ、困難があると云ふだけである。

（此項未完）

歸省

五日。雨しと／＼と降る。雪淡き山路には、夫婿の雉子の聲のほろ／＼と聞ゆ。

松枝の君の招きもだし難きに、姉樣のみを家に殘して行く。路々にすれ交ふ人の、皆妾を顧みつゝ去る。妾も亦た、うろ覺えある故鄕の人のなつかしきに……。郷に至れば、昔しのまゝのポチは、よくも忘れざりし事よ、尾を揮り頻なくはへて妾を迎ふ。

ようこそ來ました、とおば樣の、わが後ろに立ちて見上げながら、まあよく大きくなりし事よ、二年が間何を食べて斯樣に成られしと笑ふ。

皆樣御達者にて、殊に松枝樣のお太りなされし事よ。座に、露子樣おはせり。去年の春、隣り村のさる方にお嫁ぎなされしと云ふ。うひ／＼しき丸髷姿は、昔しの束髮のようにお美しきが、その白き細手には、くりくりと可愛げなる嬰兒いだかれたり。

打ちくつろぎて、大火鉢を圍みつゝ、面白くおかしき昔し話しなどす。（寄稿　織田澄子）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



月ヶ瀬の梅に遊ぶの記

楓　陰

むかしならましかば、うらわかき女の身の、遠國僻郷に旅して花見んことは思ひ寄らざりけむを、今は開けゆく代の恩澤にて汽車てふものゝ便あれば、われも今年は二三の學友と共に月瀬の梅を賞しき。

一番汽車にて關西鐵道の湊町停車場を出發し九時何分といふに伊賀の國なる上野停車場に着く。こゝより月瀬まで三里餘り、腕車にて急がすほどに十時三十分頃には、身ははや香世界の入口なる尾山村に在り。携へ來つる月瀬案內記に詳しく觀梅の路順を示されたれば、その言に從ひ、此處にて腕車を捨て、車夫を東道として小阪を登り、まづ眞福寺に至る、こゝは拙堂先生の月瀬記勝に古梵晴雪と題する處なり。境內には地藏堂と僧房とあるのみにて、何の觀るべきものとてなけれど、堂の側は千仞の崖にて敵谷、鹿飛の二谷その下にあり、五月川一帶の淸流其の麓を流る、かの書法にいふなる荷葉皴の高峯、屹然として前岸に峙てるは藥師嶽、左方近く淙々たる急灘は老聞の瀨と呼ぶとかや。右方遙かに茅舍の烟雲の間に簇々たるは、これぞ月瀬、桃香野諸村なりとぞ。されば梅溪に遊ぶ者は、先づ此處に來てゆくて定むるこそよけれ。やがて此處を辭し、路を左に取りて行くこと數十步にして拙堂墨

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

巖以下知名の文士が宿れりしとて有名なる三學院に至る。こゝより少し引き還して右に折れて細蹊を降れば天神社に至る。小祠に菅公を祀る。五百年前、始めて梅を植ゑしは此地なりとか。眼界ます〳〵開けて眺望漸く佳境に入り。その下は捜窟といふ谷にて一巨巖の兀然として香雲中に峙つを天狗巖といふ。やがてまた此處を去り、山道を迂回して西北に向ひ、又轉じて西北に進めば、途廣く足趾漸く下に向ふ。少し進めば先づ眼に入る三株の老松、偃蹇蟠屈して蒼翠滴らんとし恰も遠來の客を迎ふるに似たり。その下は祝谷といひて萬梅、溪を埋め一望皓然、清香空に薫る。これは〳〵との嘆聲は吉野のみに限らじ。こゝより下、鶯谷に至るまで凡そ五六丁の間は、羊腸たる坂路、五歩に一折十歩に一曲、崖回り溪轉じ、梅の下道を縫ひゆくこれぞ有名なる大觀坂にぞある。或はいふ昔し代官某が此處の景色に見とれて坂より墜落したれば代官坂の稱ありと何れか眞なるを知らず。

坂の半ばほどに造りざまいと瀟洒たる一亭あり。玉界亭となむいふ。こゝは左に高渕谷を望み、右に一目千本と大谷とを望み、四顧皆梅ならぬはなし。五月川の清流はます〳〵其の色を添へ、嵩、月瀬の風景は近く眼前に遮り、さきの眞福寺、天神社に比すれば其の眺望恰も別境の如し。亭を去りて又下りゆくこと數百歩にして坂盡き新道と會する處は鶯谷なり。老梅樛枒として溪を夾み、疎影水に映じ落花流に浮ぶ處、幽禽の清音を弄するあり。溪畔に二小亭あり。一を聽泉といひ一を聞禽といふ。其の上、近く初音の瀧あり。こゝより右に折れて進むこと數十歩にして月瀬橋に達す。橋上に立ちて東を望めば、今まで經來れる尾山村の全景は一眸の中に在り。西を望めば月瀬の離落、桃香野の人家歴々として數ふべし。橋下には碧波溶々として流れ、巖峙ち石蹲るところは水之に激して白雪を噴く。大觀坂の上より瞰下したるとは趣全く異なり。橋を渡れば藥師嶽高く峙つ、其の麓に緑竹猗猗水に臨めるは、かの月瀬記勝にある竹林待渡の名殘にや、嶽の西麓にも亦梅樹多く、後には老杉の鬱蒼として立てる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

あり、配合いとよし。進むこと數十步にして舊月瀨村の麓に達す。頂上まで坂路凡そ數町、梅樹の間を縫ひて上る。中ほどに芭蕉の句碑あり。又處々に小亭の設ある。梅溪第一の絶景といはるゝ一目萬本も此の坂路よりの眺あり。阪の盡くる處に晝猶ほ暗き杉林あり、之を過ぐれば茅舍簇々として高低錯落たり、これぞ即ち元、月瀨村にて旅舍にも乏しからず。われらは名さへゆかしき騎鶴樓といふに小憩して晝飯をたうべぬ。

やがて此處を辭し、また登ること一丁餘りにして總見山の絶頂に達す。此處は月瀨の最高處にして對岸なる尾山の八谷を初め長引村の全景を雙眸の中に收め、いはゆる

眼界豁然として谿山呈露し、藏匿するを得ることなく。花、山に溢れ谿を埋め、瀰望皓然たり。

そが中に唯五月川の碧流、分明に其の中を劃して流るゝを見るのみ。此の山の後は、裏の谿とて、梅花また多し。谿を下り盡せば、五月川の岸に出づ。こゝより西、川に沿ひて桃香野に至る數町の間は、山岨水隈皆梅ならぬはなく、梅は皆老樹ならぬはなく、鐵幹蒼蘚姿態百出の妙あり。やがて桃香野に達し、天井谿の逕を登るに、溪流は潺湲として琴筑を鳴し、圯橋は苔むして水車靜かに廻り、水を夾む梅樹、その幾千株といふことを知らず。而して茅屋簇々として香雲の中に隱現す、今まで見たる諸勝中、風景の幽邃淸雅なること此處に及ぶものなしと思ひぬ。されど仙寰雲深くしていつまで行くも限りなければ、今はとてひきかへし月瀨村を右に見て月瀨橋を出でぬ。

こゝより尾山八谷の麓をきり開きたる新道を通りて彼の尾山村の入口なる車を待たせたる處に出で、見返り勝に梅花と袂を分ち、上野停車場に着きしは午後六時ごろ。やがて西行の汽車に乘り、大阪に着きしは八時三十分頃なりき。翌日机に向ひて之を記さんとすれば淸香の筆端を迴るを覺えぬ。（中學新作文叢の月ヶ瀨抄略）

○月瀨より友に寄する繪端書

爰は今名にし負ふ大和の月瀨、萬玉谿を埋め滿城香雲の處にさまよひ居候儘よしにもまさる絶景、唯これは〳〵とばかりにて、歌

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

し昔句も出で申さず候此の繪はがきは今妾等が午飯する處より前庭を見渡したる景に御座候くはしき事は明日歸りて後に說明致すべく候艸々

杉の間出ぬけて白し梅の花　田中鯉城

早梅を花瓶に挿みて

親しき友より嬉しくも、早梅一枝を贈りければ、とりあへず我が書齋なる花瓶に挿みけるに、清香室に滿ちて筆硯皆かぐはしき心地す。その姿の氣高くて汚瀆すべからざること、げに櫻桃の比にあらず。されども梅の貴ぶべきゆゑよし唯その香の清きと氣品の高きとのみにはあらで、苦節自ら持して能く寒時に開くにあり其の枝の枯瘦勁拔にして斌媚の態なきにあり。花散りて後は實を結びその實は人世に缺くまじき食料となりよく羹を調和するにあり。女の姿かたちあでやかならざるも、品格高く節操正しく、一家の主婦となりて、よく家政を調和し子女を養育する者こそこれに類すといふべけれ。彼の花顏窈窕として流行の服裝にうき身をやつし、倩たる巧笑、盻たる美目、交際場裏の花と歌はるゝも、却て家政を治むることの拙き人は、櫻花の一時に榮えて全盛を極むるにも譬ふべし。若し風雨の一結に逢へば、忽ち泥土に委して見るかげもなく、味ふべき嘉實とてなければ、花散り色褪せて後は寂寞として誰一人顧みる者もあるまじ。嗚呼人生婦女の身とならば、梅花を學ぶこそよけれ、決して櫻の妖艶を羨むこと勿れ。今わが學友が心をこめたる贈物、われは之をあだにはせじと、此の文を作りて自ら警む。

庭前の梅、時候の加減にや例年よりは四五日早く莟を破り候ひき疎影横斜とやらんのながめはこれなく候へども花は中開と申す事も候へば一枝手折りて御目にかけ候世はなべて櫻花の艶麗を愛し色をも香をも知る人は君ならではと存じ候微意御汲み取り下されたく候　かしこ

片枝に脉のかよひて梅の花　文者

この梅の殘るかげなき月夜かな　巨燕

梅が香や乞食の家ものぞかるゝ　野披

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

梅の花折ればこぼれて白妙の
　　そでよりふれる春のあは雪　　實　沖

わが宿の梅のたち枝や見えつらん
　　おもひの外に君や來ませる　　平　經盛

春の夜の闇はあやなし梅の花
　　色こそ見えね香やはかくるゝ　　凡河内躬恆

君ならで誰にか見せん梅の花
　　いろをも香をも知る人ぞ知る

山里は梅さく宿の數多あれば
　　あるじ定めずとふべかりける　　村田　春海

疎影横斜水清淺。暗香浮動月黄昏。
不受塵埃半點侵。竹籬茅舍自甘心。祇因誤識林和靖。惹得詩人說到今。　　王　淇
竹繞疎籬水遶門。一枝閒伴到黄昏。暗香似識騷人意。月淡無風自入門。　　方　岳

○鶯の初音を聽きて

けふ始めて鶯の初音を聽く。まだ口籠りがちなる聲音にて調子滑かならず、人の聽くを恥づらんやうなれど、さすがに春告げ顔なるには暫し衣縫ふ手を停めて聞きとれたり。其の中に何に驚きてや飛び去りしと見え、暫く音聞えず。明日よりは早く來鳴きてわが眠をさませかしと、あつらへ告げんとおもひしものを。いとはいなし。

此の鶯よ今日こそ聲音も滯りがちなれ、誰に習ひ覺えてや一日二日に巧になりゆきて、妙なる調べに人の耳を傾けしむた、學びの窓に横文字讀む我の何とていつまでも上達せぬにやといと恥かし。

鶯の身をさかさまに初音かな　　其　角
ものゝふの鶯聞いてたちにけり　　子　葉
鶯の肝潰したる餘寒かな　　支　考

○紀元節に友を

いかにしてけふの佳節を祝ひ奉るべきか主人は公けの儀式濟ませて後、某家の宴會に出席致すべしとの事ゆゑ私、外出も致しかね候まゝ急に思ひつきて音樂會を開かばやと存じ候溱原なせるの曲を初めとしてそれぞれ好みの曲を奏で雍々たる樂聲もて君が代の千代を壽ぎ奉らんは女にとりてふさはしき事と存じ候外に御約束もおはさずば手料理の晝飯さし上たく候間十時ごろより御こし下されたく御得意の青海波ぜひ拜聽せまほしう候かしこ。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

雪

造化巧を弄して一夜の間に銀世界を現出しぬ。松は白無垢を着けて僅にその蒼髯を露はし、南天は綿帽子を被りて朱唇徴かに見ゆ。枯木皆花を着けたれば、いづれを梅とわきがたく、花壇の上、一凸一凹、水仙も寒菊も姿を見せず。無殘や千竿の勁竹、腰を折りて地に伏し、塒失ひたる雀は石燈籠の陰に集りて鳴きだにせず。

嗚呼この雪の朝よ。簾を掲げて清少納言を氣取る女學生もあらん。滿地の玉屑を踏みしだきて學校へと急ぐ幾多の小川泰山もあらん。義人錄を繙きて元祿の昔を偲ぶ者もあらん。いざ行かんとて雪見にころぶ俳人もあるべく、驢に乘りて郊外に立ち、駒とめて渡頭に舟を待つ詩人もあるべく、獵夫は猪を撃ち熊を刺して鮮血を白雪の上に濺らし、農夫は爐邊に閑坐して來年の豐凶を卜するならん。唯書窓一夜の明を得たりとて喜ぶ孫康、鉢の木折り焚きて旅僧をもてなす源左衛門は、今ありやなきやを知らず。

都鄙の細民家に儋石の貯なき身に至りては、暖を取らんにも炭なく、飢を凌がんにも米なく、空しく門外の積雪を眺めて造化の無情を恨むも多かるべく、かくと知るや知らずや、高樓傑閣の上、雪見の酒宴方に闌にして、笑語外に漏れ、さし出づる日影の雪の漸く消えゆくを惜しむ。

いざ行かん雪見に轉ぶところまで　芭蕉
應々といへど叩くや雪の門　去來
椽側に鳴くや吹雪のむら雀　同
日ごろ憎む鴉も雪のあした哉　其角
宇治川や雪の夜明の下り舟　凡兆
門の雪臼とたらひの姿かな　嵐雪
松の雪ばたり〳〵と惜しいもの　來山
雪の野にところ〴〵の藁家かな　鶴白
雪降りやあれも人の子樽拾ひ
わが子なら供にはやらじ今日の雪
勘當の子を思ひ出す夜の雪　子規
南天に雪ふきつけて雀鳴く　同
初雪や海をへだてゝ何處の山　同
朝晴し雪の山々鳥囀る　同

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

青天にたぐひ立ちけり雲の峰　入雲樓
仙学ぶ童子眠れり夜の雪　橡面坊
雪夕潮屋を出づる赤合羽　井中人
初雪に豆腐屋も來ず暮れにけり　孤島
駒とめて袖うちはらふかげもなし佐野の渡の雪の夕暮　定家

春曉

軒端の雀の嬉しげに囀る聲に暖かき夢を破られて、ふと眼を覺ませば、障子に映る花の影に、今日の天氣も知られたり。手もて髮撫で上げながら縁側に出で見れば、今しも朝日は山の端を離れしまでにて、曙光まばゆくも照り渡り、階前一株の山櫻、萬朶露を帯び玲瓏として光あり。人ありと知らでや花間に餌をあさる小鳥の羽風に、落花數片ひら〳〵として蒼苔の上に着く。花を看るの異趣は此の間にありて、彼の遊人雜沓俗塵紛々たる處にはあらず。

春の朝まだ眼がさめぬ　庭の小鳥におこされて
ゆふべはげしき雨や風　花の散るので知るわいな。

春眠不覺曉。處々聞啼鳥。夜來風雨聲。花落知多少。
花よりあくるみよし野の春の曙見渡さばもろこし人もこま人も大和こゝろになりぬべし

春の海

ひねもすのたりのたりかなと、俳人が歌ひし春の海ばかり長閑けきはあらじ、平和なるはあらじ。見渡せば一面に霞たなびきて遠山近島、影さだかならず。その中に見え隱れする帆船は、動くとも見えぬばかりに靜かにて白鷗の浮べるかと疑はれ。あなたこなたに散り布ける海士の小舟は木の葉にさも似たり。砂白く松青き磯邊に一簇の漁村、晝靜かにして太古の如く、閑に網を繕ふ漁夫、一去一來緩かに岸を洗ふ浪際に餘念なく貝拾ふ少女、何れか詩料畫材ならざるべき。もし不平に怨恨に戀愛に煩悶する人あらば速に往きて此の自然の美景に接せよ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女代診（其六）

糸左近

血の道病（上）

▲〔血の道とは如何なる病か〕――これは醫學上の名では無くて、昔より誰が言ひ始たと無く自然に命名せられた素人的の病名である。其中には、今の所謂歇私的里病が大部分で、其他神經衰弱、依卜昆垤爾、生殖器病等の或る病狀も包含せらる、換言すれば十五歲以上の婦人の神經質病と解釋して可からう、而して我國の婦人方には、頗る本病が多い、彼の有名な肺病よりも多い、肺病は遺傳せぬけれど、本病は遺傳する、然るに中には本病で有りながら、無病だと本人自身も思ひ、他人よりも斯く思はれてるのがある、故に攝生もせねば、療治もせずして、一生を柔弱に過し、從つて弱い國民の種を蒔いてゐる、それが何ういふものか、斯道の人も餘り八釜敷言はぬ、實に慨かはしいことだ、故に余は本病に就き、頗る詳しく述べて、諸姉の御注意を惹かうと思ふ、何卒公侯の夫人姬樣より、女學生方は言ふに及ばす、裏店の御內儀娘子達に至るまで、博く讀んで頂きたいものだ、嗚呼讀んで頂きたい。

▲〔血の道病の原因〕――神經性の遺傳、或は重病後、或は貧血、或は衰弱、或は精神感動即ち驚き、怒り、心配事、刺戟の多き小說芝居を見るなどより起る、又生殖器病より反射的に來ることも有る。

▲〔血の道の病狀〕――奇妙變挺な病で、これに精神的と肉體的とある、余は今精神的より列記しよう、就ては斯道の學者吳博士の說かれた物は頗る詳密に、而も有益なれば、これに余の經驗を加へて御話しすることに致します。

○嫉妬深くなる――例を女學生に取れば今まで親しく交はつた朋友の心も一時に疑はれ、度々訪づれて來れば何か爲にする所あるかの如く邪推し、去りとて來ら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ざれば尙更腹が立つ、其の朋友にして學校其他の成績が宜ければ、己れを卑しんでるやうに思はれ、反對に己れの方が良ければ己れを惡むかの如く思ふやうなものだ、又例を一家の妻君に取れば、其の良人が品行方正鐵壁の心を抱けるにも拘らず之を嫉妬する、何ういふ風に嫉くかと云ふに、勿論品行方正であるのだから、之と點を打つ所は無いが唯想像する丈で腹が立つ即ち假りに其の良人が情婦を有つて、其のみを愛し、己れを次第に遠ざけたと考へて見ると、其時の良人の姿、其時の情婦の樣



アリ〳〵と眼に映り、さア腹が立つて堪らぬ、其故ブリ〳〵して最愛の夫に對する夫より羽織が何處に在るかと尋ねられても『知りませんよ、エヘン』といふ調子になる、夫は妻の病氣なることを知らぬから『何が腹立つ失敬なッ』といふ工合になるに相違無い、斯うなればなる程、嫉妬の炎は益々燃えて、夫が下女に物言ふのも、我が母や姉妹に優しくする事までも、悋氣の種となり、遂に一家の平和は破れ、朋友との情合も無くなり、世を味氣無く暮し、心身は次第に衰ふるのだ、之を世間の人は病的なりと知らず、醫者でさへも

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

診斷がつかずして、輕々に見過すことがある、然れども、幸に早く醫者の診斷する所となれば、治癒して目出度くなるのだ、諸ふ下に述る所の療法を見られよ。

○記憶が惡くなる——記憶の惡くなるは、第一に注意が散漫となるからである、本を讀んでる中にも、色々な取留の無い事を考へ出し或は人と談話してる中にも樣々な思想が浮び、人より何か質問をしてゐるのに「ハイ左樣で御座いますと」頓珍漢な返事をしたり又「今御話で御座いましたが何でしたらう」など〻云ふやうになる、又嘗て屢々往復したる知人の家へ行かうとしても其道を忘れ、尋ね〳〵て漸く行くやうなことになる、斯の如き徴候も餘程重くなれば病氣なる事が了るけれど、初の中は輕々に見過すものだ、重くならぬ中に療養せねばならぬ。

○惰弱になる——爾來記帳面な婦人が、段々不性不規律になつて、箪笥へ着物を仕舞ふ事も面倒臭く、湯に入るも懶く、髮は崩れてゐやうが、顔に少々墨が附いて居ようが、左程氣に掛けず、結句寢轉んでゐた方が宜い、換言すれば、何だ、矢でも鐵砲でも持つて來いといふやうな調子になる、これは凡て意志の柔弱になりたる證據で、矢張病的なれば重くならぬ中に治療を加ふ可きものである。

○嘘つきになる——敢て故意に嘘を言ふ譯では無いが前述の如く意思散漫して、記憶が惡くなり、色々な事が錯亂して、爲に初め見た通り聽いた通りを話さぬからである、例へば何女は重い熱病であると聽いたと同時に一家中に傳染せぬか、或は其人の亡くなつた後は子供達は可哀相なものだと想像した事が、後にさう聽いたやうになり、何女は熱病で亡くなり、間も無く後妻の入り込み、子供は大いに虐待されてゐるさうだなど〻話す、又夢幻の中に、盜賊の忍び入るを見、己れは駈けて警察に訴ふ、巡査の來て見れば、更に斯る形跡は無いといふ如き事柄が屢々新聞紙上に在る、これ皆病的より來るのである、治療を怠つてはならぬ。

○動物好になる——犬猫馬牛何でも獸さへ見れば可愛くて堪らぬ、馬車馬の走るを見ては嗚呼と涙を流し、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

或は犬猫が打たれるを見て、大いに憤慨し、其の打つた人を實に無慈悲と怒り、甚しきは其の犬猫の爲に仇を報せんとするものさへもある、其他奉公人には、香の物ばかりの副食物を慘酷とは思はぬけれど、犬猫には注意周到で牛肉魚肉と經濟を顧はぬ如きも、これ亦病的である、この病的が高まると、遂に動物狂になる、本病は男子にもあれど、婦人には殊に多い、重くならぬ中に注意す可きものだ。



○愛情が變る——昨日まで甲を非常に可愛がつていたのに、今日は大いに惡くなつたり、又反對に以前惡かつた人を、色々と理窟を附けて愛するやうになつたり、甚しきは最愛の親子までも疎んずるやうになる、此情は人にばかりで無く、今まで大いに盆栽を好んでゐたのが、急に厭になつて、悉く人に與へて了ひ、他日後悔して之を貰ひ返すなどの滑稽な行ひをする、此の病氣を始の中は、機嫌換な人だなど言つて、同じく輕々に見過すものだ、何うか本章を讀まるゝ方々は反省して戴きたい。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

○欺かれ易くなる——從來は仲々怜悧で、人に欺されるなど無つた賢女が、今は愚なる事までも信じ、惡人に家財を任せたり、最も恐る可きは、道德堅固であつた女學生が、放蕩書生の爲に欺かれて墮落し、或は有夫の妻君が貞操を破るに至る、これ皆意志の柔弱になつた爲である、嗚呼病氣は微しく崩せる時に療治す可きものだ。

○我儘になる——女は柔順謙讓の德備はり、然る後賢母良妻たる資格があるのだ、然るに、何でも我を通して、是非共金剛石入の指輪を買つて與れとか、今日芝居へ連つて與れねば、斷然離緣を請求するなど云ふは、無教育なる賣春婦或は藝者上りの妻君に屢々見る例だ、所がさうでは無くて、善良なる家庭に育ち、教育も十分に受けたる婦人で、柔順謙讓の美德も有つたのが、何時の間にか我儘になり、御客が來ても、己れの心面白からねば、ツンとして歸れがしに待遇したり、少しの事にも奉公人を叱り飛ばして、一歩も讓る所無きに至る、是等は全く病的の然らしむる所、早く加療す可きである。

○街氣になる——今まで謙遜な婦人が、所謂見え者になつて、何事も華やかに、家の經濟も省みる所無く、無暗に御馳走をしたり、或は金時計金の入齒家の裝飾衣服の質など、一切上等なるを選び、己れは貴顯の婦人令孃であるかの如く氣取り、加之に言葉遣までが之に應じて鷹揚になり「ハア左樣か」など、頤で指圖するに至る、之に就いて適切なる實驗談を言はしめよ、余の知つてる某文學者の妻君が、其夫の亡くなりし後本病に罹つた、余は其とは知らず、用事有つて其家に至りたれば、未亡先生、衣服を着飾り、坐蒲團二つを床の間の前に敷き重ね、それに悠然と坐り、片手を懷ろにし、片手を火鉢に炙りながら「糸君か近う〳〵」と言ふ如き口吻であつた、余と同伴したる友人は「氣ざな奴」だと腹を立てゝゐたが、余は、夫に別れ精神を惱したる結果、病氣に罹つたので、可憐なものだ、と說明した、論より證據後には入院して治療する程に身體も亦衰弱したさうだ、心身の關係は妙なものである。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

○無い物が見ゆる━無い物が見ゆるばかりで無く無い聲も聞ゆる、之を幻覺又錯覺と云ふ、事茲に至れば病氣は非常に進んだのである、所謂狐憑病などもこれだ、最初はハテナ今女の姿が見えたやうだがとか、今我を呼んだやうだがとか位に過ねども、段々高じると、身體が二つになつた如くになり例へば狐になり、又己れに復り、狐になつてる時に言ふことと、己れに復つてる時に話すのとは違ふ、狐になつてる時は己れを忘れ、己れになつてる時は狐の時の事を更に覺えて居らぬ、實に妙變挺である、嗚呼斯うならぬ中に色々の徵候があつたのだけれど、其れを知らずに見過したのだ、されば女學世界愛讀者諸姉よ、何うか本章を熟讀せられたいものである。



○憶病になる━これは衒氣と反對に、何事にでも甚だ憶病になり、一寸感冒を引いても肺病になつたやうに思はれたり、或は大地震を豫想して、竹藪の中にでも住みたいと願ふが如き風になつたりして、遂には見る物聞く物恐ろしく巡査を見ても己れを捕へて行くやうに感じ、果は何か大罪を犯してるかの如く、戰々兢々として心は常に不安の狀態に陷る、斯うなれば月爲に面白からず、花爲に可笑しからず、從つて身體も衰弱し、醫療を受けても容易に挽回す可からざるに至るもので

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ある。

○迷信になる――無智文盲な親に養はれたる無教育な婦女子の中には、蓮門教の所謂お水を大學病院の藥液よりも有難がつたり、禽獸草木を崇拜したりする輩の有るは珍らしいことでは無いが、併し相當の教育を受け、今まで常識を備へてゐたる婦人が、次第に宗教迷信に傾き、怪しな教會へ行つて、無智な輩と共に手を携へ「天理その命、助けて玉へ、清めて玉へ……」ドコドコドン〳〵と踊つてゐる、其丈ならば尚可いが、後には精神恍惚として、白裝束の神體を見たり、或は人事不省になつたりして、我が大切なる親夫までも之を信せぬ人は大に卑しみ、教會の神官？は非常に尊く思はれ、中には夫等猾奴の爲に清淨無垢な身體を褻されながら之を殘念と思はぬに至る、嗚呼長大息の至りだ、返す〳〵も病は徵發否未發に防がねばならぬ。

右にてザット精神的の病態を述べたれば、更に肉體的の病狀及び兩者の豫防療法を說く可き筈なれど、尚十數頁を費さねばならぬから、次號に少々長くなつても之を完結しませう、而して其の豫防療法に至つては、頗る有益で、恐らく專門家と雖も、一讀の價値あらうと信じてゐる、樂しんで御待下さい。

季節衛生

既に節分も過ぎたれど、二月の餘寒は仲々劇烈で、寒の中よりも一層堪へ難き事がある、然れば此時の衛生法無くてやは、いで心附きたる節を聊か記して見ん。

氣管支加答兒――雪積れる土地は却て左程で無いが、東京其他の如く雪の積らぬ土地は空氣大に乾燥して加之に面を削るが如き冷風はヒユー〳〵と吹き渡り、且つ其の寒さを防がんが爲に炭火に近づく等より惡瓦斯を吸ひ、遂に小兒老人乃至は薄弱或は不養生な若人までの喉頭粘膜を刺戟し、所謂氣管支加答兒に侵され、初めは氣管内に搔いやうな痛いやうな感覺じをなし、續いて咳嗽出で、痰を發し、重きは熱も加はり一方ならぬ苦痛を來し、惡く行くと、肺炎肋膜炎などの病に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

轉ずることもある、然らば之を何うして豫防するか——言ふまでも無く、適當なる暖を取り、室内を乾燥せしめぬやうにし、衣食住に注意を加へ、自然の中に之を防がねばならぬ、適當なる暖の取方とは如何炬燵か然らず、炬燵か、然らず、ストーブか、これは或る一部の人には行はれんも我國現時の狀態としては到底家毎に設ける譯には行かぬ、然らば如何、曰く、天然の炬燵を用ゐよ——天然の炬燵とは身體の中に「適當なる食物」といふ薪炭を入れて之に「運動」といふ火を點けるのである、然すれば熱は自然に發して其の



暖かきこと春の如しだ、詳しく言へば冬期は脂肪に富める滋養品を取り、晨起日中就寢、寒さを感ずる毎に體操なり掃除なり、大いに運動すれば如何に寒き時でも發汗を催し、甚だ凌ぎ易いものである、然るに火鉢や炬燵に當り詰で居れば大いに炭酸瓦斯等有毒なる瓦斯を吸ひ、身體は懦弱になり、其の揚句に外の冷空氣に觸るれば、忽ち寒冒や氣管支加太兒に襲はるゝのである、然れども老人又は虛弱なる人に在つては言ふ可くして行はれ難いから、フランネル的の衣服を重襲し、晝夜共に「湯たんぽ」を利用するやうにするが肝要である、若し夫れ火鉢を置くに至つて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は時々戸を開いて換氣を十分にするは勿論、火鉢には常に鐵瓶をかけて、温蒸氣を發せしめ、室内の空氣を乾燥せぬやうにす可し、若し又急に暖を取らんとて炬燵を用ゐる場合には其の炭の能く燃えて黒き處の無きいい物を入れよ、さすれば酸化炭素の有毒なる瓦斯を大いに減ずるものである、斯樣にしてゐても、氣管支炎を發したる時は内室の温度を何時も華氏六十度位にし、屢々蒸氣吸入を行ひ、胸部にはフラネルの濕布綳帶を施し、早く醫士に就いて適當なる藥を服す可きは固より論を待たず、其他此月から三月にかけて小兒には最も恐る可き實布的里亞、百日咳、急性喉頭加太兒などの疾病を來し易いものだ、若し之に罹りたる場合には一刻も早く醫療を受けぬと、取返の就かぬ後悔あることがある、昨年の今頃も本誌で述べたやうにあれど、改めて、

小兒の咳嗽聲――を言へば、小さくして而も痛みあるが如く聞ゆるは急性の喉頭加太兒、其の吼ゆるが如き聲の一層劇しきは實扶的里亞の疑ひ、呼氣短く吸氣長きは百日咳、濕つて寛かで其上身體に熱あれば肺炎かも知れぬ、即ちコン〳〵ヒー〳〵百日咳か知ら、コホン〳〵ヒュー實扶的里亞で無からうか、無邪氣なる我が兒或は弟妹を有たるゝ諸姉は是等に御注意下されたいものである。

右の外申し上げ度事數あれど、そは又來月の誌上に讓りませう。

衛生顧問

今回は婦人科皮膚科の質問中より約百五十人に答へました、來月は內科等に就き二百問に答ふる豫定

●婦人科の部　産科も含む

〔姙娠に就いて〕問 十九歳に候が二年前から子宮より白く且つ惡臭ある粘液下り候、結婚後姙娠致す可くや。(北越の心配女)

答 絶對的に姙娠せぬとは限らぬけれど姙娠し難きは勿論です、故に今の中折角療治せられよ。

問 最終月經日より姙娠時期を豫算するは如何なる理由に候や、又其の豫算法を問ふ。(大和の愚妻母)

答 大抵月經後間もなく姙娠するものであるからです。

問〔出產月日豫算法〕――は最終り月經の月より三月を減じ日に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

七を加へたる月日である、例へば五月一日が最終の月經ならば 5−3＝2 1＋7＝8 即ち來年の二月八日が出產日と豫定するが如し。

問 妊娠中に牛肉等を食すれば生るゝ兒に瘡を生ずと果して然るや。（右同人）

答 斯る理由も無ければ又實驗上にも無し。

問 月經中に妊娠することありや、又月經中の交りは有害に候や。（岡山縣のKO女史）

答 月經中には妊娠せず、而して大害あり、即ち子宮外膜炎子宮內膜炎臍加大兒等の疾病を招くものである。

問 妊娠四ヶ月に候が便秘胸痛にて困難罷在候、就ては服藥せずして便秘胸痛を癒し、安產し得る方法を御教示賜はりたし。（愛知縣新座女）

答 妊娠すれば多少便秘するものにて便秘すれば胸痛幾分伴ふものである。されば一週に一度位格里設林十五瓦の灌腸をなさりませ、即ち藥店より格里設林十五瓦と、リスリン灌腸器とを求て、自ら行ふが宜し。

問 妾事常は身體健康にてありながら唯の一度も妊娠したる事なし、就ては溫泉を勸むる人數多これ有り候如何に候や、然れど他出致し難き事情有之候へば、之に代る可き他の良法を御教示下され度。（美作千壽子）

答（溫泉と妊娠との關係）――古來子無き人が溫泉に行きて妊娠致したる例無しとせず、これは溫泉に浴すれば血液を下部に導き、爲に月經不順の人も規則正しくなり、且つ一日に二三回も入浴することなれば、從つて身體一般清潔になり、發汗の作用も善くなり、食慾も進み、加之に溫泉場に在る間は、浮世の事を忘れて、精神を愉快にするのと、又自宅に在るよりも、滋養物を食するなどの種々なる原因があるからであります。然らば、

▲（溫泉に代る可き良法なきか）――と云ふに十分有ります。即ち每晚寢際に腰湯をするのです、其の仕方は大盥に湯を入れ、攝氏四十度位の溫度にし、これに食鹽一二合を入れ、衣服を褰り上げて腰より以下を入るゝこと約二十分時間にして止め、乾いたる布片にて能く拭ひ直に就寢するのである、寢就の惡い人もこれが爲に熟眠するを得、之を一年も續けてる中に、月經不順の人も規則正しくなり、從つて他に不姙の原因無き人は、姙娠するやうになる、けれども今日は寒いから止さうとか、今晚は暑いから止めんなどと怠れば、功無きこと勿論である。

問 私今年廿八歲、三年前までは止む無き事情の爲に醜業に身を沈めしこと六年、其後正業に嫁し、貞操を守ること茲に三年、然れども今に愛子を得ず、夫は常に之を歎し、私も亦夫の愛の減ぜんことを恐る、何卒加療して姙娠の見込無きものに候や、不幸なる女子の爲め是非御教示を乞ふ。（東京不幸なる一女）

答（1）產科專門の名醫に就き、御夫婦共に診察を受けらるゝこと、（2）大空に觸れて運動す可き事、（3）滋養食を取る事、（4）前の答に從ひ腰湯をする事、（5）精神を快活に暮す事等、是非〳〵守られたし。

問 姙娠六ヶ月に相成り候が、陰唇部非常に痒く、何事も手につかず候何卒これが塗布藥を御教示願ひ上げ候。（福島縣矢吹町奥州女）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

答〔陰唇瘙痒の療法〕——は百倍の石炭酸水を以て洗ひ、然る後鹽酸古加乙涅〇、二と單軟膏二〇、〇とを能々練り混ぜて塗擦すること、一二週間も續ければ、大抵癒るものである。

問本年四月末出產致し、七月より八九と三ヶ月月經有り、十月より閉止致し候、身體には別に異常無し出產後妊娠は斯の如く早く致すこと御座候や。(御答待女)

答出產後妊娠はそれよりも尚早きこと有り、然れど貴女のは果して妊娠なりや疑はし。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

(本鄕湯島千代子)に答ふ、矢張腰湯を勵行せられよ。

(土佐高知市二十四歳女)に答ふ、(東京不幸なる一女)の答に同じ。

(北海道詔山女)に答ふ、恐怖す可き事を避くるに如かず。

(小倉のみどり子)に答ふ、妊娠上の問と思へども、鉛筆にて草書に書かれたる文字の所々剝げて文意通ぜず改めて問はれよ。

〔月經に就いて〕問月經は例へば今月十五日あれば來月十五日にあると定つたものでせうか、私は之に反し、上旬にあつたり下旬になつたり、或は全く無き月も有つたり、實に不定に候が、何卒治療法と共に詳しく御教示を乞ふ。(十七歳女)

答月經は約四週間目に二日乃至八日の間五勺乃至一合五勺を排泄するものである、故に何れかと云へば、每月少し宛早まるが正當である。然るに貴女の如く其の時日の不定なるは、所謂月經不順症であるから、相當の攝生、若くは相當の治療を加へねばならぬ、就てはそれを述ぶる前に、

▲〔月經不順の原因〕——から說きませう、(一)精神の安靜ならざる事例へば小說芝居など見て悲哀したり、或は何か心配事に遭遇するが如し。(二)消化不良を誘ふ可き飮食物を取りたる時。(三)平生の生活法を換る事、例へば汽車汽船の旅行を續け或は過勞をなせし場合の如し。(四)寒暑の劇變。(五)過房。(六)寒冒其他疾病の有る場合等には或は早まり或は遲くなり或は全く無きなどの不順を來すのである。

▲〔月經不順の豫防及療法〕——は精神を何時も春の如くに穩かなるやうに注意し、感情を害す可き悲哀の小說芝居を見ぬやうに心懸け月經前は殊に過飮過食せず、又辛き物を避け、過勞せぬやうにし、而して適度なる運動を怠らず、午前午後に各一度宛庭園若くは原野に出でゝ大空日光に觸れ、夜は例の腰湯をなし、今日も明日も規則的の習慣を付けられよ、又少しにても病氣殊に子宮病は無理をせずに醫士の治療を受けらるゝこと肝要なり。斯の如くにして尚不順なる時は左の藥品を醫士と相談の上內服せらるゝことも必要である。

盧薈末　葯刺巴石鹼　各〇、一五　甘草末　適宜　右六丸に作り朝夕三丸宛(月經一週間前より五六日間連服)

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

(十四歳△女)(答待女)(大阪の紫野露子)(埼玉のてる子)(東京靜子)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

（兵庫の冬野月子）（新潟縣の深雪子）（神田の無名女）（河内の十七歳女）（大和の一輪花）（山梨縣女）（駒込の一女）（下谷の十七歳なる女子）等に答ふ御二等の文章は大同小異なれど畢竟月經不順を如何にして治療するかの問なれば、右の答を能々御熟讀御實行ありたし。

又十四歳△女等は御手製の端書に切手を貼らざる物を二枚帶封にし、それに二錢の切手を貼られたるために、余より罰金を拂ひたり、其他端書の表に文句を書きたるもの、收入印紙を貼れるもの、端書の紙の餘り薄きものなどにて、余は屢々罰金を辨償してゐます、何卒郵便規則を御注意下されたし、衛生顧問外なれど茲に一寸申し上げておきます。

（滋賀縣長濱香野榮美子）に答ふ、是非共婦人科專門醫の診察を乞はれたし、醫士が人の秘密を洩せば醫業鋼に處せらるゝ法律なれば決して人に洩るゝ心配無し。

（北海道函館區牛山龍女）に答ふ、診察の上ならでは分らぬけれど、月經上より考ふれば姙娠ならん。

（安藝の乳娘女）（筑後の心配女）に答ふ、診察の上ならでは何とも判斷し難し。

問　母四十歳は月經時に下腹部及び腰部非常に痛み殆んど狂氣の如くになります、何故でせうか其治療法と共に御教示を乞ふ。（東京の老行女）

答　親しく診察せねば確たる判斷を下し兼れますが、多分

▲〔月經困難症〕――といふ病でせう、原因は子宮炎、卵巣炎或は腫瘍、子宮頸管等の狹きため、或は屈曲、神經病等である。療法は神經病ならば内科醫に就き治療を受け其他は婦人科醫に就き手術を受け其他は婦人科醫に就き手術を受けられなば、必ず全治して生涯安樂に送らるる可し、兎に角何れにしても、月經の來る可き數日前より安靜に臥して便通を宜しくす可きこと必要である。

心神の過勞を避け、前述の（新産女）に答へたるが偶思談林濃腸なし

問　月經の度毎に或は烈しく或は左のみ烈しからぬ腹痛を、最初一日致します、然れども下關市なる知己の家へ逗留してゐますと腹痛も無く又月經も早く有ります、これは大方二階屋で有つて毎日幾度となく昇降し運動を多くするためで有らうかとも思ひますが、果して左樣なる道理でせうか、一片の御慈心を以て御答へを願ひます。（島根縣松江市順子）

答　必ずや神經性の月經困難症でせう、御知己の家に行かれて月經に困難無きは仰の如く運動の宜きため、又一つには精神を愉快に暮さるゝ爲でせう、嗚呼精神の愉快は百病を癒す所の良藥である、殊に婦人の方には然りです、何卒自宅に居られても適當の運動精神の愉快法を講ぜらるゝと同時に、内科醫に就きて神經の疾病治療を請はれたし。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

（大阪の賴子）に答ふ、月經の前後は寒胃に罹り易きものなれば御身もそれが爲に咳嗽出るならん、其他は診察の上ならでは了らず。

（千住五丁目えす番ハイカラ女）に答ふ、三月頃より冷水浴風浴を實行して寒胃に罹らぬ抵抗力を作られよ。若し夫れ今現に實行してゐらる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

るならば何か他に原因あるのでせう、日曜日に御隙あらば診察して上げませう。

（紀伊國二十一歳女）に答ふ、何れかとならば月經中は髪を洗はぬを可とす、何んとなれば月經時に頭冒に罹ると子宮病の原因となることあるからである。

（子宮病に就いて）問子宮内より白色又は無色の粘液絶えず（以下草書文字不明）困り居り候間何卒この治療法を二月の誌上にて御慈愛の露に濕ひ度候あらく〳〵かしこ（山口縣片田舎田舎女）

答子宮内膜炎子宮外膜炎子宮實質炎無帯月經時の不攝生體質不良（これは多く少女に在り）腺病性臆加太兒手淫などの原因より來るものなれば、婦人科專門の醫士に就き、原因療法を請はれたし、さは去りながら一般に身體殊に局部を清潔にし、適度の運動滋養物以て全身の榮養を良くし、月經時の攝生等に注意し常に左の方法に依り膣内を單寧酸四、〇を三百倍の石炭酸水四〇〇、〇に溶かしたる液を少し溫めて洗ふ可し。

▲（子宮病洗滌法）＝を行ふには「イルリガートル」と云ふ器械を醫療器械店又は藥店（地方の藥店に無くば取寄せて貰ふ可し）より買ひ求め、熱湯にて器械の内外及びゴ▲管内も能く洗ひ清め然る後右の藥液を入れ、少し高き處の釘にかけ、己れは仰向になり、腰には油紙を敷き金盥を當てゴ▲管の尖を膣内に入るれば、藥液はドン〳〵流れ下りて膣内を洗ふのである、之に就ての大注意はゴ▲管の尖が不潔であると有害であるから、能々洗ひ清めればならぬ、又藥液が冷たいと夾冒に罹るし、去りとて、熱ければ火傷をするから、其の溫度が肝要である。

▲（子宮病の内服藥）＝これは前述の如く原因にも依るし且つ醫師に就くの安全なるに如かず、併し御參考までに言へば强壯劑として

還元鐵　鹽規　各〇、一　甘草末、適宜

右六丸となし食後二丸宛

などを用ゐますが、必ず醫士と御相談の上用ゐらる可し。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

（羽前山形心配女）（香川縣讃岐のなやめる女）（静岡縣の哀願女）（下野國の憂鬱子女）（岩代の花荷女）（牛込區のかげらふ子）（大分のおさん子）（佐賀縣再願女）等に答ふ、御尋の文章には多少相違あれど、何れも（田舎女）と同意味なれば答も亦同じ。

問白帶下、白血、長血は各々別々でせうか御敎を乞ふ。（越の白雪女）

答何れも醫士の言ざる俗名にして其中には種々なる病氣を含む、殊に

▲（白血長血）―と言ふ中には子宮癌卵巣腫瘍などの重病があつて、手後になれば一命にも關はることがある、一刻も早く專門醫の治療を受くること大必要である。

（子宮サックに就いて）問子宮サックを用ゐて懷姙せずと廣告してありますが（以下文章を省略す）（十七歳女）

問子宮サックを一度用ゐれば生涯子無きものに候や、（群馬の月岡しづ代外十數名）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

答 某博士は専門書ならぬ某衛生書中に滔々とサックの必要を説いて居らるゝけれど、余は大反對です、如何なる貧乏人も子を設ける程の身體ならば貴人でも生み大いに働いて之を養ひ國家の御用に立つ可し、のみならずサックを用ゐるは不自然なる所行にして衛生上にも大害あり、余は其の理由を滔々述べたいけれど専門雑誌ならねば、遺憾ながら之を省く。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

(群馬縣の碓氷商店)(松山の毎月入浴女子)に答ふ、子宮後屈は先天的と後天的とを問はず専門醫の手術にて大抵治するものである、其儘にしておけば多く不姙症となるの外直接の害なし。

(遠州の房子)等に答ふ、月經帶は藥店にて求められよ、若し御地に無くば御地の藥店に依頼し東京若くは大阪より取寄せて貰ふ可し其價安きものにて一度之を見らるれば次に自製せらるゝこと容易なり。

●皮膚科の部 髪毛も含む

〔毛に就いて〕問(1)髪の薄きを濃くする方法、(2)抜毛を止める法(3)白髪を直す法、(4)眉毛の薄きを濃くする法、(5)癖毛を直す法、(6)赤毛を黒くする法、(7)腋毛の無きは不具者か、然らば生す法、(8)椿油 黒色コスメチック等は何れに賣るか、(9)毛生藥は何れの部にも用ゐらるゝか、(10)硬き毛を軟かくする法を御教示下さい。(詳

戸市橋町三浦花)(駿河清水の某女)(臺灣基隆内藤福子)(滋賀縣のふ子)(淋しい秋の月)(伊豫のKA女)(三重縣伊勢村子)(肥前佐世保大心配女)(群馬の月岡靜代)(小石川柳町男の愛讀生)(東京濃眉女子)(岡山縣岡山女)(秋田縣鹿角郡秋山さむ子)(大阪の心配多き母)(兵庫縣病苦生)(三重縣津市嘉泉女史)(若松市外の庭女)(京都の晴姉)(鳥取市眉無女)(鹿兒島穂山子)(兵庫縣神戸宮崎きえ)(今宮の髪赤女)(女學世界愛讀みにくき女)(群馬縣錦子)(信州の葉津賀子)(靜岡の濃毛女)(秋田なるあはれ女)(鹿角郡の秋山さと子)(泉州のちぢれ毛泣女)(神戸の髪拔生)(出羽の澤邊小野あま子)(大阪の心配女)(和泉の香千代)等。

答 以上の十問に對して共通の療法は一週間に一度(毎月にても可なり)宛は必ず毛を洗ふ事。

▲〔毛を洗ふ法〕――ですか、初め刷子を以て根膚を擦り掃ひ、能々雲脂を落し、次に微温湯を注ぎて毛を濕し然る後加里石鹸を皮膚より毛尖まで塗け、幾度も〳〵毛を柔み、又微温湯を注ぎ、石鹸を洗ひ落す可し、但し冬は洗ひたる後酒精を少し計りかけておくと寒冒をひかぬ。

▲〔毛を洗ひたる後の處置〕――は大空に觸るゝやう散歩でもして空氣を十分に毛髪まで入れ、悉皆乾いてから毛尖を五分程剪み(これは毛の發生を促すため)それより油なり、黒色コスメチックなり或は鹽食水(食鹽中合水一升位之は毛を黒くする爲)を附けて島田なり丸髷なり御隨手に結ひなさる可し●

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

▲〔石鹼油等は何處に在るか〕――加里石鹼は藥店に在るし、油やコスメは小間物屋洋物屋に在る、若し地方の店に無かつたら其店に頼み東京或は大阪等より取寄せ買ふ可し。

▲〔毛を濃くする法〕――は以上述べたる通りに守つて猶左の如き藥液を塗布するのです、塗布する方法は毛筆の尖をチョン切つて之に藥を浸しザブ〳〵と能く毛穴へ入るやうにす可し、一寸塗けたのでは皮膚の脂で受けつけませぬ、斯の如き事、一日に五度以上繰り返す可し、年月は中年以上ならざれば功見えず。

(甲)鹽酸ピロカピン　十瓦　知母爾　四瓦　元青丁幾　二十瓦　アルコール　四百瓦の合劑

(乙)レゾルチン　五瓦　ヒマシ油　三瓦　ペルカセット油　二瓦　元青丁幾　十瓦　アルコール　二百瓦　の合劑

右二劑の中(甲)は奏功速けれども價非常に高く、(乙)は奏功少なけれども價安し、劇藥を含む爲に買ふことを得ざれば懇意なる醫士に賴む可し次に肉食を多く取りて運動す可し、之は皮膚を多く作りて毛の發生を促すためである、次に心配せぬやうにす可し心配は天然の脂を少くし毛を枯すものなり。

▲〔拔毛を止める法〕――は以上述べたる事柄を守れば從つて止まる事妙なり。

▲〔白髮を直す法〕――は同じく以上述べたる事柄を守り毛生液の代りに黑色コスメチック或は食鹽水を梳具に塗けらる可し、若し金に黑くせんと思はゞ前述の如き方法によりて髮を洗ひ、沒食子酸一瓦水五十瓦の液を齒磨楊子に塗けて毛髮の根部より毛尖まで丁寧に塗り、之を乾してから、硝酸銀二瓦　蒸餾水百六十瓦　アンモニヤ液一瓦を又齒磨楊子にて塗るのです、一度で思ふ通りにならずば、每日繰り返す可し、之をハヽ、、、、、、エキスの染髮法と云ふ。但し使用の際皮膚に附くと皮膚も黑くなるから其時は灰度加里一瓦をば三瓦に溶して除き取る可し。

▲〔眉毛額毛の薄きを濃くする法〕――は髮毛に同じ。

▲〔癖毛を治す法〕――千倍の昇汞水にて屢々洗ひ、熱き鏝(攝氏四十度以上)にて蒸し、手拭樣の物にて毛を壓迫しおく可し。

▲〔赤毛を直す法〕――前述來の攝生を守り、且つ白髮染の藥な使用す可し。

▲〔腋毛の有無〕――は女子に無き人澤山ある、心配するに及ばすそれとも生したくば例の毛生藥を用ゐる可し。

(8)は前に答ふ。

(9)は何れも有効あり。

(10)硬き毛を柔にする方法はベンドレンを塗る可し、洋物屋小間物屋に在り。黑色コスメチックも亦柔かにするものである。凡て油　類は多少軟かにする性がある。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

【贅毛を除く法】問 手背の産毛、女の髯、鼻上の黒毛、顔面の毛、両頰の産毛を除く方法教へ賜はりたし。（備後の女学校昇愛読女）（信州の愛読生）（川越の田舎女）（能登松波某女）（兵庫の二九歳々女）等

答 硫化石灰水　二十瓦　假里設林軟膏　十瓦　澱粉　五瓦

右の合剤を塗り二十分時し経てから能々洗ひ落す可し。但し医士監督の下に行ふを可とす。

（神戸相生町吉倍ひさ子）に答ふ、贅毛を縮める方法は即ち病的になることなれば衛生顧問の注意に背く故に答へず。

【癩病の予防等に就いて】問 癩病は遺伝病に候や、又伝染病に候や、病の未発なる時に病毒を絶すことを得るや。（下谷の煩悶女）

答 近来に至り癩病は伝染病であつて、遺伝病では無いと医学社会の輿論となつた、然れども伝染し易き体質を遺伝することは疑ひ無し、故に其の未発に当つて、専門医の指揮に従ひ、之を伝染せぬ予防なして、少しでも癩病者に近づかぬやうにせねばならぬ、伝染してゐても数年の間には潜伏することがある大いに注意す可し。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

（麹町區の顔施すき子）（但馬濱坂愛弟女）（廣島縣呉市里の子）（なにはの片ほとり苦心女）（駿河なる身くろ女）（廣島の二十歳女）（東京の二十二歳女）（信州の廿歳女）（最上河畔の小野ゆり子）（栃木縣那須原 枯尾花女）（中国のみづ子）（山城山家住煩悶女）（徳島縣の十七歳女）（三重縣要地なし子）（島根縣の愛読男子）（最上河畔小野生）（最新愛読女）（静岡の十八女）（島根縣松江市川澤順子）（山口縣FK女）（北海道小樽冬籠女）（小石川御多福女）等に答ふ、御問中に「フキデモノ」「面皰」「ユキビ」赤鼻、痒疹、疥、湿疹其他色々の皮膚病者有るが、何れも見れば確答出来ぬけれど、兎に角左の軟膏を数月も続けて塗布し試みられよ。

イヒチオール　十瓦　ラノリン　五十瓦

右混和一日数回塗布

▲【イヒチオールの効能】――該薬は種々様々の皮膚病に塗布して莫大の効を呈するものである。

【美顔法に就いて】問(1)夏冬共顔手足のあれる、(2)痘痕、(3)雪やけ、(4)レモン液グリスリンの等分液は白色薬か(5)酒精を顔に塗れば赤くならぬか(6)グリスリンは湯と水と何れがよきか(7)ビューチフルといふ白色鋼は有効か(8)冬瓜は何處に在るか(9)グリスリンは色黒くならぬか(10)頰に火傷痕あり治らぬか。（信濃の山百合）（軒下娘）（さぬき愛読女）（三重縣伊勢田舎女）（紀北郡豐田青千代子）（奥州今津駐知女）（東京下谷不幸女）（河内國花子）（静岡縣のあれ性女）（河内のなでしこ）（岩代のNO女）（越後の雪やけ女）（嫁入前の痘痕女）等。

答(1)薔薇油五瓦を精酒精二百瓦に溶かして塗布せられよ、(2)絶望なり、(3)イヒチオールを酒精醋意に溶かして塗布すべし、(4)白色薬とは明言し難いが兎に角悪しきものに非ず但し等分ではグリスリンが

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

濃くてベタ〳〵する憂がある、(5)飲めば赤くなれど塗布しては赤くならず、(6)何れにても可なり、(7)知らず或は無効ならん、(8)冬瓜は夏なら何れの國にでも有る筈なり、東京ではトウガンと云ふ、(9)爲らず(10)程度にも依るが多くは絶望なり。

腋臭の療法

問　色々の藥を塗けたが何うも治らず何卒確實なる療法を敎へ玉へ。(奈夏の三度伺女)(信濃の白百合)(陸中の捨小舟)(麹町飯田町峯村ちか子)等。

答、、、、、、、、、、藥液を塗布する丈では効力少し、即ち身體一般に淸潔にするやう、每日冷浴溫浴をなし、且つ運動をなして發汗を促し、而して腋下には汗を出さぬ藥液を塗布すれば必ず治するなり、其の藥液種々ある中に左の藥尤も有効ならんと信ず。

硼酸　五、〇　撒里矢爾酸　二、〇　歇爾拉氏軟膏　三〇、〇
右混和して一日二回塗布す可し。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

右の外皮膚に關する問は尙數多あれども以上述べたる事を熟讀すれば當嵌まると心得られたし。

豫告

三月は内科(小兒科も含む)眼科、等に就いて答へ、順次斯の如くに轉換して又元へ歸る工夫にしようと思ひます。何となれば斯うすると浸膏少くなつて諸姉の御滿足を得られやうかと思ふからであります。

醫者珍談

岸上質軒

○日本國中になき奇病

去年の九月頃、浦和の親戚から、三月に生れた、赤兒を負ふて、手紙を持つて來た人があります。赤兒を見ると、疑ひもなき胎毒であります。頓て手紙を讀んで見ますと、初め胎毒と診斷した醫者に罹つて、殆んど全治せんとする時、服藥を止め、病氣再び重きに及びて、他の醫者の診斷を受けたのであります。すると其醫者は『胎毒ではないが、名は分らん。日本國中にない奇病であるといひながら、小兒には一服の外、藥を飮ませぬ例も知らず。水藥二服散藥一服、都合三服の藥を、一日に三度飮ませたから、病氣はます〳〵重くなります。小生は最初胎毒と謂つた醫者の藥を、全治するまで、飮ませるが宜しい』と謂ひましたが、俗物の素人論と輕蔑して、『日本國中にない奇病でありますから、心配でたまりませんといふ。依て小生知る

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

所の醫者に添書して、診察させたのであります。醫者診察して、『金が惜しくなければ、皮膚病の病院に入院するが好いが、最初胎毒と見た醫者に、全治する迄罹るが、得策であらう』と答へたのであります。約そ三ケ月ばかりで全治しまた。

○胎毒の豫防は容易

今の内務省免許產婆といふは、多くは取揚婆の化けたのであります。產婦が『マクリを飮ません』と言へば、必ず『飮ませてはならぬ』といふ。爲に胎毒を病むのみならず。小兒は終身胃弱の人となるのでさります。專門の產科病院ならば、好い藥もありませうが、久しき以前より經驗して、有効なるマクリを飮ませればそれで、小兒は健康となるのであります。第一内務省免許の五字に迷信を起し、尋ねるのが惡いのであります。



小生方の小兒は生後三晝夜、マクリを十分に飮ませ、カニバ、を悉とく出しましたから胎毒は勿論腫物も出來す。胃も極めて健康であります。

○石塚流の胃病療治

昨年十二月の本誌に、石坂と書きたるは、石塚の誤りであります。胃腸病院にも、石坂といふ醫員がありま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

すから、茲に正誤して置きます。

例の石塚左玄の胃病治療法は、聞けば聞くほど、不思議であります。胃病に柿の事は、前號に書きましたが更に聞く所に依れば、『胃病の人は、果物は柿の外喰ふべからず。又三度の飯の代りに、蓮を入れたる、稲荷鮨を喰ふべし。其外炒りたる豌豆を、日々五合づゝ喰ふべし』と、命じたさうであります。尤も石塚氏は、醫師に非ずして藥劑監で、又食物も其人に依りて、異なるさうであります。

○魚の目は透明堅牢

是は宇野博士の、樂山堂病院の話でありますが、小生方の少女が下駄を履くと、痛がるのであります。右の趾の眞中の處を見ますと、腫んだ樣でありまして、其處を押すと、痛いと申すのであります。是は魚の目であらうと思ひましたから、樂山堂病院に遣はしました。副院長診察の後、刀を取りて、腫みたる所を、切開しますと、中から鯛の目玉の如き、透明にして堅牢なる、直徑曲尺三分位の玉が、出たさうであります。殊に奇なるは、玉に固着した、正方形の臺の如き物がありまして、是も直徑は玉と同じであつたさうで、副院長は一見せしめたる後、手早くポケットに入れたさうであります。是は同行せしめたる妻の話であります切開した所は、ガーゼを詰めて、繃帶をしましたのでありますが、『一時間の後は駈けて歩くもよし』との事でありました。最初は隔日に病院に參り、ガーゼを取代へましたが、一週間で全治しました。

▲韻文の雜誌

希臘の亞善には驚くべき週間の雜誌がある内容はすべて韻文で物してあつて廣告までが韻文である。

▲犬醫師の繁昌

目下米國紐育では貴婦人連が犬を愛することが非常で中には犬の頸飾りに寶石などを鏤め朝の散歩に出る時は行水をして毛を撫でつけ香水を吹きかけなどして連れ行きなほアン女王時代に流行した贅澤な犬小屋を建築する者もあるそうで此流行兒の犬醫師は百圓以上の往診料。

▲蓄音機の證人

此頃のことであるが、伯林の第二民事法廷で、契約不履行の訴訟が起つた、時に原告が蓄音機を證人として、法廷に持ち出したことがある、で此蓄音機の語る所によつて、被告は、到頭其契約履行を承諾したそうだ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



古今に獨歩する女流雄辯家

愛の天使、奮勵的精神の權化

胡劍生

▲女子と雄辯

我國では昔しから女子の活動すべき舞臺の門戸を鎖されて居たから　女流雄辯家など丶云ふ者は一人もない僅に維新後になりて、西洋の思潮が流れ込んで、自由民權の説に次で、女權伸張と云ふやうな説が一時大に勃興したから、巾幗者流で自由民權運動やら、女權擴張運動などに從事して、喋々軟舌を皷して、天下を遊説すると云ふやうな者が、多少あつたが、格別雄辯家として取り立て丶云ふ程の者もないやうだ、殊に這の種の婦人に限りて徒らに浮華なる世の風潮にかぶれて、熱もなく血もなく赤涙もなく、加之如何はしい人格の者ばかりであつたから、たゞ世の指彈を被つたばかりで、勿論世を動すなど丶云ふことは、思ひも寄らなかつたが、其中で稍や傑出れて居たのは、故中島湘煙女史位の者であらう、其後は女辯士と云ふ者は殆んど演壇に跡を絶つたが、近頃になつて、奧村五百子女史が愛國婦人會創立の爲めに、一連の珠數と一本のステッキを伴侶として、小倉袴に高足駄と云ふ扮裝で、六十餘洲を行脚し、到る處、三寸の熱舌を揮つて、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

大に天下を動かして、彼れだけの大事業を成就させた所は、天晴の女豪傑、愛の天使小ナイチンゲールと云つても可いばかりでなく、亦立派な雄辯家として、日本雄辯家列傳の中に入るべき價値は十分である、マア我國の女流雄辯家としては奥村女史位のものだらうが其處へ行くと西洋は言論の自由と女權の本家本元だから、女流雄辯家は決して尠くない、其中で今更に述べるアンナヂツクソン孃の如きは、一番勝れた者で、世界女流辯士の番附の正に大關と云ふ格である、アンナ、ヂツクソン孃の名は我國には、まだ好く知られて居ぬが孃は決して單純の雄辯家ではない。

一口に女流雄辯家などゝ云へば、人は直に跳ね返りの饒舌のお轉婆女を連想するが、孃は決して爾んな部類の婦人ではない、眼には萬斛の涙あり、血管には燃ゆるが如き同情の血あり愛の天使として、また人道の戰士として、幾百萬の奴隷を、此世からなる地獄の底から救ひ出して、自由の天國に上らしめる爲めに、其三寸の舌頭に熱涙と熱血とを彈かせて、世と戰つたのである、斯の點から云へば、孃はナイチンゲールとジヨアンダークとをつき混ぜたやうな風の婦人であつて、何の事はない、奥村五百子女史をモツト大きくした婦人であるのだ、殊に孃が幼き時に父を失ひ、あらゆる浮世の貧苦や困難と戰ひ、一身の獨立を全うし終に古今に獨歩する所の雄辯家となつて正義の爲めに戰つた奮闘的歷史は、我等の姉妹のよろしく鑑むべき澤山の教訓を含んで居る。

▲學校生活時代

紀元一千八百五十二年十月廿八日、米國費府の町端れの餘り富裕でない茶商の家に一人の女の兒が産聲高く生れ出た、否産聲が高かつたか低くかつたか、其處までは記者は知らぬが、兎に角この赤兒が他年三寸の舌根で米國十三州の天地を震ひ動かしたのであるから其産聲は餘程高かつたであらうと記者は想像するのである、閑話休題此の產聲高く生れ出でた赤兒こそ、本篇の主人公ヂツクソン其人であるのだ、父は貧しき茶

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の商人でこそあつたが、中々識見もあり、熱誠もあり又學問もあつて、且つ非常に熱心な奴隷廢止論者で、課業などを抛つて斷えず奴隷廢止の運動に熱中して居たものであるから、僅かばかりの財産は悉皆失してしまつて、夫れが爲めに身心の健康を痛くも損じて、五人の子女を殘して黄泉へと旅立ちをしたが、チックソン孃は實に此の五人の兄弟の一番末子で、其時僅に二歳の乳呑兒であつた、赤貧洗ふが如き中に、かよわき女の痩腕で十五歳を頭に五人の子女を抱へた、チック



ソンの母の辛勞は一通りではなかつたが、此の母中々の女丈夫であつて、何事も不足勝ちの中ながら、子供の敎育には十分力を濺いだ、でチックソンも六歳の年から、市の小學校に送られて、學びの道にいそしむ事となつたが、何しろチックソンは、天資男性だか、女性だか疑はれる位の氣丈の兒で、且つ物事の觀察力に於て、直ちに其眞相を看破ると云ふ、小供に似合ぬ驚くべき天才を以つて居たから、何時も敎師は敎室で虛僞や、僞善を看破されては遣り込められて赤面する

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と云ふやうな風で、非常にヂックソンを畏れ憚つて居た程であつたが、亦同じ學校の生徒の仲間でも、ヂックソンが天性の勝氣に任せて、人もなげに振舞ふから憶病な生徒は、常に一種恐怖の眼でヂックソンを見ると云ふやうな風であつたが、又富家の兒等は、ヂックソンの服裝の餘り汚いのを見ては、常に侮蔑の矢を注ぎかけ、ヂックソンの顏を見る度每に、『汝の母は何故に斯く乞食の如き身裝を汝に爲せて居るとぞ』と、寄り集つて罵り辱めたが、ヂックソンは一向平氣で昂々然と『我が母は極めて貧なるが故に、余は自ら働いて衣服を購はざるべからず、然れども余は未だ一度も自身の孔雀に生れざりしを悔ひたることなし』と答へて、平然として居た、孔子は破れたる褞袍を被て狐貉を衣る者と座して恥じざるは、夫れ由かと云かれたがヂックソンの意氣は、正に破れたる褞袍を衣て狐貉を衣る者と座して恥じざる者であつた、普通の娘子供なら紅、白粉に浮身を窶すべき年輩であるのに、何と見上げた見識ではないか、然りヂックソンの志は紅白粉や服裝の良否を心配するべく餘りに高く且つ大きくあつた此の服裝などを少しも構はぬと云ふ點は、ヂックソンは能く奥村五百子女史の處女時代と似て居る。

▲苦學と奮鬪

前にも云つた通り、ヂックソンの母は其日の煙りも立て兼ぬる程の貧乏にも拘はらず、子供の教育だけは十分に仕込んだ、でヂックソンも十七歲まで學びの窓で書籍に親しむことが出來たが、學生時代のヂックソンの勉強は決して尋常ではなかつた、隨つて、其成績も頗る上出來であつたが、彼の女は學校の課業よりは寧ろ課業外の者を好んで勉強した、即ち歷史、小說、史傳、新聞雜誌、詩集等あらゆる者を手當り次第に耽り讀んだ、此の時代のヂックソンの勉強と云ふ者は螢の光、窓の雪は物かわ、朝は未明から夜は深更まで一心不亂に勉强したが、何しろ家が貧しくて、書物を買ふ錢がないから、人の靴磨きまでして若干の金を儲けては、新刊の書籍を買つて夫れを讀み終ると直ぐ古本

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

屋に賣り飛ばしては、更に新らしい書籍を買つては、讀み〳〵した、非凡の天才に加ふるに此の勉强であるから、其進歩も亦非常で、十四歳の春には既に奴隷解放論と云ふ書籍を著はした奴隷解放と云ふ思想は此時分から最う彼の女の頭腦に芽を出して居た者と見える、夫れは兎に角彼の女の苦學、否な苦學と云ふよりも、寧ろ書籍道樂は斯樣であつたが、讀書道樂以外今一つ彼の女の道樂があつた、夫れは十二三歳の時分から、自分の周圍に澤山の同じ年頃の子供を集めて演說を遣ることであつた三寸の舌と云ふが、二寸にも足らぬ小さき舌で、年若き聽衆を



笑はせたり泣かせたりして、自ら樂しんで居た、ヂッタソンが他年、奴隷解放の爲めに、米國十三州の二千萬の人の血を沸かした雄辯は、實に此の時に養成されたのであるが、彼の女が斯く辯舌の練習に勉めたのは、畢竟奴隷を此世からなる活地獄から救ひ出すには、是非共天下の同情を喚び起さなければならぬ夫れには一番演說が人を感動させるに都合が好いと考へたからで、實に奴隷解放と云ふことは父の感化を受けて、極く少さい時から深くも深く、彼の女の小さい頭腦へ泌み込んで居つて、所謂宿世の因緣であつた、でまだ物心のつかぬ頃から、一生を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

其の爲めに盡さんと健氣にも決心したのである、斯樣に奴隷救濟は彼の女の唯一の志望であつたから、奴隷問題に關する演說會には何を置いても、出掛けた者であつたが、何時も其會費に困りて、或る時は硝子磨きまで遣つてやうやく其會費を得た程であつた。

斯くて十七歳の春學校を辭したヂックソンは、先づ自營自活の道を求めて母の負擔を輕くする爲めに、某小學校の助敎員となつた、月俸はと云へば、僅に六圓で其待遇は極めて冷かであつた、夫れで校長がヂックソンに言ふ事に『男敎員ならば伎倆の如何に拘はらず二十八圓を給すべし、併し汝の伎倆は十分なれども女子なるが故に、六圓以上を給する能はず』、如何にも女性を侮蔑した言葉であるから、勝氣のヂックソンはうんと癪に障り、滿身の血が沸き返つたと、思はれるばかり、直ちに辭表を懷から取り出すが早いか、校長目掛けて投げつけて且つ言ふことに、『女性なるが故に伎倆があつても好き俸給を與ふる能はずとは何事ぞ余は女子として、余の人格を損じてまでも汝の如き愚なる校長の下に職を奉ずる必要を發見せず余は今日貧困にして一個の手袋だに購ふ能はず、されど余は汝の如き女性を尊敬することを知らざる校長の下にあらんよりは、寧ろ襤褸にて滿足せん』と天下女性の爲めに萬丈の氣焔を吐き決然椅子の塵を打ち拂つて立ち去つた、此時ヂックソンはしみ〲女性に對する、社會の冷酷と無情と不公平とを感じて、飽までも男女兩性間の此の懸隔を打ち破り女性の權利を伸ばさねばならぬと、堅くも堅く決心した。

校長と衝突して助敎員の椅子を抛つたヂックソンは固より貧窮で、一定の財產と云ふ者がある譯ではないから、直ちに其日から糊口に窮するので、已むなく或る人の紹介で極く薄給で某小賣商店に賣子として傭はれたが、掛直をしたり、心にもなき世辭を云つたり、又た虛僞を吐いて顧客を欺くと云ふやうな事は、彼の女の天性として固より忍びぬ所であるから、ヂックソンは此處も又五六日で直ぐ止めてしまつた、昔しから渴しても盜泉の水を飮まずと云ふ言葉があるが、實に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ヂックソンは、飢えて野倒死をすればとて、不義の富や、不正の利益に目を吳れるには餘りに潔白であつたのである。

▲奴隷廢止問題

小賣店の賣子を止めたヂックソンは、今後は飽くまでも、男女兩性間の權利の不平等を打ち破り、女權伸張の爲めに力を盡さんと、潛かに其機會の來るのを待つて居たが、丁度其時近所の某敎會に、『婦人の權利と罪惡を論ず』と云ふ演題の公開演說があつたので、ヂックソンも傍聽に出掛けた所が、豫定の辯士の演說が終つた時に、會主から只今の演說に反對の意見を持つて居る者は十分間を限り誰れでも此演壇に立つて反駁を試みられたしと云ふ希望があつたので、ヂックソンは是れ絕好の機會と躍り上つて打ち喜び、直ちに演壇にと突つ立ち上つた、何しろ楚々風にも堪え得られまじと思はるゝ少女が、突然演壇に現はれたので、滿場の視線は申し合せたやうに、ヂックソンの一身に鍾まつたが、其靑春活潑の元氣を漲らしたる面色、慈悲と勇氣と希望の光明に輝ける星の如き兩の眼、漆を欺くばかりの眞黑の頭髮、天女の奏づる音樂かと疑はるる美音、人を威服せざれば已まざる如き威嚴ある態度は、尠からず聽衆を感動せしめ、辯士にしてのアンナヂックソンの名は深く〲聽衆の記憶に刻みつけられ處女演說としては、誠に豫想外の大成功であつた、初陣で豫想外の大成功を得たので、次の日曜日にヂックソンは又々同じ敎會で、同じ問題について滿天下の婦人の爲めに、大氣焰を吐いて、大に女權の伸張せざるべからざる所以を述べた、軈てヂックソンの演說が終るや否や、一人の男がつか〲と演壇に現はれ出で、頗る傲慢不遜の態度で、聽くに堪へざる惡口雜言を弄し、ヂックソンを罵り辱しめ、且つ口を極めて天下の女性を罵詈讒謗した、此の演說を聞き居たるヂックソンは滿身に沸き返る憤怒の血を以て、見る〲雙頰を紅に染め、兩眼には朱を濺いで抑へ難き怒りの色を滿面に漲らしつゝ、其演說の終るを今や遲しと待つて居

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

たが、軈て演說が濟むと、其男の論旨に向つて辯駁を試むべく、再び演壇に現はれたが、此の時のヂックソンの演說は、恰も一種のインスピレーイションにてもあるかの如くに、一言一句悉く血汐を帶びて肺肝から迸り出るではあるまいか、と疑はれた、で初めは頗る騷々しかつた聽衆も、ヂックソンの舌端から迸らす融けたる鐵の如き熱情に動かされて、丁度電氣に打たるかの如く、滿場森として水を打つたやうであつたが中には感極まつて泣く者さへあつた、やがて演說が終ると拍手喝采割るゝばかりでヂックソンは凱旋の將軍の如く意氣揚々と勝利の光榮を兩の肩に荷つて演壇を下つたが、此れに引き代へ此時氣の毒にも又た笑止千萬であつたのは、先きにヂックソンを辱かしめたる男である、彼れは最初ヂックソンの演說に駁撃を加へて密に心の誇りを止め敢へず、得意の鼻を蠢めかしつゝ會場の眞中に突つ立つて居たが、ヂックソンの舌鋒が餘りに鋭くて、自分の旗色がます〳〵惡くなるのでだん〳〵に腰を屈め成るべくヂックソンの視線を避けるやうにして居たが、最終には其場に居堪まれず、帽子を小腋に抱へて一個の侮蔑失笑の矢を頭から浴びつつ狐鼠々々と逃げ出してしまつた、此男は極めて保守で頑冥で常に進歩の敵に敵になつて居る、有名の旋毛曲りであると云ふことが後で分つた、夫れは兎に角此演說以來十八歳の少女なるヂックソンの名は、米大陸の角から角にまで鳴り響いて、日々の新聞紙はヂックソンに關する記事で、大半を塡めると云ふ風であつたから、此方の會でも、彼方の會でも、所々方々から演說の依賴で殆んど毎日なしと云ふ有樣で、中には數十里乃至數百里もの遠方から、多額の報酬を携つて、態々ヂックソンの出演を依賴して來ると云ふ盛況であつたが、ヂックソンは又其持論なる女性と奴隸に對する社會の不公平を訴へて、輿論を喚起する爲め、進んで有らゆる會に出席した、而して盛んに其長廣舌を揮つた。で、時としては二晝夜に亘る野外演說などを試みたこともあつたが、ヂックソンの名聲は旭の昇るが如く、其收入も又非常に增加したので、生來未だ曾て嫌

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

布の面も權標より外に纏ふた事のなきヂックソンは、此時始めて、一着の絹布の衣類を調へたが、母に對する孝心の極めて厚い彼の女の事とて、其の收入は擧げて悉く之を母に贈り、子供の教育の爲めに世智辛きあらゆる浮世の困難辛苦に痛くも瘦せたる、老母の晩年を幸福ならしめた。

ヂックソンの名聲と活動は上述の通り誠に目覺ましき限りであつたが、更にヂックソンの名聲を彌が上にも高からしめた大事件が起つた、夫れはヂックソンの多年の宿論なる、奴隷全廢論が昂じて南北戰爭と云ふ、米國建國以來未曾有の大戰爭が起つたのである。

▲光彩ある頁

南北戰爭とは何であるか、談話の順序として、少し此戰爭の起因を述べて見やう、一體此の戰爭は前にも述べた通り、奴隷制度存廢の問題から起つて來たのであるが、抑も此奴隷制度と云ふものは、黑人を品物同様に賣り買ひしては牛馬同樣に虐使ふ制度で、酷く人情に反いた制度であるのだ、だから此の正義人道に反いた惡制度は一日も早く全廢せねばならぬと云ふ議論が、久しい間志士仁人の間に行はれて、ヂックソンやヂックソンの父も、實に熱心なる廢止論者であつたのだが、此の廢止論が日に盛んになり行くにつれ、終に國が廢止論と非廢止論で二つに割れてしまつた、で北部の諸邦は重に廢止論で、南部の諸邦は重に非廢止論で、議論が昂じて到頭戰爭となつて、十三州の天地は全く腥風血雨に包まれて了つた、是れが即ち南北戰爭であるのだ、此の戰爭は凡そ五年間程續いたが、終局に北軍が勝つたので、幾百萬の奴隷は、地獄の底から救ひ出され自由の民となりて、始めて人間らしく天日を仰ぐ事が出來た、是れと云ふのも畢竟、ヂックソンのやうな人道の戰士が、多年血の涙を揮つて、奴隷廢止論を鼓吹したからである。

南北戰爭の顛末は右の通りだが、此戰爭中のヂックソンの活動は素晴らしいものであつた、彼の女は其得意の辯舌で、愈よ益す聲を大きくしては、奴隷廢止の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

急務を叫んだが、傍ら國立病院に傷病兵を見舞ひ、慈悲の權化として愛の福音を宣傳し、專心病兵の看護と慰撫に力を盡したので、是等病み傷つける幾百千の武夫たちは、ヂックソンを愛の天使と隨喜の涙で、感謝した、傷病兵を見舞ふて今更ながら、戰爭の慘と痛との想像よりも甚だしいことを感じたヂックソンは、社會に向つて戰爭の悲慘を訴へ、此の慘酷の戰爭の原因なる奴隷廢止の一日も緩ふすべからざる事を叫んで大に世間の耳目を動かしたが、折柄國會議員の總選擧があつたので、ヂックソンは自分と主義を同じうして奴隷廢止に贊成する候補者の演說會には、何時も出席して應援演說を遣つた、何しろ其時代の演壇に於ける唯一の花形役者であるから、ヂックソンの一演說は數千の投票に値すると云ふ盛況で、其應援をうけた候補者は悉く當選するので、一同爭つてヂックソンの一回の應援演說を哀訴嘆願して來た、一少女の身を以て苟くも一國の代議士の候補者から爭つて、只だ一回で好いから應援演說を遣つて與れと、七重の膝を八重に折つて懇願さるゝとは、實に全世界の巾幗の爲めに氣を吐く萬丈で、平素女權の鬱屈を嘆ずる女性は、以て溜飲を下ぐるに足る次第であると云はねばならぬが、實際此時分にはヂックソンの周圍は何時も花束で山を成して居た。

南北戰爭中に於けるヂックソンの活動は右の通りだが、ヂックソンの生涯の歷史で一番光彩があつて華々しい頁は、黑人ばかりで編制された軍隊の出陣の首途にヂックソンが是等の黑人軍隊に向つて遣つた演說である、元來米國では黑人は悉く奴隷として取り扱はれ少しも人間扱ひを受けなかつたから、隨つて國家の干城として、徵兵に應ずる權利がなかつたが、ヂックソン及び二三の人が、黑人だからと云つて奴隷制度が廢されて國民となつた以上は、兵隊となる權利があると主張したから、此時始めて黑人軍隊が組織され黑人軍隊が、南北戰爭に參加して北軍の爲めに戰つたのであるが、此黑人の軍隊は、ヂックソン等の力で兵籍に列することが出來たのであるから、眞心からヂックソン

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に感謝の涙を捧げて居る事は云ふまでもないのである借て此黒人軍隊が、出陣の時の光景を原文の儘に傳へて見やうか。

千八百六十二年十一月十日、南北戰爭の眞最中、朗かな秋の空の朝の空氣の殊に爽かなる所、貴府の郊外の練兵場に向つて、銃劍に霜を凝らした、一個黒人の軍隊が、雄趨豪歩意氣堂々と、四邊を拂つて行進して來た、是れぞ北米合衆國建國以來始めて組織された黒人の軍隊の出陣の首途と知られたり、やがて斯の一隊が練兵場へ着いて、聯隊長の檢閲が濟むと、芳紀十八九の一少女が、軍隊の正面に現はれ恰も盤上珠を轉ばすやうな美音に涙を交じへて、奴隷制度の罪惡を説き、諸君は天に代りて此罪惡を行ふて恬然顧みざる、人道の敵、正義の敵たる頑冥不靈の南軍を誅伐する光榮を天より與へられたる者だから、戰場に於ては決して卑怯未練の振舞があつてはならぬと云ふ事を述べ、次ぎに天に向つて皇天の祝福の是等黒人の軍隊の上にあらんことを祈つた、演説中黒人等は電氣に打たれたやうに、身動きも爲なかつたが、軈て祈禱が濟むと、是等多數の黒人等は悉く少女の膝下に拜跪して暫時隨喜渇仰の涙に暮れて居たが、一同やをら身を起して、今度は反對に皇天の祝福の斯の一少女の身の上にあらんことを天に祈つた、此時少女の顏は希望の光明に輝やいて、天の榮光、地の祝福、人間の慶幸悉く此の少女の身の上にあるかと疑はれたが、此の少女こそ問はずと知れたるチックソン其人であるのだ、爾來チックソンの名聲はます〳〵高く、全國民の渇仰崇拜の中心となりて、極めて幸福なる晩年を送つたが、餘り長くなつたから、之にて筆を擱くが、假令チックソンの天才は、誰れでも眞似をすると云ふ譯には行かぬが、其の猛志、其の堅忍、其の奮鬪、其の慈愛については慥に吾々の姉妹の學ぶべき多くの教訓の含まれ居る事を疑はない。(完)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

若き女詩人の柩を送る

古道照顏廬主人

村田琴伴史史、病みて遽かに逝きぬ、齡二十二、月の二十日、茶毘に附す、柩を町屋の火葬場に送るもの其の母、其の弟、其の友、其の隣人等、僅に十餘人、谷中の初音町、庭には鶯來啼く梅ありて、此の年若き女詩人の琴を卸し又た硯を置くにふさはしく思はるる町の名なり、天王寺の茂林の中に聳えたる五重塔を右に見て、低き屋並の寂しき小路に入れば、奥ある家を問訊するまでもなし、豆腐屋と青物店との間なる窄き露地に、扉もなくて欹仄したる木戸の柱に、村田と記されし一小紙片の貼られたるは、正しく今は亡き人の筆の蹟なり、雪もよひの、空は灰の色に陰りて、大寒に入れる日の、風寒く膚に泌む、木戸の前に、青簾深くたれたる長柄の柩を舁ぎ据えて、或いは踞し、或いは佇める白丁の男五六人、衣の袂、懐、背に一斗の風を含ませつゝ、鼻の頭は紅くして、時の到るを俟ち居たり。

窄き露路を入れば、霜柱深く、屐齒の痕、靴の痕、草鞋の痕ありて狼籍たり、十數歩にして井戸あり、井の邊り薄氷したる行潦の、玻璃のごとく踏み碎かれ、常に日に背きければにや、土も爛れて紫に、井の水流す小溝は鐵漿を覆へせしにも似て、蟹の眼と簇り浮ぶ小さき泡沫の靜かに漂ひつゝ消え行くなり、井戸を前にしたる格子戸作りの湫隘き家こそ、年若き薄倖の小閨秀小說家の住しところなれ、低き簷端に立て掛けて紅き白き數旒の旗あり、籬に傍ふて、枝に毿々たる剪紙片を懸けたる眞榊あり、寒颸、屋を掠めて吹き下し、飄揺の旗は力なく竿を抱いて縈る、家は人なきが如く靜かなり、微かに啜噓の聲を聞く、忽ち寂莫を破る拍手の聲起る、神官、今は棺前に祭文を讀むなるべし、人も避けて暫く風裡に起ち、靜かに此の年若き女詩人の短かき生涯を憶ふ。

琴伴女史、名は光子、水戸の人なり、年十八にして幸田露伴氏の門に入る、靄護精舍の詩莚、余は夙に女

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

史と相ひ見たり、風丰瀟洒顏の白きこと蠟のごとく雙頰濃く紅を暈す、明眸にして皓歯、善く笑み又た善く語る、而も余女史と相語るの時なかりき、昨年の初冬、友を介し吾が古道照顏廬を訪過し、南般の窓下に文を話すること半日、余此の日を以て始めて女史と話り、且つ始めて女史の爲人を察ることを得たり、女史語りて曰ふ、今人の文にては、天隨鏡花の作を好み、詩と歌とは泣菫、晶子のを好むと、而して露伴氏の作るところ二日物語を稱して、明治に於る美文の典型なりと語り、更に花鳥風月の談に入りて、花に在りては睡蓮と木蓮と蘭科のものを愛し、禽に在りては鶺鴒と鸎とを愛し、雨は秋雨よりも春雨を愛し、月は望の圓かならんよりは新月に趣きありなど語る、其の世の女流に見るところの媚嫵の態なく、街衒の容なく恬憺にして洒脫、而も淸淑の氣品あり、余は竊かに今の所謂海老茶式部の中に、斯のごとき俗氣なき婦人あるかを思はしめたり、實に愛すべく又た憐れむべき處女といふよりも、誠に一點厭惡すべきところなき女史のごときは、當代の女流に稀に見るところなりき。

爾後、余は劇務に在りて久しく靄護精舍の詩筵に遠ざかり、偶ま筵に上ることあるも、終に復た女史と相見るの時なかりき、其後余は『文藝』の女史の處女作なる「花一時」の小說を讀みたり、貞淑にして而も薄倖なる婦人の破鏡嘆を描きしもの、着想も凡ならず、文采も亦か富贍なり、余之れを讀みて女史の前途に幸運あれと祝福したり。

昨歲の春三月、女史書を余に寄せ來る、曰ふ、鄉里水戶に還り文學士某氏の家に歸ぐと、余は竊かに女史の爲めに佳婿を喜び其の人爲の恬憺にして愛すべき女史なれば、伉儷定めて蜜に似て家庭は睦に長しへに春あるべしと。

十八日の夜、女史の弟靜一の名をもつて訃報來る、曰ふ、光子、暴かに病み、眞泉病院に入りしが、十七日の朝七時終に起たずと、余この報を得て茫然として自失したり、女史眞に死せるか、何ぞ世を捐るの速かなる、既にして覺りて以爲らく、眞泉病院は婦人科

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

產科の專門醫寮なり、女史は早くも母となりて其の產蓐に逝きしにあらずやと、悽心轉た切なく直ちに筒を飛ばして友に問ふ返書來る、曰ふ、女史の短生涯は誠に悲慘を極めたり、初め某、同鄕の故ありて女史と交はりて其の才色を喜び先輩朝奈比知泉氏に乞ふて氷翁ならしめ、强て女史を迎へて婦となす、圖らざりき、舅姑頑嚚、某も亦た放縱にして家產を理めず、酷薄にして女史を苦しめ、虐待到らざるところなし、婚後數月の後、知泉氏、自から其の鑑識の誤れるを悔ひ、女史を得て京に還り、今や離婚の訴訟中なるも去る時、女史既に孕めるあり、沈憂して家に在り、悶を排する唯だ文墨あり、自から曰ふ、胎中の子は、無情の人の子なれども、我を母として吾が懷に宿りぬ、宿緣甚だ深し、われ復た二夫に見えず、寡居して此の子を人と成さんと、潤筆の錢を得なば、布帛を購ふて手づから胎兒の爲めに其衣を裁縫す、幾襲の鮮衣は匣に充てり、本月は臨月、十六日夜、猝かに病を發、擔架に載せられて病院に入る、翌朝六時、產氣あり、產に臨んで痙攣を發し、終に胎兒と共に逝く、悲酸悽慘、多く語るべからず、訃に接して、余は唯だ南無阿彌陀佛を唱ふのみと。

女史が慘ましき短生涯を憶ふてある時、神官既に祭文を讀み終りて、棺は柩輿の中に移されたり、寂しけれど威儀ある行列の先頭に飜がへる銘旗と柩前に白丁の擔ひ行く墓標の文字は、知泉氏の書するところ、柩後に女史の母、其の二弟、戚容甚だ瘦せて藁草履の音もなく、云ふに從ふ友、隣人、默して語らず悄々たりやがて三河島の村に入り、小川に傍へる路を行く、水、幽明して人と相隨ふ路は更に田壠の間に入る、黃泥、飴のごとし、輿下の行くこと疾きが爲めに、柩に從ふの人は多く後れたり、朔風猶々として面を吹く、寒きこと甚し、風煙莽々、鎖して霧となる、旆影、人影依稀たり、彷彿たり。

既に町屋の火葬場に入り、棺を柩車の上に置く、念佛聲中、此の年若き女詩人の骸は荼毘一片の烟となる此事終に記するに忍びず、嗚呼、平安和樂の生涯を送

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

るべしと吾人ともに想ひたりし此の愛すべき女詩人は最も殘虐なる運命と戰ひて、花のごとく散り去りたり實に女史の處女作なる「花一時」は、憶へば其の生涯の讖語なりき、花や、酥雨之れを培ひ、惠風之れを養ひ天の春の爲めに工みする其の貴まことに貲られず、一朝にして無賴の風伯雨師を驅役して摧殘剩すところなからしむ、造物畢竟何の意ぞや、余は此の薄倖なる女史の運命に疑いなき能はず。

衣服の模樣と流行色

觀風子

▲今の流行模樣▼

婦人の禮服模樣は、何方も御承知の通り、裾模樣、江戸褄模樣、及び千代田模樣と稱するのですが、其中にも何れが今の流行かと云ふに、それは江戸褄模樣で、以前は二十歳以下の妙齡の婦人ですと、禮服は裾模樣のみに限ると云ふ有樣でしたが、夫れも近年は江戸褄模樣となりまして、裾模樣の方は、十五六歳止まりであります。

千代田模樣と云ふは、胸の邊りまでも模樣を現はしたもので、過般本郷座で、喜多村緑郎の衣裳に之れを用ひしましたが、如何に昨今派手なものが、流行りと云つても、普通の婦人方の衣服としては餘りに派手過ぎますので、此模樣は、一般の流行には何うもなりさうに思はれません。併し少女の祝衣としては、頗る面白い模樣で、昨年の七五三の氏神詣には、七歳の少女に、チラホラと之れを見受けました。此樣子で見ると、少女の禮服模樣としては、今後千代田模樣が或ひは流行と云ふことになるかも知れません。

▲今の江戸褄模樣▼

江戸褄模樣は、前項に記しました如く、今や全盛を極めて、模樣物と申せば、必らず江戸褄に限ると云ふ程ですが、其圖案を見るに、老人向は無論白上りですが、若向のは總て淡彩を加へ、且つ縫ひを配らひ而かもそれが大形模樣で、纖細緻密の圖案と云つては、殆んど皆無の有樣です。

三越、白木屋、大丸等を始めとして、其他の呉服店でも、近來裾模樣を懸賞で募集することが流行ですが、其懸集圖案を見るに大多數が江戸褄で、裾模樣は極めて稀です。而して、其模樣は何れも淡白瀟洒とも謂ふべきものが多くて、從前のものに較べると、一體にそれが大きくして、頗る奇拔な圖案も多くあります。

また、實際婦人方の會合さるゝ場所に出て見ましても、貴婦人令孃方が、花柳社會の婦女子の着る模樣物よりも、却つて派手な大な圖を染出したものを着て居られると云ふ有樣です。

斯樣に雄大奇拔な模樣が、一般に持囃さるゝやうになつたと云ふは、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

近來婦人社會の交際が追々と廣くなり、殊に日露戰爭以來、都鄙共に婦人の會合さる丶場合が多くなつたので、納り夜會とか園遊會とか其他公會の席に出て、服裝の引立つて見えるやうにと云ふことに、深く注意せられるやうになつたからでありませう。

▲今の流行色▼

衣服の地色は、若向には總て紅味を帶びたもので、是までの處では葡萄とか、小豆とか云ふ樣なものが一般に持囃されて居ります、是等の色合は、總て濃厚であります。また老人向には、鐵色、寂鐵、淡鐵お召納戶など云ふ樣な色合が持囃されて居ります。處が、近頃に至つて、ボツ／＼と薄目の色合で、藍氣を帶びたものが流行となりかけました。

藍氣を帶びて靑みがゝつた淡色が、今度流行となりかゝつた其始は日露戰爭の當時の事で、或る一部の婦人社會に於て、勝色と云ふ名を喜んで、特に之れを模樣物の地色にした處、それが際立つて雄大な模樣に相應しいと云ふので、それから靑味がゝつたものが、一般の婦人社會にも漸く歡迎さるやうになつたのであると云ふ話です。

其新流行色の種類は何々かと云ふに、桔梗色、勝色、空色、お納戶色、水色、瑠璃色など、尤も是等は主に若向で、老人向には藍鼠であると云ふことです。併し以上數種の新流行色は、今の處では、餘程早い側の婦人間に行はれて居るだけで、實際流布の範圍から云へばまだ左までの流行ではありません。

▲女紋の大きさ▼

衣服の紋は、舊幕時代には、男のも女のも大さが一定して居たもので、男紋は一寸、女紋は八分と定まつて居りましたが、維新後は總て衣服に就ての制裁が無くなつて、紋の如きも勝手氣儘に用ふることになり、明治の初年頃には、男子も女子も總じて小さいのが流行で、女紋の大きさは大抵六分位でありました。然るに廿年頃から追々と復舊して、三十年頃の女紋は、普通一寸位の大きさとなつて居りましたが、近年はそれが一分縮んで、普通九分となつて居ります。

▲帶地の流行色▼

婦人方の帶地の色合は是れまでは、白茶色が、最も多數を占めて居りましたが、近頃に至つて、成るべく濃厚な茶色を好むと云ふ風に傾き、而かも其茶色は金茶の如き色合が歡迎され、また勝色其他の藍氣を帶びた色合も漸次流行の傾向を現はして來たと云ふことであります。

▲半襟の流行色▼

儀式祝典の際には、無論白の半襟と極つて居りますが、其の他晴着を着た場合には、何う云ふ色合の半襟が今の流行であるかと云ふに、極若向には、オレンス色、それから牡丹色、紅など、二十歲以上二十五歲までには、葡萄色、古代葡萄色、紫紺、葡萄など尤も、意氣好みには、新勝色、消炭色、藍鼠など、また三十歲以上の婦人向には、總て鼠がゝつた色合が持囃されて居ります。

次に半襟の模樣も、今はヌーボー式も元祿式も廢れて、是れ亦總て淡白瀟洒にして、雛ひな配つたものが流行であります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

桐生羽二重の由來

直人生

現今、桐生羽二重と俗稱する、絹地物は、維新前までは、「仁田山絹」或は、仁田山紬などゝ、云い來つたのである。

馬琴翁の八犬傳

を、讀んで行くと、二三個所、仁田山紬云々と、着衣の名稱が、書いてある、其内でも、大塚信乃が、甲州猿石の村長、四六城木工作の家にて、再度の濱路に逢ふ條に、泡雪奈四郎秋實と、會飮の時、秋實の着衣が、小倉織の馬上袴に、

「仁田山紬の小袖」

二つばかり、被て云々と、書いてある。

之を讀んでも、徳川時代の武士郷士が、仁田山紬を好んで、着たと云ふ事が、了解される。

借て、此仁田山紬なる、現稱桐生羽二重の、原産地は、何處であるか、僕は、玆に口碑や、傳說を漁つて歴史的に、書き列ねて見やう。

桐生の二字

を、冠するから、桐生町（群馬縣東隅）が、原産地であらふと思ふは、早合點で、往時桐生町は、一の賣買場にしか過ぎず、古來の原産地は、桐生町から、二里許り北の、谿村で、群馬縣山田郡川内村字山田村の舊村名、

仁田山村附近

で、仁田山村から、織出したから、仁田山紬と稱ふたのだ。日清戰爭以來、非常に機業が發達して、桐生町を中心に、四圍の村落は、悉く機織を、專業として來たが、幕府時代に逆ると、全く、此仁田山村全村、三百戸に過ぎぬのであつた。

機織界の大王とも云はるゝ京都は、さて置いて、金澤が發達したの、福井が旺盛であるの、足利が覇王であらふの、などゝ云ふても、皆此仁田山村から、傳播されたので、此仁田山村こそ、關東機業界の、覇王と呼んで然るべきである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

併し、仁田山村から、織出したものは、紬許りではなく、縮緬も、繻子もあつたので、現今盛んに桐生織物會社から、織出す九重繻子などの、

古代女官の商標

十二一重の、嬋娟たる姿を附するのは、仁田山村を離れぬ、一の歷史的の事がらである。

偖て、此の商標の、古代女官は、何人の姫君を模したのであるかと云うと、仁田山村に鎭座する機神、白瀧姫の御神體であると、聞いた。此地方の人は、一般に、

織姫樣と尊めて

非常に、信仰して居る、或る工女などは、洗足詣をするとか、或は、美髮を斷つて、好良の絹の織れる樣に祈るとか、中々御鈴の音も絕えぬ、今では、桐生町にも、足利町にも、分社があるが、皆仁田山村から、分靈したのである。

斯くの如く、機業家から信仰さるゝ織姫樣は、そも何人を祭つてあるか、その神社の記錄によると、無形の想像の神ではなく、機織を、里人に敎へた、一女官を、祭祀して、機神白瀧神社としたのだと云ふ、此の機神白瀧神社も、往古は機女白瀧姫で、弘文天皇朝の一女官であつた。昔時弘文天皇の御時、上州仁田山の鄕に、山田男と云ふ男があつた、徵されて、京都へ登つて、舍人の職を奉じて居つた。一夜、山田男は、九重の雲井を漏るゝ月影に、興ろ心の動きてか、奧深き萩の戶細に、佇立んで居ると、

糸萩の露重き花

とも見ゆる、官女を垣間見たのである。山猿の山田男も、此姿には、恍とうたれて、戀てふものを、知り初めたが、煩え〳〵た末、遂に一首の歌を、白瀧姫の袂に、投げ込んだのであつた。

其歌の意は、山田男の胸の、水田は、乾燥して、身は燃ゆる思ひであるから、あわれ君が、一片の愛情を以て、白瀧の水を、頭から、撒々と、浴びせてくれと云ふ樣な、事であつたらしい。

すると、白瀧姫も落花の情、流水の意が、あつたと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

見えて、お前が夫程に思ふてくれるならば、水無月の枯田の樣な、山田男の頭へ、此白瀧が情の雨を、末の末までかけて遣らう……と。

今此當時の、色紙のないが惜しいが、兎に角、戀は成立つて、七夕の如き逢瀬に、長生殿裡の、樂曲を夢見て居つたのであるが、お互に登りつめた末は、遂に雲井まで漏れて、居溜らず、手と手をとつて泣く泣くも、吾妻の古巣に舞へ戻つて、仁田山村に、新世帶を持つ事となつた。

女官白瀧姫もあわれ戀故、歌集で讀んだ、谷川の細き流れの、深



山里と云ふ樣な、田舎へ來て、御所の桃の節會の、雛段よりも、狹まい、山背の田を眺める境遇になると、餘り嬉しくも無い、耳朶にするは、山猿の聲と、谷川の水、第一何も仕事が無いのである。

で、何がな、山田男が、手助けにもと、思案の末、思ひ付いたのは、御所で朧えた、養蠶と機業なので、直ぐさま、山田男に、談合して、桑を植え付ける山桑を培ふ、蠶を飼つて、繭を採り、繭から生糸を、吊瓶操にして、白絹を織り出した、之は自分が遣る許りでなく、村の婦女を集めて

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

餘念なく、教えて、初めて、仁田山絹と云ふものが出來たのである、是が即ち桐生羽生重の開始で、遠く弘文天皇の時代！

繭も出きる、生糸も採れる、白絹も織れたが、何せい、往昔の事であるから、今の樣には行かぬ、一疋織つた、手織の荒絹を、草籠へ入れて、里へ出ては、物品と交換を始めた、

此交換市場が

今の桐生町となつたので、當時は、驛鈴も、寂びしき、渡良瀬の河畔で、餘り聳めた處でも無かつたと云ふ、斯く白瀧姫は、機織の祖となつて、其身は、谷川の埋木と、朽ちたにもせよ、今では其精靈が、巧みなる、各種の絹となつて、世界各國に輸出する樣になつたのである。

此處で、鳥渡言うて、置きたいのは、此白瀧姫も、何の因果が、清國には、少しも歡迎されぬと云ふ事である。

此女官の商標を

附する、九重繻子、織姫繻子などは、タンタンピースと共に、盛んに、上海邊へ輸出さるゝが、印度邊へ輸送する、ターバン地（羽二重）は、別物として、此等の繻子は、皆上海で、中華從來の唐繻子の商標と替えて、支那內部へ、入込むと云ふ話だ、斯うなつて見ると、河原操女史や、鳥居夫人の方が、白瀧姫よりは、女丈夫であると見える。這麼ことは、兎も角も、白瀧姫は、遂に土民から祭られて、今では、

壯嚴なる神社

となつて、仁田山村にある、祭日は、織女に因みて每年七月七日で、近鄉幾萬の工女が、參詣するので、仲々の賑はしさである。

德川幕府の時には、此地は、御領の儘、代官を派遣して、頻りに、機業を奬勵し、賦役には、白絹を以て換納する定めとなつて、益々、發展の策をとつた、館林から出た、

綱吉將軍は、隣接地に

居つたので、機織業に就ては、非常なる便宜を與へ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て、漸く、近隣の村落にまでも、盛んになつて來た、足利地方も、此頃から、専業とする様になつて、來たのである。

維新前までは、悉く内地用にのみ、供せられて、京都、東京の、大問屋が、三八の市日に、桐生に出張しては買占め、遂に、土地にも『佐羽吉』など〻云つた買繼商が、出來たのである。

維新後になると、白絹も、亦動かす可らざる、平羽二重となつて、盛に、横濱に、賣れ出して輸出品となつた、斯うなると、機業は、愈々盛んになつて、羽二重許りではなく、縮緬も織る、絽も織る、繻子も織る



亦女子の副業として、適當なので、隣村から隣村と擴張せられて、現今の旺盛を觀ることゝなつたのである。

で、現今、機業界の、中心點は、桐生町に、移されて、元祖地たる、仁田山村は昔日の觀なしと云ふも、昔から、京大阪にまで、知られた機屋では、今久(羽二重専業)の今泉久藏氏、桑佐(同上)の桑原佐吉氏、今作(縮緬専業)の今泉作彌氏等で、精巧の物を、織出して、常に、内外人の好評を博しつゝある。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

次で、桐生地方、一般なる機業家の工女を書いて見ると仕やうか。

機織り乞食で、紋引大名だ

と云つた、舊式の紋織機臺が、捨てられて、バッタン式となり、米國製のジャカード式となり、今日では獨逸、佛蘭西の動力機臺を、据付けやうとする迄、著しく發達して、來たのであるが、何分、工女は、教育が進まぬ、自分の織出すものが、一種の美術工藝品として、外國にまで、往くなどゝ云ふ事は思はず、宛然活きた機械で、只手足を働らかして、其日を送つて居る工女は寧ろ、憫れむべきものである。彼等の多くは、

越後越中から來るので

あるが、殊に、越後を、上種とする、越中となると少し、手足の動作が鈍いので、機敏でないと云つて、關東の、キビ〳〵した奴を作ふと、仕事は早いが、辛棒氣がない、或る機業家の話に岩手は工銀も廉く、連れて來られるが、矢張り、越中式で、福島縣と來ると約束して連れて來ても、旦那之で仕事が出來ますかとクルリと、雙肌を脱ぐと、

總身文身をせる女

などが、多く、手古摺つて仕舞うと云つた、兎に角工女は十三四のを最良として、十七八歳までのを抱え込む、大概年季を極めるが、多く三年乃至五年として十五圓以上四十圓位まで、初めは子守、飯焚などを遣らせて、それから管巻(横糸を卷く)となつて機女に上るのだ、年季が終つて、一本立の機女となると、一年十八圓から三十五圓止め、仕着の附くと附かぬがある。一年間の休日は、盆とお正月の外はなく、平均三百四十日は働いて居る、それも一日、

十一時間の織づめで

朝の五時から、夜の十一時まで、食事と休憩で、約二時間を省く、で、其勞力を歩速で計算して見ると、一日平均七八里を歩行するのと同じ譯になるので、餘り樂でもないやうである。時間を正確に織らせると云ふ事も、或る機業家が實驗して見たが、斯んな正然とした事は出來ぬと工女の方から願ひさげであつたと聞いた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



曙光

佐々木紫明

これはアンダルセンの墓の小説を譯したるものなり、今文意によりて曙光と改めぬ。

人々の悲痛は胸に溢れた。

兩親が掌中の玉と鍾愛して措かざりし、末子の兒は四歳の秋を一期として遠き冥府に趣いた。兩親には未だ愛らしく、柔順な娘が二人ある。特に其姉なる娘は最早、伉儷の宴を夢想るやうな年頃である、けれども、死亡なつたのは男兒であるから二親の寵愛は又格別、斯樣た可愛い坊が死神の手につかまれて、黑雲の中に攫はれたのだから溜らない。父は悲嘆の涙にくれ、母は限り無い失望を荷つて大地に轉び伏したのである。洵とに母は我子の死を眞實とは覺えず、柩に鎖されて淋しい墓場に送くらるゝは只夢とばかり疑つた。

「何故、神樣は這麼に無情に坊やを引取つたのだらう？」

「眞實に、神樣は慈悲をお知りでない。」

渠女の胸中は落膽に縛られ、闇黑に塞がれて深く暗い疑惑の巷に彷徨ふのであつた。

母は泣くばかり。二人の娘の事抔は聊か思ふ事なく忘却れ果てたやう。夫の涙は我が毛髮に懸るけれども此のやさしい人に一瞥をも與へんとはしない。只死んだ愛兒のたわい無い言葉を思ひ出したり、又その無邪氣な振舞を再び呼び返へそうとあせる樣に見える。

葬儀の日も近づいた。柩は、程隔つた一室に移され、其蓋は嚴重に釘打たれた。

母が睡眠より覺めて、最後の幼い死顏に接吻せんと起ち上つた時、父は涙乍らに

「柩は確乎と閉ちたから、最早、見やうは無いよ」と言つた。

「神樣が這麼に辛く、當りなさるから、私は如何して此娑婆に住んで居られませう」斯く言つて母は歔欷いた。

柩は墓場へ運ばれた。哀れな母は二人の娘と共に茫然開放たれた扉

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の下に坐つて、じつと外面を眺めて居る。渠女の苦惱は安まる術も無く幾夏の綠葉に繞り行くのである。野邊送りの日も過ぎて、易らざる懊惱の幾日を迎へた。父と姉妹とは如何にもして、母の心を慰めばやと慮ひ煩つたけれども、其甲斐もない。

かゝる疲勞を癒するものは睡眠より良き者はないと家人は無理にも眠る樣にと母を說くのであつたが、母は寢床の中に在つても、眠らうとはしない。

或晩彼女は靜かに衣服着て、愛兒が埋沒された墓場へと、家を出たが誰も知るものとては無かつた。彼女は四圍の物には目も呉れず、只愛兒の新しい奥津城指して急ぐのである。

時しも九月の晴朗なる夜であつた。母は卵塔場に這入り、香薰する花園の如に見える小さな奥津城へ進む。

其の前に坐つて頭を墓の上に押付け厚い地層を通して可愛い坊の愛らしさを見やうとして居る。不思議や坊の顏は今渠女の眼前に顯然と現はれて來る。抱き起して、手を取つた時、身體を丈へ萎れて、よろ〳〵した姿が明確と目の先にちらつく。

「汝は愛兒の死を悔んで、共に地下に行くを欲するか」

怪しい聲が響く。けれども其聲は水の如く澄み切つて、而も深痛な響を傳へる。驚いて彼女は四邊を見廻した。側には見知らぬ怪しい人が立つて居る。頭巾と外套で身體を包み、其顏面は嚴粛な色を帶びて居る。

「吾が小兒を元の通りにして」

渠女は不信仰の調を以て答へた。

「汝は吾れに從ふ可きや吾れは死神なり」

渠女は慄めぬ。

と見れば满天の星斗が、此奥津城の百花の上に、影清き望月の如く、皆き白光を洩すよと見えた件の死神は己れの上着を取つて彼女に覆ひかぶせた。

覆はれた上衣がはたと地に落下つるとおもふと母は起ち上つた。柔かき薄明りが一面に漲ぎつて居る高い廣間の中に起つて居たのであつた。間もなく彼の死兒は嬰然として現はれ、母の胸の邊に縋り寄る。生前嘗て見ざる美しさである、母は餘りの驚愕に思はず叫んだ。けれどもその叫び聲は、間もなく厚き帷幄の背後から發つた妙音樂の吹奏に依つて、打ち消された。小兒は言ふ。

「阿母さん、! 可愛い坊の阿母さん!!」

其の聲は溫順を持つて居る。母子は再會の喜悦に堪へて、擁抱した。軈て小兒は垂れ居る帷幄を指して、

「娑婆に這麼、美麗しい帷幄は有りませんね。さうでせう、お分りになりましたか? 眞誠にこれは幸福ですね!」

然し、母には何も見えない。神は小兒をば手元に引取つたけれども、その母までも呼びはしない母は嚠喨たる妙音樂を聽いたけれども其謂ふ文句は浮世の人に了解るはづはない、小兒は復た言ふ。

「坊は彼方に行つて、皆んなのお友達と遊ばうよ。御神の處に昇つて見

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

様う。けれども阿母さんが、先刻の如うにお呼びなさろと僕は怖くて溜まらないよ……でも僕は行き度いな！　阿母さんは、間もなく又僕の處に入らつしやるよ、ねえ、僕は行き度いな！　行つて惡いの？」

母は矢庭に引止めて呼ぶ。

「アヽ、寸時、もう少し居て頂戴よ後世だから。サアお母さんに抱かれて今一度接吻しませう！」

渠女は胸に犇と抱き寄せて、小さい蕾の如うな脣に接吻したふと

「何だれ、あの聲は？」と母は不審る

「母ちやんは分らないね。あれはお父ちやんの呼聲ですよ」

と小兒は答へたが又一寸靜かになる

……と思ふとさめ〴〵と小供等の泣く音が聞える。

「あれは僕の姉ちやん達の泣き聲ですよ。可愛相にお母さんは、あの人達を忘却て來ましたね。」

母は今迄、心付かずにゐた、彌のこと、夫の事抔をフト思ひ出すとブル〳〵と身戦ひした。渠は其廣間をキョロ〳〵見渡したが、妙な影のある者が、幾個も重い帷帳の後を掠めて、ヽヽヽ チラリと渠の側を飛んでは消失る



その中には我が夫や娘がゐる

「アレ〳〵天の鐘が響く。旭日は最早上ります」

煌々する旭光は渠女の四圍を包んで我が小兒は消失せた。と思ふと見る見る身は上の方に昇げられた。冷々した空氣は其の顔面を嬲る。渠女は頭を擡げた。

それは夢で有た。母は昨夜より小兒の墓の上に横たはつて居つた事を覺つた。然し渠は夢の中でも神に會ふ事が出來、そして、夫れは悶々の苦惱に塞がれた胸にすヾしく一道の光明を與へて呉れたので、嬉しさに堪へず膝を折り曲げ、天に向つて祈禱を上げた。

「アヽ、神樣よ、妾は一旦の死別に依つて尊き、不朽の生命を疑ひ參らせし罪をお赦し玉はれ。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

其聲は如何にも晴々した響で、瑛の胸には滿足の影が閃めいた。太陽は東山より希望の色に染められて嬉々と上る。小鳥は喜ばしげにチタヂタ頭の上で囀り出す。朝の勤行で、寺の鐘は殷々と鳴り響く。

尊き平和は瑛の胸の中に溢れた。瑛は神を知り、義務を知り得た喜悅に心強くなつて、イソ〳〵家路に急いだ。そして暖き接吻を以て夫を眼より覺ましたのである。愛情や滿足に滿ちた言葉は、珍らしく彼等の間に交され、人の妻に望ましき、堅心、溫柔の美德を體する貞き婦人となり變つたのである。

「神樣の御思召は如何んな時でも最も確な、間違の無いものですれえ」と最も信實ある悅樂の言葉を口癖のやうに言ふ人となつた。

何處で、お前はそんなに強くなり、安慰を得たのかと夫は不審しげに問へば、妻は夫と頰を接吻し乍ら、

「寝床に眠つて居る坊やのお蔭で、神樣が平和を與へて下すつたんですもの！」

（なはり）

春の宵

房枝子

牛込下戸塚町の隅在る細路次を入つた突當、長らく貸家の札が斜に貼られて居た小さな家へ、近頃引越して來たばかりの母子連があたつ。打見た處、由ある人の零落れたらしく、二人とも品が可いが、母親は病人で滅多に床を離れないので、子の瀧夫と呼ぶ二十五六のが、午前だけ勤務に出で、歸つて來ると、母親の看護の傍、飯も焚き粥も拵へ、拭掃除もする始末。

隣の稽古にでも行く事が、可惜、男盛を氣の毒な、と向の髮結の許で近所の女房達が噂する。

最も旋て、其種となるのであらう、瀧夫は共同井で溢れるばかり汲入れた、手桶を重げに提げて行く、其の手も痩そり、痩形で、色が白く、痛く窶れては居るけれど、艶澤な黑髮の房々と額に亂れたのと、唇の色のくつきり紅いのとが目に立ち、鼻筋も通り、目附に品さへ備へたるに、唐棧の臺なしな綿入に、絣の羽織を引懸けた扮裝、如何にも見窄らしく哀れである。勝手へ入ると最早暗い。

ト前屈になつて手桶を置く、流槽のバケツには、茶碗、皿、箸なぞ堆なく、檯には水を入れた土鍋――夕餉の後の洗物が未だ片附かないのであらう。

瀧夫は椽に上ると、棚のマツチを探つて、先づランプを點けやうとした、其時。

「あなた」と突然に、艶めかしいが、四邊を憚るやうな小さい聲、取附の格子戸を開けないで、勝手口へ鼎と立つたは、夏ならば夕顔の花と見えやう、夕暗の裡に顯然とした、雪の如き細面、眉細く、瞳涼しく、引締つて可愛い口元は、紅の花に紛ひ、生際が颯と霞んで、柳の糸の靡のない黑髮を、引詰めた銀杏返。年紀の頃は、二か三。

オリーヴに白く柳を縫つた半襟の衣紋をゆるく、縫返したらしい銘

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

仙の小袖に、濃いお納戸地の格子縞のお召の羽織、鹿東縞の博多と、黒繻子との晝夜の帯をきりゝと締めた、姿が細そり、小造で、萎えた衣服さへ着こなしに、水際立つて美しい。

椽に片膝支いて居る、瀧夫は寂しい顔を上げたが、透して視める迄もなく、

「菊か、先ア入るが可いよ。」と流石に懐かしさうに且極り悪く見えて俯向いた

「可いんですか。」と勝手へ入つて、男に近く椽に掛けて、

「あの阿母さんは？」

「相變らずだ、今し方好い鹽梅に眠入つたやうだよ。」

「然うですか、ぢア恰度宜うござんした、私が未だ道麼にして伺ふのを御覧なすつたら、眞個に、御體に障るんですものねえ。」とお菊は思ひ入つたやうに言ふ。

「何、那麼事もないのさ、母だつて先と違ひ、體は惡いし貧乏はするし、恐ろしく氣が弱くなつて、今ぢや人が來てくれるのを何よりの楽しみにして居る位ゐだから。過般もお前の事を言つてたつけ。」



「まあ、然うですか、眞個に、附いてゝ御介抱が出來るやうですと可いのにねえ。」と染々打喞ちて、果敢なげに男を見たが直ぐに俛れて、

「また愚痴になつたわ。」

瀧夫は密と目を連瞬き

「皆私が意氣地がないからだ、那の時だつて、お前を入れやうとすれば入れられないでもなかつたんだけれど、來ても家が揉めちやお互に面白くあるまいと、取越苦勞して駿河臺へ那して置いたんだが、今更切れるツて事になつて見りや、僞したつて言はれても仕方がない譯だ。」

「いゝえ、夫婦にならうなんツて事は、それはもう私能く斷念めて居りますよ。」と嚥然言つたが、打萎れ、撫肩も寂しさうに、胸を抱くやうにして、われとわが袂を昵と打視め、

「這麼ふつゝかなものですもの、阿母さんのお嫌ひなさいますのは、些とも御無理では、ございません、貴方のお心だつて能く知つてますもの、駿河臺へ那して下すつたのさへ、私は勿體ない位ゐに存じます。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

貴方が這麼におなんなすつたのも、一つは私故ですもの、私、眞個に濟まなく思つてますのよ。」

「馬鹿な、小川町の店を畳むやうになつたのは、那は商買上の手違からだ、那麼事を左や右思つてくれちや困るよ。」と慰め顔で、故と口元に笑を含むだ、暮れゆく色の裡に、其懷かしい優しい面を、女は呪と打目守つて、

「ですけれど、私が引取つて頂いて、長い間お世話になつた上に、一人の親迄引取つて下すつて、何不足なく、去年の秋見送る事が出來たんですもの、死んで行く身だつて甚麼に嬉しく思ひましたでせう、私は正直那の時心で拜みましたわ。

不束かな者を其程迄にと、人知れず嬉し涙も溢した位ゐ、何時か一度は此御禮をと、心で樂しみにして待つてたんですけれど、這麼事でお暇は頂くし、お母さんの介抱一つ出來ず、餘り情なうございますから、これから捨身になつて獨立して何なりとやつて見やうと思ふんですよ。」

「…………、」男は無言で眉を寄せた。

「這麼事をいふと、生意氣だとお思ひでせうが、然うしたら些とはお金も取りますから、其で何卒良いお醫者を呼んでお母さんの御病氣を一日も早く癒るやうにして上げて下さいな、それから、あの、貴方が何かお始めなさる、資本も少許は何とかしますから、辛らい事をも辛棒なすつて、以前のやうに立派になつて下さいまし。何時までだつて別れる氣はありませんけれど、然うして居ればお互に、苦しい思ひを増すばかりですから、私はもう遠い他方へ行つて、其限お目に懸らない覺悟なんです。

離して一人で、好きな事を爲へて、何うなりして暮しませう、是がせめてもの志です、貴方可いんでせう、ねえ、御承知なすつて下さいましよ。」と聲に切なる思が籠つて、語る言葉もきれ〴〵、に細かな手を男の膝へ、取縋つて打仰ぐ、鬢の後れ毛はらりとかゝり、頬の色あはれに曇つて、堪へすはら〳〵と落涙した。

「能く言つてくれた。」と矢庭に犇と握緊めた、手を顫々と波立せ

「嬉しい、お前の志は嬉しいが、決して那麼事をしてくれるなよ、那麼にされたら心苦しさは甚麼だと思ふ、喩別れて了つたのさへ、俺は可愛想でならないんだ。」と打見る眼も輝いて、太く激した風情であつた。

「だつてそれぢや私が……。」とあとは涙に消されて了ひ、男の胸に冷き黑髮、揺ぐばかり泣くのであつた。

「嗚、」と瀧夫も腸を斷たるゝ思ひ、嗚と切なげに吐息を洩らした。

途端に襖の彼方で、母親が激しく咳入る聲。

心付くと、早や眞暗くなつて居た。瀧夫は燦とマッチを擦ると、手早くランプに移したのである。

文なき暗は脆く破れて、古びた椽に浮び出たやうな、鮮明な二人の姿此時顔を見合はしたが、皆はで打反向けた、野分に傷みし萩と芒が、露淋々なるを見る風情、秋ならねども哀れであつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

灘夫はランプを持つて立つと、颯と隔の襖を開けた、眠れると思つた母親は、衾の上に起直つて居たのである。

入つて来た灘夫を見たが、直ぐに勝手の方を顧みて、

「お菊さん」ともの優しいが、病に衰へて力ない聲、亂れた鬢には霜さへ置て、不傷しい面窶れ、息使も切なさうである。

「はい……お母さん。」とばかり、我を忘れて衝と寄つて、衾の端に手を支いたが、涙含むだ母親を一目見ると、何も言ひ得ず差俯向いた。

「お菊さん、」と改めて呼んで、咳上けるのを押鎮め、

「堪忍して下さいよ、貴方を甚麼人とも知らず、堅氣でないから不可いなんつて、噂解らない者とお思ひでしたらう、雲は懸つても晴れゝば月、私が誤つて居りました。それをも怨まないで、却つて私の身を案じて下さる志、先刻から皆聞きました、真個に嘘の言ひやうもない。今迄の事は何事も、皆堪忍して下さいよ。」



「お母さん、勿體なうござんす！」と餘りの嬉しさに、覺えずわつと泣いたのである。

母も密と涙を拭ひ、

「灘夫、お前にも済まなかつた、堪へておくれよ。あゝこれで明日死んでも心残は些許もない、お菊さん、最早何處へも行つて下さるな、貴方は家の嫁ですよ。」

お菊は答ふる處を知らず、灘夫も得言はれぬ喜悦しさに、二人は同時に平伏した。

朧の空には月薄く、山吹のある垣根の外で、哈々と蛙が鳴出した、其れも楽しさうな春の宵。

（完）

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

和歌

塚越停春選

(天)春旅 岡山 田上濱子

春の里柳の村ののどけさに
春の旅路のあかずもあるかな

評。陽春の氣象あり、

(地)逸題 美濃 山田愛子

千鳥なくや江は東雲の薄明り
岸の小舟に霧雲のして

評。何等の奇趣ぞ。

(人)歳暮感 岡山 阿賀鶴子

來んとしは心ののどかに春秋の
花も見まほし月も見まほし

評。看護婦としていそしむ身の實情なるべし。語側々として人を動かす。

秀逸

▷○○逸題 神戸 脇屋とみ

思ふこと今年もならずくれにけりいつをかけたるねがひなるらむ

下句最も妙。

▷○○天氣澄朗 足尾 森照野

あさな〳〵かゝぐる旗のいろ〳〵にかはるみそらも見ゆるなりけり

才氣の流露を見る。

▷○○雪中竹 越後 坪井和歌子

ふり積るゆきにたわりとなりぬとも折れぬや竹のこゝろなるらん

同じ人の他の筆に。

▷○○逸題 牛込 白百合

花もみちうつろひやすき世の中にかはらぬ色を松に見るかな

肌へきるのこぎりの峯風白う霜に刃をとぐあけがたの月

評奇想奇警。

▷○○逸題 下野 栗原くに子

佐保姫の化粧の水のしたゝりに野邊の若草萌えや初めけむ

春雨を佐保姫の化粧の水を見ること面白し。

▷○○旅館燈火 大和 西尾とし子

明日は誰が旅の夢路を照らすらん寢ざめ淋しき燈火の影

上句殊に妙。

▷○○除夜 熊本 安田文子

かつ惜しみかつ待たれけり一年の終はしめの今宵なりせば

且つ惜み且つ待つとはよく人情を言ひ得たるもの歟。

▷○○富士山 栃木 金戸貞子

むかしよりたゝへあけたる言の葉のつもりて高き不二の神山

言の葉積りて高しとは人の未だ道破せざる所。

▷○○春雨晴 岩代 岸野常子

青柳につゆをのこして春さめののどかにはるゝ夕ぐれのそら

▷○○山家早鶯 名古屋 清水みさを

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

山里は春ともいまだしら雪のきえぬさきよりうぐひすのなく

消えぬさきよりとは面白し〳〵。

▷〇〇冬の月　新潟　古澤ふさ

白雪の降り殘したる一筋の小川に宿る冬の夜の月

降り殘したる一筋の語面白く覺え候。

▷〇〇春海　備後　立納華子

霞もおぼろ白帆もおぼろ瀬戸の海の百島かけてかすむ春かな

▷〇〇海邊雪　越後　みの子

おやみなくふる白雪にあまのすむうらのとまやもうすれはつらむ

調なだらかなり。

▷〇〇製鉄所にある友に　伊賀　泉たき

君がくる鉄の小枠を繰り返しくりかへしては思ひやるかな

用語巧妙。

▷〇〇初春　大阪　後閑八重子

霞に鳴き霞に鳴きて鶯のしらべをまどふ初春の空

初春の候歌ひ得て佳。

▷〇〇梅　廣島　佐方すゑ子

そとちりし梅の花びら口にせし人うらわかし春雨の窓

▷〇〇年の始に　長崎　佐田秀子

紙鳶して衣紋正して彈初めの琴のしらべを合せみしかな

年の初の意、歌ひ得て遺憾なし。

〇〇冬草　備後　眞政きく子

身によそへあはれとそ見るふる雪に埋れはてし野邊の冬草

〇〇新婚の友を詠める　築地　堤いし子

ほゝえます色にも幸のほの見えて丸髷若し花嫁の君

▷〇〇椿　横濱　吉川新枝

紅緒すげし草履の人のふみ行きぬ小寺の墓地の落椿の花

情趣多し。

佳調

海上霞　東京　笠原節子

わたつみの波路はるかに霞けりはなれ小島のみえわかぬまで

霞　大坂　吉野ます子

はしろ帆に霞うすれて沖遠く見るや灘波の浦つたいして

寒夜の千鳥　陸前　赤井かめよ

あつこほり結ぶ夜中にも打とけて遊ぶ千鳥のこゑをきくかな

新年松　北京　藤田英子

人も家もことなる里にかはりなき松かざりして年迎ふかな

〇　備中　高草天以子

せゝらぎは月にくだけし野の夕亡き君こひし白萩のみち

早梅　香川　吉田ます子

はるはまだこぬをとなりの梅の花霜夜の月にいろ香あらそふ

新年松　京都　[illegible]子

初日影いまのぼるらし高砂の尾の上の松に風の音もなし

殘雪　臺北　とく雄

春かすみ目に筑波根や富士額殘んの雪の肌うつくし

〇　茨城　萩原翠江

いゝしらぬかすみ匂ひてほの〴〵と花に明け行く春の山里

迎春　安藝　堂園幸子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

さゞれふめばさゞれに秋の聲ありて夕風吹きぬ松たてろ磯

○　赤坂　森　英子

よき人のたゝひとり行く梅小みち花の香寒し初春の宵

新年松　秋田　琴子

大君の御かどにたてん小松をはしつか教の庭にえらまし

早春の霞　大阪　花田文枝

海原のみどりと共にかすむかな淡路が島の松のむら立

折にふれて　品川　鈴木歌子

昨日今日はだやわらかき風ふきて柳も水に眉つくろかな

○　兵庫　柳田白百合子

霜しろき背戸のほしなに日は榮えて垣根のほとり鷄のなく

青柳　神戸　足立みい子

青柳の糸ふき亂す春風のたえ間を露は結ぶとすらん

梅　神戸　船戸ゆき子

手折らまくほしくはあれど鶯の宿をそまとふ白梅の花

春　堺市　中川孝子

春かぜに松浦の石のゆめとけて姫ともならむ潮ぐもりかな

若水　神戸　脇屋とみ

睦月たつ今朝くみそむる若水の清きを人のこゝろともがな

若菜　山口　酒向敏子

をとめ子の袖裾はへて野に澤に根せりひくなり若菜つむなり

寒月　讃岐　宮内りき子

枯蘆の風にをの／＼さま見えて湖面寒く氷るつきかげ

寒月池にやどれる　鳥澤節子

水かゞみうつれる月もこほるまで羽音さむけきをしどりの池

春羊　坪谷より子

桃淡きは山のすそに牧みえて羊の群にゆふひさすなり

春の海　山口　横守なみ子

笑みの中涙の中におん母の船かすみけり春の海づら

初春風　岐阜　廣倉よし子

耳慣れし庭の木枯いつの間に梅が香送る風となりけん

紅梅　伊勢　渡邊梅子

我やとは山の南のふもと村八重の紅梅いちはやくさく

大雪　廣瀨よしえ

くだかけのなく音も遠く聞ゆなりふりつむ雪や深くなりけん

新年の松　札幌　佐木芳子

いく年の榮を祝ふことの葉の松の緑りは久しかろべき

元旦　越後　ことぢ子

君をいはひ親をことほぎその中に我子の幸をいのる今日かな

山雪　鳥取　紅梅

けさはまた松の緑もかつみえてゆきにあやある遠ちこちの山

椎柴　東京　芳枝

がし鳥のなく聲さむし椎しばの木すゑは風のふきわたりつゝ

題しらず　奈良　馬場晶子

月澄みし奈良の都の眞夜中やつま戀ふ鹿のこえ哀れなり

新年　常陸　菊地峰子

松竹の影なつかしみ門に立てば羽子つくもあり鞠つくもあり

○　牛込　靈子

たちかへる年を待つ夜の夜語にわれも昔にたちかへりけり

雪中友來　熊本　安岡文子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

かまの湯のわきても猶しふる雪に訪ひ来し友の心ふかさは

露　　武蔵　青柳霜生子

秋ふかみあさぢが庭にたく露をふみ分てとふさを嬉もがな

○　　牛込　重子

桃三里河をへだてゝ柳三里水にかげさす春景色かな

冬の部　　松江　眞澄

木枯の吹きすさふ夜のさびしさに又くりかへす古郷の夢

川　　美濃　長濱蘭子

流れゆく水の一すじにごりけり誰れ川上に根ぜり摘くらむ

○　　岩代　菅野和子

路の邊つむ手に匂ふ日南の堤にゑめり白梅のきみ

○　　岩代　菅野和子

あけのとりゐ瓦のやれは春めきて鳩の羽おとものどかなる月よ

○　　麻布　花村霜子

紀伊の國白馬して入る旅人のおもかげ慕ふ濱霞する日

新年松　　上毛　栗原庫子

動きなきうれひの峯の松の枝にとしの初日はさしそめにけり

漁家新年　　熊本　大野君子

世渡りのあら波こえて苫屋に屠蘇くみかはす今日そうれしき

初春　　岡山　しほ子

さし出づるかすみの衣長閑にてひなも都も春を知るらん

折にふれて　　山口　佐々木いつ子

千代かけて契る今宵も亡き母を忍びて袖をしぼる我れがち

橋上霜　　神戸　原川福子

夜のほどの寒さしられて見ゆる霜おくしも白し里のたるはし

新年松　　備後　重政久子

めでたさの限りなりけり新玉の年まつか枝に初日かゞやく

クリスマスのあした　　肥前　鳩野登子

暗きよにさすろふ人もきて仰げとわにさやけき新星のかげ

○　　牛込　平塚白百合

降る雪に黒髪山も名のみにて眞白くなりぬ年や重れし

題しらず　　安藝　室岡幸子

けだものゝ足跡見ゆる霜の上三日月ほそき山の下道

逸題　　築地　堤いく子

打連れて羽子に暮せし其かみの新どし戀し君はいまさず

新年松　　大阪　平岩捨子

たちかへる初日ににほふ我やどの松に榮えないのるけふかな

埋火　　宇都宮　松元のぶ

さくらすみかきおこしなば埋火のあたりに春の花やさくらむ

春の歌　　下總　小澤蝶子

いもうとゝ葬りし蝶の小さき墓に白雲のごと梨の花ちる

鏡　　岐阜　杜若會育子

姿のみ見るは鏡の本意ならずおのが心も寫せもろ人

逸題　　越前　新保勝子

燭とりて梅が枝手折ろこしもとの袖美しう星あかりして

新年の心　　東京　笠原せつ子

あらたまの年のはじめの心もていざ一とせの事さだめせむ

逸題　　築地　堤いく子

君いますしほ路の果の眞砂原夢に幾度さまよひぬらん

新年松　　岩代　横山楢子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

折にふれて　駿河　貞子
若松に引くしめなはのいや長く君が千年をいのる今日かな

新年の祝　越後　金子とく子
こゝにのみ秋の名殘を見するかな色さへ深き谷のもみぢ葉

逸題　南總　桐谷まき子
奥かへる年のはじめのあか月に心のどけくおき出るかな

歳暮　廣島　房子
松立ちし荒屋やゝに消えゆきて朝月寒う靜しづかなり

眠しらず　大阪　上田智香
いまさらにすぎにし月日おしみつゝ暮りくゆるとしの暮かな

萩　大分　加納豐子
靜けさに垂水の音と庭の音とひゞく枕の冷たきやどり

○　備後　田村もと子
おき餘る露に元堪えでおはれにもうつろひ果し萩か花妻

失題　常陸　菊地峰子
木枯はかれのひゞきのおと追ひて氷れる村の夕を走りぬ

鶯有慣音　麹町　土田つる子
梅は咲きぬいざ鶯のこゑ聞かば都の友や驚かしみん

雪　本郷　西岡古代子
木つたひて己がちらせし花なるを慎みがほして鶯のなく

新年松　愛知　ますみ
風さへもふきまさる雪の夜もすがら床の下にて犬の子の啼く

初雪　相模　安藤光子
九重のみそらに高き若松にのほる初日そ千代とかわらし

白雪はかろく積りて門松は千代のはつはにおきかざしけり

捨たる山吹の花を見て　松江　原田ふみ
いたつらに誰の折けむこゝろなく道に捨てたる山吹の花

梅　印幡　楓葉
うつし植ゑでやしなひたてし我庭の若木の梅の花咲きにけり

○　府下　鵜澤きん子
寂びしさに來よとや誰が呼ぶならん朱の鳥居に白鳩のなく

山家鷄　大分　加納豐子
賤の男か安き眠をやぶりつゝよはにおとなふ玉あられかな

○　備後　松尾節子
愛らしき聲をしるべにわけ行けば小さき雨手におち栗拾ふ

若菜　和泉　津田なみ子
鶯のすりゑのしろに垣に出で雪打はらひ若菜をぞつむ

○　飾磨港　藤濱やゑ子
年ほどのふみにそへてや送らまし笑ひそめにし梅の一枝

旅行の際汽車の内にて　上毛　壽美女
はや人の赤き心のもえいてゝ血けむりたてしなま夢のさと

花下懷亡母　京都　村上花子
母君と手折りしゆめのしのばれて立ち去かれし花のもとかな

松上雪　新居濱　山崎玉子
なみたてる門邊の松にふるゆきは豐けき御代のしるしなるらん

夕の梅　和泉　水野久野子
山里の梅の林はさき匂ふ花のひかりに暮れぞかれける

春雨　君代　菅野廣子
村雨の霽れてもけむる糸柳若芽に春の足りるとすらん

新年松　千葉　吉原靜江

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

初日さす松の上高く吹きにけり豊けき御代の年の初風

田舎春　　伊豫　佐伯友枝

鳥の音も人の心も長閑にて都面白ろき春の明ぼの

○　　姫路　中島錦子

美くしき夢よりさめし枕辺に春の灯ゆるく白梅かほる

夕霧　　築地　堤いく子

かへり見のます〱君の影うすれ夕霧寒し日暮のさと

○　　三河　神谷しげ子

濱千鳥なく音聞ゆる霜月夜船まどさむく霧ふゞきする

新年　　小樽　門倉僊子

四海波静かにあけて初日さす大宮あたり鶴なき渡る

○　　遠江　富城梅子

螢虫の枝の脊の小鳥が道端の柿そと取りて行く夕べかな

梅　　根室　牧野鐵子

久方に残りし雪と見えつるは梅咲く山の遠望なりける

初雪　　群馬　秋水

門松に積りし今朝のはつ雪を花とまがひつゝうぐひすのなく

○　　長門　三宅眞子

聳へ立つ富士の姿に裾野原朝明の霜も雪かとぞ見る

新年松　　名古屋　山村榮

あら玉のとしのほきことほき歌に先こそよまめ千代の松原

○　　神田　田中常子

曇りなき己がこゝろは誰か知るたのむは神の情なりけり

初めて學校へ奉職しける日　　山城　芙蓉子

けふよりは我の庭の花守よいざつちかはむ大和撫子

古枯　　山形　淺川花子

求め来し薬を母に参らせて煎る夜中を木枯のふく

折りにふれて　　肥前　うたかた

紅葉ならむ吹く木枯にちらましと一しほまさる澄き星の夜

初春の歌のうちに　　築地　堤いく子

ゆくりなく歌留多のむしろ廻り合ひし昔懐しきつく羽根の友

山中初春　　長門　三宅眞子

鹿狩りの草屋崩れし軒の端に霜柱立ちて春寒きかな

逸題　　大阪　沖ふく子

乙女子のうたもかすかに機か屋の梅さくまとにをさの音する

○　　神奈川　常子

幼どちぬきてはあそぶ松の葉の相撲にぎはしかどまつのむら

早梅　　宮城　小野寺きん

しら雪のふる枝ながらにわかやどの軒端の梅は綻びにけり

折にふれて　　能代　めだ〱女

さなきだに淋しき秋のたび枕心して鳴け夜半の雁がね

○　　三重　佐々木らく

あたゝかき日影をかけてうまひせる小猫のせなに山茶花散りぬ

○　　青森　三浦愛子

大内の山松が枝にあら玉の年を寿ぶく田鶴のこゑ哉

庭雪　　武蔵　青柳瀾生子

よき程に松のみどりもあらはれて庭おもしろく積る雪かな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

短文 ◎印は入賞

◎時も時

羽前　谷山たに子

西隣りの五郎さんは、曹長でしたが、三年まへに戰死しました。東隣の正男さんが、兵曹でいらつしやいまして、けふ金鵄勲章が授かりました。お祝ひの謳歌は賑々しうわいたが。お弔ひの讀經は濕つぽく起つて來たのです。浮き世の常ではありませうけれども、お針に餘念のないわたしが胸、さも時ならぬ夕立の中にあるかのやうに。

（評）　東隣西隣の比喩尤も妙支那の詩にでもありそうな處ろ。

水仙花

徳島　若槻淑

千草枯れ果てゝ花戀しき折柄今日此頃の寒さを物ともせで、麗はしく雪を敷く水仙花、訪ふ人もなき荒れ果た寂しき園に空しくちらんよりは、我が賤き手に摘み取り樂しき一家團欒の床にまゝるゝ方こそかへりて汝も願ふらん咲き出し甲斐やあらん花よ如何にと問へばふくよかなる唇に笑を含みてそを願ふ風情なり。

（評）　無情の草花も語けるがごとし。

◎雪中の水仙

愛知　小栗幸子

雪のふれる様いと面白いので爐邊を離れて庭に立ち出であちこち白き風情を眺むるうちふと泉水のそばに水仙の蕾の雪に埋めるを見出した、よく見るとほかにまだ堅いのが三つ、冷たき此雪の中にす、心强き蕾よ明朝は美事に咲けよ。積れる雪をかき除けて。

（評）　文中教訓あり。

◎友の許に

小樽區　喜美子

春子様わたくしね、二日の朝から叔母様になりましたのよ姉様がね、赤さんを産みましたのもう宅中ひつくりかいる様な大さわぎよ、祖父様は離宅から出て入らし春ちやんが「赤さん抱く」つて聞きませんのよやつとすかして外へ出ると（メヽ）がひどくなきますの、何うしたのかと思ひますとね混雜にまぎれて御飯をやらなかつたのよ。御ひまでしたら見に入らしやいな。女の子よ　名は喜美子

（評）　實景見るごとし。

◎冬の一夜

赤坂　森英子

月の夜水道の邊りで寒い月を見ながらお米をといで居ると、いつか流すたんびに水はすんで來て小さな〳〵な月がお米の中に宿つて居た。

（評）　文情幽艷。

◎ぴつしより

山梨　望月すわの

人の心を苦めた大雪もいつしか止んで、今はお日さんがお顔を出して降り積つた雪を長い舌で舐め出した、花子は讀書が了つて庭に出て。あち

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

こち眺めて居た、時しも屋根に積つた雪が崩れ落ちて来て花子へドッサリ當つた、花子は驚いて家に飛び込んだ、その中に背へ入つた雪がとけて「びつしより」になつて了つた。

（評）奇抜。

初聴鶯

群馬　山崎德子

消残れる垣内の雪はまだ降る年のまゝなるに、軒端の梅は早う折りしりし顔に匂ひ出でたれどなかぬ隈はと辿たどらるゝ、折りしも今やふるすを立出けん窓近き竹のさ枝に移り来て、二聲三聲音づれ初たる鶯の、まだうひ〳〵しげなるくちつき、はれいろとゝのひたらんよりも、中々あはれになかしうなん。

（評）可憐。

◎雪の朝

島根　道子

昔からしと〳〵とふり出た雪は、はや一尺四五寸も積りました。田舎の冬はとほる道さへありません。こんな朝にも健ちやん（明けて八つ）は學校といふ大事な役目をもつてゐます、赤裏の外套に竹の杖小さい足に脚半わらじの凛々しいいでたち、そして三足四足いつたと思ふとあといふまに雪の中にころびました。が、すぐおき上りながら。健ちやんは顔をしかめながら「ナニッ日本男兒ダッ」。

（評）行末頼母しき子なり。

梅の月

赤坂　森英子

油がつきたか淋しい音を立てゝ燈火のだん〳〵淡くなると障子を斜めにはつきりうつる梅が枝何となく昔の忍ばれる宵、折から音もなく入りくる梅のかをりは亡き姉上が見えぬ姿の來たられしにやとあゝげに昔なつかしき梅にもあるかな、障子左右に開けばくづれ落ちしと思ひし梅が枝は壁に長く、窓近く匂ふ梅にかゝれる月清く鶯の聲も聞えんばかりなり。

▲

栃木　小森谷静子

後れし學科に追ひつかばやと都に遊りし妾中々に勵めもせで物思ふ折柄母の送りし小包取る手をそしと開き見ればお餅に添へて一封の玉章開封せずとも母の心はあり〳〵と讀める。

評　母に對するこの心を永久に保存せよ。

白百合

尾張　殘星子

心地よき朝の空氣にふれ様と思つて庭下駄のまゝ菊の香床しい花園を歩いた、ふと向ふを見ると私より先に起きた弟が白百合を持つて立つて居るので「英夫さん其花何うするの」と尋ねたら「あのれ兄樣は此花が好きだつたから僕これを兄樣のお墓へ上げ様と思つて……」あゝあのかわいし手で、あの美しい花を手向けたなら地下に入らつしやる兄上はまあどんなにおよろこびなさるだらう。

（評）眞情可想。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

◎暮の或る夜

築地 堤いく子

むし歯が甚しく痛んだので木枯の寒い晩お隣りから歌留多にと呼んで下すつたけれど、姉様に先へ行て戴て私は一生懸命寒い庭に佇立むで居りました。下町では年の市で其どよみが此あたりの寂寞を破つて、また一しほ身にしみる様歯は益々痛む許り、お隣りでは今初つた様讀聲勇ましく續いていろ〳〵の掛聲。

あら姉様の聲が氣のせいか大分冗くなつたさあ行きませう。

▲

私の隣に雪子とて、今年五つに成つた實に可愛子供がありました。いつもながら母上にむつかるのが、今朝に限つて早くお庭へ出て元氣よく唱歌をうたつて居ますの妾不思議の餘り、垣根を越えて行つて見ました雪ちやんは大そう機嫌がいゝのれと云へば、あの愛くるしい目を大きくして妾姉ちやんになつたものそれもそのはづ奥の間でオギヤ〳〵の聲。

（評）着想絶妙。

リボンを拾ひて

出雲 世良ふみ子

歌留多遊びにもうみて、門邊をさまよへば、誰が捨てたるにや、門松の下に落ちたる菫色のリボン。拾ひあぐれば、香水の香いと床し。

あはれ、はしたなき我手に拾はれし、ゆかりの色濃きリボン！　幸にかざせし主の手に歸れと、門松の枝に結びぬ。

笑ひ

相模 安藤光子

人さま〴〵の笑みの聲、其形ち其聲、音の異ろがごと思へばいとおかしからぬかはそれよ、アハヽと笑ふに快活の人イヒヽと笑ふは陰険よ、ウフーと笑ふは嘲罵の聲の洩るゝにはあらじか、エヘヽと笑ふは輕薄の人オホヽと花唇洩るゝ音のいと床しくもなつかしけれど、時に其裏あるを思へば又怖ろしき心地こそする。

（評）類別おもしろし。

雪の日

新潟 古澤ふさ子

我の眠りし間も、天は、休まざりしか、今朝は一面の銀世界、見渡せば遠方の家は、白帽を戴きて、マッチ箱の如く、散在し近くは隣の背戸に誰が通ひてか、二の字の跡、見えて可笑し。折から來りし、二、三、の小雀地に舞ひて、可憐の楓葉を散しぬ。

姉妹

栃木 玉野とし子

濱ちやんが下駄の鼻緒が切れたので、愛らしい唱歌の聲が止みました。八重ちやんは懐から書き損じの紙を出して、たてゝやつてゐます。折から路傍の梅ヶ枝で鶯が鳴き初めました、丁定二人が仲の愛を讃する様な聲で……。

（評）妙想々々。

雪の朝

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

▲ 芝 新野壽枝子

御目出度御正月に常盤の松、姫の御化粧の料にとてか、今朝雨戸をあければ眞白な初雪、吁今日は御年始にも行かれぬかと、がつかり致しますと、御隣でも淸ちやんが情ない聲で、母さん雪が少しで雪達摩が出來ないよ。

お祝

上總 川上梅子

今日は七歲になる眞ちやんのお祝ひ昨日、泣によう〳〵出來上つた友禪の被布を着せ髮はマガレツトに幅廣のリボンを結び、袖は今にも地につきそうである、母樣はいかにも可愛さうに手を引いて、鎭守樣へ參詣にと出掛られた、やがて眞ちやんは愛らしい聲で「玉の宮居は丸の内近き日比谷に集れる」と歌ひつゝ遠く彼方に。

◎矛盾

大分 加納豊子

ある雪の朝我家の七八歲許の女兒が馬車に挽かれた、アツと許りけたゝましい泣聲がするので私は直にかけ出たのであるが、此時はもう以前の馬車は揚聲高く逃走し去つた後であつた、と見ると女兒はやゝ息も絕々で實に目もあてられぬ有樣、氣弱い私はもう淚が止度もなく頰を傳ふのである、さるにても馬車の主は誰であらう、后に聞けば此君こそ當時博愛仁慈を以てきこえた某伯爵夫人で赤十字社の特別會員其他あらゆる慈善事業に與つて令名ある方との事だ、噫。

（評） これだから世間の同情がないのだ。

會所の小女

下野 野尻よし子

私が朝通つた時、藥師堂の緣側の日向にさもうれしさうにおむすびを持つて遊でゐたのは會所の女の子、今年四つになつたといふのであるが思へば實に可愛さうで、あの子の父は沙河の會戰に遠れ名譽の戰死を遂げられ母は產後、隔てずして終に不歸の客となられ、今では育てられた、たつた一人のおぢいさんに傭いてゐるさうですが、昨夕方もおぢいさんを呼びながら一人で泣いてゐたのでございます、嗚呼世の中には蝶よ花よと育てらるゝお方さへあるのに、あの子供はと思ふと……。

（評） 可哀想。

私の樂み

熊本 村岡みや子

來ん年は、來ん年はと思つて、實行しなかつた私、今年は、四時半に起き出て弟と、往復六里、縣内最高の金峯山に初日の出見に行きました我ながら殊やましかりし事！… されば今年は必ず日頃の願事なる阿蘇噴火山に登られる前兆だと、一人心に定め嬉しくつて〳〵、今から今年計りは、夏の來るのが待遠くつて〳〵仕樣がないの！……。

（評） この勇氣を持續せしめよ。

泣き通し

相模 廣守千能子

生れた時泣き、友と爭つて泣き、稍長して父の死に泣き。失戀に泣き、老いて、ひんになき通しだつた作者、死の國に旅立つ時ばかりは、嬉し淚

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に微笑んで居た、佛前で泣き、墓前へ來ては泣く樣子を十萬億土から見て、言ふてるだらう俺は最う泣くのはごめんだーと。

（評）墓前で泣て冥土で笑ふこれ人世觀の一場。

◎世の中

越後　清野

毎だと云ふけれどいつもよりは賑かなので家の嫁をつれて畫いじりをして居ると門松を買ひに四五人の男の子が來た、其中の頭らしい十四五歳の子はふところ手してさしずをして居る、其より少し年下らしいのが買ひに行つた。そしてあはれや小さいものは海老のやうな赤い手をして松を引づて居る。

（評）大童の横着可憎。

春のさゝ川

岩代　岸野常子

背戸のさゝ川は今春よ。張りつめし薄氷いつしか解けて、新芹汀に芽ぶくことしげし、沈みし落葉も今は流されつ、春水いとゞ澄み流りて、小魚の泳ぐ樣長閑なり。打煙る柳の下に姉さん被りの優し少女餘念なう物洗ひ居けるが、ふと己が姿を流れに映し。何思ひ出でゝが莞爾と微みぬ。思ひやれ、賤が伏屋の水草の、水に任する心安さを。

（評）清麗なる想。

お愛想

和泉　津田なみ子

いつも友よりの消息にせひ一度は來給へかしとの仰、例のお愛想ならむとは思へども、或日門前通りあはすに付て伺へば下女の出で來て本日は生憎不在との口上さらば御歸りなさるればよろしくと言殘し門口に出でんとする折りしも幼子の聲にて母樣御客歸つてよ。

花嫁

肥前　森本たみ子

梅ケ崎學校に通ふて居なされた妾しと仲よしの花子さんは、昨夜兄樣のお嫁に來なさつたのです、兄樣は一番で中學校を御卒業、花子さんも去年、優等で御卒業で、なか〳〵性質が溫和で、お怜悧で、妾しは誰より一番お好き、なんでも親等の許嫁でした話しです。妾しは嬉しうて嬉しうて、其の晩も遲く迄、家の手傳をして朝も早く起きてお座敷を掃除して居りますと花子さんが障子を開けて來ましたから、妾しは、「姉樣お早う御座います」と言ひましたら、花子さんは、顏を眞赤にして、頭をたれなさいました、すると兄樣が傍から「花さん何故羞しいの」と云はれますと、姉はニッコリ、妾しも、ホヽ……兄樣は、ヘヽ……（をはり）

（評）めでたし〳〵。

置時計

栃木　川連たか子

綾子さん今日の御清書は、アノツー、と云て持て來し清書二枚ランプの下に差出すを、姉は手に取り、オヤマー綾ちやんの上手になつたこと、皆な○と◎先生も褒めて居ましたよ、此頃のやうに勉强すると來ん試驗には屹度一等になられますつて、ツー、だからねりボンや何かくだらねえ事で怒らないで母樣が起したら直ぐと起きて支度を濟さないと學校が遲くなりますよ、いえ、わたい翌日から起されないわ、云いつゝ嘗て

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

了つた後ち書齋の置時計が見えぬから尋ねたら妹子の枕元にありました。

（評）成程々々。

一喜一憂

下野 金戸貞子

中年以上脊髄病にて臥床にあるあはれ妹。芳紀將に十七年も姿も容貌にむなくだく中にも妾は良縁とやらがありて、嫁すべく一家離圓妹は密かに妾の文金の高髷を姉さん見せて頂戴よく似合つてよ、どうぞ行末睦ましくと、妾は慰めて御許も早く全快して嫁ふてね…… と云へばわたしはもうとても……とあとは涙嘆妾の胸中……。

（評）可憐々々。

初雪

滋賀 岩崎操子

家に一人の可愛弟があります。其弟がいつになく、今朝は早く起き、「姉さん大雪だ」と、起します呼び起されて、庭を見ますれば、思ひがけない、大雪で見渡す限り一面の、銀世界、南天の實は、白き中に赤く一層美しく、犬の「ピス」は嬉しげに、雪中を轉がつて居ます。弟の喜びたとふるにものなし。

（評）いつ見ても雪の景色はうつくしきものなり。

小說懸賞募集

本誌は文壇の一欄を賑はさん爲め來る三月より每號懸賞を以て短篇小說を募集す投稿者は左の規程に依て續々投稿あらん事を望む

一紙數　二十枚以上三十枚迄（廿字詰、廿行を以て一枚とす）
　原稿は總ふり假名付の事

一署名　は雅號を用ゆる事

一賞金
　壹等　金貳拾圓
　貳等　金拾圓
　賞金は掲載後一週間以内に郵便爲替を以て送付す

一〆切　は每月十五日限り、封筒には女學世界懸賞小說原稿と朱書の事

一原稿　は一切返却せず

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ものはづくし

◎印は入賞

●あきれたもの

◎貴夫人の萬引　越後　きよの
教師と生徒との爭ひ　大阪　村山政枝
匿名を利用して畜生顔同に濫縦法を問ふ人　常陸　片山
若い婦人の卷煙草　小石川　黒川すみ子
田舍物の都見物　鹿兒島　とし子
大學生の化粧　信濃　松尾節子
教員の不行跡　靜岡　諸田芳枝
己が罪を他人に着せて平氣の人　長野　青沼清子
基督教信者の待合遊び　大阪　中川寳
◎意見最中のあくび　伊勢　よし子
我が信用せし人の心變り　紀伊　山本とく子
元日に掛取　岐阜　度會和歌子
式部連の立喰ひ　堺市　平野順子
狂者の惡口　讃岐　小松たけ子
當今流行の廂髮、支那人の不潔　越後　石黒利由子
成り上り紳士の內まく　上總　平井靜子
姦通婦人の度胸　京都　波多野松枝
◎夫婦けんかの翌日　大阪　眞子
夫の犯罪　大和　福本みき子
◎信州のきも取事件　信濃　足立順子
女の泥醉　三之輪　島崎國江子
小說コブシの侯爵夫人　小石川　佐々木濱子
正月早々の夫婦喧嘩　岐阜　佐々木時子
坊主の殺生　岐阜　度會よし子
取込み中の長居客　新潟　本多季子
算用數字も書けないのに裁縫の先生　德島　とく子
嫁の制服　山梨　名取まさ子
死に恥をかく人　靜岡　渡井せの子
又しも加州人の排日熱　加賀　土山ふみ子
女學世界の寶高　京都　奈良きく
老人に花嫁　奈良　瀬川とみ
名譽を衒ふ慈善家　奈良　毛利きよの
紙くづ籠から十圓紙幣　長野　名取波月
紳士の內まく　越後　河路春子
九歳の少女の富士登山　出雲　いち子
◎米國人の狹量　長野　矢島克子
五體揃つた乞食、◎一夜の內に積つた雪　伯耆　長田ふみ子
急用人の汽車に乘りおくれし時、◎鳳の高く揚つて糸の切れし時の小供の顏色　長門　綠安廣子

●古いもの

日本の紀元（同案多し）　尾張　中島はな子　外三十二名
敷島の道（同案多し）　越後　きよの
去年の暦　飛驒　加藤よし子
世界の初まり　青山　元子
ピラミッド（同案多し）　石狩　藤原靜江　外二十三名
◎佛壇の奥の祖師の御姿　小樽　伊庭たけ子
伊勢神宮の建築　滋賀　山崎芳子
太陽　周防　貞弘八千代
日本の皇室（同案多し）　長野　鈴木富子　外七名
三種の神器（同案多し）　兵庫　あさ子　外四十二名
芙蓉峰の白雪　秋田　しらゆき
曾祖母の持た圓鏡　羽前　谷山たに子
神社の寶物　上總　平井靜子
◎鄉先生の洋服　村　子
祖母の嫁入手箱　信濃　足立順子
博物館のミイラ　三之輪　島崎國江子
虫干に見し曾祖母の嫁入衣裳　小石川　佐々木濱子
◎尼寺の土瓶　美濃　杜若會育子
御家重代の鎧櫃　岐阜　佐々木晴子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

高千穂の峯の古木、太古にありし古墳　岐阜　度會よし子
百歳以上の老人、淺草の觀音、日光の魚、洗ひ晒しの着物　東京　栗原琴子
古物展覽會の出品　加賀　土山ふみ子
御母樣の御化粧道具　岐阜　白梅子
石炭のまだ石炭にならぬ前　出雲　いち子
◎パアナの持つて居る三世相　伯州　長田ふみ子

評　日本の皇室、三種の神器、芙蓉峰の雪などは古いといふよりは高深、若しくは崇高、尊敬といふ方にて單に古いといふには當らざるがごとし

●またるゝもの

可愛ゆきむすこの初孫　浪花　まさ
試驗成績の揭示(同案多し)　越後　きよの外十二名
撮影した寫眞の出來上る日　浪花　なか子外七名
大患に醫者の往診　大阪　きよ子外三名
新年の初刷　石狩　藤原靜江
手紙の返事　小樽　伊庭たけ子
許嫁が歸朝後の結婚　駿河　淺井いせ子
注文した品のをそき手紙の返事　香川　みゆき
投書した雜誌の發行日(同案多し)　大阪　中川實外二十八名
初めて投書せし時の女學世界　周防　眞弘八千代外七名
乘遲れての次の汽車　京城　中尾かや
急病人の出來た時の醫者　和泉　津田なみ子外二十七名
◎日本の萬國博覽會、國元よりの小包　岡山　笹原貞子
明日のかるた會　紀伊　山本とく子
懸賞物の發表　岐阜　度會和歌子
愛兒の生長　堺市　平野順子
姉さんの丸髷姿　羽前　谷山たに子外六名
◎夕方の子供の歸り　香川　田村たか子
急病の時の醫者への使ひ　陸前　小松たけ子外十一名
急病に醫師をまつ時　上總　平井靜子外三名
坊ちやんの御正月　姉　子
月末の母の手紙　都子外七名
夏の夕ぐれ　凉　子
明日の先生の歷史の話　綱　子
名所の花盛　信濃　足立照子
裁縫へ頼んだ晴着　相模　柚木とよ子
久振りで里歸りする姉上　小石川　佐々木濱子
鶯の初音　美濃　杜若會育子
オールドミスの縁談　遠州　青島愛子
恩賜の辭令　秋田　泉澤いよ
◎中々出て來ぬ取次　岐阜　白梅子

▲來月の新題

◎氣に喰はぬもの
◎やわらかい物
◎あつかましい物

謎々　◎印は入賞

△すみれ△長火鉢△後見人　とかけて
▲す……軍人の後家と解く、心は詩人(死人)のために譽れあり　長崎　内山まさ子
◎▲す……振子鑑しの立ち聞きと解く、心は首をかしげて居る　岐阜　白梅子
▲長……槍の仕合と解く、心は差し向ひ　長崎　内山まさ子
▲後……ビール箱と解く、心は洋酒(幼主)を守る　芝　新野藤枝子
▲長……シヤレモノの入浴と解く、心はあかの落しが長い　芝　栗原琴子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

▲す……いたづら子供のある家の障子と解く、心は貼るのにまく(春野に咲く)　岩代　横山　楢子

▲長……箪笥と解く、心は引出(引山草)もある　磐城　華子　女史

▲長……氣の利かぬ女中と解く、心はお座敷へは出せぬ　大阪　[illegible]　まさ

▲す……丸橋忠彌と解く、心は正雪(小説)につきもの　秋田　佐伯　光子

▲す……伊庭惣太郎と解く、心は星が思ひ浮ぶ　羽前　谷山たに子

▲後……新妻の着初めと解く、心はうしろ見なする　岩代　中澤　華子

▲後……女子教育の大家と解く、心は花房(家計)のおとみ　羽前　谷山たに子

▲長……[illegible]議長の椅子と解く、心は奥さんの專有物　岩代　中澤　華子

▲後……精養軒の宴會と解く、心は洋酒を盛り(幼主を守り)立てる　米澤　岩間　貞子

◎▲後……劍術者の果たし會ひと解く、心は眞劍(親權)を持つ　鳥取　榎本　捨子

▲後……植木屋と解く、心は幼樹(幼兒)を世話する　群馬　田所きよし

▲後……日本武尊と解く、心は懷(劍)はわがふところにある　群馬　大川しん子

◎▲長……貯蓄銀行と解く、心はひきだしもある　群馬　田所きよし

▲長……伊勢の國と解く、心はどうこ(道後)がある　群馬　大川　しん

▲す……深山の君子と解く、心は雲はかくれたれど薫りは高し　大和　杉井　吟子

▲長……新聞屋と解く、心は嗅ぎついて暴露する　京都　波多野松枝

▲す……十六七の小娘と解く、心は色づくと[illegible]ほる　杜若會育子

◎▲後……春日様と解く、心は叔父が(牡鹿)多い　相模　とよ子

▲後……消防のぽんぷと解く、心は出て來るやうでは大事　岐阜　杜若會育子

▲長……日米同盟と解く、心は女將(政府)の思案どころ　柏木とよ子

▲長……商店の小僧と解く、心は叩かれたり撫でられたり　杜若會育子

◎▲す……運命の占ひと解く、心は色々な(星)がつく　京都　波多野松枝

▲す……小兒の宴會と解く、心は可憐に開く　日向　永友じけ子

▲す……源氏物語と解く、心は紫に薫(紫式部に薫大將)　東京　佐々木はま

▲後……武士の喧嘩と解く、心は親權(眞劍)である　日向　永友じけ子

▲後……[illegible]と解く、心は財産保護役　京都　波多野松枝

▲長……日本全土と解く、心は其居所で寒暖の差がある　日向　永友じけ子

▲す……東郷大將と解く、心は薫香(勳功)第一　岐阜　佐々木晴子

▲後……稻田への水路と解く、心は畑地(廿歳)となれば要らぬ　岐阜　度會よし子

▲後……屑場と解く、心は妙齢になるまで身について離れぬ　岐阜　佐々木晴子

▲す……封書の盗見と解く、心は貼るの(春)に開く　岐阜　度會よし子

▲長……邪見の小姑を持ちし嫁と解く、心は[illegible]烟管でたゝかれる　岐阜　佐々木晴子

▲長……借用證書と解く、心は大抵財産家に在る。　岐阜　度會よし子

來月の新題

◎小供の食事とかけて

◎古帽子とかけて

◎客の長坐敷とかけて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

す音

△美術家としての獨逸皇后

獨逸皇后は有ゆる藝術に通じ玉ひ王宮にある皇帝の等身像及び内親王の大理石像は何れも皇后陛下の製作にかゝるものなりと。

△學生と羽織紐の變遷

紙撚を以て羽織の紐とせし時代は古し地に垂れんばかり、毛糸の組紐はやがて、平打の高價ならの流行し、更に一昨年頃よりリボンを結びて得々たる男學生さへありしが今は女學生等の手綱になれる細き絹糸物の流行を見るに至りしと。

△肺病患者と對話の注意

患者の面前三尺を離れて玻璃板を据え、之に普通の談話をなさしめたる後玻璃板を檢査せしに多數の結核菌を發見したりと、該患者と對話の際は少くも三尺を距れて横を向き乍ら談話せよとは專門醫の話。

△活動力と局部の發達

總て生物の身體は何れの部分を問はず、遣へば遣ふほど鋭敏に發達すれど之を不用に附すれば漸次退化するものなりとは學理の證なる處ろ强弓の名ある鎭西八郎の左手は右手より長き事三寸、又近時ヴ井オリンの某婦人音樂家も亦た左手の長き事二寸餘りなりと。

△白髮の福音

エッキス光線を利用して皮膚の色を變へ得ると共に毛髮の白きをも黑くする術、發明せられたり白髮に氣を病む人の爲には好個の福音ならむ。

△四十歳前後

男子の發狂者は四十歳以下に多く、女子の發狂者は四十歳以後に多しとこれ男子は壯年の頃に心配多く、女子は老いて益々苦勞の多かる證據なり。

△修學年限の一定

高等女學校の修學年限は三ケ年の所もあれば四ケ年の處もありて自然入學者の平衡を失し來りしが文部省にては來る四月より凡て四學年程度に一定するよし。

△男女の分業的學問

男子は概括的能力に富み、女子は部分的研究に長ずるが故に此長短を補足すべく男女各々分業的の學問を要す。

△犯罪的男女

監獄教誨師の談に、由來男勝りの女に重犯人多く、女性的男子に殺人犯多しと。

△光榮ある婦人

日露戰役中、各縣族御座所を始め、愛國婦人、赤十字看護婦其他の團體各婦人へ下賜さるゝ寶冠章は六百四十餘名なりと。

△女は女らしかれ

米國に於て優しき戀愛の物語少なきは、其婦人の多くが男性化したるが故なり。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

人事活斷

投書規定

一毎月十日着までの分は翌月五日の本誌に解答を與ふべし
一投書は封書に限る、端書は總て沒書とす
一書は毛筆にて書かるべしペン、又は鉛筆書きは採らず
一事實は正直にありのまゝを記すべし、履り違く讀々の如く書くはよろしからず

以上

△板狹の山家住子女へ——再筮瀆々不告、易の辭語にして漫に弄ぶべからざるとは此の如きものである再占は斷じてせず。

△醜き姉を持てる妹女△醜き妹を思ふ姉女△醜き女の母親△不美人生へ——茲に答ふる所を虚心坦懷能く〳〵會得されて進退を誤らないやうに呉れ〳〵と望む、さて世の醜女は多く貌より心と云ふ言葉に慰藉せられて居るやうですが、それは間違ひで案と此言葉は美人を讒しめたのである、男子十人寄れば十人百人寄れば百人まで美人の方を喜ぶのである貌より心などと醜女を採るものは恐らく千人に一人も覺束ないでせう、昔吉川元春が醜女を娶つた話は有名だが、それとて好きこのんだ譯でなく今日から見れば全く一種の政略であつたのである、況して美人必ずしも心情の曲れるものではない、殊に古來才人に傲慢の心あらば玉の杯の底なきが如しと謂つて賤んだものだが、どうしたものか醜女には此傲慢心が附屬物のやうになつて居る、此れは畢竟淺慮から來るものである、何分普通の女子と違つた心掛けがあると見えて、多少藝術などの上には比較的成蹟が能いやうであるからそこで直ぐ鼻に掛けるのであらう斯くてその心までが愈女らしくなくなるので益々配偶者を得ることが六ヶ敷くなる譯であらう。されば醜女は到底配偶者を得られぬかと云ふに決して然らず、醜女は早婚に限るのである、早婚さへすれば自ら醜き容容の悲しみを知らずで一生を終ることが出來る鬼も十八番茶も出花、眞に女子の十七八は天使である。ふつくらと肉付き來りてその姿やさしく、肌はあぶらぎりて光澤あり、頰は常に微紅を潮し、眸は澄みて淸く婀娜玲瓏全體が活々として何處となく愛嬌あり其の容姿の淸きにつれて心も亦淸く無邪氣にして貪慾の心なし、箸の轉げるのを見ても可笑しくなり、小言いはれても笑ふ、すべてに嬌羞を帶びて一層かはいらしく、實に此世ながらの天女である、此時に當て少々顏の道具に故障があらふとも結婚の邪魔にはならぬから、未だ學校は卒業せずとも稽古が足らずとも急いで結婚をするのに限る、花嫁は無邪氣で初心なるが千兩である、家庭がどうのかうのといふ理屈はいらぬ理に落ちて花嫁の價値はなくなります、さて天女の如き花嫁が世帶じみて亭主の鼻につく頃には愛兒も出來る何にも心配はいらない、男は家内の顏より先づ愛兒の笑顏を眺めて、嬉しがり、嫁は家婦となり母となれば、家内安全天下泰平である、されば此大切な婚期を逸した婦人は致方ない、緣のある迄待たねばならぬ、緣談あらば繼母でも後妻でも何んでも撰ふとなく忍んで嫁付き、母として、主婦として新生涯を拓き腕次第伎倆次第世の美人と競爭して成功すべしさて山鷄女は三月頃、早苗子は五六月頃、雛生女は四月頃何れも緣談あるべし、決して取逃がすべからず、又不美人生其他は前半年中に緣組の氣なし、今暫く時節を待たるべし。

△秋野紅葉子女へ——廿六歲の京都男を採りなさい。

△こはがり女へ——それは事實を父兄にお話されて醫師へ御注意なさるがよし、貴女の爲め計りでなく、他に對しても必ず斯る惡戲を致し居るに違ひないです。

△子を思ふ母親へ——靑年學士との合性はよろ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

しからず、餘り急ぐ年頃でもありませんから良人と相談なされた方が宜し、良人の開運は今後にあるのですから末をお樂みなさい。

△田舍の娘へ――叔母の後へ緣付らるれば先方は大喜び納らぬ筈はない、舅との合性も悪しくないから末は無事でせう、又農家の子息は年下のやうなれど是も有望ですから、此處本人任せその好む方へ御談込まれてよし。

△山中嬢へ――婿を迎へるに限る、さすれば兄や母の心も安すまります、其心になれば今年中に良緣あるべし。

△兵庫縣千代子へ――結婚後に知れて破鏡の歎きを見ても致方のない處でせう、然るにその以前であつたからよし、仕合です全く良緣でなかつたのである、それを氣に病んで世の中を悲觀するとは辻褄の合はない話し、しつかりなさい。

△枯葉女史へ――中等教員検定を受ける方針がよろしい、既に婚期も愆して居るとですから明日にも良緣があらふも知れない、その心掛けで勵じなさつたら萬全です。

△津の國萩女へ――離緣談はまだ早い、大阪に行つて同様の御相談なさるが道である。

△黒川もみぢ女へ――婚約を破談されたとて左程落膽するには及ばない、諸方より緣談のあるこそ幸ひ、今の内に相當の處へ緣付なさるが吉

△みなぎの田鶴子へ――處女の職業は結婚の準備であるから、餘り末の末までを考ふるなどは愚です、又收入の點も多からんより寧ろ支出を約かにする心掛けが他日世帶を持つやうになつた時の助けとなるものである現在の職に滿足して急がず良緣をお待ちなさい、春には緣談あるべし。

△下野秋月子へ――高等女子師範への入學は見込あり奮發すべし。

△泣顔女へ――今年秋風の立つ頃受験あるべし[illegible]牛を大事にして天惠を空うしてはならない。

△山陽願女へ――現在の商業を一心に勉強すべし、而して理想などは棚へ仕舞つて置いて見込ある男なら大抵辛抱して入夫とされて共働きが上策出世開運はそれからである、燒芋屋から數十萬の身代作つた例しもあるから、此處が決心の仕處である、奮發すべし。

△米子の心配女へ――相當の處へ緣付方針が第一です、音樂の稽古して一人前の音樂師になるには容易のとでなし、且つ家庭の樣子で一人でも早く片付かれるが好都合でせう。

△神戸何女へ――精神の修養は好い心掛けです緣談はまだ急にはないから、徐に時節の來るのをお待ちなさい、轉校は弟妹の學校通ひの都合上よりの御相談ならば六ヶ敷からず調ふ。

△境港の黒百合女へ――良緣を待つて再婚なさるが上策、時節を待つて上京良家へ奉公して目的を達するは中策、無理に家出して世の中に彷徨ふは下策なり。

△片田舍野菊女へ――理想がある間は良緣來らず。

△南部のすみを女へ――お諦めなさい、無かつた緣とおもつて、此上深入すれば次はほんとに浮目を見ます、人事は小説のやうに大團圓目出度く〱とは參りません。

△韓幽溪流女へ――從兄と結婚すべし善は急げ結婚は早きを吉とす。

△太田春子女へ――意中の方と結婚するは有望なり。

△南海道つゆ子女へ――工學士との緣談末に見込あり、書は怠らず習へば上手になれる、交際は餘り廣くするに及ばず。

△龍野幸子女へ――離婚の事情が事情であるから先夫の忘れられないのも最もであるが、なかつた緣とおもつて兩親の意に從ひそして他へ再緣の決心されたし、さあれば良緣は來る。

△山吹女へ――貴女は元來子供のない質ではないが、近き將來に受胎の象はなし、されど末永くお樂みにして居られたし、次に第一妹が冷刻なる叔父母の手に掛られたは、實に不運さりと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て貴女が二階から眼鏡と云ふやうなきゝめ少き御心配をなされたとて、徒勞ですから、當分は致方ない先方の仕樣次第に任せ置くより外はありません、まづ良人大事と仕へて後々徐ろ〳〵と良人の助を藉りて前後策を講ぜられたし、急いでは雙方の爲によろしからず。

△因緣の涙女へ――物は取樣である結婚後に失くなられたのであつたらどうなさるか、諦めの付かぬ筈はない、緣の薄きは運命なれば悲むべきではないやんごとなき上つ方の姫樣でも三十路越えて入輿遊ばされた例もあります、少し位緣遠いとてくよ〳〵思ふに足らぬと、春夏の間に良き媒あり樣でお待ちなさい。

△さくら子女へ――貴女の結婚は此夏頃大に話が進むでせう。

△水戸在白菊女へ――農業が嫌ひで年來の家業を止されたとのこと、此上は好きな職業に就くより外なし。

△葉子女へ――受胎の兆あり。

△鳥取縣白菊女へ――胃腸病は全癒すべし安心して療養をなさるべし。

△山陰狷女へ――貴女の如き地位にある方には何時も涙を惜しみません、昔は鎗一筋の士でも時節なれば車をも引く此頃、父母が農業の多忙れ繋れての犧牲、あつたら婚期を無にして寂しき獨樣生活、實に同情に堪へないのです、貴女が職業教師として末の見込み少く今一番奮發して見やうとの御考は最もですが、成るべくは嫁緣して身の納りを付くる方針を取られたし。

△改心女へ――從兄との關係は將來好緣の兆にあらず諦むる方よし。

△田舍不斷女へ――少し位ゐ逆境にありしとて自己の腕で食つて行くを喜ぶなどゝはまだ乳臭の言葉に過ぎず、實際その境遇に臨んだら意氣地のないもので實家の有福なる丈けそれ丈け心弱く泣付くものです、親御の意見は貴女が行末の安泰を慮りての厚きお情親御に從ひ居られたら間違はなし。

△佐倉町の芳子女へ――第三兄の助力を仰ぎて獨立の方針をお採りなさるがよし、又軍人の妻君たる望も多分達せられませうが、將來は餘り有望とは申されず。

△上田のその子女へ――無論二年以內に緣談はあります、貴女の理想と反對な方を良人にお持ちなされたら將來幸福に相違ありません、從兄との結婚は望みあり、音樂の成功は尋常。

△濱の眞砂女へ――軟弱な女子の腕で獨立は覺束なし身の納りは結婚に限る。

△心配鏡へ――理想を云々する間は良緣來らず

△廿歳不幸女へ――求婚のある內が花です早く緣付かるゝがよし、人の厭みなくなつてから如何に悔んでも煩悶してもその甲斐なし。

△片山里の捨小舟女へ――良人が無口で不愛想で、何か目的を立てた樣子があつても妻に相談して吳れないので將來も案じられ現在も樂みなしとのこと、併し男子らしい賴母しい處があるではありませんか、ベチャ〳〵婦人の機嫌を取るやうな男ならば當節こそ面白けれそれこそ將來に見込みはありません御反省の事。

△安耕女へ――良人の運勢は良好貴女が傍より關係せず一切良人の意志通り遣らせなさるべし開運必せり、

△芝おたづれ女へ――夫婦の間は相性は最もよし、少々待遠くとも今四五年經なば受胎あり。

△京の田舍生へ――親父の意志が今日のやうでは、養子にしても嫁入にしても到底駄目です、家產の恢復は容易でないからお氣の毒ながら婚期を誤るでせう早く賴母しき親戚へ相談して此逆境をお逃れなさい。

△北海道登美子女へ――嫁しては夫に隨ふが婦の道々トエ老父を措て遠く離るゝも致方なし、而も良人との間が打解難い樣子がありましてもそれは氣に留むるに及ばじ。

△心苦女へ――良人との間は相性もよし、又良人が奮發された滿洲の開業は後日有望で成功の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

見込充分なり、

△相州廿一年生女へ‖養子婿をお迎へなさるが當前、嫁入ても妨げはありません、併し常道を履て居る方第一安心でせう。

△鳥取縣女へ‖赫顔の根本的治療は先づ六ヶ敷でせう、化粧品で誤魔化して置きなさい、婚期は來年の末。

△孤島の十三七ッ女へ‖十中七分まで求婚は來年前半期には思はしき縁談なし。

△迷女妹へ‖姉と從兄との結婚は無理に成立させても、將來夫婦中爭ひ多く到底睦しく參らず、お考へ直しあれ。

△幽香子女へ‖親へ意志を話して手續きを運んで貰ひなさるが道です、直接の交渉は最も惡し、、併し此縁は將來有望にあらず。

△大阪心配女へ‖迷ふまでもなし、結婚を御承諾なさい、貴女は早婚に限る。

△高岡愛讀女へ‖娘一人に婿八人と云ふ諺がある、貴女はそれに、近い方で五人よりの求婚とに擬定に戸迷ひなさるも無理のなきとです、甲、乙の内にてお極なさい。

△石川煩悶女へ‖眞人の外貌、家庭の寂寞併し、地位ある方無法の事はされまいから氣を腐らさぬがよし、お考のとは目的通り奏功す。

△筑後の白露女へ——陸軍將校或は學士よりの求婚は近き將來に來らず、年來御交際の方との結婚は行末有望。

△山陽道案じ女へ——新暦即ち太陽暦が正しいので明治十八年生を以て正當に動かすべからずです、貴女の婚期は未だ明瞭いたしません、今暫し落付いてお待ちあるべし。

△神戸心配女へ‖三見までもお擧げなされたお間柄、今更縁のあるないでもありません、眞人に情婦が出來たとてそれは一時の事、餘りお心配なさらずともよろしく暫時知らぬ振りで見て居なさい。

△越後村松女へ‖軍人望みの處へ商家よりの求婚で、少々迷ふとの事、併し昔は急げ早く身の納るが幸福、早い處へ片付きなさい。

△相模懸願女へ‖貴女の婚期は來年二三月の候が有望です。

△越後のヒステリー女へ‖病患は快復し受胎である運命ですが、夫婦間の攝生が嚴守せられない内は皆駄目、能く〳〵御注意あるべし。

△悲觀女へ‖家事の爲めに晩婚とはお氣の毒で同情を吝みません、最早や婚期の過ぎた序でに緩る〳〵良縁をお待らなさい、早婚が幸福でありませんから、此の儀をお含みなされて求婚に應じなさるべし。

◎自殺者の種類

內務省に於て調査せる最近一ヶ年間の全國に於ける自殺者は男六千二百四十五人女三千九百四人にして其因由別は左の如し

▲精神錯亂 男二千七百五十八人、女千七百七十人
▲病苦 男九百十八人、女七百人
▲活計の困窮 男千百六十人、女四百七十七人
▲痴情又は嫉妬 男百八十人、女二百三十六人
▲前非後悔 男二百九人、女六十四人
▲親族の不和 男九十七人、女百七十三人
▲罪の發覺を憚れ 男八十人、女十八人
▲將來の事を苦慮して 男四十人、女二十四人
▲商業等の失敗 男百八十七人、女二十四人
▲親又は夫等の我咸 男六人、女二十三人
▲縁談を悲みて 男七人、女二十人
▲夫又は子の不行狀を歎て 男十一人、女十九
▲私通姙娠を憂て 男一人、女二十一人
▲結婚を忌みて 男三人、女十八人
▲身體の不具を悲みて 男五人、女一人
▲腦疾に因り 男二十人、女十七人
▲親又は妻子等の死去を歎て 男三人、女八人
▲淫逸放蕩 男五十三人、女四人
▲老後身の不自由 男三十二人、女二十八人
▲技能の足らざるを憂て 男四人、女四人
▲宗教の迷信 男一人、女二人
▲お證して 女六人
▲兵役忌避 男十三人
▲縁談上の困難 男一人、女五人
▲債務の餘り 男三人、女六人
▲他家に奉公を厭ひて 男一人
▲金員等の紛失を苦慮して 女一人
▲子又は夫等の病氣を苦にして 女一人
▲爭論の末 女二人
▲厭世 男二十人、女二十二人
▲失戀の餘り 男一人、女一人
▲身性煩悶 男一人、女一人
▲修學し能はざるに因り 男三人、女一人
▲出征者より音信なきを苦にして 男一人
▲其他 男五十人、女二十七人
▲不詳男 三百六十二人、女七百六十一人

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

結婚道しるべ

▲本欄は便宜的に結婚の紹介をなす▲申込者は求婚の希望を詳記して博文館女學世界交信部宛送らるべし▲申込者は成るべく最近撮影の寫眞を添付するを例とす▲住所姓名番地職業を確實に記せざるものは没書す▲照會者は通信料として三錢切手三枚を送らるべし▲寫眞を望む方は切手貳拾錢を送らるべし▲同時に二名以上を紹介せず

行きたき方

▲知人の娘年廿六、容貌普通、厳格なる士族の家庭に育ち、東京の某技藝學校を卒業す性質温和、中尉以上の軍人又は實業家に嫁ぎたし、大尉以上ならば後妻にても不苦(寫眞保管、廣島の希望者)

▲明治十六年生血正容貌卑、某手藝學校を卒業す三十歳前後の佛教信者にて大酒せぬ方、若くは陸軍將校に嫁ぎたし(近江湖東の女)

▲歳廿八血正初婚、容貌普通家計中等、係累は兄の夫妻のみ、高等女學校卒業後琴茶の湯等稽古中なり、中尉以上の軍人若くは高等の教育ある人に嫁ぎたし(兵庫の女)

▲血正家柄申分なし親兄弟健在、財產なきにあられど支度なき十九年生れの處女、相當の教育ありて氣品高し、職業を不問將來有望の人に嫁ぎたし、但し文通交際の上(京都在の希望生)

▲年廿歳女學校卒業後小學校に奉職す、父は士族容貌普通支度なし、二十八歳までの人にて中等以上の教育ある品行方正の人に嫁ぎたし、軍人ならば殊に希望す、(山形の貞子)

▲年廿四歳の女、士族の出兩親なし、女學校卒業女醫一般に通ず、然し目下不遇の境にあり、共稼的平和の家庭を作らんとする人に適りたし(寫眞保管麻布の求婚者)

▲二十二歳の女子門閥家の出なるも親を失ひ昨今不幸に泣ける一女子、慈悲深き人の許に行きて一世を安心に送りたし(姫路の薄命女)

▲年廿四初婚容姿卑、血統品行共に正、兩親健在東京某技藝學校卒業、目下教職に從事す財產の有無、家の遠近を問はず月給取り又は軍人に嫁ぎたし(伯耆の愛嬌女)

▲知人の娘年廿六血統正、財產三萬圓教育あり係累は老母一人妹一人、官吏軍人又は確實なる銀行會社員にて二十九歳以上の男子に嫁したし(姫路の獨身女)

▲年二十歳容貌普通、教育あり昨今は裁縫活花茶之湯の稽古中、家には相當の資產あり家庭は厳格なり、廿七歳位の銀行會社員又は官吏の許へ行きたし(前橋の幸運女)

▲歳十九血正士族の女、縣立高等女學校卒業、前後琴、オルガン専攻、昨年より教員をなす、親切なる人の許に嫁ぎたし(熊本の女)

▲本年廿三歳の女中肉中背、人品佳、普通學は勿論、裁縫、料理、音樂を専習す、家は土地の資產家なり、中尉以上の軍人若くは學士の許へやりたし、先方の望み次第直接本人との文通交際を許す(東京在の匿名者)

▲呼年二十三初婚容姿卑、性快活、身體健全、府立女學校卒業にして官吏の長女なり、料理は本人の尤も長所、三十歳前後の方へ嫁がせたし、(中國の花)

▲年廿一歳血統正、兩親健在父は士族會社員、高等女學校卒業性快活、遠近を問はず財產なくも大酒家ならぬ大尉相當の軍人と三ヶ月間文通交際の上結婚を望む(女州不知火九)

▲年廿一歳兼母一人、家に相當の財產あり容姿普通より下らず高等女學校を優等にて卒業す、醫科大學或は醫學專門學校を卒業若くは修業中のものと結婚したし、但尾張出身者ならば好都合(名古屋の今業)

▲明治十八年生工業家の處女、縣立女學校卒業

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

後家庭に在つて家政一切を見習ふ、工科大學若くは工業學校出身の三十歳前後の人を求む、但し京濱間在住者を望む(濱の菫子)

▲知人の令嬢年廿三、血正容姿端、家計中流、高等女學校修業目下家庭にあつて女藝を修む、婚後は親より動産の分配を受くる約あり係累なき官吏軍人又は將校と結婚させたし(山陽女史)

▲知人の淑女年廿六女學校卒業後家庭にあつて茶道、生花、音樂を學ぶ、經濟及交際の事申分なし、外交官、醫學士、辨護士、或は官吏銀行會社員に嫁せたし(交際淑女)

▲今年七歳の女子身體强健、血統純正、東京市内の實家へ養女にやりたし、但し教育費として年々若干金を贈るべきを約す(信州實業生)

貰ひ度き方

▲年廿六初婚、血正體健、學校卒業後東京市内にて確實の商業を營めり、兩親あるも別居す、廿二歳以下高女二年以上の學力ある勤勉のものを求む、仕度不望(東京泥蓮子)

▲實弟廿四歳、現今醫學專門科修業中、學費不足に付卒業まで補助しくるゝ實家の養子となりたし(北海道の兄)

▲某會社員年廿六、年收九百圓、血正體健外に係累なし、中流の家庭に育てる高等女學校卒業位の美なる處女を求む、但し或る期間交際往來雙方の意志を解したる上結婚する事(横濱の一雅人)

▲横濱の某會社員年廿八、月收七十圓あり、京濱間に育ちし廿歳位の强健にして裁縫を能くする非ハイカラの處女と雙方交際の上結婚したし(横濱の岡上生)

▲豫備二等軍醫年三十一歳の初婚者、體健血正開業の望あり、高等教育ある無資產無係累の淑女と交際の上結婚を望む(神田の愛婚者)

▲帝國大學生年廿五歳來る七月卒業の筈、兩親の外係累なし、中流の家庭に育てる普通教育ある體質健全にして温雅なる處女と約婚を望む(西都の大學生)

▲呼年廿七、血正、容貌普通、目下縣立實業學校教諭月俸五拾圓、適當なる配偶を求む、但し三ヶ月以上文通交際身元精探の上結婚したし(熊本の奉公生)

▲友人年二十四府下出生にして身元確實、品行方正學術優等、目下在學中なり、來る六月の卒業まで毎月五圓宛補助しくるゝ人と結婚若くは養子を望む(帝都の同情生)

▲年二十四歳、海軍軍人來る六月滿期せんとす年金百圓恩給八十圓、貯金六百圓、兄弟三人は米國にあり、高女在學若くは卒業者にして廿一歳迄のものと結婚したし(海中の鐵)

▲年三十六地方名家の次男、性質温順信用厚し目下神戸の豪商支配人勤務中、相等の配偶を得て獨立したし、但し都合上養子するも可(東婦希望者)

▲呼年三十二歳九州出身の士族、郷里に一人の老母あり、目下某會社勤務月收百廿圓、明治廿一年生、高潔の家庭に育ちし淑女を求めてホームを作りたし(滿洲生)

▲友人年廿九、血正の好男子、中等教育を卒りて目下官廳に奉職中なるも感ずる所あつて實業界に身を委れんとす、普通教育あつて女子一切の技藝を有し性質温和身體健全の處女を求む(岡山近傍生)

▲年卅六歳岡山縣士族、目下大阪の官衙に奉職月收三十圓、前妻男兒に弟と母一人あり、同情深き温順の女子を求む(大阪の一男子)

▲明治十八年生中學卒業被服請負業、血統正、性格健普通教育あつて貧家に生長せし進取の氣質ある十九、廿、廿一までの淑女を求む(廣島の出世者)

▲陸軍大尉年廿八體格强健進取の氣象に富み親族係累なし、中流以上の嚴格なる家庭に育ち、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

高女卒業位の淑女と結婚を求む都合により養子となるも可、(樺太の應募生)

▲軍人にして勳章及年金を有す、來る三月滿期の答三ヶ年間洋行又は日本にて勉學の目的なり學費として一ヶ月金拾五圓以上出金しくるゝ家に(一家族妻子供共)養子に行きたし(韓中島の軍人)

▲血統正不拔の氣象あり數年間韓國に住して多少資產を有す將來共產主義の農村を作らんとするに付年廿五歲以下強健なる女子にして資金一萬圓以上を補助しくるゝ淑女を求む(革命子)

▲年廿四中等教育を終れる一軍人目下滿洲某官衙に奉職中、廿三歲以下高女卒業位の學力を有し、夫の爲めに身命を惜まず働かんとするものを求む(孤劍生)

▲本年徵兵適齡陸軍工兵補充兵に編入、温厚篤實、未來の實業家を以て任ずるもの學術普通邊境に處したる農工家の十六七の處女と約婚したし(東北の健兒)

▲年齡三十六歲の官吏月收四十圓、三十歲前後の容色普通なる婦人と結婚を望む、但し再婚不苦(臺灣のT、M)

▲年二十四歲體健血正、目下官職を辭し實業家たらんとす、二十歲までの普通教育ある實務業に堪能なる淑女と結婚したし、都合次第養子緣組するもよし。(雛鶴島家の男)

▲年二十七、月收及年金を有す、體格強健抱負あり、資產家に生れ十五歲以上十八歲迄の高女又は女子大學修業の子女と約婚したし(田舍武士)

▲年廿八高商卒業後六年間日清貿易に從事し目下清國にて重要なる地位を占む、父は地方の名譽職を奉ず、血統正しき實業家又は官吏の嚴格なる家庭に生れたる廿歲以下の淑女を望む(清國東洋生)

▲友人年廿五東京府士族學校卒業後目下某會社高等海員月收六拾圓將來昇進の望みあり、廿歲までの普通教育ある血統正しき貞淑なる處女を求む(大阪のY、O、生)

▲年三十豫備軍醫市內に開業す、血正體健無係累、高等女學校卒業裁縫に熟達し、圓滿なる家庭教育を受けたる品行方正二十歲前後、初婚の淑女を貰ひたし可成東京在住者を望む(東京急求生)

▲血正溫順容姿普通年廿一歲の男子、昨年高等學校を卒業し現今會社に勤務す、所持金叁百圓あり、相當の女子と結婚若くは養子に行きたし(新潟の雪溪)

▲三十六歲の工業會社員身體頗る健、月收六十圓外に係累なし、二十歲前後の女學校出、又は修業中の令孃と至急婚約を求む(K、M生)

▲資產も借金も係累も學實もなき血正廿九の書生、後藤男爵夫人の述べられた樣な心持で共稼ぎの嫁さんが欲しい(大望夫)

▲年廿一歲中等教育あり目下米國にて商業に從事す、同齡又は其の以下にして中等教育ある資產家の娘を求む、但し歸國後養子となるもよし(北米生)

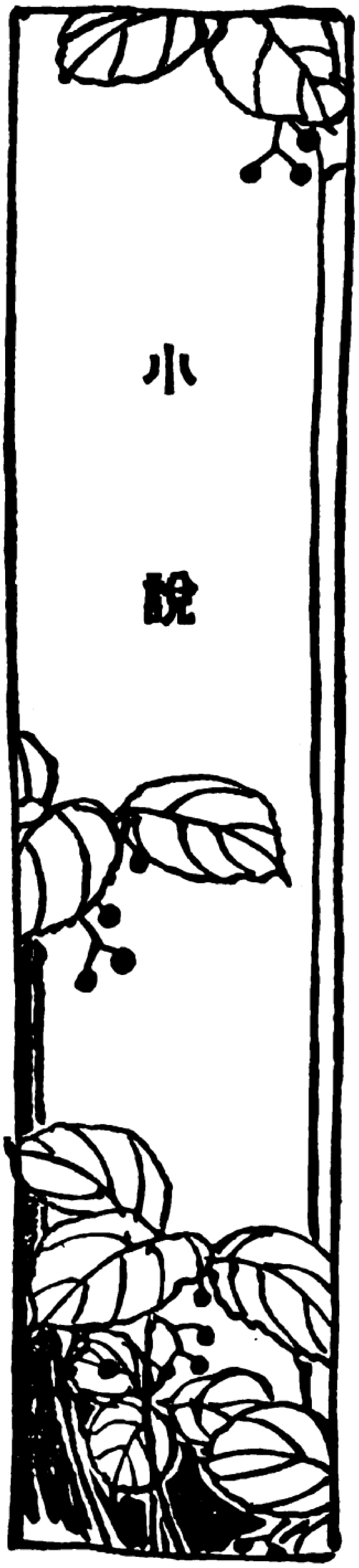
▲年齡十八、血統正、兩親健在、無係累にして家計中等、三年前渡米し實業に從事す、容貌普通、高等小學卒業程度の女子にして渡米希望者と結婚したし(S、N生)

▲友人年廿五歲の畫家、月收八拾圓財產及父母兄弟なし、血正容貌普通高等小學卒業以上の淑女を求む、但持參物の有無を問はず(東京八字畫家)

▲年三十歲血統正體健全、醫學專門學校及專攻科を修了して目下開業中、高等女學校出にて裁縫料理の心得あり、將來渡歐苦辛經營を共にせんとする二十五歲迄の初婚者を求む。(琵琶の田舍生)

▲年廿六血統純正、體健全、篤實にして同情深く、哲學、倫理、宗教を好む、目下某官廳に奉職せり、性質溫順なる女教員又は女學校卒業生と結婚したし(伊勢の某)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



初産

米光關月

（一）

春尾爲安は脊丈も高ければ、可く肥えても居る、顏は何時脂肪の爲め赤くてら／＼として、さも／＼元氣が可さゝうな。齡は三十五だと云ふが、齡の割にしては老けて見えて、額などはぐつと思ひ切つて禿上つて居る。癖と云へば何んでも無い事に、無性と自分から面白がつて笑ふのと、盃を持つたら容易に手から放さぬ位のものであらう。別段怒つた事も無ければ、愚痴を云つた事も無い。眞に天下泰平とはあの男の事だらう……と、友人間で天下泰平君と云ふ仇名が附いて居るのである。けれどもこの天下泰平君にも、一ッ泰平ならざる事がある。それはなんであるかと云ふに渠の妻君である。

妻君は今年二十八だと云ふ。以前は左右病身勝ちであつたが、この二三年この方めつきり健康を恢復して、色澤も至極可くなつた。しかし病身な時からの神經質は今も猶何かにつれて可く出るので、冴えると馬鹿に冴えるが、沈んで來ると仕末にならぬ、俗に云ふ機嫌買ひと云ふので、下女などは永續きがし無い。

されば夫であらうが、誰れであらうが、尠し氣に食

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

はぬ事があるとつけ〳〵云ふ、つけ〳〵云ふ斗りなら可いが、止めを刺さねば廢さ無いと云ふ執念深い處もあつて、爲安はもう毎度これが爲め弱らせられて居る。有繫の泰平君も折々眉を顰めて、

『何が怖いと云つて、妻の怒つた顏位、怖いものは無い。』

と、つく〴〵恐入つて居る仕末。

其癖爲安は繪畫界では多少名を知られた人物である。けれどもこの妻君斗りは、如何なる繪筆を以てするも、一寸其輪廓が直せさうも無い。だから爲安はそれについては早くから筆を投げて斷念して居る。

今日は朝からの上天氣で、所謂梅日和と云ふのであらう。風は寒いが椽端などに射し込む日影は、殊の外暖いので、爲安は晝飯に一杯やつた體軀を、長々と其日當りの可い處へ伸して居た。

趣きも無い庭だが、熟と見て居ると石燈籠に雀の出たり入つたりするのも面白く、それをとろりと醉つた眼で見詰めて居ると、何時の間にかついうと〳〵となつて來た。

不意に大聲がするので、ハツト驚いて目を覺すと、大聲は猶勝手の方で續け樣に發せられて居る。

可く聞くとそれは妻君の聲だ。

『又、下女でも叱られて居るのかな。』

と、眉を顰めて可厭な顏を爲乍ら、聞くとも無しに聞いて居ると、何うやら下女を叱つて居るのとは違つて居るらしい。

例の疳高な聲を張り上げ〳〵。

『イヽエ、手前共ではね、決して有るものを無いと云つて御貸し申さ無いのではありませんよ。可ございますか、ですからね、間違いにならぬ樣、お歸りになつたら可く奥樣に然う有仰つて下さい。ハイ、然うですか、お氣の毒樣でしたね。ハイ、左樣なら……。』

と、何か隣家の下女にでも云つてる詞だ。

爲安はむくり起上ると、

『なんだつて他の家の下女に迄、アヽがみ〳〵と云ふのかな。』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と、苦い顔をして、
「猶且病氣の爲だな。」
と、舌打ちをして居る處へ、ひよいと妻君が座敷へ這入つて來た。
妻君は大島まがひの紬の羽織をぞろりと引掛けて、立つた儘爲安の顔を熟と見る。其顔は今充分に怒つて來たので、額などにはあり〳〵青筋が顯はれて居る。
爲安はどぎまぎ爲乍ら、
「何うしたのだ。」
と、聊か顫へ聲で訊ねる。
「何うも爲やあしません。」と、妻君は火鉢の傍にべつたり座ると、頻りに肩で息をして居る。
「何うもせんと云つて、勝手で大層怒鳴つて居たぢやあ無いか。」
「私は尠しも怒鳴つた覺はありませんよ。」
「然うか、怒鳴つたのぢやあ無かつたのか。」
「何も怒鳴る對手も無いのに何が怒鳴られます。」
と、目尻がキリ〳〵と上つて、恐ろしい權幕になる。

「けれども大層大きな聲がするのでね。」
と、爲安はもうそろ〳〵始つたなと思ふので、詰問的の調子を廢めて、
「私は又下女でも失策をしたかと思つて居たのだ。」
妻君は一寸折れて、
「下女の失策ではありませんが、お隣家の女中に尠し物を云つてやつたのです。」
「ア、お隣の女中にか……。」
と、解つては居るが、爲安は故意と空ッ惚けて、
「それが何うかしたのかえ。」
「借り物に參つたのでございます。」
「フム、借り物に來て何か間違へたのか。」
「餘り釋ら無い事を申しますから、屹度云つてやつたのです。」
と、妻君は爲安の方へ向直つて、
「一體妾解ら無い事がありますの。」
「何が解ら無いのだ。」
「全體御隣りの御方々は、私どもの宅をなんだと覺召

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

していらつしやるのでしやう。」

「さあ、別段なんとも思つちやあ居まいね。」

「イ、エ、そりやあ違ひます。屹度なんとか思つて居るのです。」

「ぢやアどんな具合に思つて居るのだね。」

「あの家來か、以前恩を被せたものか、それとも酷々目下に見ていらつしやるのです。」

「ハ、、眞逆そんな事はあるまい。」

と、爲安は餘りの事に不思吹出して終つた。

妻君はやつきになつて、

「イ、エ、笑ひ事ぢやあ有りません。屹度然うに違ひ有りません。でなけりやあ、なんだつてあゝ厚顔な事が出來ましやう。」

「そんなに隣家の連中は厚顔い事をするのかえ。」

「えゝ、それはもう爲ます段ぢやあ有りませんの。」

「それは一向知ら無かつたね。」

「だから貴方は可け無いと云ふのです。」

「それで全體何う厚顔い事をするのだ。」

「何うと云つて、萬事が總て厚顔なのです。」

「フム、それはチト受取り兼ねるな。」

「貴方はお隣家の事と云ふと、直ぐに肩を持つ方ですから徒爾です。」

「けれどもこれは聞か無けりやあ解らんぢやあ無いか。」

「ぢやあ、話しましやう。」

と、妻君はいと嚴格に、

「第一、あの宅の方は、私どもへ借物に寄來すに、ちつとも平氣で、迷惑ともなんとも思つちやあ居ませんの、ヤレ何を借せ、彼を借せつて、もう〳〵毎日の樣に借物に寄來すのです、其癖妻君でも御禮に御出になれば左も右、何時も女中で濟ますので、私だつて何も貸惜しみをする理ぢやあ有りませんが、あの人達の爲めに道具を調へて置くのでもありませんからね。然う〳〵ハイ〳〵と家來仕へは出來ません。それを又知つて居て知らぬ顔で厚顔に又借せ〳〵と來るのです。私は煩さいよりも馬鹿にされてるのが口惜しくて口惜し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

くて、もう／＼腹が立つて堪りませんの。何故ア、田舎から出て來る人は、厚顏なのでしやうね。」

と、妻君は滔々辯じ立てゝ頗る鼻息が荒い。

（二）

春尾の隣家に住んで居るのは、爲安の友人である。同じく繪筆を持つて生活して居る人物であるが、高山露川と云つて、これも多少人には識られて居る。永らく地方に居て昨今上京したのだが、別に知人も無く、まあ懇意なもの丶、處へ近いのが何よりと云ふので、爲安の宅の隣家へ住んだ。

それの妻君と云ふのは、未だ若い田舍出で、何事も東西は解らず、其上酷く柔順家と來て居るので、かく旅の生活をして困るのは第一に主人公。

「君、何分頼むよ。」

と、爲安に云つた詞は、決して通一遍の挨拶では無かつた。

爲安も可く其事情は知つて居る。事情を知つて見ると、萬事世話役に立廻らねばならぬ、其處で其事を妻君に話すと、根が機嫌買の、勘からず高慢が突張つて居る女丈けに、他の世話をすると云ふ事が如何にも面白く、なんだか自分が一段高い處から指圖をする樣な氣もして、爲安の妻君は一も二も無く、

「それは飽迄も御世話をせんければなりません。」

と、立派に云つて堅く受合つた程である。

だから其當時はこの妻君も餘程盡力した。又神經質丈けに世話燒は得意で、聊か煩い位に何かと世話を燒く、大概なものなら、隨分小腹も立てる位、立入つた干涉もする。しかし高山の妻君は尠しも怒つた顏を見せ無つた。何事もハイ／＼で指圖通りにして居た。全然他から見ると嫁と姑の樣な處もあつたが、場所馴れぬのと、柔順しいので、唯もう春尾の妻君の云ひ成り次第であつた。

這麽鹽梅であるから、永く雙方和熟して行きさうなものであるが、其處が旨く行かぬのが妙で、これ全く春尾の妻君の機嫌買ひに原因するのである。それは最

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

初の中こそチヤホヤ世話を燒いたものゝ、先方が柔しい丈けになんと無く、はづまぬ手觸を突く樣な心地が爲出したのである。禮を云はれても其禮の云ひ方が柔しい丈けに物足らぬ樣であつた。

「先方ぢやあこれ程の親切を、なんとも思つちやあ居無いのか知ら……。」

と、不圖變な曲つた考へが起つて來ると、根が神經質丈けに、一も二も無く面白く無い樣に見え出す、而して、先方では然うとは知らず、遠慮無しと云ふ詞を力草に、何かと借り物にやつて來る。これが段々癪に障つて、果ては人を馬鹿にして居る樣に見え出す、默つて居ると附上つて來る樣に思はれる。春尾の妻君の目はとう／＼逆になつて高山の妻君を睨む樣になつた。

偖て然うなると萬事破滅で、夫が何かにつけて、高山の妻君の柔順しい處を褒めると、やつきになつてそれに反抗する。いよ／＼癪に障つて、癇が起つて、とう／＼隣合つて居るのがつく／＼可厭になる。其惡感情の絶頂に達しやうとした時、生憎今日しも亦隣家から借り物に來た。妻君怒るまいか、烈火の樣になつて女中に食つて掛る。其上ならず今又爲安に迄其毒炎を吐き掛けて居るのである。

爲安は熟として一應妻君の云ふ處を聞いて居たが、

「全體それで今日は何を借りに寄來したのだね。」

「それはいろ／＼有ります、圖々しいから借りに寄來せば乾度一品ぢやあ有りませんの。」

「先づ何と何か云つて見な。」

「そんな事は申さ無くも可いでしやう。」

「イヤ、參考の爲め私も聞いて置くのだ。」

「では申しますが、先づ盥を借せと云ふのです。」

「フム第一が盥だな。」

「それから張物板も拜借と云ふのです。」

「成程お天氣が可いから張物板か。」

「それから火伸しも何うか借り度いと云ふのです。」

「成程それで三品になるな。」

「だから圖々しいに呆れるぢやあ有りませんか。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「而してそれは宅には無いのか。」
「皆有りますけれど、誰れが貸してやりますものか。」
「や、有り乍ら貸してやらぬのかへ。」
「馬鹿々々しい、何時迄馬鹿にされて溜るもんですか。」
「しかし、それはチト酷だつたね。」
「何が酷でございます。」
「だつて有るものなら貸してやつたが可いぢやあ無いか。」
「だから貴方は可けませんよ。」
「私も可けないが、お前も可く無いよ。先はお前新家持ちでは無いか、無いものがあれば借りに來るのは當り前だらう。何もそれを馬鹿にされてると思ふ事も無からう、又あの柔順しい妻君が決してお前を馬鹿にする樣な事も無いよ、之は私が受合ふ、慥に受合ふ。」
「では私が曲つた考へを持て居ると有仰るのですか。」
「何もお前が曲つた考へを持つて居るとは云やあせんぢやあ無いか。」
「有仰ら無くつても然う思つていらつしやるのです。」
「これは嚴しい、然うお前の樣に云つて居ては話が出來ぬ。」
「何うせ私は話の出來無い女ですよ。」
「これ何うしたものだよ、何を然う怒るのだな。」
「貴方の話せる女は多分隣家の妻君丈けでしやう。」
「困るなあ、然う逆上せては……。」
「私は悔しいから逆上せても參ります。」
「けれどお前も少し靜かに考へて見たら可からう。最初お前は隣家の手合に對してなんと云つた。旅馴れ無い人だから飽迄もお世話をして上げなければならぬ、出來る丈け面倒が見て上げ度い――と、恁う親切に云つた事もあつたぜ。」
「それは有りました。慥に有りました。」
「それが有つたら、今更ら然う俄に隣家の手合を惡む事も無からう。」
「私は惡みませんけれど、先方で惡まれる樣に惡まれる樣仕向けて來るのですもの。」

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『真逆そんな事もあるまいがな。』
『イヽエ、無い事はありません。それはあります。貴方は私の最初に云つた事を忘れたかと有仰いますが、私はどんなにあの人達の爲めに盡力したか知れません。けれども先方では何時不足らしい顔附で、第一幾ら田舍者だつて、あの妻君も挨拶位は知つて居さうなものです。』
『それは無論知つて居るに違ひ無い。』
『知つて居るものなら、あんなに冷淡なものぢやあ有りません。』
『其處が内輪な柔順しい性質だから、心では思つて居ても上手に云はれ無いのさ。』
『フン、貴方はなんぞと云ふと、直ぐに高山の妻君の肩を持ちますね。』
『何も肩を持つと云ふ理では無いが、それに違ひ無いから然う云ふより外はあるまい。』
『ぢやあ私が幾ら說明した處で徒爾でございます。』
『何故お前はそんな事を云ふ……。』
『イヽエ、もう〱何も申しません。』
『怒つてはいよ〱話にならぬでは無いか。』
『何うせ私は狂人です。高山の奥様の樣に挨拶もせぬ樣な柔順しい方とは違ひます。』
『困るなあ、然う取亂して泣いては困るなあ。』
『あんな、あんな、人間でも貴方のお友達だと思へばこそ今日迄堪へました。』
『まあ、然う泣かずと靜かに云ひなさいよ。』
『けれどももう、私堪忍袋の緒が切れました。貴方は貴方で御贔負だから何時迄も御交際なさいまし。私もう〱今日限お交際は御免蒙ります。ハイ、圖々しい田舍者とのお交際は御免蒙ります。』
『これ何うしたものだ、然う大聲を出さずとも可いでは無いか。』
『貴方は私の事を少しも察しては下さら無いで、一言云へば直ぐに高山さんの肩を持つのです、私はそれが悔しくて悔しくて、あの人達の爲めに私は狂ひ死をするかも知れません。人を馬鹿にした、なんの田舍者の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

糞に……。」

「困るなあ、困るなあ、何うしたら機嫌が直るのだ。」

「其田舍者の肩を持つ貴方は餘程何うかした人です。」

もう〳〵なんでもかでもお交際は御免です。あの人達が明日にも引越さ無ければ、此方で明日にも引越して下さい。貴方も妻が狂ひ死するのを、決して名譽とお思ひではありますまい。」

「これはいよ〳〵無法だ、手が着けられ無いなあ。」

と、爲安は呆れて蒼くなつて終つた、其顏は慥に天下泰平では無つた。

（三）

其後四五日經つと、急に高山で引越しをすると云ふ。

春尾はぎくりと胸に來たが、故意と澄して、

「それは又急に何うした理だ。」

と、聞くと、高山は唯笑つて居る計り、

「別段理と云つては無い、唯急に引越し度なつたから越すのさ。」と、平氣なもので、

「併し、遠くはなるが遊びに來てくれ給へ。」

「それは必ず行く、君も亦くだらん事を胸に置かずと來てくれ給へ。」

で、至極平穩に別れる事となつた。

元より妻君同士も禮儀正しく挨拶に及んだ上別れたのである。而して、何うかお遊びにが、二人の口から殆んど同時に出たのも奇であつた。

間も無く其跡へ引越して來たのは、官員らしい夫婦であつて、妻君はがら〳〵者の高聲に何時も饒舌つて居る。而して何時も手は懷に針一つ持つ樣子も無い、聞さへあれば食物の話、其下劣な調子が、筒拔けに毎日春尾の宅へ響く、

「可厭な奴が引越して來た……。」

とは、夫婦等しく思つて居た。

それから一と月經つての事である。珍らしく高山の妻君が訪ねて來た。あれ程癪を起して、殆んど追出さん計りにして引越しをさせたのであるから、春尾の妻君はさぞ佛頂面をするであらうと思ふと、豈圖らんや、

春尾の妻君は取つて食はうとも云はず、座敷へ通した。無論格別打解けた話も無つたが、それかと云つて可厭味交りの話も無つた。別段愛相の可い待遇と云ふのでも無いが、左に右、茶も出る、菓子も出る。二度か三度は笑聲さへ出た程であつた。

　春尾は高山の妻君の歸つた後で、

「不思議だなあ。」と、一人眉を顰めた。

「何が不思議です。」と、妻君は直ぐに其眉を顰めた理を訊問にかゝる。

「だつて不思議に違ひ無いぢやあ無いか。」

「だから何が不思議ですと訊ねて居るのぢやあ有りませんか。」

「お前の今日高山の妻君に對する態度さ。」

「アヽ、其事でございますか。」

「餘つ程私は不思議に思つたね。」

「あれがそんなに不思議ですか。」

「不思議にも不思議にも大不思議さ。第一あんなにやかましく云つたお前が愛相可く取持つて居る。」

「私は何もお愛相は致しませせなんだよ。」

「お愛相はせぬか知らぬが、左に右笑聲も聞えた。」

「それは女同士の事です、殿方とは違つて少しは笑ふ事もあります。」

「だからそれが私は不思議と云ふのだ。」

「それは久し振りで逢つたのですから、眞逆お越しなさいますなとも云へませんわね。」

　と、妻君も何を思ひ出したか、天井の隅を見上げて淋しく笑つたが、

「けれども一時見無い中、高山の奥様も大層御挨拶が可く來出出しましたね。」

「何、猶且同じだけれど、お前だけに然う見え出したのだらう。」

「イヽエ違ひます、餘ッ程旨くなつて來ましたわ。」

「私の目から見ては尠しも變ら無いがな。」

「變ら無い處が餘ッ程變つて居ます。何故此方に被在る時にはあゝ云ふ呼吸が無つたのでしやう。」

「いよ〳〵こりやあ不思議問題だ。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「イヽエ、冗談ではありません。あんな調子だと、何も私だつて怒る處はありません。猶且彼方に行つて、知らぬ人斗りの中に居るので、すつかり今迄の我儘氣が無くなつて來たのでしよう。」

「何うだかね、那樣事も無さゝうに思ふがね。」

「イヽエ、それに乾度違ひ有りませんわ。今迄は私どもで何彼とお世話申しましたが、彼方にいらしつてはそんな宅は無しね。心細い處から段々此方の有難味が解つて來たのでしやう。」

「何うやらそれはチト手前味噌の樣だね。」

「イヽエ、こりやあ全く手前味噌ではありません。私の考へに違い有りませんから。」

「しかし私の考へによると尠し違ふね。」

「何う違ふのでございますね。」

「外でも無いが、遠くなつたのがお互ひに段々心の圭角を脫つたのぢやあ無いかと思ふの。毎日鼻と鼻とを突き合して居りやあ、殺してやり度くなる樣な奴でも、たまに合ふと何處やら可懷しい處が出て來る。お前の今日の心地はそれぢやあ無いかい。」

「そりや飛んだ勘違ひです。」

「イヤ、恐らくこれは勘違いぢやあ有るまい。殊にこの節隣家へ來て居る可厭な奴の事を思ふと、つい〳〵以前居た高山の事を思ひ出すからな。お前の樣な感情的の女には乾度心淋しい處が出來て居るに違い無い。」

「私は何も高山さんが居無いだつて、尠しも淋しいとは思つて居ませんよ。」

「イヤ、お前の負けん氣性では、然うでもあらうが、心のづゝと底には乾度それが有る。」

「何うだかそんな事が貴方に解るものですか。」

「イヤ、これ斗りは天眼通だよ。」

と、云つたが、妻君は別段何時の樣に恐ろしい權幕で反抗するでも無つた。

其後小一ト月經つての事である。世は花の噂さで一體に人の氣の浮き立つ時、珍らしく高山の妻君から春尾の妻君へ宛て書狀が來た。

「貴方なんでしやう。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と、聞かぬ先に夫へ訊ねると、
「さあ、何だらう。眞逆張物板の拜借でも無からう。」
「馬鹿にしていらしやるわ。」
と、笑ひ乍ら封を切つて讀んで見ると、長々無沙汰の詫が書いてあつて、偖て申兼ねた次第だが、貴方に是非お逢ひ申したい。就いては尠し體軀の具合が惡いので重々恐入りますが、お越しが願はれますまいか、お越し下されば私の外出の出來ぬ樣子も委しく解ります。簡樸な御無禮を御願い申すのも能々思い詰めての餘りです。と、如何にも哀れつぽく書いてある。
「なんだ病氣か……。」と、春尾は眉を寄せる。妻君も一寸眉をひそめたが、
「イヽエ、病氣ぢやあ有りますまい。」
「でも外出が出來ぬとあるぢやあ無いか。」
「それで今私も考へて居る處です。」
と、眼を上げて暫時熟と見て、何か思ひ出したやうに、莞爾笑ひながら、
「ひよつとしたら然うかも知れませんわ。」
と、さも〳〵考へ附いたやうに獨り首肯く。
「何が然うかも知れんのだ。」
「まあ〳〵何んでも可ございます。屹度然うに違ひ無いから……。」
と、妻君は獨りで合點して、如何にも冴えた顏色になつたが。
「私、兎も角明日高山さんを訪ねて參りましやう。」
この一言には春尾が尠からず驚いた。
「えゝ、お前高山へ出掛けるのかえ。」
「アヽ云ふ手紙が參りましたから、すぐ、行つて來た方が可いでしやう。」
「そりやあ可いとも、無論可いとも。」
と、春尾は大きく首肯いたが、
「併し、不思議だなあ。」
と、呻る樣に獨り言を云ふ、

（四）

其翌朝春尾の妻君は威勢可く車で出掛けた。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

後には春尾が座敷に寢轉び乍ら、頻りに腹の中で繪を描き始めた。

高山の妻君との會見の模樣から、其對話の具合から、茶菓子は、何で晝飯は何でといふ至る迄想像を凝して、獨り額を叩いて悅に入つて居る。

「あのヒステリーが可く折れて出掛けたものだ、猶且俺の考へ通り、鼻張りの強い事を云つても淋しいのだな。左右女と云ふ奴は接近さして置いては口説の絶間が無い、離れて居るのが雙方德だ、離して置けば自然に戀う又接近して來るからな、奇妙な事があつたものさ。」

と、晝飯の膳の上でも機嫌可く一杯過して、偖て眠るとも無く午睡をやると、恰度目の覺めかけた耳元へがら〳〵と車の音、梶棒を門の前で卸したので、適切り歸つたなと春尾は獨り笑みをした。

間も無く風通の二枚重ねに、黑紋附の羽織を召した、りゆうとした妻君の姿が座敷に顯はれる。

「何うだつたね。」と、春尾は起上つて目をこすると、妻君は火鉢の傍にさも疲れたらしくぺつたり座つて、

「貴方、猶且私の考へ通りだつたわ。」

「へえ、お前の考へ通りだつたのかね。」

「この位まあ考への當つた事も珍らしいですよ。」

と、絶へず機嫌可く大得意である。

「それでお前の考へと云ふのは全體なんだつた。」

「その考へですか。」

と、妻君は天井を向いて、變に笑つて、

「あの、お目出度いのですよ。」

「なんだお目出度い……。」

「はあ、高山の妻君が妊娠なすつたの。」

「や、其奴は至極お目出度いね。」

だからあんな手紙を寄來したのですよ。」

「成程懐妊腹を抱へては車に乘れず、それかと云つててくでは赤坂から茲處迄二里はあるのだね。」

「私を呼び寄せたのもよく〳〵だつたと見えます。」

「そりやあ無理も無いよく〳〵だつたのだ。」

「其代り奥樣には大變喜ばれましたよ。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「然うだらうとも〳〵。而して一體どんな樣子だつたね。」

「まあ、お待ちなさい、お茶を一つ頂いてゆつくり話します。」

と、妻君は自分にお茶を入れて、夫にも勸め、自分も呑んで、

『先づ行くと、直ぐに奧樣が玄關へ驅出して來ましたの。まあ能くいらして下さいましたと云ふので、もう目には充滿涙を含んで居るのです。』

『柔順しいから涙脆い處があるよ。』

『私もなんだか恁う、胸が充滿になる樣でね。まあ座敷に通ると、小締りした大層住可いお宅なの。一ト通りの挨拶が濟むと、とんだ失禮を申上ましたと、全然今迄お隣りに居た樣な妻君ぢやあ有りませんの、それは〳〵行屆いた物の云ひ方をなすつてね、實はと、例の一件を始めてお話しなすつたの。』

『例の一件とは懷妊の一件かえ。』

『えゝ、然うですよ、其一件ですよ。だから私も、大方然うでは無いかと思つて上つたと云ふと、先方でも驚いていらしッたの。』

『そりやあ驚くだらう。全然天眼通だ。』

『それからあの、いろ〳〵聞きますとね、もう五月で、帶を爲無ければならんと云ふのです。』

『ほゝう、もうそんなになつて居たのかい。』

『それで外に相談の爲手は無し、旅の空ではあるし、殊に大事な初產ではあるし、何うしても私にすがる外無いと云ふので、萬事の相談をして來ましたの。』

『ではお前が又、あの妻君の世話をしやうと云ふのだね。』

『然うです、外の事とは違つて、女の產は大事です、殊に初產ですからね、大事の上にも大事です。』

『イヤ、それは可く世話を受合つて來た。』

『私も實に可哀さうになつてね、旅の空ではさぞ心細いだらうと、それはつく〴〵お察し申しましたの、其代り餘り話に身が入つて終つて、宅へ歸つたらすつかり疲れて終ひましたわ。』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「イヤ、大御苦勞だつたよ、左に右まあ着替へたが可からう。」
「然うですね、然うしましやうね。」
と、妻君は立上つて徐かに羽織を脱ぎに掛る。春尾は熟と其樣子を見て居たが何を思ひ出したか笑ひ乍、
「時に今日は張物板を借せとは云は無つたらうな。」
突然の洒落に妻君は何やら一寸解ら無つた。
「えゝ、張物板……、それは一體なんの事です。」
「イヤ、盥に火伸も借してくれとは云は無つたかと云ふ事さ。」
妻君は始めて洒落が解つたか。
「何を貴方は馬鹿を有仰います。」
「ハツハツ、それさへ無けりやあ私も先づ安心さ。」
と、高らかに笑つて、
「や、なんのかのと云ふが高山でも初產ではお目出度いな、が、私にとつては又お前の然う折れて出た處が實に目出度い。何うだ、明日もお天氣らしいぜ、久し振りで小金井でも出掛けやうか。」
と、春尾は大の機嫌で、友人の所謂天下泰平な顏を見せて居た。

（終）

不在の妻

海賀變哲

上

「ようお綱さん、貰つてお置よ〳〵、惡堅いにも程が有らあね、」
と、地體の猫脊を、また思ふさま屈めて、さも〳〵內證話でも持掛けるやうな調子で、聲を低め、白味勝の眼を、上眼遣ひに相手の面を、ぢつと見込で言つた、お常といふ婆さん、とつて四十九、割合に白髪はないが、至つて少ない毛を、丸髷に結つて居る。
相手のお綱といふのは、年輩二十六七、絕えて油つ氣のない髪を、無造作に束ね、身には襤褸こそ纏つて居るが、色白な眼鼻立の宜い、いかにも人好のする容色である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

お常と突合はせた膝の前には、水引をかけた奉書の紙包、御歳暮と書てある。

『ですがねえ、小母さん、是までいろ〳〵御世話樣に、いゝえ、御迷惑ばかし掛けて居ますところへ、こんな頂きものをしちやあ、餘り厚顏しい樣で、』

といふのに、お常は冠せて、

『なあに〳〵お綱さん、そんな遠慮が要るもんかね、先方で親切に呉れるといふものを、厚顏しいの何のつて、夫は時としなに依りけりさ、』

と言つて一服吸ひ付け、

『斯う言つちやあ何だけれど、今お前さんの身分といつたら、實にね、僅ばかりの人仕事して、あの孝坊とお前さんの手一つで、育てゝ行かうといふだから、普通大抵な事ぢやないやね、夫に最う押詰つて來て居るんだし、そんな惡遠慮する事があるものかね、』

と言ひながら、雁首の中で火玉が踊るまで吸ひ込で、ポンとはたき、

『考へても御覽よ、此節柄に鐚一文だつて、只呉れる者は有りや仕ないやね、夫を梶川さんが斯うやつて、熨斗まで付けて、呉れやうと言ふんだもの、是程結搆な事は無いぢや無いか、』

『夫が儂の腑に落ちないんですの、あんなに御迷惑を掛けて居るところへ、何の因縁も無くつて、こんな頂き物をする理由が無いと思ふんですから、』

『夫は今言つた通りぢやないか、源さんは三年前に臺灣へ行つたきりで、音沙汰なしさ、是が大抵な者なら、疾うに愛想を盡かして、他に男を持つとか、何うとか身ぢんまくを附けて了つて居るんだが、お綱さんは眞個に感心な人だ、三年越何の音信もない生たか死だか、まあさ惡るくお聞でないよ、ね、何う成つたか、判らない源さんに操を立てゝ、孝坊の世話をして、女の手一つでこの年月、暮らして行かうといふのは、夫りやあ、出來ない事だよ、お綱さんなればこそだつて、誰一人賞めない者は、無いさね、儂や梶川さん許へ行く度に、お前さんの話をするとね、あゝ感心だ、實に見上げた者だ、若い身そらで克くやつて行く實に珍らし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

い婦人だつちやあ言ひなさるのさ、」
「まあ、左うですか、」とお綱は心もとなげな返辭をする。
「そこでさ、この節季師走にかゝつて、嘸困つて居るだらう、イヤ平常のは平常として、此金は僕の寸志だから、届けて與れ、と斯う言ひなさるから、えゝ宜う御座んすとも、嘸喜ぶ事でせうと、直ぐ其足でやつて來たんだわね、」
「何うも、御親切樣にねえ、」
「夫をお前さんが、惡堅く遠慮して、貰はないといつた處で、何處の誰が褒めて與れるだらう、斯ういつらや何だけれど、身分から言つても、お前さんの境界から言つても、貰ふに何の不思議が有らう、源さんから月々仕送りでも受けて居る上に、他人から補助いで貰つたと言つたら、其處はまた世間の思はくや何かも、有らうけれど、てんで最う阿迦の他人同樣、ハガキ一本寄越しちや與れない位なんだもの、行き立たないのは知れ切つた話ぢやないか、儂もまた子供の取り次ぎぢやあるまいし、斯うやつて態々持つて來てからに、お前さんが受取らないからつて、おや左うかいでもつて、持ち歸れも仕まいぢやないか、また此金をお前さんが貰つたからといつて、夫でもつて後に何うの斯うのと、いざこざが殘る譯ぢやなし、何にも考へるがものは無いぢやないか、」
と口の端に泡を立てゝ說き付ける。
言はれて見れば、夫は左うだ、自分の心さへ正しく持つて居たならば、何にも疚しいところは無い、今もお常の言ふ通り、良人は三年越も音信ふつに無く、全く生死さへ判らぬ今の有樣、自分の手一つで頑是ない子供を育てゝ行かうとするには、一通りや二通りの困難ではない、殊更今日は師走の二十九日、平常の一圓は十圓にも、匹敵はといふ暮のどん詰り、中はどれ程の額か知らぬが、全く血の出る程欲しいのだ。
が、さて夫ではと、直ぐ手を出して貰ふ氣には成れぬ、虫が知らすか何うやら恐い。
尤も包紙には、歲暮と立派に書いてある、自分が今

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の境界を氣の毒だ、其志が感心だと言つて、心を込めた贈物、先方が梶川權三といふ人で無いならば、隨分喜んで受けも仕やう。

　が、梶川には借金がある、額はいかにも少ないが、今の自分の身に取つては、大枚十圓といふ借がある、期限も疾うに切れたのみか、利子さへも碌々に入れてない、夫も只相對の貸借ではなく、梶川は營業で貸して居るのだ、證文を入れて此方は借りて居る、一滴の涙も露の情もない、此世の鬼と唄はれて居る、梶川權三が、押付けるやうにして呉れるといふには理由が有らう。

　さて、貰つたものか何うか、とお綱は胸一つに定め兼て、急斯うの返辭に困つて居たのである。

　お常は、其心を讀むやうに見込で、また膝を寄せ、

「平常と違つて、斯う押詰つて來て居るところだし、一體なら居催促でもされやうといふ人から、只貰ふといふのだから、お前さんも變に思ふだらうが、惡るくお了解でないよ、梶川さんが言ふにはね 俺もこんな營業をして居るからには、他から鬼だとか惡魔だとか言はれるけれど、夫程無慈悲な心は持たないつもりだが、他は左う見ては呉れないから、仕方がない、だからお綱さんの樣な感心な人に、幾許でも補助で進げてね、喜んで貰へば、心地がいゝ、この營業が罪な營業といふ事なら、困つてる人を助けて、罪障滅ぼしの一つも仕やうと急に後生心が起つて、差向きお綱さんに、なにしたと言ふのさね、左う聞て見りや全く左うさ、あんな營業して居る人の中にも、實義のある人もあるわね、梶川さんにや儂も恐れ入つたよ、よく判つた人さ、」

「ほんとうに珍らしい方ですねえ、」

　とお綱も流石に感じた樣子である。

「だから貰つてお置よ、夫とも何うあつても受けられないといふのなら、お前さんが直接に行つて、返へしたがいゝ、儂にや持つて行けないから、」

　といふ時、溝板をガタ〳〵と音させて、

「阿母さん、」と聲をかけて歸つて來たのは、今年七歳

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

になる、孝太郎といふ子供である。

中

お常は中腰に成りながら、『何にも心配な事は無いのだから、貰つてお置き、左うしてね、鳥渡挨拶にね、なあに門口だけで宜いから、兎も角禮だけには、行かなくつちや惡るからう、夫も今日に限つた事は無いんだから、』

と云ひながら立ち上つて、

『孝坊かい、おとなしいね、』

と母子を尻眼にかけ、伸をしながら歸つて行つた。

お綱は其あとを見送つて、ほつと一息、仕かけて居た繼物を片寄せて、つく〴〵と思案にくれた。

『阿母さん、』

と孝太郎は突然に、お綱の膝に手をかけて、二つ三つゆすつて、『ね阿母さん、私に獨樂と紙鳶を買つとくれ、紙鳶は二枚半だよ、いゝかい、夫から糸も、え、いゝかい、』

『え、紙鳶と獨樂だつて、左う一時でなくつてもいゝやね、何方か一つにしてお置き、』

と言つたが、其一つを買うさへも、容易い事ではないのである。

『厭だい〳〵、』と首を振つて、

『二つとも要るんだい、お正月に成つたら、買つて呉れるつて、言つたぢやないか、』

『だから買つてはあげるがね、一度でなくつても、いいんだらう、』

『厭だ、いつしよに買つとくれよう、國ちやんも、留ちやんも、皆な買つて貰つたんだ、私一人買つて呉れないんだもの、阿母樣の吝ん坊やい、』

と、また膝を小突き廻はす。

『買つて進げたいんだけれどね、』

と言ひさして、幽かな息を洩らした。

『だから買つてお呉れよう、買つて呉れないと私最う、肯きやあ仕ない、』

と、せがまるゝ程猶辛らく、あゝ良人が居て呉れた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ならば、よしや居ぬにしても、月々何程か送つてゞも與れたならば、こんな見すぼらしい服裝を、させても置くまい、欲しがる物を買つても遣らうに、他の子供の持つて居るのを見て、歸つて來ては、羨やましがるのも無理はない、あゝ、有るものさへ有るならば、と思はずほろりとして、目を移せば膝の前の紙包。

我にもあらず取り上げて、水引をこいて、中を開けば、折目の痕もまだ新らしい、五圓の紙幣が二枚あらはれた、お綱は謂知らず慄然としたのである。

下

「いえ、最う何卒お構ひ下さいませんで、お暇を致しますから、」

とお綱は氣もそは〳〵と、立ちかゝるのを權三は押止めて、

「まあ、宜いつて事さ、ゆつくりして行きなさるが宜いや、何にも無いけれど飯でも喰つて行つて、」

「いえ、何う致しまして、大層御馳走樣に成りまして、この上頂けませんですから、」

「左う遠慮する事は無いさ、まあ〳〵最う一杯受けて與んなせえ、酒てえやつは、何うもこの、相手無しぢやあうまく飲めないもんでね、」

と持つた盃をさし付けた、お綱は迷惑さうに受けて、半分程注がせ、辛うじて飲み干して、

「では是で何卒、」と酬へすのを權三は受けてなみ〳〵と注がせ、

「お綱さん遠慮し無いで、箸を付けてお與んなさい、此邊は山の手と來て居るんで、碌な肴は無いけれど、何か手を付けて與んなさるが宜い、」としきりにすゝめるのである。

母家に遠く離れた四疊半の一室、昨日の禮にと來たお綱は、强て權三に引留められて心ならずも酒肴の馳走に預つて居るのである。

「や、併し何うも、俺や感心したよ、普通大抵な者ぢや出來ない眞似さね、三年越も獨身であゝやつて、堅固く暮らして居なさるてえのだから、全く感心だよ、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

うむ」
と早や半酔の眼を睜つて、おつとお綱の面を見詰めた。
お綱は、何か不氣味な思ひがして、固く成つた。
「アハヽヽヽ、左う堅苦しく仕て居られちやあ困るよ全く、まあゆつくりと寛いで呉んなさるがいゝさ」
「最う大變頂戴致しましたのですから」
「ところが一向、箸が付いて居ないやうだせ、左う遠慮しちやあ可かねえ、まあ實家にでも來た意りでね、構はずやつてお呉んなさい」
「眞個にこの上は頂けませんのです、夫に最う、忰も歸りましたらうから、失禮で御在いますがお暇を」
「宜いよ〳〵、息子さんは今迎に遣つたから、追付け來るだらう」
「え、忰もで御在いますか」
「只た一人ぢや、可惑さうだから、呼びに遣りましたよ、晩く成つたら泊つて行くさ、ハヽヽヽヽ」
「え」とお綱は思はず色を變へた。

最う暮れるに間もないか、そこらの森に鴉の騒ぐ聲がして、身邊はうす暗く成つて來た。
「息子さんが來りや、最う落付いてもいゝさ、家を空つぽにして、盗賊でも入つたら、俺が辨償しやすよ、ヘツヘツヘツ」と氣味の惡るい笑ひ様をした。
お綱は何か機をつくつて、立たうと思つたが、權三は容易に放す氣色もなく、とろりとした眼を据えて、
「何だつて、僕や感心したね全く、實に惚れちやつたね、何うも、源太郎さんてえかね、御亭主は、果報者だよ、お前さんの様な女房さんを持つたなあ、男冥利だよ」
「まあ、御串談ばつかり有仰る」
「御串談でないね全く、いくら身分がいゝの何のつたつて、心立が惡るくつちやあ、三文の價値も無いさ、身には襤褸を纏へどもさ、心は錦つてね、全くだ、難有いツ」
と獨りで悦に入つて居る。
「旦那様、妾は最う是で」と思ひ切て立たうとする。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「いゝつて事さ、左う忌がらねえでも宜うがせう、歸つたつて、待つてる人もなしさ、まあま、最う一つ、お酌を願はふぢやないか、」

と杯をさし付けた。

「ほんとに仕掛ました用が御在いますのですから、」

とお綱は銚子を取つて、注ぎかけた、其手を權三は、ひしと捕らへたのである。

「あれッ、何をなさいます、」

と振りもぎらふとした時、突然に後ろの襖を蹴開いて、躍り込だ男があつた。

「お綱ッ、何だそのざまはッ」と雷の如く響いた聲に、愕然として振り返へれば、思ひも寄らぬ良人の源太郎であつた。

「あッ源さんッ、」とばかり、二の句が出なかつた。

「汝、よくも俺の面に泥を塗りやがつたな、」

と怒氣忿々たる顏色は、震るへ上る程物凄い。

「源さん、儂は、決してそんな、そ、そんな不しだらな事はッ、」

「喧ましいやい、動かねえ證據を押さへるんだ、さッ、野郎と二人共、何うするか見やがれッ、」

と隱し持つた膾切庖丁の、ドキ／＼と光るのを、真向振り上げた。

「源さん、まゝ待つてお呉れッ、言譯があるんだから、ま、待つて、あれッ、」

と叫んだ聲に、はつちりと眼を開けば、有りし良人の姿はもとより、まざ／＼と見た權三が家居の有樣も、烟のやうに消え失せた。

夢だつたか、と枕をそば立てゝ、後前を振り返へり、氣味の惡るい腋の下の冷汗を拭きながら、今見た夢の後前を思ひ辿つて、今更のやうに慄然とした。

是が事實であつたら何うだらう、思へば金程恐ろしいものは無い、明日は何うなつても返へしに行つて來やう夫故先方の氣を損ねて、どんなまた苦しい目を見るかも知れないが、夫はまた其時の事として、筋の立たぬ貰ひ物は、受けぬに如く事はない、あゝ左うしやう／＼、と漸う胸を定めたが、布團の下へ後生大事と

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

敷て寝た紙包、見れば遉がに心も引かれて、涙は頰を傳はつたのである。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

その翌る日の朝、眞靑に成つてお常はやつて來て、

『お綱さん〳〵、た、大變よッ、』

と、きよと〳〵して居る。

『大變て何です、何が始まつたんです、』

とお綱も何か胸が躍つた。

『なに昨夜ね、梶川さんが卒中でころりと死つちまつたとさ、』

『えッ、梶川さんが、』

『何うも喫驚したよ儂も、』

『まあ〳〵、儂や是から、昨日の金を返へしに行かうと思つてた處だつたのに、』

『えゝ、そんな事は何うでもいゝよ、併しあの人が死だら、喜ぶ人も大分あるだらうさ、どれ儂は行つて來なけりや成らない、』

と、お常はあたふたと歸つて行つた。

お綱は只呆氣に取らるゝばかりであつた。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

斯くしてお綱は、こゝに三年の間、良人の不在を守り得た、來年はいゝ音信があるかも知れぬ。（完）

羊の話

羊の種類は頗る多く之を專門的に擧ぐれば數十種に餘るさうだが、就中最著名なものはアシュレイ種、リンコルン種、クルパン種、メーリス種等で現時家畜用として各國に畜はれて居る羊の原種は槪ねコルシカ、サルヂニヤ、濠洲、中央亞細亞、北米等に產した野生のものである、そして羅紗や絨氈となつて我々の衣服ともなれば裝飾用ともなるのはメーリー種に屬する羊毛で、蒙古及び滿洲等に產する綿羊の毛は、歐洲產のものに比べると其質が遙に粗剛であるから、之は毛布又は莫大小の樣な防寒用の原料に適するとの事である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

◎皇室の御繁榮

いや榮えに〳〵えたまふ我皇室の千代に八千代にさゝれ石の巖ほとなりて千鶴萬龜の齢を重ねさせ賜ふ　兩陛下を初め奉り東宮殿下各皇族殿下の寶算を長みて壽ぶき奉れば

天皇陛下聖壽	五十六
皇后陛下寶算	五十八
皇太子殿下(第三皇子)	御齢二十九
皇太子妃殿下	同　二十四
常宮殿下(第六皇女)	同　二十
周宮殿下(第七皇女)	同　十八
富美宮殿下(第八皇女)	同　十七
泰宮殿下(第九皇女)	同　十二
廸宮殿下(皇長孫)	同　七
淳宮殿下(皇次孫)	同　六
光宮殿下(皇三孫)	同　三
有栖宮御母董子殿下	同　五十三
同威仁親王殿下	同　四十六
同妃慰子殿下	同　四十四
小松後室宮頼子殿下	同　五十五
伏見宮貞愛親王殿下	同　五十
同妃利子殿下	同　五十一
伏見宮博恭王殿下	同　三十四
同妃經子殿下	同　二十六
閑院宮載仁親王殿下	同　四十三
同妃智惠子殿下	同　三十六
東伏見宮依仁親王殿下	同　四十一
同妃頼子殿下	同　三十二
山階宮菊麿王殿下	同　三十五
同妃常子殿下	同　三十四
北白川宮御母富子殿下	同　四十六
同成久王殿下	同　二十一
久邇宮邦彦王殿下	同　三十四
久邇宮妃俱子殿下	御齢二十九
梨本宮守正王殿下	同　三十四
同　妃伊都子殿下	同　二十六
同華頂宮博忠王殿下	同　六
同　御祖母郁子殿下	同　五十五
賀陽宮邦憲王殿下	同　四十一
同　妃好子殿下	同　四十三
竹田宮恒久王殿下	同　二十六
朝香宮鳩彦王殿下	同　二十一
東久邇宮稔彦王殿下	同　二十一

◎久邇宮家の御婚儀

久邇宮多嘉王殿下には今回子爵水無瀨忠輔氏の姬君靜子と御婚約整ひ旣に御内許を得たるが更に正式に勅許を仰ぎ來る陽春三月の頃に華燭の盛典を擧げさせらるゝやに洩れ承はりぬ多嘉王殿下は久邇宮家の御當主邦彦王殿下の御弟君にて御年三十三、また妃殿下に上らせ給はんとする靜子姬の父君水無瀨子爵は大阪府下官幣中社水無瀨神社の宮司にて此宮には後鳥羽、土御門、順德の三帝を齋き祀れり、姬は幼き頃よりはやく兩親の膝下を離れて京都に赴き一昨年の春府立第一高等女學校を御卒業遊ばされその後同市の家政學校に教鞭を取り昨年中母堂の訃と共に家に歸り子爵を扶けて家政の調理に心を委れ居れる折柄圖らずも久邇宮家より有難き御内旨を蒙りしものなりとなん

◎貴婦人小集

創立以來二十年の歷史を有せる大日本婦人教育會は去ぬる十九日華族會館に新年小集を催し、會長閑院宮妃殿下を初め奉り、毛利公爵夫人、黑田侯夫人、外國婦人其他百餘名席上巖谷小波氏の家庭本位と云へる演說と幹事及役員の面白き考案になれる福引あり滯幕無事散會したり(本誌口繪參照)

◎女子體育生募集

東京麴町區飯田町日本體育會體操學校女子部にては今回高等科を五十名普通科生三十名を募集する由入學願書は來る三月末日までに校長加納久宜氏宛差出すべしとなり、

◎將校婦人會の大擴張

同會にては總裁有栖宮川妃殿下の思召に基き、今回愈々大擴張の方法を確定し、第一着手として全國各府縣下に支部を置き、將校婦人一同委員となり、將校以外の婦人にも入會を許し、尙ほ同會の事業たる遺兒敎養所の規模を擴張せんため基本金の募集をなすと云へり、

◎預選の光榮を荷へる婦人

新年松の勅題に詠進して預選せられたる名取正代子は山梨縣平民名取忠愛氏の妻女にして夙に賢婦の名あり今は同市の各慈善事業を初め愛國婦人會又は篤志看護婦人會等の幹事を勤め初め山梨女學校にありし頃同校國語の敎師櫻井義令氏に就て和歌を學び其後女敎員となり餘暇あれば敷島の道に心を碎き大口鯛二、今泉定介氏などより敎を受け昨年閑院宮殿下の甲府へ臺臨ありし際の如きは「君をしも迎へまつりて甲斐が峯にどよみもやまぬ萬歲の聲」といふ歌を奉りたる事あり今回の詠進につきても先づ五首の歌を作り其内より一首を選びて奉りしに預選の榮を得たるなりと云ふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

紹介

△通俗育兒新話

足立寬氏

育兒に關する著書世に行はるもの多しと雖も概れ西洋丸出しの著譯にして日本の習慣と生活上の關係を度外に置きたるもの多きは遺憾なり、此書は醫界の宿老たる足立先生が多年の經驗を叙述されし者にて文章平易何人にも解し易く、指導最も穩當にして育兒上の智識を受くるに缺くべからざる良著にして畏くも皇后陛下上覽の榮を擔ひたりといふ。定價八拾五錢邊島南江堂

△如何にして生活すべきや

曾川文學士

如何にして生活すべきやといふ問題は生活多難の今日尤も研究すべき事柄なり、本書はこの問題に答ふるに乾燥なる理論を以てせず、一々實社會の現狀を具體的に摘出して以て其缺點と長所とを示したるものなり、ロバートグラント氏の原著を譯したるものなれども日本現時の世情に一々當てはまる樣に書かれたるは著者の勞多しとすべし眞面目なる良書といふべし。定價五十錢內外出版協會

△結婚の秘訣

千葉鳳島兩氏

十七八歳より二十四五歳までの女に三度の食事よりも大なる念頭を煩はすべき事柄は何ぞと問はゞ無論結婚問題なるべし、如何にして婦人がこの大問題を解釋すべきか、精神上に肉體上に結婚てふ事に適應すべく樣其の身を處するは處女のつとめなるべし、本書は此の間の消息を尤も痛切に且つ尤も現代的に說示したるものなれば未婚者は必ず一讀すべきものなり。價四十五錢銀座佐久良書房

△亂髮

與謝野晶子

新派の歌を集めたるものなり、調は總く異樣なれども味ひて妙味盡きずさびたる調あり、强き調あり幽妙なる想をこめたる歌あり。價五十錢文淵堂

△懺悔

木下尚江氏

小說家にあらざる人の小說は其作中小說以外常に何物なか齎らすものなり、文や辭句に拘泥せずして書かれたるもの中には必らず一道の主義主張のあるものなり本書に取るべきはその主義主張ならんか價三十五錢文淵堂

△日本小說年表

日本小說のあらゆる種目を蒐めそれを年代によつて編纂したるもの古代小說近世小說の二部に大別し作者の氏名及出所を明かにし卷末に書名索引及作者及著述者索引を設けたり、文士たらんもの必ず一本を供へざるべからず。文淵堂

△花光月影

美文的に綴れる男女學生日記を春夏秋冬の四季に分ちて編したるもの也、英和兩文あり和文は丹羽花亭氏英文は宮森桃郞氏文章流麗、洋裝の精美本。日本橋館美堂五拾五錢

△南米渡航案內

南米は世界の富庫人類の樂園なり一度此の地に遊ぶもの皆巨萬の富を蓄へて歸らざるはなし、近來移民事業の勃興と共に邦人の渡航者多きを加ふる折柄移住希望者に對しては尤も解り易き案內書なり價三拾錢京橋京華堂

△泡鳴詩集

この集に收めたるは夕潮と悲戀悲歌となり前者は三十七年、後者は三十八年の出版にして各々を再版するに際み一册に纏めたるものなり。價五拾錢文淵堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

三月號記事豫告

三月五日發行

毎月五日發行

定價表

一冊（紙數二百八頁）	…金二十錢
四冊（三ヶ月分）	……前金七十五錢
八冊（半ヶ年分）	……前金一圓四十五錢
十六冊（一ヶ年分）	……前金二圓八十錢
内（定刊數……十二冊 增刊四回…一、四、七、十月價格同一）	
郵税	一冊　二錢

廣告料

	二十四字詰一行	半頁（卅二行）	一頁（六十四行）
特等	……	二十圓	割引四十圓
一等	五十八錢	十七圓	割引三十三圓
二等	五十錢	十四圓五十錢	割引二十八圓
三等	四十二錢	十二圓	割引二十三圓

▲等級の位置〆切日等御照會次第御報可致候

註文署規
◉本館發行の圖書は都て前金の外送本せず
◉御拂込の前金相切れ候節は送本を停止す
◉郵券代用は一割增にて五厘一錢の切手に限る
◉總目錄御入用の方は二錢券相添申込あれ

不許複製

明治四十年二月五日發行　第七卷第參號

編輯兼發行人　松原岩五郎

印刷人　山田英二

印刷所　東京市小石川區久堅町百八番地　博文館印刷所

發行所　東京市日本橋區本町三丁目　博文館

電話本局
三百三番　千十八番
二千六百二十番　三千二百九十番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

携帶至便　東京市編纂　價格至廉

東京遊覽案內

本年三月より東京勸業博覽會を開設せらるゝに當り東京市役所にては此際廣く東京市の名所舊蹟娯樂場遊覽地より諸官衙公署銀行會社等を首とし凡そ商業百般の機關とを網羅し且つ最も詳密なる地圖を添ひ帝都の事は此一冊を袖中に携へふれば案內者を要せずして全市の事情に精通すべき遊覽案內を編述せられ僅かに印刷の實費を以て數十萬部を頒ち以て博覽會來觀者に便し兼ねて將來永遠に東京市に遊ぶ人々の指導者たらんと期せられ發賣を弊館に命ぜらる實に最も廉價にして最も携帶に便に最も巧みに編述せられて最も趣味多く殊に最も多くの部數を發行せらるゝは本書に及ぶものなし博覽會來觀の方は勿論東京遊覽の案內書としても無比の良書なり

全一册
正價金四拾錢
郵稅金六錢

●縱五寸横三寸（ポッケット入）
●紙數三百頁（名所寫眞版五拾頁刷込）
●東京市及郡部詳細地圖（町名、主要の建物名稱明細記入）
●二月下旬……出來
●總クロース美裝上製
●全國交通略圖（本文中に挿入）大判壹枚
●東京市へ上納部數壹萬壹千部

發賣元　博文館　東京本町

女（後付の一）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

▲雜誌

太陽

毎月一回一日發行年四回定期增刊發行

第十二卷＝十六册　●自第一號　●至第十六號

▲正價一册參拾錢　郵稅一册參錢

定期增刊　◉明治史第四編產業史　◉戰後經營　◉新法令附二十二帝國議會史　◉明治史第五編交通發達史

商工世界 太平洋

毎月二回一日、十五日發行　外に臨時增刊

第五卷＝二十五册　●自第一號　●至第廿五號

▲正價一册拾貳錢　郵稅一册壹錢五厘

臨時增刊　◉實業の東京

日露戰史

全部十六册　●自第一卷　●至第十六卷

▲正價一册參拾錢　郵稅一册參錢

▲全部割引金四圓貳拾錢　郵稅四拾錢

◉第一卷　日露の危局と戰役初期の海戰
◉第二卷　第一軍初期の活動
◉第三卷　第二軍の前進
◉第四卷　海軍作戰の成功
◉第五卷　大孤山上陸軍及第四軍初期の活動
◉第六卷　第一軍次期の活動
◉第七卷　遼陽の總攻擊

◉第八卷　第三軍初期の活動
◉第九卷　沙河の大會戰
◉第十卷　旅順要塞攻陷戰
◉第十一卷　奉天大會戰前記
◉第十二卷　北征陸海軍戰記
◉第十三卷　日本海大海戰
◉第十四卷　奉天の大會戰後記
◉第十五卷　戰時の外交
◉第十六卷　戰時の後方勤務

寫眞畫報

毎月一回八日發行　外に臨時增刊

第一卷＝十八册　●自第一編　●至第十八編

▲正價一册貳拾錢　郵稅貳錢

臨時增刊　◉清國寫眞帖　◉捕虜露國土產　◉凱旋觀兵式紀念帖　◉世界周遊寫眞帖　◉避暑案內寫眞帖　◉兒玉陸軍大將

文藝倶樂部

毎月一回一日發行　年四回定期增刊發行

第十二卷＝十六册　●自第一號　●至第十六號

▲正價一册貳拾五錢　郵稅一册貳錢五厘

定期增刊　◉藝人出世譚　◉明治畸人傳　◉新講太閤記　◉講談落語古今美人揃

農業世界

毎月一回十日發行

第一卷＝九册　●自第一號　●至第九號

▲正價一册貳拾錢　郵稅一册貳錢

女學世界

毎月一回五日發行　年四回定期增刊

第六卷＝十六册　●自第一號　●至第十六號

▲正價一册貳拾錢　郵稅一册貳錢

定期增刊　◉女重寶記　◉女玉手筺　◉家庭百生活　◉女知惠袋

（後付の二）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

少年世界

毎月一回一日發行　年四回定期增刊發行

▲正價一冊拾錢　郵稅一冊壹錢五厘

定期增刊　◎學校園　◎談話會　◎不思議世界　◎十二科目

第十二卷＝十六冊　●自第一號　●至第十六號

少女世界

毎月一回一日發行

▲正價一冊拾錢　郵稅一冊壹錢五厘

第一卷＝四冊　●自第一號　●至第四號

幼年畫報

毎月一回五日發行　年四回定期增刊發行

▲正價一冊拾錢　郵稅一冊五厘

定期增刊　◎森のおばさん　◎くり坊主　◎木舟石舟　◎うかれ木兎

第一卷＝十六冊　●自第一號　●至第十六號

中學世界

毎月一回十日發行　年四回定期增刊發行

▲正價一冊貳拾錢　郵稅一冊貳錢

定期增刊　◎現代學生社會　◎青年修養百談　◎學生座右錄　◎作文叢話

第九卷＝十六冊　●自第一號　●至第十六號

文章世界

毎月一回十五日發行

▲正價一冊貳拾錢　郵稅一冊貳錢

第一卷＝十冊　●自第一號　●至第十號

理科講義錄

毎月一回十五日發行

▲正價一冊貳拾錢　郵稅一冊貳錢

第一卷＝八冊　●自第一編　●至第八編

通商彙纂

外務省通商局編纂　毎月六回三、八之日發行

全部七拾六冊　●自第一號　至第七拾六號

正價一冊九錢　郵稅五厘

數學世界

毎月一回算術、代數、幾何の三冊發行

▲正價各科一冊拾錢　郵稅一冊壹錢

三十八年度三冊　●自第十號　至第十二號

三十九年度九冊　●自第一號　至第九號

圖書世界

毎月一回三十日發行

▲正價一冊參錢　郵稅一冊五厘

第七卷＝七冊　●自第一號　●至第七號

以上第三種郵便として遞信省認可を受け居る雜誌十六誌二百八十一種を發行せり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

▲圖書

◎帝國百科全書 自第百四十編 至第百五十七編 十八冊

▲並製ノ外總クロース特製本アリ正價一冊五拾五錢郵稅一冊拾錢宛

●高等天文學 理學士一戸直藏君著 全一冊洋裝 大判三二四頁 正價四拾錢 郵稅八錢

●普通物理學 理學士福井政一君著 上下二冊洋裝 大判六三〇頁 正價一冊四拾錢 郵稅一冊八錢

●處世哲學 第二高等學校敎授文學士杉谷泰山君譯 全一冊洋裝 大判二九八頁 正價四拾錢 郵稅八錢

●國家學 法學士南弘君編 全一冊洋裝 大判三〇一頁 正價四拾錢 郵稅八錢

●政治學 法學士南弘君編述 全一冊洋裝 大判三一二頁 正價四拾錢 郵稅八錢

●近世心理學 文學士德谷豐之助君著 全一冊洋裝 大判三二〇頁 正價四拾錢 郵稅八錢

●最新教育學 文學士中村寅松君著 全一冊洋裝 大判三一六頁 正價四拾錢 郵稅八錢

●日本口語文典 文學士鈴木暢幸君著 全一冊洋裝 大判三一六頁 正價四拾錢 郵稅八錢

●佛教倫理學 文學士蜷川龍夫君著 全一冊洋裝 大判三二〇頁 正價四拾錢 郵稅八錢

●發音學 視話音字 文學士遠藤隆吉君著 全一冊洋裝 大判二五七頁 正價四拾錢 郵稅八錢

●佛教美術 文學博士南條文雄君校閱 文學博士前田慧雲君編 全一冊洋裝 大判三二六頁 正價四拾錢 郵稅八錢

●印度文明史 文學士常盤大定君著 全一冊洋裝 大判三四七頁 正價四拾錢 郵稅八錢

●文學概論 文學士太田善男君編 全一冊洋裝 大判三〇〇頁 正價四拾錢 郵稅八錢

●動物發生學 東京帝國大學助教授理學士飯塚啓君著 全一冊洋裝 大判三五〇頁 正價四拾錢 郵稅八錢

●藝術論 文學士有馬祐政君著 全一冊洋裝 大判三二〇頁 正價四拾錢 郵稅八錢

●最近西洋哲學史 文學士岡島誘君著 全一冊洋裝 大判三四七頁 正價四拾錢 郵稅八錢

●言語學 上 金澤文學博士 後藤朝太郎君共著 全一冊洋裝 大判三五八頁 正價四拾錢 郵稅八錢

●世界文學史 文學士橋本忠夫君著 全一冊洋裝 大判二八六頁 正價四拾錢 郵稅八錢

◎工業叢書 自第四十編 至第四十八編 九冊

●鐵道及其建設 工學士岡崎平三郎君著 全一冊洋布上綴 中判三三〇頁 正價八拾錢 郵稅八錢

●機械設計法 工學士江涙常吉君著 全一冊洋布上綴 中判四六〇頁 正價壹圓 郵稅八錢

(後付の四)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

博文館卅九年度新刊圖書目錄

佐渡秀光君著
●實用製革法
全一册洋布上製 中判三七六頁 正價八拾錢 郵稅八錢

工學士蓑田猪太郎君著
●接合劑製法
全一册洋布上製 中判二二〇頁 正價五拾五錢 郵稅八錢

工學士田中宗一郎君著
●脂肪油脂肪及蠟
全一册洋布上製 中判二八二頁 正價八拾五錢 郵稅八錢

工學士相澤時正君編
實地應用●隧道新書
全一册洋布上製 中判七七〇頁 正價壹圓五拾錢 郵稅拾四錢

工學士藤村忠己君著
●蒸溜罐使用法
全一册洋布上製 中判二六八頁 正價八拾錢 郵稅八錢

加藤工學士 高山工學士共著
●木船構造術
全一册洋布上製 中判四二〇頁 正價壹圓貳拾錢 郵稅拾貳錢

工學士井上仁吉君著
●工業瓦斯
全一册洋布上製 中判二八四頁 正價壹圓貳拾錢 郵稅八錢

石橋思案君校 星野麥人君編
●紅葉書翰抄
全一册洋並製 大判橫綴 一五九頁 正價五拾錢 郵稅六錢

福岡醫科大學敎授醫學士石原弘君著
醫學新書●人體解剖學 中卷
▲精巧彩色刷解剖密圖二百十三圖挿入
全一册洋布上製 大判五一〇頁 正價參圓 小包料拾五錢

海軍主計中監鹽田重弌君著
少年必携●最近海軍 附海軍職工
全一册洋並製 三六判一六四頁 正價參拾錢 郵稅四錢

岐阜縣師範學校敎諭蒔田宗次君著述
中等敎育新撰●物理學楷梯
全一册洋布上製 中判三八八頁 正價五拾錢 郵稅八錢

元警視廳主事法學士松井茂君著
●警察の本領 一名公衆と警察
全一册洋並製 小判三三〇頁 正價貳拾五錢 郵稅四錢

中川霞城君著
平言俗語●俳諧美學
全一册洋並製 大判二五〇頁 正價參拾錢 郵稅六錢

竹貫直人君著
●少年算術遊戲
全一册洋並製 中判二五〇頁 正價貳拾五錢 郵稅四錢

物集文學士 長文學士共編
散文韻文●美文辭彙
全一册洋布上製 三六判九七〇頁 正價壹圓貳拾錢 郵稅拾錢

東京高等工業學校助敎授 笠原留七君著
理科世界●水の研究
全一册洋並製 大判一三二頁 正價貳拾五錢 郵稅四錢

森田洪、鈴木古拙、牧野導君共著
●應用家庭美術
全一册洋並製 中判三四〇頁 正價四拾錢 郵稅六錢

西園寺侯爵題辭 香川悅次君著
●支那旅行便覽
全一册洋並製 三六判六〇〇頁 正價四拾錢 郵稅八錢

農學博士稻垣乙丙君著
農科節用●農業辭典
全一册洋布上製 大判七二〇頁 正價壹圓八拾錢 小包料拾五錢

文學博士高山林次郎君著
樗牛全集第五卷●想華及消息
全一册洋布上製 大判六七〇頁 正價壹圓五拾錢 小包料拾五錢

巖谷小波君著
少年日露戰史●凱旋の卷
全一册洋並製 大判一〇〇頁 正價拾貳錢 郵稅四錢

南條博士序 文學士常盤大定君撰
南北對照 英漢和譯●法句經
全一册洋並製 大判二八五頁 正價四拾五錢 郵稅六錢

米國法律學士宮本桂仙君著
●西洋男女交際法
全一册洋並製 小判二二六頁 正價貳拾五錢 郵稅四錢

太陽記者長谷川天溪君著
●文學訓
全一册洋並製 小判三五〇頁 正價參拾錢 郵稅六錢

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

● 弓術新書　田邊蓮舟翁閲　內山曻君著　全一册洋並綴 大判九八頁　正價貳拾八錢 郵税四錢

● 産業論集　農商務秘書官神山閏次君編　清浦男爵　全一册洋並綴 大判二八六頁　正價參拾八錢 郵税六錢

● 新式英語作文書取法　文學士岬柳都太郎君校閲　法學士辻宏吉君著　全一册洋並綴 中判三二〇頁　正價五拾錢 郵税八錢

● 四季應用通俗治療法　女學世界衞生顧問糸左近君著　附養生秘訣　全一册洋並綴 中判二九二頁　正價貳拾八錢 郵税六錢

● 明治卅九年袖珍世界年鑑　統計學專攻伊東祐穀君著　中村士德君 大久保千濤君共著　全一册洋布上綴 小判六〇〇頁　正價七拾五錢 郵税八錢

● 本邦地理詳說　博文館編輯局編　全一册洋布上綴 大判七〇〇頁　正價壹圓八拾錢 小包料拾五錢

● 夏期休暇女學生日誌　全一册洋並綴 大判六四頁　正價拾貳錢 郵税貳錢

● 學界之先陸青年修學指針　京都帝國大學內白㽞會々員共編　全一册洋上綴 三六版七〇〇頁　正價六拾錢 郵税八錢

● 旅順籠城實談　遲塚麗水君 內藤昌樹君共著　全一册洋並綴 大判二八八頁　正價四拾八錢 郵税八錢

● 實驗農家百事問答　齋藤農學士閲 秦三八君編　全一册洋並綴 三六判四五二頁　正價參拾八錢 郵税六錢

● 武道根本劍武術　神刀流擊劍劍武術開祖日比野雷風君著　全一册洋並綴 中判二四二頁　正價貳拾五錢 郵税四錢

● 英國水師提督子ルソン傳　海軍省教育本部大島貞益君譯　全一册洋布上綴 大判一三二〇頁　正價壹圓六拾五錢 小送料拾貳錢

● 清涼飲劑製法　米國藥學化學士藥劑士山崎近雄君著　全一册洋並綴 中判八〇頁　正價拾貳錢 郵税貳錢

● 女子職業案內　近藤正一君著　全一册洋並綴 三六判四七〇頁　正價四拾五錢 郵税六錢

● 日本歷史寶鑑　文學士久保天隨君著　全一册洋布上綴 大判一六〇〇頁　正價參圓 郵税參拾錢

● 武士道家訓集　文學士有馬祐政君 秋山悟庵君共編　全一册洋並綴 大判三三六頁　正價四拾五錢 郵税八錢

● 日本國史地圖　文學博士原秀四郎君著　▲大判著色地圖二十四枚▲細圖百餘枚挿入　全一册洋布上綴 大判本文一九二頁　正價壹圓七拾錢 郵税拾四錢

● 休暇之友笑の國　巖谷小波君著　全一册洋布上綴 中判三七七頁　正價金六拾錢 郵税八錢

● 日露戰役海軍寫眞集第四輯　海軍省御認可　全一册洋並綴 太陽判一〇〇頁　正價參拾錢 郵税六錢　▲特製本光澤紙刷 正價八拾錢 郵税八錢

● 金魚飼養法　前田閑亭君著　全一册洋並綴 大判一六二頁　正價貳拾八錢 郵税四錢

● 最近陸軍　陸軍步兵大佐富山康之助君著　全一册洋並綴 中判一七〇頁　正價貳拾五錢 郵税四錢

● 海軍生活案內　海軍大佐松枝新一君著　全一册洋並綴 中判二二〇頁　正價貳拾八錢 郵税六錢

● 中等學生作文寶鑑　內山幻堂君著　全一册洋布上綴 中判六二〇頁　正價七拾五錢 郵税拾貳錢

● 第三改正日本藥局方　明治三十九年七月發布　（五二共進會銀牌受領）　全一册洋並綴 中判六二〇頁　正册六拾五錢 郵税八錢

● 全國鐵道線路名所古蹟明細旅行案內地圖　麻生鎖三君著　麻生式新案折本　正價四拾五錢 郵税四錢

● 紳士の顧問　宮木桂仙君著　全一册洋並綴 三六判二三〇頁　正價參拾錢 郵税六錢

（後付の六）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

● **大日本地誌（全部十卷） 第五卷 北陸**
理學士山崎直方君 理學士佐藤傳藏君共編
大判脊皮金字金輪表紙 堅牢美本 七百五十頁 正價貳圓五拾錢 小包料拾五錢

● **佛陀之聖訓**
文學士常盤大定君纂
全一冊洋布上綴 小判七七〇頁 正價八拾錢 郵稅八錢
▲總革特製 正價金壹圓 郵稅拾錢

● **麥稈眞田製造法**
前香川縣琴平工業學校長一戸清方君著
全一冊洋並綴 大判一四四頁 正價貳拾五錢 郵稅四錢

● **通俗農藝講話**
農藝化學士梯崎松太郎君著
全一冊洋並綴 大判二一〇頁 正價參拾五錢 郵稅六錢

● **堆肥製造施用法**
農藝化學士梯崎鈆太郎君著
全一冊洋並綴 大判一八〇頁 正價參拾錢 郵稅六錢

● **日本唱歌集**
樂靑刊行協會編纂
全一冊洋布上綴 中判六〇頁 正價貳拾錢 郵稅貳錢

● **羅馬史論**
以太利馬加威里著 日本男爵林董君譯
全一冊洋布上綴 大判六六〇頁 正價壹圓八拾錢 小包料拾五錢

● **歐米書生旅行**
森次太郎君著
全一冊洋並綴 三六判三二〇頁 正價參拾五錢 郵稅六錢

● **北米事業案內**
河村有頂君著
全一冊洋並綴 中判三七二頁 正價參拾八錢 郵稅八錢

● **簡明外科汎論**
醫學士川村泰次郎君編
全一冊洋布上綴 大判三二〇頁 正價壹圓四拾錢 郵稅拾貳錢

● **理科世界 木の研究**
東京府職工學校長今景彥君著
全一冊洋並綴 大判一七〇頁 正價貳拾五錢 郵稅六錢

● **受驗適用 新撰化學參考書**
福岡東筑中學敎諭松村吉之助君著
全一冊洋布上綴 中判二六〇頁 正價四拾八錢 郵稅六錢

● **人間天職論**
文學士杉谷泰山君著
全一冊洋並綴 大判三〇〇頁 正價五拾五錢 郵稅八錢

● **算術問題解法指南**
竹貫登文君著 出野淺治君解
全一冊洋並綴 中判六〇〇頁 正價五拾五錢 郵稅拾錢

● **新式英和日用書翰文**
文學士畔柳都太郎君閱 法學士辻宏吉君著
全一冊洋並綴 中判四六五頁 正價八拾錢 郵稅八錢

● **複習問答 簡明產婆學**
醫學士伊庭秀榮君著
全一冊洋並綴 大判二二〇頁 正價五拾錢 郵稅六錢

● **新式圖解 馬術**
山島久光君閱 笠間醉雨君編
全一冊洋布上綴 三六判四〇〇頁 正價六拾錢 郵稅拾錢

● **實用 普通作文寶鑑**
幻堂內山正如君著
全一冊洋布上綴 中判五〇〇頁 正價七拾錢 郵稅拾四錢

● **釣遊秘術 釣師氣質**
石井研堂君著
全一冊洋布上綴 大判七〇〇頁 正價九拾五錢 郵稅拾六錢

● **日本高僧之人格**
文學士蜷川龍夫君著
全一冊洋並綴 大判二三〇頁 正價四拾錢 郵稅六錢

● **日本考古學**
文學士中澤隆男君 八木奘三郎君共著
全一冊洋布上綴 大判三八一頁 正價壹圓貳拾錢 郵稅拾四錢

● **明治卅九年 世界年鑑**
伊東祐穀君著
全一冊洋布上綴 太陽判一五〇〇頁 正價五圓 小包料參拾錢



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

●通俗作文全書 自第壹編至第四編 四册

正價一册金參拾錢 郵税六錢

大和田建樹君編 第一編 文章組立法

大和田建樹君編 第二編 書簡文作法

田山花袋君編 第三編 美文作法

天城安政君編 第四編 商業作文法

●當用日記

明治四十年 博文館編輯局編纂

大形一種 中形二種 小形一種

大形 菊判上製總クロース金文字入 正價五拾錢 郵税拾四錢

中形 四六判背皮特製金文字入頗美 正價五拾錢 郵税拾貳錢

中形 四六判總クロース上製金文字入 正價參拾五錢 郵税拾錢

小形 菊判半截上製總クロース金字入 正價參拾錢 郵税八錢

●懷中日記

明治四十年

袖珍製本 美本堅牢

新形 細長形總クロース高尚美本 正價貳拾錢 郵税貳錢

上製 總クロース金文字入重要附錄百餘頁 正價拾八錢 郵税貳錢

並製 横皮金附字入上綴重要附錄百餘頁 正價拾貳錢 郵税貳錢

●家庭日記

明治四十年 家事重要記并最近諸規則付 全一册洋布上綴 中判五〇〇頁 正價參拾五錢 郵税拾錢

●當用日記

光緒三十三年 最近統計表并重要諸規則書付 全一册洋布上綴 中判五一二頁 正價五拾錢 郵税拾錢

●袖珍日記

光緒三十三年 最近統計表并重要諸規則書付 全一册洋布上綴 小判三四六頁 正價貳拾五錢 郵税八錢

●家庭衛生叢書 自第八編至第十一編 四册

全部十二册洋装大判正價一册貳拾錢

全部十二册貳圓拾錢郵税一册六錢宛

〔第八編〕●婦人姙孕力の話(伊庭博士)●肝臓の話(木村博士)●分娩時の攝生(緒方博士)●色盲の話(井上博士)●小兒の身體上の監視并に感冒の話(瀨川博士)●雜錄……人工滋養品の話

〔第九編〕●肺癆の話(井上博士)●婦人姙孕力の話第二(伊庭學士)●小兒の齒及瘡の話(瀨川博士)●産後の攝生(緒方博士)雜錄……五項

〔第十編〕●飲酒血族の退化(林博士)●不姙症の話(伊庭學士)●生殖の話(大澤博士)●消毒法の大意(遠山博士)●雜錄……三項

〔第十一編〕●癩狂村の話(上)(吳博士)●最適當なる日本婦人の結婚年齢(楠田博士)●消毒法(遠山博士)●葡萄酒の話(林博士)●雜錄……八項

●世界お伽噺 自第八拾編至第九拾編 拾壹册

巖谷小波君編(每編木版密畫挿入)

正價 ▲壹册金八錢 ▲十二册八拾五錢 ▲廿五册壹圓六拾五錢 ▲五十册參圓貳拾錢 ▲全部百册六圓貳拾錢 ○郵税一册貳錢宛

第八十編 金髮王女(佛蘭西)

第八十一編 新塞翁(スラブ)

第八十二編 木馬物語(ギリシヤ)

第八十三編 馬の首(スヱーデン)

第八十四編 三ツの王冠(トランスヴアール)

第八十五編 馬尾裁判(露西亞)

第八十六編 甲良武者(獨乙)

第八十七編 樽の七郎(シベリヤ)

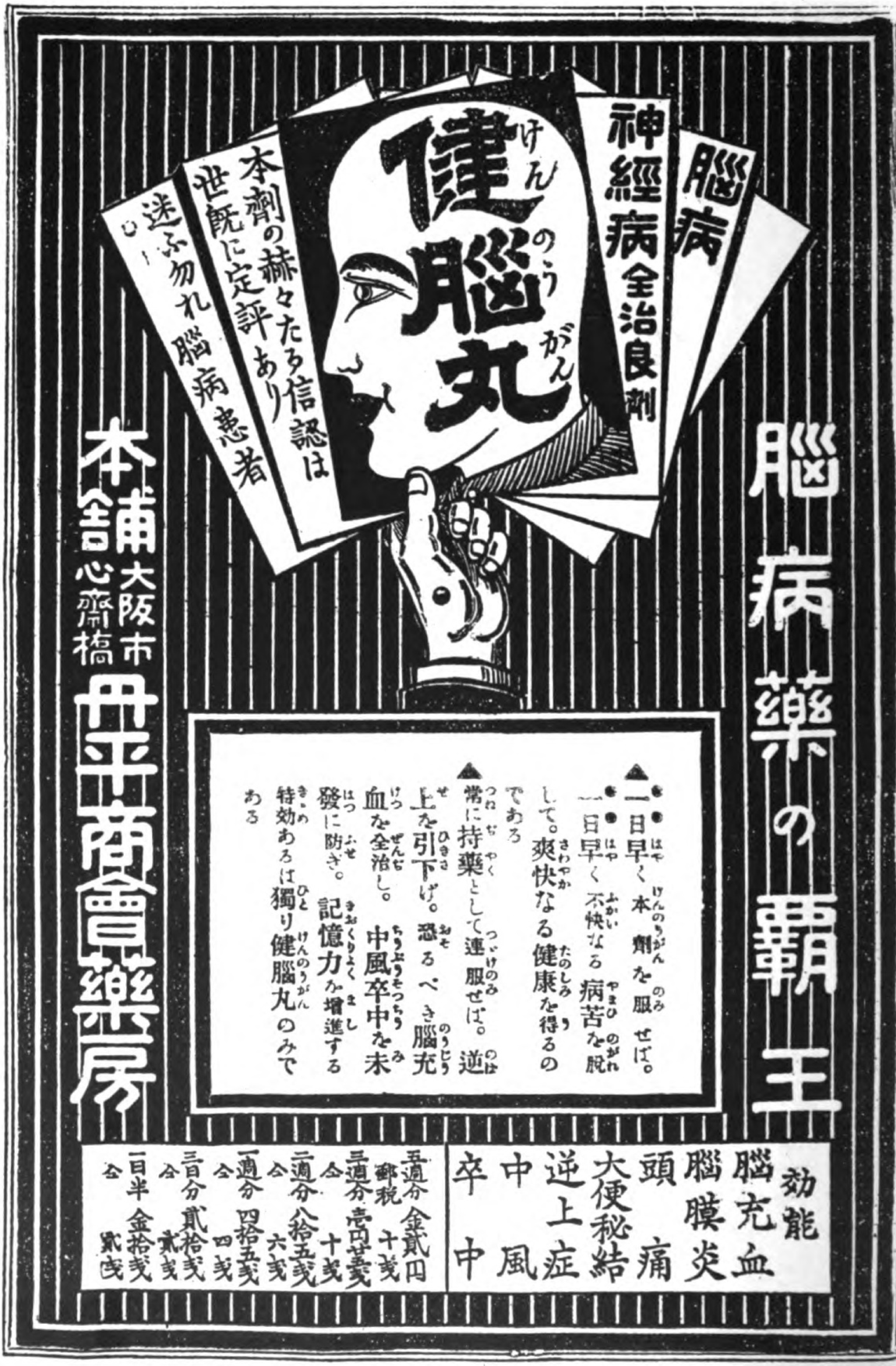
第八十八編 極樂草(ルーマニヤ)

第八十九編 犬の王子(エジプト)

第九十編 馬鹿利口(瑞西)

(後付の八)

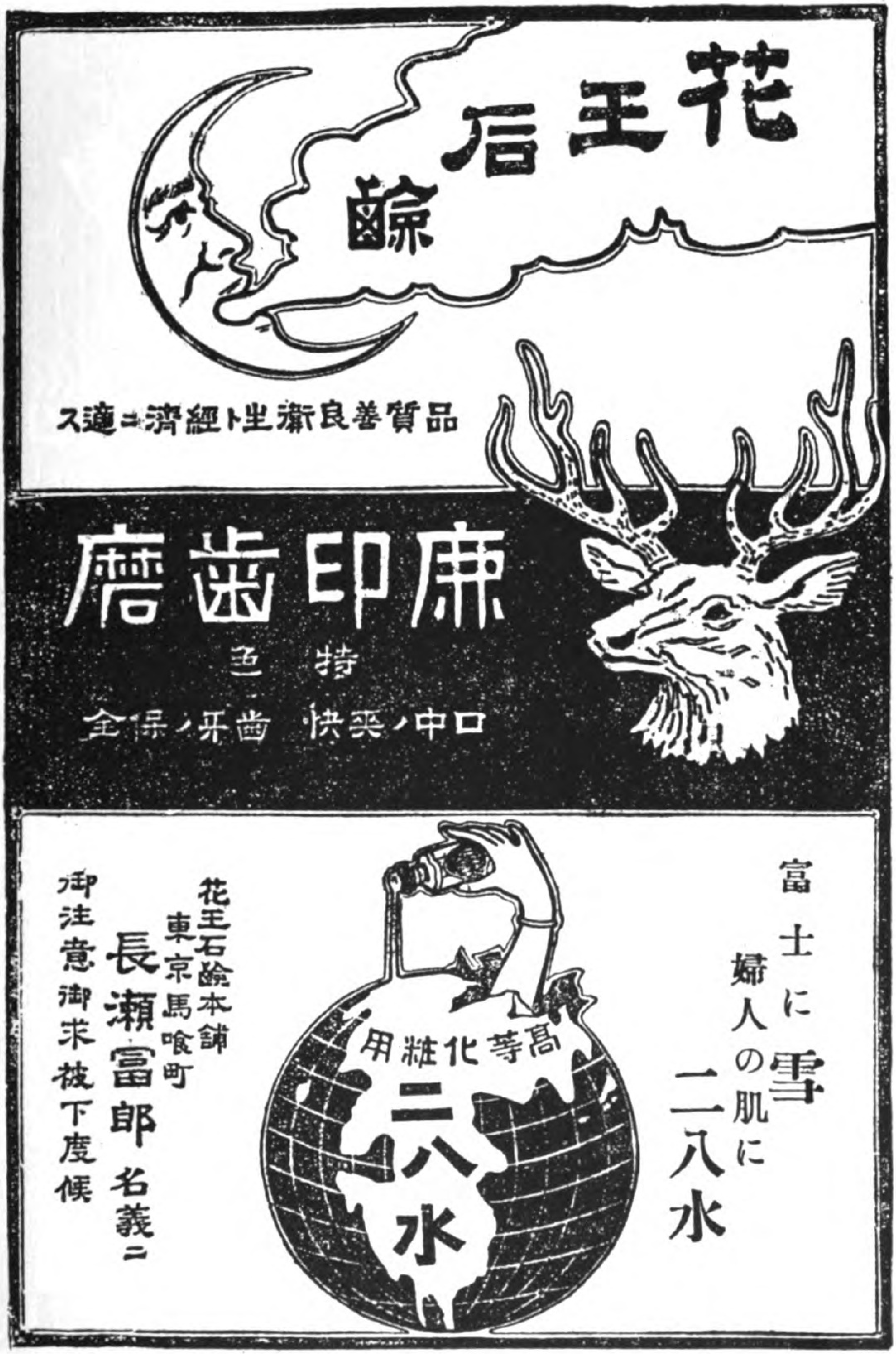
Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女學世界

(明治卅三年十二月廿五日第三種郵便物認可) 第七卷第參號 (明治四十年二月五日發行 毎月一回五日發行)



(定價金貳拾錢)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA